

2016年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



科目一覽

【発行日：2021/6/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基幹	【C2001】	行政法の基礎 [後藤 彌彦] 秋学期	1
基幹	【C2002】	民法 I [花立 文子] 春学期	1
基幹	【C2003】	民法 II [花立 文子] 秋学期	2
基幹	【C2004】	国際法 I [岡松 暁子] 春学期	3
基幹	【C2005】	国際法 II [岡松 暁子] 秋学期	4
基幹	【C2006】	市民社会と政治 [谷本 有美子] 秋学期	4
基幹	【C2007】	行政学 [山口 二郎] 年間授業	5
基幹	【C2008】	国際関係論 [岡松 暁子] 春学期	6
基幹	【C2009】	アメリカ法の基礎 [永野 秀雄] 春学期	7
基幹	【C2010】	地方自治論 [谷本 有美子] 春学期	7
基幹	【C2011】	憲法の基礎 [土屋 志穂] 秋学期	8
基幹	【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期	9
政策	【C2013】	環境法 I [後藤 彌彦] 春学期	10
政策	【C2014】	環境法 II [永野 秀雄] 秋学期	11
政策	【C2015】	環境法 III [後藤 彌彦] 春学期	11
政策	【C2016】	環境法 IV [長井 圓] 秋学期	12
政策	【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期	13
政策	【C2018】	比較環境法 [後藤 彌彦] 秋学期	13
政策	【C2019】	労働環境法 [沼田 雅之] 春学期	14
政策	【C2020】	自治体環境政策論 I [小島 聡] 春学期	15
政策	【C2021】	自治体環境政策論 II [小島 聡] 秋学期	16
政策	【C2022】	日本公害史と法 [後藤 彌彦] 秋学期	17
政策	【C2023】	アメリカ環境法 [永野 秀雄] 秋学期	18
政策	【C2024】	エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 春学期	18
政策	【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期	19
政策	【C2026】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期	20
基幹	【C2100】	ミクロ経済学 I [大瀧 雅之] 春学期	21
基幹	【C2101】	ミクロ経済学 II [大瀧 雅之] 秋学期	22
基幹	【C2102】	マクロ経済学 I [大瀧 雅之] 春学期	23
基幹	【C2103】	マクロ経済学 II [大瀧 雅之] 秋学期	23
基幹	【C2104】	現代企業論 [竹原 正篤] 春学期	24
基幹	【C2106】	経営学入門 [金藤 正直] 春学期	24
基幹	【C2107】	環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期	25
基幹	【C2108】	公共経済学 [小田 圭一郎] 秋学期	26
基幹	【C2109】	簿記入門 I・II [大下 勇二] 年間授業	27
政策	【C2110】	環境経済論 I [國則 守生] 春学期	28
政策	【C2111】	環境経済論 II [國則 守生] 秋学期	29
政策	【C2112】	環境経営論 I [金藤 正直] 春学期	30
政策	【C2113】	環境経営論 II [金藤 正直] 秋学期	31
政策	【C2114】	環境経営実践論 I [花田 正明] 春学期	32
政策	【C2115】	環境経営実践論 II [花田 正明] 秋学期	33
政策	【C2116】	CSR 論 I [竹原 正篤] 春学期	34
政策	【C2117】	CSR 論 II [竹原 正篤] 秋学期	35
政策	【C2118】	国際環境政策 I [國則 守生] 春学期	36
政策	【C2119】	国際環境政策 II [内山 勝久、國則 守生] 秋学期	37
政策	【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期	38
基幹	【C2127】	平和学 [山本 和也] 春学期	39
政策	【C2128】	人間の安全保障 [山本 和也] 秋学期	40
基幹	【C2200】	現代社会論 I [田中 勉] 春学期	41
基幹	【C2201】	現代社会論 II [田中 勉] 春学期	42
基幹	【C2202】	現代社会論 III [田中 勉] 秋学期	43
基幹	【C2203】	NPO・ボランティア論 [川崎 あや] 秋学期	44
基幹	【C2204】	フィールド調査論 [傅 凱儀] 春学期	45

基幹	【C2205】	フィールド調査論 [田中 勉] 秋学期	46
基幹	【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 秋学期	47
基幹	【C2208】	ファシリテーション論 [三田地 真実] 秋学期	48
基幹	【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 春学期	49
政策	【C2210】	地域形成論 [石神 隆] 春学期	50
政策	【C2211】	地域経済論 [石神 隆] 秋学期	51
政策	【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期	52
政策	【C2213】	地域コモンズ論 [傅 凱儀] 春学期	53
政策	【C2214】	都市環境論Ⅰ [石神 隆] 春学期	54
政策	【C2215】	都市環境論Ⅱ [石神 隆] 秋学期	55
政策	【C2216】	都市デザイン論 [田中 大助] 春学期	56
政策	【C2217】	環境社会論Ⅰ [西城戸 誠] 春学期	57
政策	【C2218】	環境社会論Ⅱ [西城戸 誠] 秋学期	58
政策	【C2219】	環境社会論Ⅲ [西城戸 誠] 秋学期	59
政策	【C2220】	労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 春学期	60
政策	【C2221】	労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 秋学期	61
政策	【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期	62
政策	【C2225】	ローカルスタディーズⅠ [船戸 修一] 秋学期	63
政策	【C2226】	ローカルスタディーズⅡ [後藤 純] 秋学期	64
政策	【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期	65
政策	【C2228】	科学技術社会論 [詫間 直樹] 秋学期	68
政策	【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 春学期	69
政策	【C2230】	グローバルコミュニティ [荒川 裕子] 秋学期	71
政策	【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期	72
政策	【C2232】	国際社会学 [新藤 慶] 秋学期	73
基幹	【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期	74
基幹	【C2301】	仏教思想 [関口 和男] 秋学期	74
基幹	【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期	75
基幹	【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 秋学期	76
基幹	【C2308】	西洋美術史論 [鶴岡 敦子] 秋学期	77
基幹	【C2309】	生命の現在と倫理 [鶴岡 健] 春学期	78
基幹	【C2310】	環境倫理学 [鶴岡 健] 秋学期	79
政策	【C2311】	環境哲学基礎論 [関口 和男] 春学期	79
基幹	【C2312】	日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 春学期	80
政策	【C2313】	日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 秋学期	81
基幹	【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期	82
政策	【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [辻 英史] 秋学期	83
基幹	【C2316】	環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 秋学期	84
政策	【C2317】	環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期	85
基幹	【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期	86
政策	【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期	87
基幹	【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期	88
基幹	【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期	88
基幹	【C2402】	サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期	89
基幹	【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期	90
基幹	【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期	91
基幹	【C2405】	自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦] 秋学期	92
基幹	【C2406】	エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期	92
基幹	【C2407】	地球科学史Ⅰ [谷本 勉] 春学期	93
基幹	【C2408】	地球科学史Ⅱ [谷本 勉] 秋学期	94
基幹	【C2409】	環境健康論Ⅰ [朝比奈 茂] 春学期	94
基幹	【C2410】	環境健康論Ⅱ [朝比奈 茂] 秋学期	95
基幹	【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期	96
基幹	【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期	97
政策	【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期	98
政策	【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期	99
政策	【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期	100

政策	【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期	101
政策	【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期	102
政策	【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期	103
政策	【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期	104
政策	【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期	105
政策	【C2422】	エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期	105
政策	【C2423】	大気と社会Ⅰ [北川 徹哉] 春学期	106
政策	【C2424】	大気と社会Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期	107
基幹	【C2429】	サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠] 春学期	107
基幹	【C2430】	環境モデル論Ⅰ [渡邊 誠] 春学期	108
基幹	【C2431】	環境モデル論Ⅱ [渡邊 誠] 秋学期	109
基幹	【C2432】	自然災害論 [杉戸 信彦] 春学期	110
政策	【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期	111
政策	【C2500】	公害防止管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期	112
政策	【C2501】	公害防止管理論Ⅱ [大野 香代] 秋学期	113
政策	【C2502】	廃棄物・リサイクル論 [鏑木 儀郎] 秋学期	114
政策	【C2503】	環境教育論 [野田 恵] 春学期	115
政策	【C2504】	キャリア入門 [長峰 登記夫] 春学期	116
政策	【C2505】	食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 秋学期	117
政策	【C2506】	食と農の環境学Ⅱ [船戸 修一] 秋学期	118
政策	【C2507】	食と農の環境学Ⅲ [吉田 岳志] 春学期	119
政策	【C2508】	スポーツビジネス論Ⅰ [千田 利史] 春学期	120
政策	【C2509】	スポーツビジネス論Ⅱ [千田 利史] 秋学期	121
政策	【C2554】	アーティストと社会貢献 [庄野 真代] 春学期	122
政策	【C2557】	グローバルスタディーズⅠ [吉田 秀美] 春学期	123
政策	【C2558】	グローバルスタディーズⅡ [吉田 秀美] 秋学期	124
政策	【C2559】	人間環境特論 (西洋社会思想史Ⅰ) [竹本 研史] 春学期	125
政策	【C2560】	人間環境特論 (西洋社会思想史Ⅱ) [竹本 研史] 秋学期	126
政策	【C2561】	人間環境特論 (海の環境再生) [坂本 昭夫] 秋学期	127
政策	【C2562】	人間環境特論 (ジェンダーから考える現代日本社会) [佐伯 英子] 春学期	128
フレッシュマン	【C2600】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期	129
フレッシュマン	【C2602】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期	129
フレッシュマン	【C2700】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期	130
スキルアップ	【C2800】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期	130
スキルアップ	【C2801】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期	131
スキルアップ	【C2802】	情報処理基礎 [松本 倫明] 春学期	132
スキルアップ	【C2803】	情報処理基礎 [松本 倫明] 秋学期	133
スキルアップ	【C2804】	情報処理基礎 [渡邊 誠] 秋学期	134
スキルアップ	【C2805】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期	135
スキルアップ	【C2806】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期	136
スキルアップ	【C2807】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 春学期	137
スキルアップ	【C2808】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 秋学期	138
スキルアップ	【C2809】	統計とデータ分析 [渡邊 誠] 春学期	139
スキルアップ	【C2900】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [余田 亜希] 春学期	140
スキルアップ	【C2903】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [吉江 秀和] 春学期	141
スキルアップ	【C2909】	英語Ⅱ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期	142
スキルアップ	【C2915】	英語Ⅲ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 春学期	143
スキルアップ	【C2921】	英語Ⅳ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期	143
スキルアップ	【C2950】	テーマ別英語 1 (スキルアップ科目) [井芹 真紀子] 春学期	144
スキルアップ	【C2953】	テーマ別英語 2 (スキルアップ科目) [佐伯 英子] 春学期	145
スキルアップ	【C2956】	テーマ別英語 3 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 春学期	146
スキルアップ	【C2959】	テーマ別英語 4 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 秋学期	146
政策	【C3000】	研究会 (A) [朝比奈 茂] 年間授業	147
政策	【C3001】	研究会 (B) [竹本 研史] 年間授業	148
政策	【C3002】	研究会 (A) [石神 隆] 年間授業	149
政策	【C3003】	研究会 (A) [岩佐 愛] 年間授業	150
政策	【C3004】	研究会 (A) [杉戸 信彦] 年間授業	151

政策	【C3005】	研究会 (A)	[岡松 暁子] 年間授業	152
政策	【C3006】	研究会 (A)	[梶 裕史] 年間授業	152
政策	【C3007】	研究会 (A)	[北川 徹哉] 年間授業	153
政策	【C3009】	研究会 (A)	[國則 守生] 年間授業	154
政策	【C3010】	研究会 (A)	[小島 聡] 年間授業	155
政策	【C3011】	研究会 (A)	[小島 聡] 年間授業	156
政策	【C3012】	研究会 (A)	[ESTHER STOCKWELL] 年間授業	157
政策	【C3013】	研究会 (A)	[後藤 彌彦] 年間授業	158
政策	【C3014】	研究会 (A)	[関口 和男] 年間授業	159
政策	【C3015】	研究会 (A)	[武貞 稔彦] 年間授業	160
政策	【C3016】	研究会 (A)	[田中 勉] 年間授業	161
政策	【C3017】	研究会 (A)	[辻 英史] 年間授業	162
政策	【C3018】	研究会 (A)	[永野 秀雄] 年間授業	163
政策	【C3019】	研究会 (A)	[永野 秀雄] 年間授業	164
政策	【C3020】	研究会 (A)	[長峰 登記夫] 年間授業	165
政策	【C3021】	研究会 (A)	[西城戸 誠] 年間授業	166
政策	【C3022】	研究会 (A)	[西城戸 誠] 年間授業	167
政策	【C3023】	研究会 (A)	[根崎 光男] 年間授業	168
政策	【C3024】	研究会 (A)	[長谷川 直哉] 年間授業	169
政策	【C3025】	研究会 (A)	[日原 傳] 年間授業	170
政策	【C3026】	研究会 (A)	[安宅 りさ子] 年間授業	171
政策	【C3027】	研究会 (A)	[藤倉 良] 年間授業	172
政策	【C3028】	研究会 (A)	[金藤 正直] 年間授業	173
政策	【C3029】	研究会 (A)	[松本 倫明] 年間授業	174
政策	【C3030】	研究会 (A)	[宮川 路子] 年間授業	175
政策	【C3031】	研究会 (A)	[宮川 路子] 年間授業	176
政策	【C3034】	研究会 (A)	[渡邊 誠] 年間授業	177
政策	【C3035】	研究会 (A)	[高田 雅之] 年間授業	178
政策	【C3036】	研究会 (B)	[杉戸 信彦] 年間授業	179
政策	【C3037】	研究会 (B)	[岡松 暁子] 年間授業	180
政策	【C3038】	研究会 (A)	[梶 裕史] 年間授業	181
政策	【C3039】	研究会 (B)	[北川 徹哉] 年間授業	182
政策	【C3040】	研究会 (B)	[ESTHER STOCKWELL] 年間授業	183
政策	【C3041】	研究会 (B)	[後藤 彌彦] 年間授業	184
政策	【C3042】	研究会 (B)	[関口 和男] 年間授業	184
政策	【C3044】	研究会 (B)	[田中 勉] 年間授業	185
政策	【C3045】	研究会 (B)	[田中 勉] 年間授業	186
政策	【C3046】	研究会 (A)	[谷本 勉] 年間授業	187
政策	【C3047】	研究会 (B)	[長峰 登記夫] 年間授業	188
政策	【C3048】	研究会 (B)	[根崎 光男] 年間授業	189
政策	【C3049】	研究会 (B)	[長谷川 直哉] 年間授業	190
政策	【C3052】	研究会 (B)	[高田 雅之] 年間授業	191
政策	【C3054】	研究会 (B)	[永野 秀雄] 春学期	192
政策	【C3055】	研究会 (B)	[日原 傳] 秋学期	193
政策	【C3057】	研究会 (B)	[谷本 有美子] 秋学期	193
政策	【C3058】	研究会 (B)	[石神 隆] 年間授業	194
政策	【C3060】	研究会 (B)	[渡邊 誠] 年間授業	195
政策	【C3062】	研究会 (B)	[金藤 正直] 年間授業	196
政策	【C3063】	研究会 (A)	[國則 守生] 年間授業	197
政策	【C3064】	研究会 (B)	[高橋 五月] 秋学期	198
政策	【C3065】	研究会 (B)	[高橋 五月] 秋学期	199
政策	【C3066】	研究会 (B)	[石神 隆] 春学期	200
政策	【C3067】	研究会 (B)	[石神 隆] 秋学期	200
政策	【C3068】	研究会 (B)	[佐伯 英子] 春学期	201
政策	【C3069】	研究会 (B)	[佐伯 英子] 春学期	201
政策	【C3130】	研究会修了論文	[人間環境学部教員] 秋学期	202
政策	【C3150】	コース修了論文	[人間環境学部教員] 秋学期	202

政策【C3200】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 春学期	203
政策【C3201】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 秋学期	204
政策【C3202】	インターンシップ [人間環境学部教員]	204
政策【C3204】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 秋学期	205
政策【C3300】	フィールドスタディ [人間環境学部教員]	206

HA236

行政法の基礎

後藤 彌彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国民生活が大きく行政に依存するようになった現代国家において、国民と行政との間の法律関係は行政法と呼ばれる。行政法では、私人間の利害調整に関する民事法とは異なった基礎原理の理解が必要となる。この行政法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

行政法の原理、行為形式等を理解することにより、現代国家に生きるものとして今後行政と関わる際の基本的な仕組みが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

行政主体とその組織構造、法律による行政の原理と適正手続の確保等の原理、行政の行為形式、行政との紛争の裁断など行政法の各分野を概観する。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	現代行政の特徴 行政法とは何か 行政の担い手
第2回	行政の組織Ⅰ	①中央政府
第3回	行政の組織Ⅱ	行政の担い手 ②地方自治体
第4回	行政作用の一般理論Ⅰ	法律による行政の原理
第5回	行政作用の一般理論Ⅱ	適正手続きによる行政の透明性の確保
第6回	行政作用の一般理論Ⅲ	情報公開 個人情報保護
第7回	行政の行為形式Ⅰ	行政処分（行政行為）
第8回	行政の行為形式Ⅱ	行政裁量
第9回	行政の行為形式Ⅲ	行政指導 要綱行政
第10回	行政の行為形式Ⅳ	行政立法 法規命令と行政規則
第11回	行政の行為形式Ⅴ	行政計画 行政契約
第12回	行政活動の実現	行政の実効性の確保
第13回	行政救済法Ⅰ	行政不服審査法 行政事件訴訟法
第14回	行政救済法Ⅱ	国家賠償法 損失補償
第15回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを通読しておく。授業内容の復習に力を入れ、テキストに判例が紹介されている場合は判例を調べる等発展的な学習をする。

【テキスト（教科書）】

開講時指定 行政法の改正が頻繁に行われるため、できるだけ最新のものを教科書とする。教科書によっては、授業計画の順序を変更することがある。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例、条文をあげ、初めて法律に接するものにわかりやすくなるように努める。

【その他の重要事項】

環境政策を実現する手段として環境法が重要ですが、今後環境法などの勉強を進める上でも、行政法の基礎知識が不可欠である。是非行政法に取り組んでほしい。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA236

民事法Ⅰ

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:市民間の法律問題

【到達目標】

到達目標:市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度および、トラブル等への法的アプローチの理解を通じて、法的思考の習得をめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考えます。たとえば、お金を貸したが返って来ない、貸した本を返してもらえない、買った物に傷があった、アルバイト代の遅配、等のトラブルがあります。これは、普段なにげなく行っている取引から生じる問題です。また、自転車で人にぶつかって怪我をさせてしまった、ということもあるでしょう。これは取引ではなく、市民間で生じたトラブルです。

このように、トラブルには様々なものがあり、法律問題となることもあります。このような法律問題が、どのように解決されることになるのか、民法や民法関連法を用いて検討し、それを通じて法的な考え方、法律の構造・全体を理解していくことにしたいと思います。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考えていきます。また、授業の終わりに、法律問題をどう考えたか、また質問を書いていただき、次回に回答することで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたいと考えています。

(2) 授業では、六法を用います。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方等も勉強します。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進めます。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 民事法上の問題と司法制度	授業の進め方や六法について、成績評価について説明する。その後、民事法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるのか等を概観する。
第2回	トラブルの解決基準となる法の体系	解決に向けて手続がどのようにとられるのか、裁判制度（民事）の全体像をみる。民事法、行政法、刑事法にもふれ、法の体系を概観する。
第3回	契約とは	契約がどのようにしたら成立し、どのような民事責任（契約責任）が生じるかを概観する。
第4回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはだれか、いつ主体となるか等、人と法人および、出生問題を見る
第5回	人の権利義務消滅時期	民法上、人が有する権利義務が消滅する死亡について、社会の認識や科学の進歩によってその捉え方が変化していること、臓器移植等現代的な問題を含めて、人の死亡と法律との関係を概観する。
第6回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる（死亡・認定死亡）。また、行方不明になった人の権利義務の行方についてもみる。
第7回	代理制度について	契約を通して権利を取得したいとしても、自ら契約を締結できない場合がある。このような場合にそなえた代理制度についてみる。
第8回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる（条件・期間・時効）

第9回	①ここまでのおまとめ。 ②個人情報について	身近なスマートフォンや携帯電話等の問題を通じて、民事上の責任と個人情報について考える。
第10回	取引上の権利の確保方法 ①	権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第11回	取引上の権利の確保方法 ②	権利を確保するための方法として、保証、相殺、債権譲渡等がある。それらの方法を概観する。
第12回	契約における法律の効力を発生させない場合	契約締結前に考えていたことが契約に反映していないとか、だまされたり脅されて契約を締結した場合に、効力を発生させない場合について考える。
第13回	夫婦の問題	法律上、夫婦とはどのようにして成立するのか、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。
第14回	死亡の際の家族の財産の行方	死亡した場合に、その財産がどのようなのか、相続問題を考える。
第15回	まとめ	ここでは、全体のまとめをみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト（教科書）】

六法

【参考書】

授業の際、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（適宜課題を出しレポートを提出してもらう。また、毎回法律問題について考え提出していただき取り組みをみる（40%）、および最後に行なわれる試験（60%）で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し、自ら考えられるようになると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心がもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA236

民法Ⅱ

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:市民間の法律問題

【到達目標】

到達目標：市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体像を理解する。そして、その法の理解および、問題を法的に考え解決する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えることをしていきたい。内容としては、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに、関連する法律問題をみる。たとえば、成年となる年齢とはどのような意味を有するのか、成年となる年齢はどのようにして決められたのか、今後変更の可能性はあるのか、未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか、未成年者の法律行為の問題、成年者の法律行為の問題等のように、テーマごとに検討する。その過程で、法律の役割、法的な考え方を習得していきたい。市民間には、様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるのか、そのような法律問題をどのように解決すべきか、民法や民法関連法も含めてみていくことになる。

授業の方法

- (1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考える。また、授業の終わりに質問や感想を書いていただき、次回に伝えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。
- (2) 授業では、六法を用いる。
- (3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。
- (4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題となっているテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 民法法の体系、法体系の概観	まず、授業の進め方、六法、成績評価等について説明する。 次に、民法法の授業での対象、民法とは何か、民法法の中の民法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第2回	契約責任について	契約が成立するとどのような責任が生じるのか、責任体系を概観する。
第3回	未成年者の契約について	未成年者の取引は法律上どのように考えられているかをみる。あわせて、成人年齢について考える（成人年齢決定の背景、成人年齢の変更の可能性、各種法律との関係）
第4回	成年の契約問題について	成年後見制度の概観をみる。あわせて、成年後見制度と高齢社会を考える
第5回	贈与契約を通してみる。 契約の効力が有効に発生しない場合について	契約する際に予定したこと、異なる結果となった場合の契約について考える。
第6回	契約を消滅させる場合について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第7回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第8回	消費貸借契約について	リボルビング払いを通じて金銭消費貸借契約と利息について考える。
第9回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第10回	和解契約について	自転車走行中の事故に関する事件を通じて示談することの意味を考え、和解契約と不法行為責任について概観する。
第11回	委任契約について	具体的な近隣問題に関する判例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを考え、委任契約についても検討する。

第 12 回	不法行為制度	自動車事故の判例を読み、交通事故について考え、民法の不法行為制度の知識を取得する。
第 13 回	家族と法について	家族について考える。親族、夫婦、親子について、法律上どのように規定しているかをみて、家族について考える。
第 14 回	忘れられる権利について	インターネット上の契約の成立時期,SNS の諸問題、知的財産件について考える。
第 15 回	まとめ	ここでは、授業全体をまとめ、民事法の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト（教科書）】

六法

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（適宜課題を出しレポートを提出してもらい、また、毎回法律問題について考え提出していただき取り組みをみる（40%）、および最後に行なわれる試験（60%）で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に活用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心をもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。また、リスク管理の重要性についても考えられるような内容にしたいと考えている。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA236

国際法 I

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の特徴、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的关系、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の観念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。奥脇直也・岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様のやり方でいきます。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA236

国際法Ⅱ

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法（3）	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄（1）	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄（2）	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第12回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第13回	武力紛争法規（国際人道法）（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	武力紛争法規（国際人道法）（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第15回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法〔第2版〕』有斐閣、2010年。
奥脇直也・岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選〔第2版〕』有斐閣、2011年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進めます。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA237

市民社会と政治

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、この講義では1990年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に学びます。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及びNPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係を焦点を当てながら、日本の伝統的な統治の姿を具体的に理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策過程への市民セクターの関与のあり方について、多元的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

【到達目標】

・市民が政策形成に与える影響やその手法を学ぶ
・政治・行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は、市民社会と政府・自治体・国際政治の場での連携・緊張関係を具体的な事例を紹介しながら学んでいきます。

次に日本における市民社会と政府・自治体との関係性の変化を歴史的にたどりながら、政策形成過程に市民が関わる意義を検討していきます。

後半では、住民投票を伴う自治体の意思決定に関する諸課題を検討し、解決困難な国政課題にも目を向けていきます。

最後に、市民の多様性を念頭に置きながら、市民の政策形成への関わり方について多角的な側面から取り上げ、地域社会のガバナンスという問題を考察します。

授業は講義形式で行います。なお、取り扱った事例に関連して適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義で扱う言葉を概説
第2回	市民セクターの活動と政府	1990年代後半からの日本の市民社会と政府との関係形成の動きを知る
第3回	市民セクターの活動と政策形成への影響	市民社会の取組みが政策形成に影響をもたらした国内の事例を検討する
第4回	市民セクターの活動と国際政治の場	グローバルに活動するNGOの動きと国際政治との関わりについて事例から学ぶ
第5回	戦後日本の市民セクターと政治（1）～「運動」の変遷～	戦後日本の市民運動の歴史と政府との関係性の変化を知る
第6回	戦後日本の市民セクターと政治（2）～「市民参加」の理念～	1970年前後に市民参加を先駆けた自治体の事例から参加の理念を学ぶ
第7回	市民セクターと自治体の政策形成～21世紀の市民参加の傾向～	1990年代半ばからの地方分権の時代に活発化した市民参加の手法を取り上げ、その傾向と課題を知る
第8回	市民セクターと自治体の意思決定（1）	市民が直接政策決定に関与しうる手段として、住民投票のしくみと制度的課題を学ぶ
第9回	市民セクターと自治体の意思決定（2）	住民投票の近年の運用事例から、諸課題を検討する
第10回	市民セクターと自治体の意思決定（3）	地域住民の意思表明と国政との相克関係を考える
第11回	市民セクターの合意形成～市民参加の新たな取り組みから～	市民参加の新たな試みを取り上げながら、市民間の合意形成のあり方を中心に、参加と地域ガバナンスに関わる諸課題を検討する
第12回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の試みを知る
第13回	市民社会のガバナンスを考える（1）	社会的マイノリティや参加から排除されがちな人々の参加の機会や人権の保障問題について、社会的包摂の視点を踏まえて検討する
第14回	市民社会のガバナンスを考える（2）	寄付に対する税制優遇のしくみを概説した上で、市民の活動を支える資金の流れについて考える
第15回	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の論述試験（80％）に、授業内の小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用して、具体的な事例から考える機会を提供します。

【その他の重要事項】

地方自治論、NPO・ボランティア論及びNGO活動論を履修済みか、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めます。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA237

行政学

山口 二郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は政策行政系の科目である。行政の役割と活動について説明し、行政を担う官僚組織について、その構造、歴史、特徴、動態を解説する。また、政府における政策形成過程についても、解説する。

【到達目標】

政府の役割と限界についての確に理解すること。

現代官僚制の役割と限界についての確に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代行政の構成要素、官僚組織、行政制度、政府体系、政策形成過程について講義を展開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	I 行政とは何か 1 リスクと行政	近現代におけるリスクの変容と政府活動の拡大
第2回	1 リスクと行政 続	グローバル化とリスクの変化及び行政活動の変質
第3回	2 政府の役割	政府と市場の比較にもとづく、政府の役割と限界についての説明
第4回	2 政府の役割 続	公共性の意義と政府の役割
第5回	3 行政の発展段階と行政概念の展開	民主化、産業化がもたらす行政活動の拡大 福祉国家と行政
第6回	II 近代官僚制と行政 1 近代官僚制の成立とウェーバーの官僚制論	官僚制の概念の歴史的展開 マックス・ウェーバーの官僚制概念
第7回	1 近代官僚制の成立 続	官僚制と合理性 グローバル化と官僚制の変容
第8回	2 官僚制の構造と機能	官僚制における整理と病理、機能と逆機能
第9回	2 官僚制の構造と機能 続	官僚制における服従と自発、忠誠と反逆
第10回	3 行政責任と行政裁量	官僚制の裁量と民主的統制
第11回	3 行政責任と行政裁量 続	日本の行政における責任の概念と政策の失敗
第12回	4 官僚組織と現代社会	20世紀文明としての官僚制 フォーディズムと官僚制組織
第13回	5 ポスト 311 の官僚制と行政	科学技術の発達と専門権力 民主政治と専門権力の関係
第14回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	政策決定における個人と組織
第15回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	日本官僚制における無責任体制 官僚制の「優越性」とは何か 政策の定義
第16回	III 政策と行政 1 政策の概念	政策の類型化
第17回	1 政策の概念 続	政策類型と政策決定過程の対応
第18回	2 政策の循環	政治システムと政策の循環 政策の連鎖
第19回	3 政策課題の形成	フィードバックの重要性 政策の守備範囲
第20回	3 政策課題の形成 続	作為と不作為をめぐる権力 行政需要とは何か
第21回	4 政策の形成と作成	行政需要の充足と政策 合理的政策作成モデル 多元的政策形成モデル
第22回	5 政策の選択	政策選択の合理化モデル 合理性の意義と限界
第23回	6 政策の実施	政策実施と官僚制の裁量 政策実施に対する市民的統制
第24回	7 政策の評価	政策評価の基準 政策評価の活用方法とその限界 官僚制と自己修正能力

第 25 回	IV 日本における行政の構造と動態	日本における行政制度の歴史的展開 日本官僚制の歴史的特徴
	1 日本統治機構と官僚制	
第 26 回	2 議院内閣制と官僚制	議院内閣制における行政府 議院内閣制と政官関係
第 27 回	2 議院内閣制と官僚制	戦後日本における「官僚支配」の実態 政権交代と政治主導の意味
第 28 回	3 日本における市場と官僚制	日本における市場と官僚制
第 29 回	4 日本官僚制の文化的特徴	遅れてきた福祉国家と官僚制 日本の行政における文化的特徴
		衆議制 官民間係
第 30 回	5 暴力装置	警察、軍隊と官僚制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を事前に読んでおく
講義で言及される政治、行政現象に関して、新聞、テレビ、雑誌等の報道をフォローする。
参考文献をなるべくたくさん読む

【テキスト（教科書）】

西尾勝 行政学 有斐閣

【参考書】

開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

筆記試験による

【学生の意見等からの気づき】

現実にかかる行政にかかわる問題を取り上げ、適宜学生からの意見を求めて、双方向的な議論も行いたい。

HA237

国際関係論

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第 2 回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第 3 回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第 4 回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第 5 回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第 6 回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第 7 回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第 8 回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第 9 回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第 10 回	南北問題の歴史の変遷	南北問題と南南問題
第 11 回	貧困と開発	途上国問題
第 12 回	人権	国際人権保障の困難性
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第 14 回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み
第 15 回	国際社会における課題	国際社会における諸問題と今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で行った範囲をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA236

アメリカ法の基礎

永野 秀雄

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

【到達目標】

学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、法律問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。この後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。最後に、日本とアメリカ法の関係を一緒に考えてみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第2回	連邦制度	特に憲法、軍隊をもつ州政府について
第3回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第4回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第5回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第6回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第7回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第8回	宗教の自由	宗教の自由の限界と国教樹立の禁止
第9回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第10回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第11回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第12回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制的特徴
第13回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第14回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について
第15回	日本とアメリカ法	その関係性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第6版）』（有斐閣、2008年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA237

地方自治論

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000年の地方分権改革や平成の大合併を経て、現在の地方自治では、地域の特性を活かしつつ、自律的な自治体運営を行うことが期待されています。また、人口減少問題への対策を本格化させた政府が、自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体は地域経営についても積極的な取り組みを求められています。この講義では、受講生がそうした自治体の主人公の「市民（Citizen）」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける。
・地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、地方自治の成り立ちや歴史の変遷を知り、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その後、地方自治の基本的な制度・しくみについて解説した上で現場の運用事例等を紹介しながら、市民の視点で実践的に検討していきます。

後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府間関係の問題も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。

それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要とされるシステムについて、運用の情報を提供しながら、見識を深めていきます。

授業は講義形式で行い、内容にはビデオや新聞記事等を活用しながら地方自治の最近の動きも交えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第2回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に大きな影響を与えた欧米諸国の地方自治制度を取り上げ、比較を通じて、日本の地方自治制度の特色を確認する
第3回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降、戦後地方自治制度の施行までの間に規定されていた地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を確認する
第4回	中央集権的な地方自治と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、戦後復興期からの中央集権的な時代を経て、高度成長期以降に自治体が国に先駆けて取り組んだ都市政策を取り上げ、自治体の役割の変容を検討する
第5回	指定都市等の大都市制度と都区制度	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第6回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表による機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップについて考察する
第7回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性を考察する
第8回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する

第9回	全国画一の政策と自治体の政策決定～地方分権改革を踏まえて～	対人サービスを中心とする福祉分野の政策を取り上げ、第1次地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとでの、国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、実施主体となる基礎自治体の政策決定のあり方について検討する
第10回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担の関係性を検討する
第11回	自治体の行政活動と民に広がる公共サービスの担い手	公共サービスの担い手が民へと拡大し、公民の役割分担が大きく変化している中で、自治体が果たすべき役割とは何かについて考える
第12回	平成の大合併と小規模町村	平成の大合併で市町村数は3分の1に減少し、合併の功罪にはさまざまな論議がある。ここでは合併を行わなかった小規模町村にも着目しながら、住民自治と行政サービス提供体制の問題から考察する
第13回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第14回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールを活用事例を参考にしながら、今後の可能性を考えていく
第15回	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努める
- ・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
- ・日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につける

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配布します。

【参考書】

- ・『ホーンブック 地方自治（第3版）』（北樹出版、2014年）
- その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内のレポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用し、事例を紹介しながら具体的に考える機会を提供します。

【その他の重要事項】

- ・旧科目名称「地方自治論Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA236

憲法の基礎

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法とはどのような法であるか、どのように成り立っているのかを学ぶ。憲法の基本的な構造や枠組みを理解する。日本国憲法がどのような憲法であるかを知る。

【到達目標】

現実の具体的な社会問題がどのように憲法と関連付けられているかを学び、日本における法の支配について理解することを目的とする。憲法と関連して問題となっている社会問題について理解を深めることにより、将来の社会問題を法的に分析する視点を持つことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

配布資料を使用しながらの講義形式による。場合によっては、映像などを取り入れることもある。シラバスは進度によって多少変更する可能性もある。憲法の条文を暗記する必要はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 憲法とは？	法学はどのような学問か。 憲法はどのような法律か。
第2回	憲法の基礎 日本国憲法の成り立ち	憲法の定義 日本国憲法の成立過程 日本国憲法の概要
第3回	天皇の国事行為 平和主義	天皇と国民主権 日本国憲法と自衛隊
第4回	統治機構①	権力の分立 選挙と政党 日本の選挙制度の問題点
第5回	統治機構②	立法権としての国会
第6回	統治機構③	行政権としての内閣 裁判所
第7回	統治機構④	裁判所（続き） 地方自治制度
第8回	統治機構⑤	地方自治制度（続き）
第9回	基本的人権の尊重① 基本的人権の尊重②	基本的人権概論 人権の制約 平等権
第10回	基本的人権の尊重③	表現の自由
第11回	基本的人権の尊重④	思想・良心の自由 身体の自由
第12回	基本的人権の尊重⑤	身体の自由（続き） 財産権
第13回	基本的人権の尊重⑥	社会権とは 生存権
第14回	基本的人権の尊重⑦	教育・労働 新しい人権
第15回	試験	まとめ 学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事等で憲法問題に関係のある社会問題を常に意識しておくこと。（必要がある際には、授業のときに指示します）

【テキスト（教科書）】

授業で配布する資料による。

【参考書】

- 声部信喜『憲法【第5版】』（高橋和之補訂版、岩波書店、2011年）
- ポケット六法（有斐閣）などの六法。
- その他授業の際に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、学期末試験による。ただし、レポート課題を任意に提出することで加点する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に行う。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントや映像機器を使用する可能性もある。

講義資料として配布したものは、授業支援システム上に随時アップロードする。

【その他の重要事項】

【関連する科目・分野】

行政法、国際法などの法律関連科目
政治学、社会制度論等の国家の組織に関わる学問

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA236

刑法の基礎

渡辺 靖明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法とは、端的に言えば、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律のことです。しかし、この世の中の「悪いこと」のすべてが刑法上の犯罪として処罰されるわけではありません。例えば、前日の遊び疲れで寝坊したため、授業への出席をサボるのは良くないことではありますが、これを処罰する法律はありません。それでは、刑法上処罰の対象となる「犯罪」は、いかなるもので、どのような要件の下で成立し、あるいはその成立が否定されるのでしょうか。この授業では、これについて具体的な事例を検討しながら学んでいきます。

【到達目標】

例えば、高齢で仕事も身寄りもなく、生活に困窮した人が空腹に耐えかねて、コンビニでわずか数百円のおにぎりを万引きした場合に、この人を窃盗犯として刑務所に入れることが、果たしてその人の「更生」（「再犯」の防止）に繋がるのでしょうか。このような高齢者の犯罪を防止・減少するには、刑罰よりも、高齢者に対する生活保護・福祉を充実させるべきではないでしょうか。ここでは、そもそも「刑罰」によってどこまで犯罪を予防し、または減少させることができるのか。その限界を考えてみる必要があります。そのためには、まず、法と倫理・道徳との関係、刑法の意義・役割、刑罰の目的、刑法と他の法律との関係や刑法の原則及び犯罪の成立要件の基礎等を理解しておかなければなりません。この授業では、これらの基礎知識の習得を目指します。その知識を活かして、犯罪とその背後にある社会問題について、多角的で広い視野で考えられるようになる。これこそが、この授業の最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回ごとにレジュメを配布し、判例等の事案を素に作成した具体的事例について検討し、各テーマごとの理解をはかります。また、授業で特に分からなかった点については、リサーチペーパー等で適宜質問してもらい、これに対して可能な限りさらに解説を加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／なぜ刑法が必要なの？	倫理・道徳に反する行為と犯罪行為との関係、社会的非難と刑罰との関係などを学ぶ。
第2回	「損害賠償」と「刑罰」との違いって？	民事不法行為に対する損害賠償と犯罪に対する刑罰との違い、刑罰の目的（応報か予防か）、また刑罰による犯罪予防の限界などを学ぶ。
第3回	「法律なければ犯罪なし、犯罪なければ刑罰なし」ってどういう意味？ 一罪法定主義	例えば、学校や駅などでのスマホ等の無断の充電行為は、「財物」の窃盗に当たるかなどを例にしながら、「罪刑法定主義」の基礎を学ぶ。
第4回	「会社」も犯罪行為ができる？ 一構成要件（1）行為の主体	「自然人」のみならず「法人」も犯罪行為の主体として処罰されるかなどを学ぶ。
第5回	殺人犯人の生みの親も殺人罪で処罰される？ 一構成要件（2）因果関係	刑法上の「因果関係」（行為と結果との繋がり）について学ぶ。
第6回	何もしていないことが犯罪行為にあたる？ 一構成要件（3）不作為犯	「不作為犯」について学ぶ。
第7回	自分の身を守るために人を殺しても処罰される？ 一違法性（阻却事由）	正当防衛など「違法性」が阻却（否定）される場合について学ぶ。
第8回	別れるつもり恋人に「後から自分も死ぬから。」と嘘を言って、自殺させたら、殺人罪？ それとも自殺関与罪？ 一被害者の同意	「被害者の同意」によって違法性が阻却される原理と限界等について学ぶ。
第9回	「少年」や「心神喪失者」だと、どうして処罰されないの？ 一責任	「責任能力」等について学ぶ。
第10回	「不注意」や「人違い」で殺人をしたら？ 一故意・過失／錯誤	「故意」と「過失」及び「錯誤」について学ぶ。

- 第 11 回 人を殺そうとして、その人の飲み物に「毒」を入れたつもりが実はただの「砂糖」だった。これも殺人未遂になる？／人を殺しに行くと言っている友人を励ましたら処罰される？－「未遂」／「共犯」
- 第 12 回 刑法では、「生命」・「身体」はどのように保護される？ 一個人的の法益に対する罪（1）生命・身体に対する罪
- 第 13 回 刑法では、「自由」・「人格」はどのように保護される？ 一個人的の法益に対する罪（2）自由・人格に対する罪
- 第 14 回 いやがらせのために友人のレポートを持ち去ってすぐにゴミ箱に捨てたら、窃盗罪？ それとも器物損壊罪？ 一個人的の法益に対する罪（3）財産に対する罪①
- 第 15 回 未成年者が成年と偽って、酒やタバコを買って詐欺罪？ 一個人的の法益に対する罪（4）財産に対する罪②

「未遂犯」及び「共犯（教唆・幫助・共同正犯・共謀共同正犯）」について学ぶ。

殺人罪、自殺関与罪、暴行罪・傷害（致死）罪、過失致死傷罪等について学ぶ。また「胎児性致死傷」についても学ぶ。

脅迫罪、逮捕・監禁罪、強要罪、強姦罪、名誉棄損罪・侮辱罪、業務妨害罪等について学ぶ。

財産犯罪の基礎について学ぶ。また、窃盗罪・強盗罪等についても学ぶ。

詐欺罪、恐喝罪、背任罪、盗品関与罪、器物損壊罪等についても学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメ等に基づく予習・復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

特に指定はしません。お勧めの参考書等は、授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、授業で取り上げたトピック、事例に関するレポート7割（3回）、小テスト2割及び平常点1割を総合して行います。

【学生の意見等からの気づき】

「具体的にわかりやすかった。」「刑法の基礎知識が身についた。」「犯罪に関するニュースや刑事ドラマの見方が変わった。」など、好意的なコメントも見られましたが、「やや早口であった。」「第1回のレポートの提出期限が事後に延期されたので、2回以降のレポートについて提出期限を守らない人が出たのではないか。」、とのコメントもありました。本年度は、ゆっくりと落ち着いた口調を心がけ、またレポートの提出期限を当初より余裕をもって設定するなど、受講者の皆さんへの一層の配慮をしたいと思えます。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目も併せて履修しておく、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講科目の「環境法Ⅳ（環境刑法）」の授業では、主として環境保護のための犯罪と刑罰を学びます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

なお、授業支援システムでは、各回の終了した毎にその回のレジュメをアップしたり、授業に関する連絡事項を掲示したりします。支援システムをこまめにチェックするようにしてください。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

環境法Ⅰ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積する。我が国の公害・環境法の生成、現在の体系、環境法の特徴、基本理念などを学び、環境政策を考えるうえでの基礎的な到達点を把握する。

【到達目標】

環境法政策の生成、体系等の基礎を学ぶことにより、持続可能な社会に生きていくための基本が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

高度経済成長のひずみとして現れてきた公害、自然破壊などの環境問題に対し、公害対策基本法などの公害法や自然保護法が生成した。さらに地球環境問題を迎え、環境基本法を中心とした法体系が完成した。また、大量生産大量消費から生じてきた廃棄物問題に対しては循環型社会の形成が要請される。歴史的視点に立ってこれらの環境法体系を俯瞰するとともに、環境法の基本原則・理念を学ばいわば、環境法の総論である。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方と概要
第2回	公害法の萌芽	戦前の公害問題とその対応
第3回	戦後の復興と公害法	公害防止条例と水質二法
第4回	公害事例と法Ⅰ	イタイタイ病と鉱業法 公害裁判
第5回	公害事例と法Ⅱ	水俣病と水質二法等 公害裁判
第6回	公害事例と法Ⅲ	四日市公害とばい煙規制法 公害裁判
第7回	公害対策基本法	全総計画 新産業都市 三島沼津コンビナート計画 公害対策基本法の制定 公害14法の整備
第8回	公害国会	国立公園制度、自然公園制度の整備
第9回	自然保護法の歩み	都市生活型公害
第10回	環境法の発展	地球環境問題 環境基本法の概要
第11回	環境基本法	循環型社会形成推進基本法の概要、体系
第12回	循環型社会形成推進基本法	生物多様性基本法の概要、体系
第13回	生物多様性基本法	環境法の体系と新しい動き
第14回	近年の環境法	授業の総括
第15回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にプリント、参考書を学習する。事後興味をもった事例、制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による

【学生の意見等からの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】

この講義は、各論として環境法Ⅲ、比較環境法へ発展する。また、過去の公害経験やそれに対する対応は、詳しくは「日本公害史と法」で扱う。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

環境法Ⅱ

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟や、原子力施設をはじめとする嫌悪施設に関する訴訟とそのあり方を検証します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ
第15回	原子力施設関連訴訟等	原子力損害賠償法とその関連法、その他の嫌悪施設に関する訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

環境法Ⅲ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別の公害法、廃棄物法などの国内環境法の内容を学び、環境汚染を防止するための仕組みや政策を把握する。

【到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

公害、廃棄物、リサイクルに関連する主要な法律に関連して、これに対する法の仕組み（規制対象、規制基準、規制を遵守させる仕組み）などの概要を把握するとともに、大気汚染等の状況や廃棄物リサイクルの状況を学び、現行政策の内容と問題点を考える。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	紛争処理と法	豊島の事例と公害紛争処理法
第2回	被害救済と法	公害被害救済法から公害健康被害補償法への発展
第3回	費用負担と法	補償法の費用負担 公害防止事業者負担法の費用負担
第4回	大気汚染防止法Ⅰ	固定発生源の規制
第5回	大気汚染防止法Ⅱ	移動発生源の規制
第6回	その他大気汚染諸法	自動車NOxPM法など
第7回	水質汚濁防止法Ⅰ	工場事業場規制
第8回	水質汚濁防止法Ⅱ	生活排水対策
第9回	その他水質汚濁諸法	瀬戸内法、湖沼法、下水道法など
第10回	地盤沈下、土壌汚染と法	地盤沈下二法 土壌汚染二法
第11回	感覚公害と法	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
第12回	廃棄物処理法Ⅰ	一般廃棄物
第13回	廃棄物処理法Ⅱ	産業廃棄物
第14回	リサイクルと法	容器包装リサイクル法など
第15回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にプリント、参考書を学習する。事後興味をもった制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】

この講義は、環境法Ⅰの各論にあたる。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

環境法Ⅳ

長井 圓

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法とは、環境保護のための法令を言います。その法体系は、①環境民法、②環境（憲法）行政法および③環境刑法に区別されます。この授業では、環境刑法すなわち環境保護のためにある刑法（犯罪とこれに対する刑罰を定めた法令）がどのような犯罪に対して、どのような刑罰を科すべきかについて、基礎から応用までをやさしく学びます。刑法は、犯罪に対して刑罰を加えることで、犯罪の防止を目的とします。しかし、刑罰は、市民の利益や自由を制限しますので、市民の利益や自由を剥奪することで却って市民の福祉を害することにもなります。この二律背反（矛盾）をどうしたら解消できるのでしょうか。刑法で環境は保護されても、多くの市民が刑務所に収容されたり、多額の財産を罰金として収奪されてもよいのでしょうか。

【到達目標】

豊かな自然環境を未来の世代にも残すために、環境に有害ならゆる行為（生産消費・環境負荷）を犯罪として処罰するならば、私たち人間は、そもそも生活できるでしょうか。また、誰もが環境を害することで、犯罪者になってしまわないでしょうか。そうすると、どのような環境犯罪を処罰すべきか、またそれに対してどのような刑罰が効果的かを検討しなければなりません。そこで、この授業では、適正な犯罪処罰の基本原則および限界を理解することを目標とします。例えば、環境危害を防止する手段として、刑罰と行政処分がある場合に、どちらが効果的なのでしょうか。また、環境を保護するための経済的利益誘導等（リボジット、減税、優良者の表彰）と刑罰・行政罰とを比較した場合、どちらの手段が効果的で望ましいのでしょうか。また、同じ刑罰であっても、間接罰方式（先行する行政命令等に違反して初めて処罰される。）と直接罰方式とがあるのは、なぜなのでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

特に、環境行政法と環境刑法との関係について理解するために、「総論」として、1. 刑法の基礎理論（刑罰の目的と種類、罪刑法定主義、責任主義、法人処罰）、2. 公害刑法から環境刑法への発展、3. 環境刑法の保護法益と経済法則（外部不経済の内在化、汚染者負担の原則）、「各論」として、1. 公害罪処罰法と業務上過失致死傷罪（胎児性致死傷）および2. 廃棄物処理法（廃掃法）における「廃棄物」や「不法投棄」の概念とこれに関する判例について、分かりやすく解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 環境倫理と環境刑法	罪刑法定主義・責任主義などの刑法の特色を学び、環境保護における倫理・道徳・経済法則と刑法の役割を理解する。
第2回	環境の法的保護における刑法の役割	環境保護のための民法・行政法およびこれを補完する刑法（第二次的法規範）の果たすべき各法的役割の相違から「刑法の最終手段性」を理解する。
第3回	企業犯罪と行政刑法での法人処罰	企業によって排出される有害物質による環境破壊は重大である。その場合に直接の行為者（違反者）のみを処罰するだけでは、環境刑法の目的を実現することができない。そこで両罰規定における行為者の処罰と事業主（自然人・法人）の処罰について理解する。
第4回	公害刑法および環境刑法の歴史	四大公害事件の公害対策基本法と地球環境時代の環境基本法との理論的差異について学ぶ。
第5回	公害刑法による生命・健康の保護	熊本水俣病事件刑事判決（環境判例百選105事件）における胎児性致死傷と公訴時効の問題点について学び、公害罪処罰法と業務上過失致死傷との関係について理解を深める。
第6回	公害罪処罰法の危険犯と業務上過失傷害	日本アイソジウム塩素ガス流出事件判決（環境判例百選106事件）における危険犯処罰・因果関係の推定を理解する。ここでも、公害罪処罰法の実効性が問われる。

第7回	環境刑法の保護法益（未来世代法益）	リスク社会・行政執行の赤字と近代刑法の危機に直面する環境刑法の保護法益と犯罪構成要件について学ぶ。
第8回	環境刑法の経済法則と最終手段性	水・空気・生態系等の日常的侵害を防止するには、外部不経済を内部化するための経済政策や行政処分が優先し、その実効性を担保すべき最終手段として犯罪・刑罰の規定が必要になることを理解する。
第9回	廃棄物処理法の「廃棄物」概念の相対性（1）	法律において、廃棄物について複雑な定義規定があるのはなぜか。また、一般廃棄物と産業廃棄物が区別されているのはなぜか。事業者には重い排出者責任が課せられているのはなぜか。ここでは、「おから」は、食品（有用物）になることも、産業廃棄物になることもあるので、両者をどう区別したらよいのか（環境判例百選49事件）。
第10回	廃棄物処理法の「廃棄物」概念の相対性（2）	廃棄物処理業者が不要物として排出された「木くず」をリサイクルしようとしても、その許可を受けない限り「廃棄物」の無許可処理業として違法にあたる（東京高判平成20・4・24、同平成20・5・19）。
第11回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（1）	産業廃棄物の「野積み」も不法投棄にあたる（最決平成18・2・20刑集60巻2号182頁）。なぜ「野積み」が不法投棄にあたるのか。
第12回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（2） （共罰的行為）	産業廃棄物の「野積み」後の「覆土」も不法投棄にあたる。この場合に、1つの犯罪あるいは複数の犯罪が成立する（東京高判平成21・4・27）。
第13回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（3）	「し尿汚泥」の処理施設への投入も不法投棄にあたる（最決平成18・2・28刑集60巻2号269頁）。処理施設に投入しても、環境負荷が増大するのだろうか。
第14回	廃棄物処理法の不法投棄の共謀共同正犯	硫酸ピッチの処理を委託しただけで、その不法投棄の方法や場所について知らなくても、不法投棄罪が成立するのだろうか。未必の故意による不法投棄罪の共謀共同正犯が成立するとされた事例（最決平成19・11・14刑集61巻8号757頁）。
第15回	廃棄物処理法の「産業廃棄物の処理の委託」の意義	産業廃棄物を直接許可業者に委託する場合以外には委託処理違反の罪（25条4号・12条3項）が成立する（最決平成18・1・16刑集60巻1号401頁）。マニフェスト（管理票）制度について理解する。例えば、廃棄物として委託された食品等が横流しされて販売されるのはなぜか（CoCo 壺番屋事件）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱った事項について、課題レポートの提出が数回求められますので、復習を怠らないようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しない。環境刑法に関する重要な法令等については、授業の都度、レジュメを配布する。

【参考書】

「環境法」一般の概説書として、北村喜宣『環境法（有斐閣ストウディア）』（有斐閣・2015）、大塚直『環境法』（第3版・有斐閣・2010）。環境法に関する重要判例に関する解説書として、『環境法判例百選』（第2版・有斐閣別冊ジュリスト・2011）。「環境刑法」の概説書として、町野朔（長井圓分担執筆）『環境刑法の総合的研究』（信山社・2003）、中山研一ほか編『環境法概説』（成文堂・2003）。その他の新しい文献等については、授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

最終の筆記試験は実施しません。これに代えて、出席点および数回の課題レポートの提出等で総合評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

犯罪に対して刑罰がなぜ必要なのか（応報と予防）。故意・過失・責任能力がないと犯罪にならないのは、なぜでしょうか。環境保護の法規定があっても、それが行政官庁によって必ずしも実施されない（執行の赤字）のは、なぜでしょうか。それには理由があります。刑法の基礎について学びつつ、環境法の理解に不可欠な知識が得られる面白い授業なので、ふるって受講して下さい。この授業では、法律学の予備知識が要求されるわけではありません。

【その他の重要事項】

春学期の開講科目として「刑法の基礎」（渡辺靖明担当）を履修した学生は、是非ともこの「環境法Ⅳ」を履修して下さい。そうすれば、さらに環境刑法への理解が深まって、楽しい授業となるでしょう。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

国際環境法

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質（3）	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	貿易と環境	GATT/WTOと環境問題
第14回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第15回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005年。
奥脇直也・岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）

HA336

比較環境法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の環境問題の主要なテーマである環境影響評価、自動車環境対策、有害物質対策などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。

【到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	国際的な環境保護の歩みⅠ	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第3回	国際的な環境保護の歩みⅡ	原子力事故 国際会議
第4回	環境影響評価制度Ⅰ	わが国の制度とNEPA①
第5回	環境影響評価制度Ⅱ	わが国の制度とNEPA②
第6回	環境影響評価制度Ⅲ	SEA
第7回	自動車排出ガス規制Ⅰ	マスクー規制
第8回	自動車排出ガス規制Ⅱ	ディーゼル規制
第9回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第10回	有害物質対策Ⅰ	DDT等の農薬 PCBと化審法
第11回	有害物質対策Ⅱ	外国の制度 ダイオキシン 水銀 REACH PRTTR
第12回	有害物質対策Ⅲ	スーパーフンド法とわが国の制度
第13回	土壌汚染対策	温室効果ガス算定報告
第14回	地球環境問題 新エネルギー	RPS法、FIT法など
第15回	むすび	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にプリント、参考書で日本の制度を学習する。事後興味を持った外国の制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】

・旧科目名称「国際環境法Ⅱ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）、グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）

HA336

労働環境法

沼田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2008 年のリーマンショックを契機に、雇用問題についての関心が高まっています。その際によくいわれるのは、「人らしい扱いを。」というものです。このことをILOでは、「ディーセントワーク」といい、その確立を大きな課題としています。労働の現場では、人とモノが有機的に結合して何かを生み出すわけですが、だからといって人は「モノ」ではありません。現代の就労モデルを念頭におく限り、1 日のうちの多くの時間が労働に割かれます。であれば、労働の環境そのものも、「人らしい扱い」をうけるに相応しいものでなければなりません。この講義では、労働するうえで「人らしい扱い」を受けうけるために設けられている法規制や、裁判例の動向について説明します。

したがって、この講義の受講生は、労働するうえで「人らしい扱い」をうけるための法規制や、裁判例の蓄積によって確立しているルールについて必要な知識を学ぶことができます。また、学習が進めば、簡単な事例（実際にあった労働相談内容）について、基本的な対応策が説明できるようになるはずです。

【到達目標】

1. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法検定レベル）を解答できるようになる。
3. さらに優秀な学生は、「労働環境法」として取り上げる労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題もある程度解答できるようになる。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題に、文章で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。講義の内容に関する質問を、コメントカードで受け付ける。このコメントカードに記載されている質問等に次回の講義で回答する形でフィードバックを行い、講義内容の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、「労働環境法」に関する説明。	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」をとりまく構学上の概念である「労働法」の簡単な全体像の説明。
第 2 回	法学の基礎知識	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。
第 3 回	労働基準法を守らせる方法。	労働基準法上の規制を守らせるための実効性確保手段を説明する。
第 4 回	労働基準法上の規制（労働時間規制の基本）	労働時間規制を中心とした問題を扱う。
第 5 回	労働基準法上の規制（時間外・休日労働に関するルール）	時間外労働について説明する。
第 6 回	労働基準法上の規制（深夜業規制・労働時間規制の適用除外）	深夜業規制や管理監督者等の労働時間規制の適用除外制度について。
第 7 回	労働基準法上の規制（多様な労働時間制度）	変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制について。
第 8 回	労働安全衛生法（概要）	労働者の安全衛生の確保。産業医の問題点。
第 9 回	労働安全衛生法（労働者の安全衛生に関する法規制）	安全衛生に関する規制。医師の面接指導制度の問題点。
第 10 回	安全配慮義務	雇用者である使用者の安全に対する配慮義務について。
第 11 回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害）	労災保険制度の概要。業務上の災害についての判断基準について。
第 12 回	労働者災害補償保険法（通勤災害）	通勤災害などの労災保険法上のその他の問題について。
第 13 回	過重労働、特別な疾病	いわゆる過労死・過労自死の問題について。

第 14 回 職場の人間関係をめぐるとセクシュアル・ハラスメントや職場のいじめに関する法規制の現状と課題について。

第 15 回 まとめ 本講義全体を通したまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントを事前に配布するので、事前に一読のこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

1. 浜村彰ほか『ベーシック労働法（第6版）』（有斐閣、2015 年）1,900 円＋税
2. 下記のサイトは「成績評価の方法と基準」に関連する。
・ワークルール検定

<http://workrule-kentei.jp/>

【成績評価の方法と基準】

1. 「試験」（80 %）
期末試験として 1 回実施。論述形式の問題を出題する。
2. 「授業中に実施する確認問題」（20 %）
講義中に確認問題を出題する（1 回の講義で 1～2 問程度）。これらの問題を学期を通じて実施する。問題の難易度は、ワークルール検定の初級レベルとなる。
3. その他

出席調査票を配布する。これを、コメントカードとして利用。コメントカードに毎回質問や意見があり、本講義に積極的にコミットしている場合には、加点要素として考慮する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【旧名称（新名称）】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA337

自治体環境政策論 I

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、環境政策は、自治体において極めて重要な政策領域になってきている。しかもここでのいう環境政策は幅広い内容を有しており、自治体には総合的な政策展開がもたらされている。

この講義では、第1に、「政策型思考」を身につけるために、「政策」の概念と総合的な地域環境空間づくりをプロローグとして、次に自治体環境政策を素材としながら、公共政策の基本的な構造や体系性・総合性、政策過程について検討する。第2に、環境政策の個別領域の動向、自治体の新たな政策実践について検討する。

第3に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の政策開発の軌跡について歴史社会的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。

取り上げる個別政策領域としては、緑化・緑地保全、ヒートアイランド対策、下水道整備、廃棄物や公害に関する環境規制、公園政策、景観政策などである。この授業の目的・意義は、学生が、持続可能な地域社会の構築に重要な役割を果たす自治体の環境政策に関する基礎知識を身につけ、さらに政策型思考を身につけることで、能動的に政策問題に取り組む力を養うことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・政策構造や政策過程に関する行政学・公共政策学などの学問的なとらえ方を理解する。
- ・自治体環境政策の政策開発の軌跡に関する知識を習得し、歴史社会的な見方を理解する。
- ・自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・様々な立場の社会人（市民・生活者、地域における公務従事者、NPO 関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、授業の前半ではワークショップも実施し、また適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに授業で提示した論文や、各地の自治体環境政策の動向に関するリアクションペーパーの提出を数回ともめ、授業に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念と基本的な構造について検討し、この講義の導入とする。
第2回	政策の体系性と総合性	政策の基本構造をふまえて、自治体の政策体系を確認した後、政策の総合性について検討する。
第3回	自治体環境政策の体系性・総合性を考えるためのワークショップ	自治体環境政策の体系性と総合性を体感するために、政策体系のうち緑に関する部分を学生自身が作成し共有するワークショップを行う。
第4回	地域環境空間の形成と総合的なプロデュースに向けた自治体の政策的役割	地域環境空間の形成について緑地保全・緑化、川づくり、都市景観などの視点で俯瞰的にシミュレーションしながら、政策実践のケースを確認し、さらに総合的なプロデューサーとしての自治体の政策的役割を検討する。
第5回	政策過程の循環モデルと「問題の定義」	公共政策としての自治体環境政策の動態を理解するために、政策過程の循環モデルを提示した上で、初期的ステージである「公共問題の構造化」について検討する。
第6回	ヒートアイランドの問題構造と公共政策	ヒートアイランドを手がかりとして、「公共問題の構造化」について具体的に理解し、問題解決のための自治体環境政策の構造を検討する。
第7回	「政策課題の設定」と自治体環境政策	「政策の窓が開く」時である「政策課題の設定」の局面について、NPO・NGOの役割、環境正義、市民参加との関連性をふまえながら検討する。

第8回	「政策立案」と自治体環境政策における政策選択・政策責任	政策立案過程における政策手段の選択について説明した上で、自治体環境政策における「二重の不確実性」と政策責任について検討する。
第9回	自治体環境政策の手段類型とポリシーミックス	自治体環境政策の手段類型を検討し、さらにポリシーミックスの重要性について言及する。
第10回	自治体環境政策の表現形態	自治体環境政策が、行政計画、条例などのローカル・ルール、予算など多様な表現形態をとることを確認しながら、環境基本計画や環境条例の動向などに言及する。
第11回	政策実施と自治体の環境規制	政策過程における政策実施の局面の重要性を確認した上で、産業廃棄物や公害などに関する自治体の環境規制について検討する。
第12回	政策実施と地域の環境創造	地域の「環境創造」に関する政策実施について、公園政策を中心として検討する。
第13回	第1世代の自治体環境政策と現代の「環境再生」	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢と現代への示唆をふまえながら検討する。さらに、今日の「環境再生」の時代における自治体環境政策の方向性について検討する。
第14回	第2世代の自治体環境政策と現代の景観政策	1960年代後半から80年代において、地域環境空間の質の重視を目的として登場した第2世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多次元化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら歴史的町並み保全を中心として検討し、さらに現代の景観政策の動向と課題について言及する。
第15回	アーバンデザインと現代の都市政策	第2世代の自治体環境政策の時代からはじまったアーバンデザインについて検討し、地域の持続可能性という視点から、現代の都市政策の課題について言及する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・リアクションペーパーを作成する。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。
- ・講義で言及した自治体環境政策に関連する報道などの情報収集に努める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
 - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
 - ・『自治体環境行政法（第6版）』第一法規、2012年。
 - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（90%）+リアクションペーパーによるミニレポート（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・自治体環境政策のみならず自治体について知識を得る機会になるようです。
- ・自治体政策の理論を理解するために、全国の具体的な事例紹介は役立つようです。
- ・配布するレジュメの目的と利用方法、パワーポイントとレジュメの関係性は初回に説明しますが、この点の説明を適宜行うように留意したいと思います。

・リアクションペーパーの活用を含め対話型授業をある程度取り入れています。さらに工夫をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの関連科目をあわせて履修することを推奨します。
- ・「自治体環境政策論I」から「自治体環境政策論II」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。
- ・旧科目名称「地方自治論II」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）

HA337

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自治体環境政策論Ⅰ」の各論として、「自治体環境政策論Ⅱ」では、「持続可能な地域社会」とは何かということを考えながら、そのような社会を構築するための自治体環境政策と自治体の政策全体について総合的に検討する。「自治体環境政策論Ⅰ」で提示する政策の歴史的發展モデルにあるように、今日の自治体環境政策は多次元化している。さらに「持続可能性」という概念をふまえるならば、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体政策では、ほぼ全ての政策領域を含む包括性が重要であり、「持続可能な自治体政策」「持続可能な地域政策」といった言い換えが可能である。「自治体環境政策論Ⅱ」では、第1に、「持続可能な地域社会」の概念構成、社会像、政策規範（政策原則）について説明した上で、「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説、都市的地域と非都市的地域（農山村、漁村等）のそれぞれの持続可能性、多元的な主体による「協治」といえるマルチステークホルダー・プロセスにおける自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携、などについて検討する。グローバルな自治体環境政策については、「自治体環境政策論Ⅰ」で述べた第1世代、第2世代に続く第3世代の政策として、地球環境問題に対応する自治体の政策動向を取り上げる。第2に、「持続可能な地域社会」に向けた自治体の総合政策について、トリプル・ボトムラインといわれる「持続可能性」の多面性（環境、社会、経済）と「環境政策統合」の視点から検討する。第3に、具体的な政策展開として、「持続可能な地域社会」に関する都市的地域と非都市的地域のそれぞれの取り組みについて、海外と国内の動向を検討する。さらに自治体環境政策の個別テーマのうち、循環型社会の構築と都市緑地の保全を取り上げる。

この授業の目的・意義は、学生が人間環境学部在籍中に、何度もふれるであろう「持続可能な地域社会」という言葉の意味を理解し、あるべき社会像をイメージしながら、能動的に具体的な政策問題に取り組む力を養うことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・「持続可能な地域社会」にかかわる概念と政策規範・政策原則を理解する。
- ・持続可能性からみた自治体環境政策・自治体政策全般の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・様々な立場の社会人（生活者・市民、地域における公務従事者、NPO関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに授業で提示した論点や、「持続可能な地域社会」に向けた各地の政策動向に関するリアクションペーパーを数回ともめ、授業に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	台頭する政策シンボルとしての「持続可能な地域社会」と政策規範	この講義の導入として、様々なシーンで台頭してきた「持続可能な地域社会」という政策シンボルとともに、この言葉に結びつく政策規範としての「持続可能性・持続可能な発展」の概念を再検討する。
第2回	「持続可能な地域社会」の多様性と過疎地域の持続可能性リスク	地域の多様性（大都市から過疎地域まで）をふまえた「持続可能な地域社会」への社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示し、さらに過疎地域の持続可能性リスク（非持続可能性）について検討する。
第3回	政策規範としての「グローバル」言説と自治体政策	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第4回	「グローバル」な時代における第3世代の自治体環境政策	「グローバル」な時代において、地球環境問題（特に地球温暖化への「緩和策」と「適応策」など）に対応する第3世代の自治体環境政策について検討する。

第5回	地域分散型エネルギーシステムと自治体の政策イノベーション	東日本大震災とその後の再生エネルギー特別措置法を契機として、全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向を検討する。
第6回	「持続可能な社会」への多元的主体間の責任共有や、地域間の責任共有に関する論理と自治体の政策責任・政策協調・政策連携	「環境ガバナンス」に大きくかわる多元的な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第7回	持続可能性の多面的構成（トリプル・ボトムライン）と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	トリプル・ボトムラインといわれる持続可能性の環境の側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第8回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」を構築するために多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第9回	「持続可能な都市」の提唱とトレンド	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱と動向、国内への政策波及について検討する。
第10回	「持続可能な都市」への政策実践	「持続可能な都市」に関する政策実践について、公共交通政策を中心として検討する。
第11回	「持続可能な都市」と長期的な都市の持続可能性リスクの回避	「持続可能な都市」というコインの裏側にある災害、人口減少社会などの長期的な都市の持続可能性リスクとその回避について検討する。
第12回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域環境	過疎地域の持続可能な発展政策について、「内発的発展」の論理を再考しながら適用し、さらに地域環境資源を活用した先進ケースについて検討する。
第13回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域間連帯	過疎地域の持続可能な発展政策について、生態系サービスの考え方に基づく地域間連帯モデルを提示し、都市自治体との協力関係を強化していく方向性について展望する。
第14回	循環型社会と自治体の政策責任	循環型社会への移行に関する自治体の政策責任について理論的に整理した上で、家庭系一般廃棄物の有料化や容器包装リサイクル法などに関する政策動向について検討する。
第15回	「地域循環圏」の提唱と自治体環境政策の多様性	「地域循環圏」という政策原則の提唱について検討した上で、地域特性に応じた自治体環境政策による圏域構築の可能性について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は以下の授業時間外活動を行う。
- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
 - ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
 - ・リアクションペーパーを作成する。
 - ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。
 - ・講義で言及した自治体環境政策や持続可能な地域社会に関する報道などの情報収集に努める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
 - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
 - ・『自治体環境行政法（第6版）』第一法規、2012年。
 - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時及び授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（90%）+リアクションペーパーによるミニレポート（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・全国の事例について、ほぼ毎回、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役だつようです。
- ・対話型授業をある程度取り入れています、講義内容の伝達とのバランスに留意しながら、さらに工夫していきたいと思ひます。
- ・パワーポイントを利用してはいますが、視覚的な見やすさと学生の集中力の維持のバランスについて、さらに工夫していきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配布資料以外の情報をスクリーンで投影する。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの関連科目を合わせて履修することを推奨します。

・「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させていますので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA336

日本公害史と法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国は殖産興業政策のもとで明治時代から鉱害や産業公害に対応してきたが、戦後経済成長期にそのスケールを増して被害を引き起こした。この授業では、これらの産業公害に対する企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。

【到達目標】

我が国は明治時代から現代に至るまで様々な公害に関する経験をしてきた。この経験を学び伝えることが、持続可能な社会の構築へ向けて生きる我々にとって重要である。また、この経験は他の分野の環境政策や今公害に苦しむ途上国に適用することも可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

我が国が経験してきた鉱害や産業公害について具体的事例に関して企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。その内容は単に公害環境法の歴史ではなく、日本公害史であるとともに産業史の側面を有している。この授業は環境法Ⅰの高度科目であり、講義ののち学生からの意見、感想、質問を求めることにより講義と研究会の中間形態を目指している。このため、受講者は環境法Ⅰを受講済みであるものを優先し、かつ最大27人の人数制限を設ける。（多数の場合他の講義の受講状況等により選考する）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ 概要
第2回	殖産興業政策	たたら製鉄 富岡製糸場等 財閥 三井、三菱 倉敷
第3回	紡績	足尾銅山
第4回	鉱業と鉱害1	別子銅山
第5回	鉱業と鉱害2	小坂鉱山
第6回	鉱業と鉱害3	日立鉱山 筑豊炭坑 三池炭坑
第7回	石炭と鉱害	八幡製鉄等 北九州の公害
第8回	製鉄と公害	トヨタと日産
第9回	自動車	大阪、東京のばい煙
第10回	都市公害	浅野セメント
第11回	東京の都市形成	後藤新平
第12回	電気化学工業	野口遵
第13回	化学工業	水俣病、新潟水俣病
第14回	石油化学工業	コンビナート公害 水島、徳山等
第15回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にプリント、参考書を学習する。事後興味をもったテーマを掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度とレポート（公害事件とその対応に関するもの）

【学生の意見等からの気づき】

学生間の意見交流の機会をふやす

【その他の重要事項】

受講者多数の場合は、初回授業において受講者を選考するので初回授業に必ず出席すること。

【関連の深いコース】

全てのコースに関連する科目です。

HA336

アメリカ環境法

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

【到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。まず、その概要をみた後、アメリカが公害問題にどのように対応してきたかを学びます。これに続いて、環境影響評価、大気・水・土壌といった個別の法規制について検討していきます。そして、現在注目を集めている自然保護とエネルギーに関する法制度を学習します。また、特徴のある州法を例に挙げて議論します。最後に、軍に対する環境法規制を考えてみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境NGOの果たす役割
第2回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第3回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第4回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第5回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第6回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第7回	土壌汚染対策に関する規制	スーパーファンド法等
第8回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第9回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第10回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第11回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第12回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第13回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第14回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制
第15回	自然災害と住民保護	自然災害による損害から住民を救済する法制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA337

エネルギー政策論

菊地 昌廣

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。

90分授業の最初の80分を講義に当て、残りの10分程度を受講生と質疑応答を行うことによって講義内容の理解を深める。講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第2回	エネルギー消費と産業構造	GDPとエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第3回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自律した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第4回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第5回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第6回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第7回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。

第 8 回	電力自由化政策とその影響評価	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第 9 回	電力自由化メカニズムと課題	本年 4 月から導入される電力自由化のメカニズムと諸課題について議論する。
第 10 回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ合意の内容を比較しつつ議論する。
第 11 回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第 12 回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第 13 回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第 14 回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第 15 回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビューし質疑応答を行うことにより講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までその内容をよく予習し、授業後半の質疑応答に応じられるように予習することを求める。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉 (2005) 『21 世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
- 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』（勤草書房）
- 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
- 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』（松岳社）
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所 (2012)
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】

平常点：10 点（ただし出席率 70 % 以上）
期末試験結果 90 点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】

予習しておくことが受講に効果的である。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター及びパソコン

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA337

地球環境政治論

横田 匡紀

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みや気候変動問題などの事例により理解して行くことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・気候変動問題などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベル多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。この講義では、グローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題など）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球環境政治論総論	地球環境政治とは何か
第 2 回	地球環境政治へのアプローチ（1）	地球環境政治の見方：リアリズムとリベラリズム
第 3 回	地球環境政治へのアプローチ（2）	地球環境政治の見方：コンストラクティヴィズム
第 4 回	地球環境政治へのアプローチ（3）	グローバル・ガバナンスとは何か
第 5 回	地球環境政治のメカニズム（1）	地球環境レジーム形成のメカニズム
第 6 回	地球環境政治のメカニズム（2）	地球環境レジーム間の相互関係
第 7 回	地球環境政治のメカニズム（3）	地球環境政治のアクター
第 8 回	地球環境政治のメカニズム（4）	地球環境政治と国内政治
第 9 回	地球環境政治の 이슈（1）	グローバルとローカルとの相互関係
第 10 回	地球環境政治の 이슈（2）	環境リージョナリズムの動向
第 11 回	地球環境政治の 이슈（3）	安全保障の緑化
第 12 回	地球環境政治の 이슈（4）	地球環境政治とジェンダー
第 13 回	ポスト京都議定書の国際枠組み（1）	全体像の把握
第 14 回	ポスト京都議定書の国際枠組み（2）	グローバル・ガバナンスからみた現状と課題
第 15 回	地球環境政治の展望	地球環境政治の将来の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の各項目について理解できるようにしておく

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第 2 版）』弘文堂、2016 年

【参考書】

亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010 年

亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015年
 新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015年
 古沢広祐・足立治郎・小野田真二編『ギガトン・ギャップ』オルタナ、2015年
 角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015年
 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論』泉文社、2013年
 足立研幾『国際政治と規範』有信堂、2015年

【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提として、期末試験 90 %、授業態度 10 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のベースに配慮すること

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いています。
 進度により講義内容を変更することがあります。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）・環境サイエンスコース

HA333

地域協力・統合

大中 一彌

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパという概念の由来から説きおこし、20世紀中葉における統合の制度化までの歴史を学習する。

【到達目標】

地中海やアフリカ大陸、またロシアや中東地域を含むユーラシア大陸といった隣接地域との交流も念頭に置きながら、時事問題として取り上げられることの多いヨーロッパ統合の問題を、より包括的、原理的な視点において考える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事、基本的な用語の説明	授業内容の紹介と質疑（科目選択にあたって）。地域とは？ 経済統合の諸段階。統合をめぐる諸仮説
2	世界の中心としてのヨーロッパ？	主要なトピックの概説①西ヨーロッパ中心史観の背景（17-19世紀 ウェストファリア体制、産業革命、市民革命）
3	支配と人の移動	主要なトピックの概説②越境をめぐる不平等（植民地支配、冷戦とその終結、EU域外からの避難民）
4	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ①地中海世界とその終焉	古典古代における「ヨーロッパ」という用語の誕生、西欧と東欧、イスラームとの隣接
5	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ②キリスト教の広がり	中世における封建制、領主による割拠を越える範囲でのキリスト教の制度化 → ヨーロッパ意識の萌芽
6	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ③非ヨーロッパ圏との出会いと「人間」の概念	大航海時代、ルネサンス、宗教改革、ヨーロッパの地理的定義（プリンツ）、30年戦争
7	啓蒙思想と市民革命	啓蒙思想と平和論、ヴォルテール、ルソー、アメリカ独立、フランス革命
8	ウィーン会議から二月革命まで：大陸諸国におけるナショナリズムの息吹と社会主義の登場	Confederation と Federation、ギリシア独立戦争（1821-）、マツィーニ、自由貿易 vs 保護貿易、ヴィクトル・ユゴー

9	19世紀後半の西ヨーロッパ	ナポレオン3世、クリミア戦争、普仏戦争、スペイン、ブルードン、ヨーロッパ合衆国、黄禍論(コンスタン)(Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像②激動の世紀への胎動』)
10	世紀転換期から第1次世界大戦まで	エンジェル『大いなる幻想』、ベネディクトゥス15世、ドゥマンジョン、シュペングラー、ヴァレリー(Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像④塹壕から見た人類発の大戦』)国際連盟、ルール占領
11	戦間期のヨーロッパ①	クーデンホーフ・カレルギー、ブリアン＝シュトレゼマン時代(Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像⑥勝者と敗者』)、各国財界からの統合論、ファシズム側、レジスタンス側の統合論
12	戦間期のヨーロッパ②	第1次世界大戦以降の難民保護の歴史(ギリシア/トルコ間の戦争) Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像⑦中東 分割の悲劇』
13	第二次世界大戦から冷戦へ	鉄のカーテン(チェコのクーデタ、ベルリン危機)、インドシナ戦争、チャーチルの諸演説、ヨーロッパ審議会、ザール問題、ルールの国際管理→ECSCの成立
14	主要なトピックにかんする振り返り	ヨーロッパにおける移民のプレゼンス、「要塞ヨーロッパ」
15	まとめ	学生発表(希望者のみ)含む。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・前半の授業回で取り上げるヨーロッパの概念の変遷についての説明は、文明論の古典的な素材からの抜粋からなっています。ぜひそうした古典のテキストに親しむ機会を作ってください。
・中盤以降の授業回で論ずる、第2次世界大戦以降のヨーロッパ統合については、今日の国際情勢の背景となっています。ぜひ新聞やニュースなどをつうじて最新のヨーロッパ情勢に触れるようにして下さい。

【テキスト(教科書)】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008年。

【参考書】

金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996年。
ジェラルド・ノワリエル『フランスというつぼ』法政大学出版局、2015年。
エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社、2006年。

【成績評価の方法と基準】

・小テストの受験【**全員必須**。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%
・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%
・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に加点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見等からの気づき】

前半の授業回では、とくに高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識しています。

【学生が準備すべき機器他】

・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。
・Twitter上で質問を受け付ける。@kazouille

【その他の重要事項】

・シラバスを熟読してください。

HA238

ミクロ経済学 I

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

ミクロ経済学は、個人や企業が利己的な動機で経済活動をしたとき、それが経済全体にどのような影響を与えるかを分析する分野である。利己的動機に経済を委ねたとき、希少な資源である労働や資本が無駄にされることはないのか(失業とは労働という資源の無駄遣いである)、あるいは公正な所得を得ることができるのか、こうした問題を考えるのが講義の目的である。

【到達目標】

需要曲線・供給曲線とその背後にある消費者行動・生産者行動について学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義による。随時関連資料を配布する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義のガイダンス。
第2回	ミクロ経済学の考え方	理論と実証、機会費用、埋没費用の考え方など。
第3回	貿易と比較優位1	経済主体の相互依存関係と貿易について、比較優位の概念を用いて考える。
第4回	貿易と比較優位2	前回に続き、経済主体の相互依存関係と貿易について、比較優位の概念を用いて考える。
第5回	需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線とは何なのか考える。また関数やグラフの見方について解説をする。
第6回	市場均衡	市場均衡はどのようにして決まるのか、どのような性質を持つのか考える。
第7回	価格規制と税金1	政府による価格規制や税金の効果を、需要曲線や供給曲線を用いて考える。
第8回	価格規制と税金2	前回に続き、政府による価格規制や税金の効果を、需要曲線や供給曲線を用いて考える。
第9回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰1	消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第10回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰2	前回に続き、消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第11回	需要曲線と効用最大化1	需要曲線についてより深く考察する。消費者の効用最大化問題から需要曲線を導く。
第12回	需要曲線と効用最大化2	前回に続き、需要曲線についてより深く考察する。消費者の効用最大化問題から需要曲線を導く。
第13回	供給曲線と利潤最大化1	供給曲線についてより深く考察する。生産者の利潤最大化問題から供給曲線を導く。
第14回	供給曲線と利潤最大化2	前回に続き、供給曲線についてより深く考察する。生産者の利潤最大化問題から供給曲線を導く。
第15回	総括	本講義の総括と「ミクロ経済学II」の案内。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

【テキスト(教科書)】

大瀧雅之『基礎からまなぶ 経済学・入門』有斐閣

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末に講義内容と自ら講義で獲得したものを4000字以上でまとめたレポートで評価する(100パーセント)。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度より担当。

【【関連の深いコース】】
サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA238

ミクロ経済学Ⅱ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不完全競争市場での理論を学ぶ。外部性と環境、独占市場、寡占市場や公共財と環境などの経済現象を、需要曲線、供給曲線やゲーム理論を用いて分析する。

【到達目標】

不完全競争市場での経済行動やその結果起こる資源配分の歪みについて学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義による。必要資料は随時配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義のガイダンス。
第2回	「ミクロ経済学Ⅰ」の復習	完全競争市場での理論、特に需要曲線や供給曲線を用いた部分均衡分析を復習する。
第3回	一般均衡分析概説1	一般均衡分析について概説する。
第4回	一般均衡分析概説2	一般均衡分析について概説する。
第5回	外部性と環境1	外部性のある市場での取り引きとその対処法について、環境を例に考える。
第6回	外部性と環境2	前回に続き、外部性のある市場での取り引きとその対処法について、環境を例に考える。
第7回	独占市場1	独占市場での価格付け、資源配分の歪みについて考える。
第8回	独占市場2	前回に続き、独占市場での価格付け、資源配分の歪みについて考える。
第9回	ゲーム理論1	ゲーム理論の基礎を学ぶ。
第10回	ゲーム理論2	前回に続き、ゲーム理論の基礎を学ぶ。
第11回	寡占市場1	ゲーム理論を用いて寡占市場、特にクールノー競争とその帰結について考える。
第12回	寡占市場2	前回に続き、ゲーム理論を用いて寡占市場、特にクールノー競争とその帰結について考える。
第13回	公共財と環境1	公共財とは何か、また公共財の最適な供給について、環境を例に考える。
第14回	公共財と環境2	前回に続き、公共財とは何か、また公共財の最適な供給について、環境を例に考える。
第15回	総括	本講義の総括とさらなる学習への案内。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之 『基礎からまなぶ 経済学・入門』 有斐閣

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末に4000字以上で、講義の内容また講義で自分が新たに獲得したものを整理してまとめたレポートの提出を求める。これにより評価する（100パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

2015年度より担当。

【【関連の深いコース】】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA238

マクロ経済学Ⅰ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この二十年余りの日本経済の動向を、世界の動きを意識しながら、データに基づいて理解することが、講義の目的である。

【到達目標】

急速な人口減少（少子・高齢化）を受けて、今後の日本の経済政策及び産業構造がいかにあるべきかを理解する。同時にこれは諸君の将来にも深刻にかかわってくる重要な問題である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実際のマクロ経済の動きを理解するには、ある程度の経済理論に関する知識が必要であるが、それは都度、数式を全く用いずに解説するので安心して講義に参加してほしい。使用するデータは、毎回プリントにて配布する。そして、講義のまとめとして下記のテキストを読んでくることを義務付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代日本経済の抱えている問題を概観する。
第2回	人口減少と日本経済（その1）	今後の急速な人口減少社会で、起きうる経済問題を理解する。
第3回	人口減少と日本経済（その2）	日本経済の財政事情と人口減少社会の関係を理解する。
第4回	人口減少と日本経済（その3）	年金問題と人口減少社会の関連を理解する。
第5回	人口減少と日本経済（その4）	インフラストラクチャーの整備と人口減少社会の調和を考える。
第6回	雇用の非正規化を考える（その1）	企業のガバナンス構造の在り方（企業とは何か）から、雇用の非正規化を考える。
第7回	雇用の非正規化を考える（その2）	海外直接投資との関連で、雇用の非正規化のメカニズムを理解する。
第8回	雇用の非正規化を考える（その3）	若者の失業率がなぜ高いかを理解する。
第9回	雇用の非正規化を考える（その4）	企業のイノベーションと雇用の非正規化の関連を考える。
第10回	現代日本と世界経済（その1）	現代日本の経済力を客観的に把握する。
第11回	現代日本と世界経済（その2）	基軸通貨としてのドルの将来を考える。
第12回	バブル経済と現代日本	1980年代後半のバブル経済が、現在の経済に与えている影響を解説する。「失われた20年」は本当か？
第13回	「構造改革」と現代日本経済	
第14回	現代日本の金融政策（その1）	インフレはなぜ発生するかを理解し、かつそれが重税であることを認識する。
第15回	現代日本の金融政策（その2）	為替レートと財政・金融政策の関連を最近の事例に基づき理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを講義の前半までで、読了し、自分の考え方をまとめて置くこと。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之著『平成不況の本質：雇用と金融から考える』、岩波新書、2011年

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末に講義内容と自分の新しく学んだことをまとめたレポートを、4000字以上で提出することが義務である。それによって成績を評価する。なお学生諸君の自覚と積極的な講義参加を重視する立場から、テストや出欠確認は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

初回の講義で、日本経済の直面している諸問題について、オーヴァービューする。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA238

マクロ経済学Ⅱ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学Ⅰで学んだことをもとに、マクロ経済学の考え方を把握する。

【到達目標】

マクロ経済学をミクロ経済学の応用として理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

マクロ経済学では、ミクロ経済学には登場しない貨幣が重要な役割を果たす。現実の貨幣経済とミクロ経済学が対象とする物々交換経済では、経済に対する見方がどのように変化するかを、平易に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（1）	「少子・高齢化」が経済に与える影響を復習する。
第2回	イントロダクション（2）	「財政危機」が経済に与える影響を復習する。
第3回	イントロダクション（3）	「海外直接投資」が経済に与える影響を復習する。
第4回	貨幣の機能（1）	貨幣が経済において果たしている役割を理解する。
第5回	貨幣の機能（2）	物価水準がどのように決定されるかを理解する。
第6回	貨幣の機能（3）	景気の繁閑を決定する有効需要と財政・金融政策との間にどのような関係があるかを理解する。
第7回	貨幣の機能（4）	インフレーションがなぜ起きるかを理解する。
第8回	貨幣の機能（5）	デフレーションがなぜ発生し、それがいかなる弊害をもたらすかを理解する。
第9回	経済政策はなぜ必要か（1）	理想的な物々交換経済では経済政策が不要であること（アダム・スミスの「神の見えざる手」）を理解する。
第10回	経済政策はなぜ必要か（2）	現実の貨幣経済では経済政策がなぜ必要となるかを理解する。
第11回	経済政策はなぜ必要か（3）	国債とは何かを理解し、経済政策に限界があることを知る。
第12回	為替レート・経常収支と日本経済（1）	為替レートがいかなる経済要因に左右され、それが国内経済に与える影響を理解する。
第13回	為替レート・経常収支と日本経済（2）	基軸通貨のもとでの変動レート制の仕組みを理解し、アメリカ経済と日本経済の関連を考える。
第14回	為替レート・経常収支と日本経済（3）	対外直接投資が為替レートや日本国内の雇用に与える影響を考える。
第15回	日本経済の将来	これまでの講義を踏まえて、日本経済の将来像とそれのあるべき姿を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回講義に備えてテキストの対応部分を読んでくることを義務付ける。

【テキスト（教科書）】

『基礎からまなぶ経済学・入門』、大瀧雅之、有斐閣、2009

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末に講義の内容をまとめ、自ら新しく学んだことを論理的にまとめたレポートを、4000字以上で提出することを求める。これで成績を評価する。期末テストは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

講義の最初の三回で、マクロ経済学Ⅰで学んだ内容を、「少子・高齢化」・「財政危機」・「海外直接投資による産業空洞化」を中心に復習する。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA239

現代企業論

竹原 正篤

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、社会的器官としての企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 経営とは何か	講義の進め方 講義の全体像
第2回	企業とは何か	株式会社の発展プロセス
第3回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
第4回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
第5回	大企業の機能と専門経営者	所有と経営の分離
第6回	企業の大規模化と組織の 変革	規模の利益と効率化 企業統治のあり方
第7回	経営管理の理念と機能	マネジメントの実際
第8回	日本的経営の構造	日本的経営の成果と課題
第9回	ITと企業競争力	IT活用と経営変革
第10回	マーケティング	市場・顧客の変化への対応
第11回	製品開発戦略	製品開発のプロセス
第12回	コーポレート・ファイナ ンス	企業の資金調達と投資管理
第13回	財務情報の開示	財務諸表の読み方
第14回	経営分析の手法	財務データに基づく企業分析
第15回	企業価値とは何か	企業価値の構成要素（財務・非財務）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで第3版』ミネルヴァ書房、2008年
柴田和史『ビジュアル株式会社の基本（第3版）』日本経済新聞社、2006年
武藤泰明『ビジュアル経営の基本』日本経済新聞社、2002年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。
「2016年度より担当」

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA239

経営学入門

金藤 正直

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、各企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的内容だけではなく、企業の実践的取組みについても取り上げるために、企業がどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、各講義内容に関連する企業の取組みやモデルといった身近な事例（ケース）を説明に加えるとともに、新聞・雑誌記事などを配布し、その解説を行う。さらに、資格試験の過去問題に基づいた例題を実際に解いていくことにより、経営学への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第2回	経営学とは何か 企業と経営	経営学の目的および意義と、企業が行う経営の全体像について説明する
第3回	企業の諸形態	企業・会社の概念の諸形態に関する講義を通じて、企業にはさまざまな形があることを説明する。
第4回	経営戦略の策定プロセス 全社戦略	経営戦略の概念、特徴、策定方法とともに、その中の「全社戦略」について説明する。
第5回	事業戦略	事業別の戦略である「事業戦略」について説明する。
第6回	機能別戦略	部署別の戦略である「機能別戦略」について説明する。
第7回	新たな経営戦略の展開	企業の実践的取組みを考察するとともに、その結果と第4～6回までの講義内容を比較検討し、企業が策定すべき経営戦略について提案する。
第8回	経営組織の基本形態	経営組織とは何か、また、その基本形態について説明する。
第9回	経営組織の応用形態	第8回の講義内容に基づいて、経営組織の応用型について説明する。
第10回	新たな経営組織の展開	企業の実践的取組みを考察するとともに、その結果と第8・9回までの講義内容を比較検討し、企業が編成すべき経営組織について提案する。

- 第11回 経営管理の仕組み①ー 経営機能と管理機能について説明
経営機能と管理機能ー し、企業経営を管理（マネジメント）していく方法を理解する。
- 第12回 経営管理の仕組み②ー 企業内で行われている「人」の管
ヒトの管理ー 理方法について説明する。
- 第13回 経営管理の仕組み③ー 製品製造で行われている材料や仕
モノの管理ー 掛品などの管理方法について説明する。
- 第14回 経営管理の仕組み④ー 企業が経営戦略の策定、経営組織
カネの管理ー の編成、経営管理をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計の基礎基本について説明する。
- 第15回 新たな経営管理の展開 企業の実践的取組みを考察すると
ともに、その結果と第11～14回
までの講義内容を比較検討し、企
業が実施すべき経営管理について
提案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の基礎基本を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいはQ&A形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、テキストだけでなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

経営能力開発センター（2013）『経営学検定試験公式テキスト ①経営学の基本』中央経済社。

【参考書】

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

- ・亀川雅人・鈴木秀一（2011）『入門経営学 第3版』新世社。
- ・北中英明（2013）『プレステップ経営学』弘文堂。
- ・橘川武郎・平野創・板垣暁（2014）『日本の産業と企業』有斐閣アルマ。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20％）
- ・討論やクイズへの参加（10～20％）
- ・確認テスト（10～20％）
- ・期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA239

環境経営と会計

金藤 正直

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計とは、特定の経済主体が行った活動状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者に伝達するための情報システムである。会計の領域には、マイクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。そこで、本講義では、マイクロ会計のうち、企業を対象とした会計（企業会計）を体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業による経営あるいは環境経営の取組みと会計との関係を考慮に入れながら学習していくために、企業やその経営者における会計の役割や重要性が理解でき、また、会計固有の計算技法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、専門的で難解な用語・表現をQ & A形式を多用しながら平易に説明し、また、例題に基づく学習を行うことにより、会計学への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第2回	「会計」とは何か	企業経営や環境経営における会計の目的や役割について説明する。
第3回	会計の基本的技法	会計を支える技法（簿記）の手続きとその内容について説明する。
第4回	簿記の構成要素①	簿記の構成要素のうち、資産、負債、純資産について講義する。
第5回	簿記の構成要素②	簿記の構成要素のうち、収益および費用について説明する。
第6回	取引と勘定	帳簿記入の対象（取引）とその処理方法について説明する。
第7回	仕訳と転記 仕訳帳と総勘定元帳	取引の仕訳から仕訳帳までの転記方法と、仕訳帳から総勘定元帳までの転記方法について説明する。
第8回	試算表と精算表 決算と財務諸表	試算表と精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書および貸借対照表の作成までの流れとその方法について説明する。
第9回	経営分析の方法	経営分析の必要性、収益性・安全性分析の方法について説明する。
第10回	「原価」の計算技法	原価計算の目的、計算の流れとその方法、また、原価の定義や種類について説明する。
第11回	費目別計算①	材料費の計算方法について説明する。
第12回	費目別計算②	労務費、経費の計算方法について説明する。

- 第13回 単純個別原価計算① 製造直接費および製造間接費の計算や処理方法も加味しながら、製品の個別受注生産形態に使用される原価計算の方法について説明する。
- 第14回 単純個別原価計算② 製造原価報告書 第13回で学習した単純個別原価計算の概念やプロセスを例題を用いてさらに詳細に説明する。また、製造原価報告書（製造原価明細書）の構造とともに、原価計算と第8回で学習した貸借対照表および損益計算書との関係についても説明する。
- 第15回 環境経営と会計 これまでの学習内容に基づいて、環境経営を支援する環境会計の仕組みについて説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業会計の基礎基本を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいはQ&A形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

鈴木一 道（2012）『会計学 はじめの一步』中央経済社。

【参考書】

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

- ・山崎雅教（2014）『簿記 はじめの一步』中央経済社。
- ・高橋賢（2009）『テキスト 原価会計』中央経済社。
- ・千代田邦夫（2014）『新版 会計学入門－会計・監査の基礎を学ぶ－（第3版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20％）
- ・討論やクイズへの参加（10～20％）
- ・確認テスト（10～20％）
- ・期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA238

公共経済学

小田 圭一郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につける。

【到達目標】

学生は、市場経済における公共部門の役割について学ぶ。

具体的には、以下の事項を理解する：

- ・市場経済の利点（厚生経済学の基本定理）と限界（市場の失敗）
- ・公共財の効率的配分
- ・外部性の市場的解決
- ・環境問題の市場的解決方法としての環境税と排出権取引
- ・情報非対称性問題への対処方法の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。数回程度の宿題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第2回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第3回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第4回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第5回	公共財①	定義・効率的配分条件
第6回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第7回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第8回	外部効果①	定義、コースの定理
第9回	外部効果②	市場的解決方法
第10回	環境政策①	環境問題の定式化
第11回	環境政策②	環境税と排出権取引
第12回	公的企業	自然独占と規制
第13回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第14回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化
第15回	全体の復習	重要論点のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、ミクロ経済学の初歩について適宜復習を行うとともに、授業内容の理解確認のための宿題を提出する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

初回授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」記載事項の理解度に応じて評価を行う：

- ・期末試験または期末課題（90％）
- ・宿題（10％）

【学生の意見等からの気づき】

基礎となる諸概念について直観を与えるような説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから資料をダウンロードし、授業に持参すること。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学の諸概念に基づいた説明を行うが、具体的な授業計画については、参加学生のバックグラウンド、関心分野等に応じて適宜修正する。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA239

簿記入門Ⅰ・Ⅱ

大下 勇二

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱでは日商簿記3級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に2年次以上の学生向けに3級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおこなって習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第1回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
第2回	資産・負債・純資産（資本）(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	資産・負債・純資産（資本）(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
第4回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第5回	簿記上の取引	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳 (1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第7回	仕訳 (2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	勘定記入	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第9回	帳簿組織	帳簿組織の種類と役割から、帳簿組織を学習します。
第10回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第11回	決算手続き (その1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	決算手続き (その1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第13回	決算手続き (その1)(3)	決算手続き (その1)(1) および決算手続き (その1)(2) で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。

第 14 回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。
第 15 回	総括	第 14 回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。
第 16 回	商品売上の記帳 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売上の記帳を練習します。
第 17 回	商品売上の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 18 回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第 19 回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 20 回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第 25 回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第 26 回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (その 2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第 28 回	決算手続き (その 2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。
第 29 回	決算手続き (その 2)(3)	棚卸表の作成から 8 けた精算表の作成、帳簿の締切りおよび財務諸表の作成練習を行います。
第 30 回	総括	総合練習問題に取り組みます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト (教科書)】

大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】

日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】

基本的には、春学期・秋学期の定期試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2 年次の会計学入門 I/II、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、監査論 I/II、原価計算論 I/II、管理会計論 I/II、経営分析論 I/II、III/IV など会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

HA338

環境経済論 I

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境問題はさまざまな経済活動ともなっていて発生している。そのため、環境問題を考えるには、経済活動との関わりを体系的に理解する必要がある。そのうえで、いろいろな環境問題に対してどのように対処すればよいのかを考える。

【到達目標】

環境経済学の側面から、環境問題を考える際に必要となる基礎的で重要な概念・考え方を学ぶとともに現実への応用力を獲得することを旨とする。とくに市場機構を補完する環境政策の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。最初に、環境問題が過去、どうして市場経済で対処が難しかったのか、また対処するにはどのような枠組みが必要なのかを学ぶ。そのために、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解する。その後、近年、注目を浴びるようになってきた環境問題に対する経済的手段を理解するために必要とされる基礎的事項を講義する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方および環境の果たす役割の概観
第 2 回	日本を中心としたローカルな環境問題	公害問題やその後の環境問題についての概観
第 3 回	ミクロ経済学のレビュー (1)	市場の役割
第 4 回	ミクロ経済学のレビュー (2)	限界概念、余剰概念
第 5 回	ミクロ経済学のレビュー (3)	パレート効率性について
第 6 回	環境問題の捉え方 (1)	公共財の視点
第 7 回	環境問題の捉え方 (2)	公共財とリンダール均衡
第 8 回	環境問題の捉え方 (3)	負の外部性の視点
第 9 回	環境対策の考え方 (1)	規制的手段と経済的手段
第 10 回	環境対策の考え方 (2)	環境税の考え方 (1)
第 11 回	環境対策の考え方 (3)	環境税の考え方 (2)
第 12 回	環境対策の考え方 (4)	環境税の実際
第 13 回	環境対策の考え方 (5)	当事者交渉とコースの定理
第 14 回	環境対策の考え方 (6)	排出権取引の基礎
第 15 回	まとめ	全体のレビュー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物にもよく目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。受講に当たっては、ミクロ経済学 I、II の履修が望ましい。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使用しません。作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。
R. K. ターナー他『環境経済学入門』(大沼沢) 東洋経済新報社
栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施します（期末試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度は担当しませんでした。なお、重要な概念については繰り返し説明したいと思います。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA338

環境経済論Ⅱ

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論Ⅰに引き続き、経済活動と環境問題の関わりを理解し、環境問題の解決に当たって必要なフレームワークを習得する。さらに、環境経済論Ⅰで取り上げなかったトピックについても紹介する。

【到達目標】

環境経済学で基礎的かつ重要な考え方や概念等を引き続き学習し、それらを応用する力を身に付けることを目指す。その際、とくに持続的な資源利用、長期の環境問題、環境の評価などに注目して理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。具体的には、環境経済論Ⅱで学ぶのは、自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策費用負担との関係、環境評価の基礎的理解などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組を講義する。とくに、時間が本質的に入ってくる長期の環境問題などに対して、どのような点がこれまでの共通理解となっているのか、また残された課題は何なのかなどに関して理解を深める学習とする。また市場が存在しない環境をどのように経済評価するのかに関して、いくつかの考え方などについても講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境経済論Ⅰのレビューと環境経済論Ⅱの概観
第2回	環境とコモンズ (1)	ローカル・コモンズとグローバル・コモンズ
第3回	環境とコモンズ (2)	コモンズの長期的な存立条件
第4回	資源価格と経済との関連 (1)	ホテリング・ルール
第5回	資源価格と経済との関連 (2)	バックストップ技術
第6回	環境とコスト・ベネフィット分析 (1)	潜在的パレート改善の考え方とその限界
第7回	環境とコスト・ベネフィット分析 (2)	その他の前提条件
第8回	環境と割引率 (1)	割引の考え方の背景
第9回	環境と割引率 (2)	社会的割引率
第10回	環境とリスク (1)	リスクの考え方
第11回	環境とリスク (2)	環境問題への応用
第12回	環境の価値評価 (1)	伝統的トラベル・コスト法
第13回	環境の価値評価 (2)	ヘドニック価格法
第14回	環境の価値評価 (3)	表示選考法 (CVM など)
第15回	まとめ	全体のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、問題意識の涵養につとめること。講義は環境経済論Ⅰの履修を前提として組み立てられている。また、受講に当たってはミクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念などを学ぶうえで参考となる。
R.K. ターナー他『環境経済学入門』（大沼訳）東洋経済新報社
栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度は担当しませんでした。なお、重要な概念については、いろいろな観点から、繰り返し説明したいと思います。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA339

環境経営論 I

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、「企業」の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営（CSR 経営）についても一緒に取り上げていく。

【到達目標】

本講義では、日本企業で現在実践されている環境経営やサステナビリティ経営における方針（戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、環境報告書やサステナビリティ報告書を利用しながら、日本企業で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴を理解することを目指す。また、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料などを多用しながら、両経営の実践的取組みへの理解をさらに深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。
第 2 回	環境・サステナビリティ経営の目的と役割	従来の企業経営と比較しながら、環境・サステナビリティ経営の目的と役割を説明する。
第 3 回	環境・サステナビリティ経営の全体像	従来の企業経営と比較しながら、環境・サステナビリティ経営の仕組みを説明する。
第 4 回	環境・サステナビリティ経営戦略①	従来の経営戦略と比較しながら、環境経営戦略の特徴を説明する。
第 5 回	環境・サステナビリティ経営戦略②	従来の経営戦略と比較しながら、サステナビリティ経営戦略の特徴を説明する。
第 6 回	環境・サステナビリティ経営組織①	従来の組織編成と比較しながら、環境経営戦略を実現していく組織の特徴を説明する。
第 7 回	環境・サステナビリティ経営組織②	従来の組織編成と比較しながら、サステナビリティ経営戦略を実現していく組織の特徴を説明する。
第 8 回	環境・サステナビリティ経営管理①	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 9 回	環境・サステナビリティ経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 10 回	環境・サステナビリティ会計①	環境・サステナビリティ経営と会計の関係も説明する。

第11回	環境・サステナビリティ会計②	環境省環境会計ガイドラインに基づいて、環境保全コストの定義、内容、測定方法について説明する。
第12回	環境・サステナビリティ会計③	環境省環境会計ガイドラインに基づいて、環境保全効果および経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。
第13回	環境・サステナビリティ会計④	環境会計と比較しながらサステナビリティ会計（CSR会計）の意義と特徴を説明する。
第14回	環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントと会計①	環境・サステナビリティ・バリューチェーンやサプライチェーンを対象としたマネジメントと会計の基礎を説明する。
第15回	環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントと会計②	ケーススタディを通して、環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントと会計の重要性を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、「企業」の環境経営やサステナビリティ経営の基礎を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいはQ&A形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

講義中に著書・論文・雑誌・URL等をいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

【環境経営/サステナビリティ経営（CSR経営）】

・(株)日立製作所地球環境戦略室（2009）『日立インスパイア環境経営』東洋経済新報社。

・谷達雄（2012）『リコーの先進事例に学ぶ 環境経営入門』秀和システム。

・日刊工業新聞社（2015）『エコ・リーディングカンパニー東芝の挑戦 環境戦略が経営を強くする』日刊工業新聞社。

・川村雅彦（2015）『CSR経営パーフェクトガイド』ウイズワークス。

【経営学/会計学】

・北中英明（2009）『プレステップ 経営学』弘文堂。

・中村竜哉（2009）『プレステップ 会計学』弘文堂。

・経営学検定試験協議会（2013）『経営学検定試験公式テキスト①

経営学の基本』中央経済社。

【URL】

・「環境報告書プラザ」〈<http://www.ecosearch.jp/ja/>〉。

・「CSR図書館.net」〈<http://csr-toshokan.net/>〉。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

・リアクション・ペーパーの提出（20％）

・討論やクイズへの参加（10～20％）

・確認テスト（10～20％）

・期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。

・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。

・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA339

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「地域」の環境経営やサステナビリティ経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、国内の地域で現在実践されている環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容に関連する著書、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、地域で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。
第2回	環境・サステナビリティ経営の目的と仕組み	CSV（Creating Shared Value）の概念に基づいて、地域の環境・サステナビリティ経営の目的と仕組み（産業クラスター）を説明する。
第3回	産業クラスター事業①	産業クラスターの概念を整理するとともに、国の動向や課題も説明する。
第4回	産業クラスター事業②	産業クラスターの事業の先進事例（フードバレーとかちなど）について紹介し、その特徴を説明する。
第5回	産業クラスター事業③	地域サプライチェーンとしての産業クラスターのマネジメントの方法を説明する。
第6回	産業クラスター事業④	産業クラスターのモニタリング手法として有効的に機能するバランス・スコアカードを説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業①	再生可能エネルギーの概念を整理するとともに、国の動向や課題を説明する。
第8回	再生可能エネルギー事業②	太陽光発電事業（飯田市など）について紹介し、その特徴を説明する。
第9回	再生可能エネルギー事業③	バイオマス事業の先進事例（下田町など）について紹介し、その特徴を説明する。
第10回	地域活性化事業①	地域活性化の概念を整理するとともに、国の動向などを説明する。
第11回	地域活性化事業②	池田町（ワイン城）の取組事例を紹介し、その特徴を説明する。

第12回	地域活性化事業③	板柳町（ふるさとセンター）の取組事例を紹介し、その特徴を説明する。
第13回	地域事業を対象としたマネジメント	第8回～第9回と第11回～第12回のうち、1事業を対象としたマネジメント（第5回）の方法を検討し、提案する
第14回	地域事業を対象としたモニタリング	第8回～第9回と第11回～第12回のうち、1事業を対象としたバランス・スコアカード（第6回）を検討し、提案する。
第15回	総括	地域の環境・サステナビリティ経営の意義と将来展開していくべき地域事業を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、「地域」の環境経営やサステナビリティ経営の基礎を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計－産業クラスターの可能性－』中央経済社。

【参考書】

講義中に著書・論文・雑誌・URLなどをいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

【著書】

・ 諸富徹（2015）『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。
・ 山崎朗（2015）『地域創生のデザイン』中央経済社。

【URL】

・ まち・ひと・しごと創生本部（<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/>）。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・ リアクション・ペーパーの提出（20％）
- ・ 討論やクイズへの参加（10～20％）
- ・ 確認テスト（10～20％）
- ・ 期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

- ・ ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・ 必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・ 質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA339

環境経営実践論 I

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀ゼロ成長時代の国際的循環型経済社会を指導的に支えて行くフレキシブルな人材となることを目的とし、経済社会活動における真の環境問題とは何か、経営上でエコバランス、エコエフィシエンシーを重視した継続的改善を伴った解決策をどのように推進すればよいかを考える。

【到達目標】

1. 昨年改正された国際的基本ツール ISO14001（環境マネジメントシステム規格）の意図と基本概念を理解し、環境配慮経営は持続可能な経済社会への貢献につながる背景・理由を説明できる。
2. 実在企業を題材として環境影響評価と予防・継続的改善を実践的な PDCA の基礎的仕組みに適用できる。
3. 環境マネジメントシステムにおいてそれを補完・支援するライフサイクルアセスメント、環境ラベル、環境コミュニケーション、環境会計、社会的責任・コンプライアンス等の国際規格 ISO 上の位置づけ、目的・意図を明確にし説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

持続可能な環境経営実践モデルや新旧 ISO14000 シリーズ規格（環境マネジメントシステム規格シリーズ）を理解しやすく図表化して授業を行うとともに、基礎演習では、実在企業の環境経営方針や環境汚染問題を事例にしたグループ討議、実在企業の製造プロセスを使って著しい環境側面特定と環境影響評価を行うグループ演習・発表によって上記目標に到達できるようなものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経営の基本概念	歴史的背景を踏まえて環境配慮経営にサステナビリティ経営上の必要性及び位置づけを認識し、現代の経営では CSR が求められることを理解する。
第2回	地域的環境汚染問題（公害問題）と地球環境問題	循環型社会に国際的経済社会システム変換の必要性（地域的環境汚染問題と地球環境問題の原因と対策）を考える。
第3回	ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念	国際共通の環境経営基本ツールである新旧 ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念を理解する。
第4回	環境経営における基本原則	ISO14001 規格に基づき、環境経営の基本原則である「環境側面」「環境影響」「環境パフォーマンス」を考える。
第5回	基礎演習 1	実在企業の環境方針と環境汚染の事例に基づいて、環境中の土インセンティブを与える原因と影響・結果を実践的に考える。
第6回	基礎演習 1	基礎演習 1 についてグループ討議を行った結果を発表・総括する。
第7回	環境経営システムを補完するライフサイクルアセスメントと環境適合設計	環境経営システムを補完するライフサイクルアセスメント（LCA）とエコデザインを ISO14001 と 9001 との関係で考える。
第8回	環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付け	産業界における環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付けと必要性を具体的事例に基づいて考える。
第9回	環境経営システムの実効性と環境会計	ライフサイクルアセスメントと環境ラベルと関連してマテリアルフローコスト会計と環境会計ガイドラインの共通性と目的を理解する。
第10回	環境影響評価と環境パフォーマンス指標	環境目的・目標に基づく実施計画と環境パフォーマンス指標に基づく監視・測定・評価の一連の流れを理解する。
第11回	基礎演習 2	実在企業を題材として環境側面を洗い出しその環境影響分析・評価をグループ討議する。
第12回	基礎演習 2	グループ討議による成果を発表し、全体討議によって著しい環境側面・環境影響は何かを特定する。

第 13 回	環境経営実践上のコンプライアンス	環境経営に係るコンプライアンス（法規制、条例、企業倫理に基づく自主的規制等）と法令遵守を考える。
第 14 回	環境経営実践ケーススタディ	日本の代表的企業を事例として環境経営実践のカギをまとめる。
第 15 回	環境改善の内部監査及び ISO14000 シリーズ規格の要点	環境経営を継続的に改善するための内部監査及び補完・支援するための ISO14000 シリーズ規格の要点を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして授業・演習・討議を通じて考える力を養う。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回授業時に学習テーマに沿った資料および関連新聞記事を配布し解説する。

【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

事前課題レポート 50%（事前に提示する環境経営実践課題に関するレポートを最終授業日に提出する）

基礎演習の成果 25%（事前検討・役割発揮・発表内容）

平常点 25%（ふだんの授業・質疑応答への係わり、積極的な問題意識提起）

【学生の意見等からの気づき】

具体的な環境経営実践モデルを授業で提示する。

【関係の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA339

環境経営実践論Ⅱ

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々変化する政治経済社会問題と環境経営は密接な相互作用の関係にあり、そのために事業機会リスクをマネジメントすることは持続可能な環境経営を実現して行く上で重要な課題となる。

授業では、昨年改正された ISO14001（環境マネジメントシステム規格）は環境と経済の両立からさらに社会的側面にも立脚したトリプルボトムラインと統合マネジメントに進化することを理解し、春学期「環境経営実践論Ⅰ」の応用編として改正 ISO14001 の目的・意図を考えながら環境経営実践のためのリスクマネジメント、サプライチェーンマネジメント、コンピタンシーマネジメントを事例を通して学習する。

【到達目標】

1. 環境経営の持続可能性と環境マネジメントシステムの必要性について再認識し、環境経営にプラス・マイナスのインセンティブをもたらす有益・有害な事業機会リスクのマネジメント手法を事例に基づいて実践的に適用することができる。

2. サプライチェーンマネジメントやコンピタンシーマネジメントは、その重要性において環境マネジメントシステムとどのようにかかわってくるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境経営の事業機会リスクマネジメントの実践的分析・評価、有効性を PDCA サイクルと関連づけて理解しやすく図表を多用しながら、授業・演習・討議を通じて上記目標に到達するような授業とする。

演習では、改正 ISO14001 の考え方を利用して、ある業界におけるモデル事業会社について、外部環境（脅威と機会）と内部環境（強みと弱み）は何か、事業遂行上の環境影響やリスク（負の側面）と環境に配慮した新たな事業機会創出や事業プロセス改善（正の側面）、そのために求められる組織・体制、課題・解決策をグループ討議する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境経営の基本理念	環境経営の基本理念及び国際的基本ツールである新旧 ISO14001 規格の意図と基本理念を考える（春学期講義レビューと課題補完）。
第 2 回	環境経営の必要性	ゼロ成長時代に求められる健全な企業ビジョン・理念に基づく環境経営の必要性をライフサイクルと統合マネジメントの視点で考える（春学期講義レビューと課題補完）。
第 3 回	環境経営リスクマネジメント概論 1	基本的なマネジメントサイクル PDCA を展開するために改正 ISO14001 が要求する「組織の状況の把握」と「脅威と機会に伴うリスクへの取組み」について考える。
第 4 回	環境経営リスクマネジメント概論 2	経営にプラス・マイナスインセンティブをもたらす有益なまたは有害な事業機会リスクについて考える。
第 5 回	ISO31000（リスクマネジメント規格）	改正 ISO14001 との関連において ISO31000（リスクマネジメント規格）に基づくリスク要素の特定とその環境影響のリスク評価を考える。
第 6 回	演習 1（事業リスク要素とその環境影響評価）	ある業界のモデル事業会社について経営を取り巻く状況（内部・外部環境）と事業リスク要素（環境側面/活動上の土 諸要素・側面）について考える。
第 7 回	演習 1（討議）	演習 1 のグループ討議
第 8 回	演習 1（発表）	演習 1 のグループ討議と結果発表
第 9 回	リスクマネジメントにおける分析・評価	演習 1 の結果を振り返り、リスクマネジメントにおける実践的な分析・評価のあり方を PDCA サイクル及びポートフォリオマネジメントと関連づけて考える。
第 10 回	環境経営実践におけるリスクマネジメント事例	具体的リスクマネジメント事例をもとに環境経営実践を考える。

第 11 回	サプライチェーンマネジメントの考え方と重要性	経営におけるサプライチェーンマネジメントは環境経営実践の基点となること、および真の環境問題はどこにあるのかを考える。
第 12 回	演習 2 (リスクマネジメント事例演習)	演習 1 のモデル事業会社の経営上・環境上の具体的なリスクを特定し、事業機会創出・事業プロセス改善案をグループ討議で考える。
第 13 回	演習 2 (続き)	モデル事業会社について求められる組織・体制・課題・解決策についてグループ討議で考える。
第 14 回	演習 2 (結果の発表と討議)	演習 2 (結果の発表と討議)
第 15 回	環境経営におけるコンピタンスマネジメント	環境経営に求められる人材レベルのコンピタンスマネジメント (実績・力量主義経営) の基本と組織レベルのコア・コンピタンス経営の重要性を考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして授業・演習・討議を通じて考える力を養う。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。各回授業時に学習テーマに沿った資料および関連新聞記事を配布し解説する。

【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

50% 事前課題レポート (事前に提示する環境経営実践課題に対するレポートを最終授業日に提出する)
25% 演習の成果 (事前検討・役割発揮・発表内容)
25% 平常点 (ふだんの授業・質疑応答への係わり、問題意識提起)

【学生の意見等からの気づき】

P D C A と関連したリスクマネジメントの具体的な企業事例を考える。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (エコ経済経営コース)

HA339

CSR 論 I

竹原 正篤

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) に関する基本的理論と世界的な潮流を理解し、サステイナブル (持続可能な) 社会において求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることをめざします。

【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にめぐって生じる諸問題に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	企業の機能と役割 株式会社の発展と企業倫理	日米欧における株式会社の発展プロセスと企業倫理の変遷
第 3 回	近代産業の勃興と経済倫理 I - 見えざる手と道徳哲学	『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性
第 4 回	近代産業の勃興と経済倫理 II - 功利主義思想	産業革命の勃興と企業倫理
第 5 回	近代産業の勃興と経済倫理 III - 資本主義の精神と倫理	近代資本主義の思想的背景
第 6 回	企業社会の論理と倫理 - 社会的責任のマネジメント	社会的器官としての企業
第 7 回	資本主義の危機と変容	資本主義経済の進展と市場の失敗
第 8 回	新自由主義 vs 第三の道	新自由主義の思想と限界 第三の道と新しい公共
第 9 回	CSR の胎動	新自由主義への反動と CSR の胎動
第 10 回	日本社会の企業倫理と CSR ①	日本における企業倫理・社会的責任の萌芽
第 11 回	日本社会の企業倫理と CSR ②	日本の経済成長と CSR の生成
第 12 回	成熟化社会の到来と CSR	成熟化した社会における CSR の本質
第 13 回	CSR の世界的潮流①	グローバル社会における CSR の動向 (欧州)
第 14 回	CSR の世界的潮流②	グローバル社会における CSR の動向 (米国)
第 15 回	CSR の世界的潮流③	グローバル社会における CSR の動向 (アジア)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関心のある企業の経営理念や CSR 報告書を読み、企業がどのような価値観を持って発展し CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

【テキスト (教科書)】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

R.L. ハイブルローナー (松原隆一郎ほか訳)『入門経済思想史』筑摩書房、2001 年
武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店、1999 年
佐和隆光『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993 年
谷本寛治『責任ある競争力 - CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

「2016年度より担当」

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA339

CSR 論 II

竹原 正篤

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論 I で学んだことを踏まえ、現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにほかなりません。企業と社会の間に存在する様々な矛盾を解消するための仕組みとしての CSR について理解を深めることをめざします。

【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」をめぐって生じる諸問題に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サステイナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営における CSR の意義とサステイナブル社会で求められる企業像を検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR の基本概念 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	わが国企業社会の倫理観	共同体組織と公共性
第 3 回	CSR / Business Ethics の潮流	日米両国における CSR の認識と実践
第 4 回	CSR コミュニケーション	ステークホルダーとの対話 CSR 報告書を読み解く
第 5 回	CSR の制度化	ISO26000 について
第 6 回	企業戦略と CSR の相克	企業戦略と CSR & Business ethics はトレードオフなのか
第 7 回	ステークホルダー・コミュニケーション	持続可能性報告と CSR コミュニケーション
第 8 回	欧州の CSR 戦略①	EU 圏における CSR 政策の変遷
第 9 回	欧州の CSR 戦略②	EU 圏における CSR の関心事と政策動向
第 10 回	米国の CSR	米国における CSR の現状と課題
第 11 回	CSR 金融① 社会的責任投資とは何か	CSR と社会的責任投資（SRI）の関係性
第 12 回	CSR 金融② 環境格付と投資収益率	非財務的要素と企業価値の関係
第 13 回	CSR 金融③ SRI ファンド	SRI ファンドの実態
第 14 回	ソーシャルビジネス①	企業と NPO の協働の意義、ケーススタディ（国内）
第 15 回	ソーシャルビジネス②	企業と NPO の協働の意義、ケーススタディ（海外）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では 1,000 社程度の企業が CSR 報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR 報告書を読み解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

谷本寛治『責任ある競争力－CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年
谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年
岸田真代編『NPO×企業協働のススメ』パートナーシップサポートセンター、2012 年
岸田真代編『企業が伸びる地域が活きる：協働推進の 15 年』パートナーシップサポートセンター、2013 年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート:30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

「2016 年度より担当」

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA338

国際環境政策 I

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では環境問題を国際的な観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。

【到達目標】

国際的な視点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。最初に、本授業は、環境問題の低減・解決を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などの比較を含めて、講義する。そのために、各国で経済的手段がいかん利用されているかを概観するとともに、環境税・排出取引などの効果と課題等について学習する。その後、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの越境・地球環境問題を対象に環境経済学の視点から講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題の拡がりとその類型
第 2 回	OECD 諸国での環境政策の多様性	時代的変遷
第 3 回	環境と経済的手段 (1)	環境税の帰着
第 4 回	環境と経済的手段 (2)	OECD 諸国での課徴金と環境税
第 5 回	環境と経済的手段 (3)	OECD 諸国での排出権取引制度
第 6 回	環境と経済的手段 (4)	排出権取引の課題
第 7 回	環境と経済的手段 (5)	価格コントロールと数量コントロールの比較
第 8 回	越境環境問題 (1)	越境環境問題の捉え方
第 9 回	越境環境問題 (2)	酸性雨問題
第 10 回	国際環境協定の可能性 (1)	完全協力解、非協力解、提携など
第 11 回	国際環境協定の可能性 (2)	自立的な国際協定、国際協定の難易度
第 12 回	地球環境問題 (1)	オゾン層破壊
第 13 回	地球環境問題 (2)	地球温暖化問題 (1)：地域間、世代間の問題
第 14 回	地球環境問題 (3)	地球温暖化問題 (2)：現状評価
第 15 回	まとめ	全体のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも復習に重点をおいて学習すること。復習に当たっては、各回、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論 I、II の履修が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。
R. K. ターナー他『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社
栗山浩一・馬奈木俊介 (2012)『環境経済学をつかむ』第 2 版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度は未開講。なお、学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等について繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮したいと思います。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境政策」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA338

国際環境政策Ⅱ

内山 勝久、國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境政策Ⅰの内容を踏まえ、さまざまな環境問題に関して統計データ等を通じて現状を客観的に理解するとともに、世界の環境政策の潮流と日本の対応などについて主として経済学の観点から検討します。

【到達目標】

統計データや政策の国際比較を通して、広い視野から環境問題を捉えられるようになることを目標とします。採り上げる環境問題に関しては基本的事項を中心に扱う予定ですので、そこから各受講者自身の問題意識の発見や深掘りにつながるようにすることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主要な環境問題のうち国際環境政策Ⅰで扱うことができなかった問題について、基礎的事項と国際的な取り組みの動向等を、スライドを利用しながら講義形式で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のねらいや環境問題の実態について
第2回	環境と持続可能な発展	貿易政策、開発政策、経済成長と環境の関係について
第3回	再生可能資源の保全政策(1)	市場を活用した漁業資源保全政策について
第4回	再生可能資源の保全政策(2)	市場を活用した森林資源保全政策について
第5回	非再生可能資源の保全政策	エネルギー資源の効率的利用について
第6回	エネルギー問題と環境政策(1)	エネルギー消費の実態について
第7回	エネルギー問題と環境政策(2)	エネルギー政策の動向について
第8回	廃棄物管理政策	廃棄物の現状と市場メカニズムを活用した管理手法について
第9回	循環型社会への取り組み	循環型社会形成に向けた政策について
第10回	企業行動と環境政策	環境政策と企業の環境配慮活動について
第11回	金融と環境政策	金融を活用した環境改善の潮流について
第12回	環境と経済社会	環境負荷の見える化や持続可能性と幸福度について
第13回	都市・まちづくりと環境政策	低環境負荷のまちづくりに関する経済的手法について
第14回	生物多様性政策	市場を活用した生物多様性保全の潮流について
第15回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が関心を持ったトピックスについて、新聞・雑誌・ウェブサイトなどで関連情報を収集し、問題意識の醸成に努めることを望みます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介しますが、差し当たって以下の文献を紹介しておきます。
・亀山康子、『新・地球環境政策』、昭和堂、2010年。
・倉阪秀史、『環境政策論（第3版）』、信山社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します（期末試験100%）。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度未開講、2016年度より担当。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA339

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを具体的に考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察が出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスと総称される多様な企業活動について、総合的な理解を深め、主要分野についてビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れると同時に、各分野を通底するツールとしてファイナンスの視点を学ぶことにより、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、その市場規模や構成、雇用などといった巨視的な視点を押さえると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、生物多様性保全など主な各論テーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。その際、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを習得することにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、グループ毎に事例分析とプレゼンを行うことで、実際の企業を素材に学習した環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成や見方などを取り扱う。
第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けとミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース1：再生可能エネルギービジネス2	前回の続き。
第8回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO、HEMS／BEMSなどを学びながら、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第9回	ケース3 リサイクルビジネス1／企業分析①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から第14乃至15回目に亘り、分析・プレゼンを実施する予定。
第10回	ケース3 リサイクルビジネス2／企業分析②	前回の続き。

第11回	ケース4：土壌汚染対策ビジネス／企業分析③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第12回	ケース5：水ビジネス／企業分析④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第13回	ケース6：生物多様性保全ビジネス／企業分析⑤	生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、生物多様性保全ビジネスについて考える。
第14回	まとめ／企業分析⑥	これまでの議論を総合的に振り返り、再度、環境ビジネスの基本的な性格とこれに対するファイナンス的なアプローチをレビューする。
第15回	試験または、まとめ／企業分析⑦	本講義の理解度を確認するため記述式の試験を行う。但し、受講生の人数によってはプレゼンをもって試験とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、企業のWebサイトなどを通じて、様々な形で展開されている環境ビジネスの実像との接点を常に持つように心がけ、問題意識を持って授業に臨むこと。また、講義では極力振り返りを重視して知識の定着に心がけるが、受講生も復習を重視するようにして下さい。なお、本講義では、受講生をチーム分けし、割り当てられた企業の環境ビジネスについて分析・プレゼンしてもらいます。教室での質疑、講師からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用であったと評価しています。分析・プレゼン資料作成作りにも積極的な参加が望まれます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システムを通じて配布する。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずにプリントアウトして持参するようにして下さい。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html

このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

受講者が一定数以上の場合、期末試験（50%）、授業の一環として行うプレゼンへの参加とその貢献度（40%）と平常点等（10%）を考慮し、総合的に判断する。受講生が少なく、少人数編成でプレゼンが行える場合には、期末試験に変わり、プレゼン（80%）、平常点（20%）にて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションのチーム編成について、受講生の学年等に偏りが出ないように留意するとともに、講義の中でチームメンバーが顔合わせを行う機会を設けるなど、その後のチームワークの円滑化を図る。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

チームによる分析・プレゼンは6～7件を想定しているが、受講者数に応じて増減する可能性がある。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA237

平和学

山本 和也

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内戦・テロリズム・難民が、ニューストピックにならない日はありません。このことは、第二次世界大戦後に誕生した平和学がますます重要になっていくことを意味しています。本講義では、平和学の基本的内容を習得するとともに、上述のような現代的諸問題への理解を目指します。

【到達目標】

第一に、平和学誕生の背景、その学術的特徴、平和学が考える「平和」や「平和主義」の意味といった、平和学の学問的内容を習得します。第二に、それらの知識をもとにして、核兵器、貧困、平和構築、テロリズム、日本外交の役割といった具体的な課題を考察できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行います。毎回、簡単な小テストを行います。可能である場合には、教員・学生による議論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	平和学とは何か	平和学の学術的背景、課題、特徴を概説する。
第2回	平和主義の概念	平和学と密接に関連する「平和主義」の概念を考察する。
第3回	戦争の科学的研究	平和学は平和を実現するための実践的視点とともに、学術としての科学的視点を持っている。この回では、平和学が行ってきた戦争阻止のための科学的研究を概観する。
第4回	グローバルな貧困問題の理論的考察	単に武力紛争がない状態を実現するだけではなく、南北問題といった社会的不平等の根絶は、平和学の重要なテーマであり続けてきた。この回では、この問題に対する平和学の理論的アプローチを概説する。
第5回	核兵器と平和	20世紀半ば以降、戦争の意味を根本的に変えた核兵器を考える。核抑止論や核兵器不拡散を目指す歴史を概説する。
第6回	内戦とテロリズム	冷戦終結後の世界においては、国家間紛争よりも内戦やテロリズムに対する関心が高まった。この回では、その歴史や背景を考察する。
第7回	平和構築	内戦後の荒廃からの復興や、予防的な紛争回避の模索することは、国際社会の重要な課題である。この回では、この取り組みを考える。
第8回	難民	中東における紛争による難民への対応は、われわれにとって緊急の課題である。この回では、国連、EU、日本の難民政策を考察する。
第9回	多文化の共存とナショナリズム	移民・難民・ビジネスパーソン・観光客といった現代のグローバルな人の流れは、異なる価値観のなかでの人々の共存を必要としている。この回では、多文化の共存を考える。
第10回	ジェンダー	宗教や言語などと並んで、人々を区別する基準がジェンダーである。この回では、特に女性と戦争の関係を考察する。
第11回	地球環境問題	温暖化防止や生態系保全の問題は、平和学が考える広い意味での平和に関わる課題である。この回では、これら問題に対する国際社会の取り組みを概説する。
第12回	NGOの役割	現代の国際社会においては、主権国家に加えて、国家以外の主体の影響力が高まりつつある。この回では、これらの主体が果たす役割を論じる。

第13回 日本外交の役割

平和学のキーワードに「積極的平和」という語がある。これに対して、現在の日本政府は「積極的平和主義」を方針としている。両者の違いを踏まえながら、平和の実現に向けた日本外交のあり方を考える。

第14回 グローバル公共財研究としての平和学

前講義までに取り上げてきた具体的な課題への取り組みは、グローバル公共財の供給とみることができる。この回では、グローバル公共財学として、平和学を捉えなおす。

第15回 まとめ

全体の振り返りと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平和学が対象とする問題は、ニュースで日々報道されているものが多くあります。日頃から新聞などを読みながら、上の授業計画で取り上げた話題に関心を持っておく必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

【参考書】

講義において、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）と毎回の小テスト（20%）による。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度からの新設科目。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA337

人間の安全保障

山本 和也

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際的な観点からの安全保障といえば、かつては国家同士の武力紛争問題でした。しかし現代では、地球上に存在する一個人に視点を合わせ、安全保障を考えます。本講義では、この「人間の安全保障」について体系的に学習します。

【到達目標】

安全保障概念の変遷、人間の安全保障に対する国際機関・国家の政策、人間の安全保障問題に対する具体的な取り組みを包括的に理解します。これによって、日本で生活している人々のみならず、世界中の人々を同じ視点で見つめる感性を醸成し、グローバルに政治経済社会問題を捉えることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行います。毎回、簡単な小テストを行います。可能である場合には、教員・学生による議論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：人間の安全保障とは何か	人間の安全保障とはどのようなものかについて、全体像を概説し、既存の学問分野との関係を説明する。
第2回	古典的安全保障	伝統的に理解されてきた安全保障の意味を解説する。
第3回	人間の安全保障の思想	人間の安全保障の考え方のルーツをたどる。
第4回	現代世界における人間の安全保障	1990年代以降に確立された「人間の安全保障」概念の現代的意味を解説する。
第5回	安全保障と国際法	人間の安全保障の発展は、国際法による戦争の位置づけの変遷と不可分である。この回では、これを学ぶ。
第6回	日本と人間の安全保障	戦後日本の平和主義と人間の安全保障は、密接に関連している。この回では、人間の安全保障に対する日本政府の取り組みを概説する。
第7回	国際機関と人間の安全保障	国連をはじめとする国際機関は、人間の安全保障の実現を目指す主要な主体である。この回では、国際機関の取り組みを概説する。
第8回	人間の安全保障に対する各国の取り組み	日本以外にも、世界諸国は、独自のかたちで人間の安全保障に対する取り組みを行っている。この回では、それらを紹介する。
第9回	NGOと人間の安全保障	人間の安全保障に実践においては、NGOの役割も重要である。この回では、NGOの活動を概観する。
第10回	冷戦後の内戦	冷戦終結後に人間の安全保障への関心が高まった背景には、旧社会主義国やアフリカで発生した内戦があった。この回では、内戦の、特に人道的問題に焦点を当てる。
第11回	兵器の拡散防止・禁止	対人地雷問題にみられるように、内戦はその終結後にも人間の安全保障に対して、大きな脅威を残し続ける。この回では、兵器がもたらしている問題を考える。
第12回	テロリズム	近年の世界において、人間の安全保障に対する著しい脅威として、テロリズムがある。この回では、これに焦点を当てる。
第13回	難民問題	中東から欧州へ渡る難民は、深刻な事態を難民と受け入れ側の双方にもたらしている。この回では、広く難民問題を考える。
第14回	貧困・暴力・災害	貧困、女性や子供への暴力、自然災害もまた主要な人間の安全保障問題である。この回では、これらを考える。

第15回 まとめ

前講までの議論をまとめながら、人間の安全保障に関心を集める理由をグローバル公共財の視点から論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

人間の安全保障を実現すべく取り組まれている諸問題は、われわれの身近にあります。新聞やニュースをみる際には、これら諸問題に対して常に関心を持っておく必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

【参考書】

講義において、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(80%)と毎回の小テスト(80%)。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度の新設科目。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA240

現代社会論 I

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「現代社会を人間行動の視点から考える」

【到達目標】

この講義では人間の行動ないし行為のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する思考法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

はじめに人間の行動を考えるための「枠組み」を取り上げ、いくつかの基礎概念について解説する。次に、「人はなぜこのように行動し、あるいは行動しないのか」を課題として、行動を形づくる要因について、いくつかの研究を紹介しながら考える。さらに、環境問題や都市問題という現代社会の社会問題を、「行動の集積」という視点からとりあげ、その生起してくるメカニズムを論じる。また、このような問題の解決はいかにして可能か、についても受講生からアイデアを募集し、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とはなにか？	「人々の共同生活」としての社会を個人の行動というミクロな観点から考察する意図を説明する。
第 2 回	人間行動を考える枠組み (1) 欲求と規範	「欲求」・「規範」概念を解説し、研究事例を紹介する。人間に行動を起こさせる動因とそれを規制するものとは何か。
第 3 回	人間行動を考える枠組み (2) 地位と役割	「地位・役割行動」概念を解説し、研究事例を紹介する。行為者間の相互作用のプロセスを理解する。
第 4 回	人間行動を考える枠組み (3) 社会関係と行動の文脈	「社会関係」概念を説明し、行動の生じる「コンテキスト」の理解を深める。
第 5 回	行動と文化 (1) 「文化」とは何か	行動に形を与えるものとしての「文化」概念を、伝達・学習・共有の側面から捉える視点を解説する。
第 6 回	行動と文化 (2) 文化の伝承と変化、文化のダイナミズム	文化を、ダイナミックなものとして考え、伝統の継承と文化の変容を取りあげる。
第 7 回	行動と文化 (3) 文化相対主義とエスノセントリズム	文化を見る目を相対化することの意味を「自民族中心主義」的文化理解と対比して学ぶ。
第 8 回	情報と行動 (1) 「予言の自己成就」	情報とそれへの反応により「意図せざる結果」が生じるメカニズムを取り上げ、事例を検討する。
第 9 回	情報と行動 (2) 「予言の自己破壊」、情報は行動を変えるか	行動のコントロールは可能であるか、「警鐘を鳴らす」ことの有効性について解説する。
第 10 回	「社会的ジレンマ」(1) 「共有地の悲劇」、私益と公益	合理的な個別利益追求行動がもたらす結果についてハーディンの「共有地の悲劇」を取りあげ説明する。
第 11 回	「社会的ジレンマ」(2) 「社会的ジレンマ」のメカニズム	ジレンマゲームを紹介、行動主体間の選択とその結果について事例をあげながら説明する。
第 12 回	「社会的ジレンマ」(3) 「囚人のジレンマ」と相互信頼	「囚人のジレンマ」研究を通して行動主体間の「信頼」の構築について考える。
第 13 回	環境配慮行動を考える、意識は行動を生み出すか	環境「意識」は環境「行動」につながるか？という問題を提起。研究事例を紹介する。
第 14 回	環境配慮行動を促進する仕組みづくり	環境配慮行動を促す仕組み作りは可能かを考察する。
第 15 回	まとめ－人間の行動が社会をつくる	社会を人間の社会行動の集積として考える意義を取りあげ、講義の目標を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。また、講義時に課題を出すのできちんと提出すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

本田由紀編,2015,「現代社会論」有斐閣
 藤村正之,2014,「学ぶヒント」弘文堂
 山本・佐藤ほか,2013,「社会学ワンダーランド」サイエンス社
 土場・篠木,2008,「個人と社会の相克」ミネルヴァ書房
 山岸俊男,2000,「社会的ジレンマ」PHP 研究所
 このほか開講時に文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による。また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

質問メモを提出してもらい、講義の中で回答します。

【その他の重要事項】

環境問題は「社会」の中で起こる問題群のひとつです。私たちがどのような「社会」を作っているのか、を考えることはこの学部での学習の基礎となります。社会学的思考法を身につけ、柔軟で多様な見方から考えてみよう。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

現代社会論Ⅱ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「現代日本社会の変動をとらえる視点」

【到達目標】

本講義の目標は、1960～2010年の50年間の日本社会の変動を各種社会統計によって確認し、社会諸領域の変動が相互に連関して生じていることを理解することにある。また、講義を通して長期統計データの検索法・利用法および読解力を身につけることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「社会の何が変化するのか？」という問いから始め、長期社会統計データを用いて変化の様相を知るやり方について説明した後、産業化・少子高齢化などいくつかの領域における変化を詳しく取り上げる。常識的に述べられる「社会の変化」を疑い、本当に変化しているのか、何が変化を促進し阻害する要因であるのか、ある領域における変化が別の領域における変化とどのように関連しているのか、などの問いに答えることを課題として進める。講義では統計資料を配付し、データがどのように得られたのか、データに見られる変化を読み取る方法について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。	講義ガイダンス。社会を変動という視点から考える意味を理解する。
第2回	社会変動とは何か	社会の何が変化するのか、変化を何によって捉えるか。
第3回	近代化・産業化	1960年代以降の日本社会の変動。近代化とは何か。産業構造の変化。工業化と公害問題。高度産業社会とはどのような社会であるのかという問いを考える。
第4回	経済成長と豊かな社会	経済成長をとらえる指標とは。「豊かな社会」の成立とその帰結。
第5回	生活と仕事の変化①	労働力率の変化を性別・年齢別に検討し、われわれの働き方の変化と生活様式のかかわりを論じる。
第6回	生活と仕事の変化②	産業構造の転換に伴う従業上の地位の変化。雇用労働の進展と職業構造の変化。
第7回	生活と仕事の変化③	女性の働き方の変化とライフサイクル。女性労働のM字型カーブとその要因とは。
第8回	生活と仕事の変化④	高齢化と産業社会。高齢者と仕事、その現状と将来像。
第9回	生活と仕事の変化⑤	働き方の変化と家族生活、世帯構成における変化。
第10回	人口の変化①	人口転換とは。人口数と構造の変化。
第11回	人口の変化②	少子・高齢社会の出現。人口の年齢構成の変化とその要因。合計特殊出生率とは。未婚率の上昇の要因。
第12回	人口の変化③	出生率・死亡率の変化。自然増加率の推移。人口減少社会の到来、なぜそれが問題なのか。
第13回	人口の変化④	少子高齢化を国際比較から考える。産業化の程度と人口構造の関連について。
第14回	環境問題と社会の変化	我々はいかなる社会を作ってきたのか、作っていくのか。環境問題と社会。
第15回	まとめ	社会変動の相互連関。社会を見る目の重要性。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計資料を配布するので、そこからどのような変化を読み取ることができるか、その変化がどのような要因と関連しているか、など事前に学習しておくこと。講義時にスタディクエスチョンとして文章化して提出を求めます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

井上・伊藤編,2008,「社会の構造と変動」世界思想社

赤川学,2004,「子どもが減って何が悪いか！」筑摩書房

金子 勇,2002,「少子社会」ミネルヴァ書房

国立社会保障・人口問題研究所「人口の動向 2015年版」厚生統計協会

(財)矢野恒太記念会「データで見る県勢」

この他開講時に詳しい文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による、また講義時に数回スタディ・クエスチョンを行い評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

サブテーマごとに疑問・質問への回答を行う機会を設けます。

【その他の重要事項】

この講義で取り上げる社会の変化は半ば常識化して語られている事柄です。でも、それはホント？、当たり前を考えてよいのだろうか？、「常識」を疑い、証拠を持って論じ、考えます。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

現代社会論Ⅲ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代社会における家族と地域の変動を考える」

【到達目標】

この講義では、「地域社会」そしてそこに暮らす人々が作る「家族」を取りあげ、1960～2010年の変化に関して各種社会統計を用いて考察することを目標とする。私たちは「誰と」「どこで」暮らしているのか、どのように変化してきたか、なぜそのような変化が生じたのか、論理的・実証的に考える能力を身につけることをめざす。もちろん、基礎的な概念・枠組みの正確な理解を得ることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域社会をどのような視点から考えるか、高度成長期にムラからマチへの人口移動が生じた経緯を長期社会統計によって跡づけ、その結果生じた「過疎と過密」の問題をとりあげる。また、そのプロセスの中で見られた生活スタイルの変化を「家族・世帯」の視点から取り上げる。このような変化がなぜ生じ、その変化は社会の他の領域における変化といかなる関連を持つのか、社会統計についての解説を交え、変化を読み取る方法の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」を考える視点	「社会」とは何だろう。人々の共同生活としての社会。社会はどのようにとらえられてきたか。
第2回	家族とは？	社会集団としての家族の構造と機能。
第3回	家族の変化をとらえる方法	家族と世帯。世帯統計から変化を捉える。世帯類型。
第4回	核家族化と小家族化	核家族とは何か。核家族化は進展しているか？世帯員数の減少とその要因。
第5回	少子高齢化における家族	少子・高齢化と家族生活の変化。単身世帯・夫婦のみ世帯の増加はなぜ生じたか？
第6回	家族機能の変容	家族は必要でなくなるか？家族機能の社会機関への委譲。機能の喪失か純化か。
第7回	家族が生活する地域の変動	「地域社会」という概念。地域社会という概念で何を考えようとしているか。
第8回	都市とは？	都市をとらえる視点。都市の形態と機能。都市の魅力。
第9回	産業化・工業化と都市化	経済成長と人口移動。産業構造の変動と人々の居住域の移動。
第10回	離村向都現象	ムラからマチへ。都市化の進展をもたらす要因。「社会増加率」の推移からみる。
第11回	都市への人口集中	都市の拡大と過密。都市問題の発生。
第12回	都市的生活様式とその拡大	都市的生活スタイルの登場と地域社会。非都市域へ浸透する都市的生活様式。
第13回	農山村地域の変貌	過疎と高齢化、後継者難、農山村の変化の背景を見る。
第14回	農業と地域の諸問題とその解決	「限界集落」の実態と新たな動き。
第15回	まとめ	地域社会と家族の変化の関連。地域と家族の将来像を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。スタディクエスチョンで課題を示すので事例や関連情報を集めておく。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

進見音彦,2012,「現代日本の地域分化」東信堂
 岩間ほか,2015,「問いからはじめる家族社会学」有斐閣
 森岡・望月,2011「新しい家族社会学」培風館
 藻谷ほか,2013,「里山資本主義」角川書店
 小島・西城戸編,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房
 ＊このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

スタディ・クエスチョンで寄せられた事例や仮説を取りあげる時間を増やします。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

NPO・ボランティア論

川崎 あや

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO（Nonprofit Organization）は、市民によって設立・運営される非営利組織です。日本でNPOが注目されるようになって20年あまりが経ちました。NPOが登場し、様々な社会的課題に取り組むことで、それまで行政がもたら担うものだと考えられていた「公益」や「公共」を、市民が主体的に担う社会が模索されてきました。市民はNPOにボランティア等で参加することで、社会に働きかけ、市民的公共性を創出する担い手となります。この授業では、NPOやその担い手についての理解を深めつつ、NPOの活動を通して見えてくる現代社会の様々な課題について問題意識をもち、市民社会のあり方や、市民と社会との関わりについて考える機会とします。

【到達目標】

- ・NPOとボランティアについて理解を深める。
- ・NPOが取り組んできた課題を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもつ。
- ・NPOの存在意義や、NPOが活動・発展する上での課題を考える。
- ・今後の市民社会はどのような方向に進むべきか、また受講生自らも含めて、市民一人ひとりが、社会とどのように関わるべきかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、リアクションペーパー（感想・質問）を任意で提出してもらいます。質問については、次回の授業の冒頭でコメントします。
- ・受講生の中で、NPOの活動経験者等には、適宜、報告してもらう時間をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方 ・受講者の関心調査
第2回	NPOとは何か	・NPOの意味と意義 ・NPOとボランティアの関係 ・NPOとNGO ・非営利の意味
第3回	市民社会の変遷とNPO	・日本における市民社会の歴史 ・NPO・市民活動の変遷
第4回	NPOの社会的役割～事例を通して①	・映像でさまざまなNPOの活動事例（子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等）を見ながら、NPOの社会的役割を考える。
第5回	NPOの社会的役割～事例を通して②	第4回と同じ
第6回	NPO法人制度	・NPO法の制定過程 ・他の法人制度との比較 ・NPO法人の要件 ・公益法人制度改革
第7回	NPOの組織運営	・NPOの組織特性 ・市民の多様な関わり方 ・組織の構成要素 ・企業等との違い
第8回	NPOとボランティア	・NPOにおけるボランティアの役割 ・ボランティアとして参加することの意義
第9回	NPOの財政	・NPOの財政規模 ・財源の多様性と特性
第10回	NPOと寄付税制	・NPOにとって寄付とは ・認定NPO法人制度 ・寄付税制・寄付金控除
第11回	働く場としてのNPO	・雇用・就労の場としての可能性と課題 ・NPOの就労実態 ・NPOの職域
第12回	NPOと政治・NPOの政策提案	・NPOと政治の関係 ・政策提案による社会変革の担い手としてのNPOの役割
第13回	NPOと行政	・自治体のNPO支援施策 ・行政とNPOの協働

第14回 NPOと企業、ソーシャルビジネス
・NPOと企業の共通点、相違点
・NPOと企業の協働
・ソーシャルビジネス（社会的起業）とNPOの関係

第15回 補足とまとめ
・授業の振り返りや補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキスト（教科書）は必ず購入し、授業の前後にテキストの該当ページをよく読むこと。
- ・各回のレジュメ（パワーポイント資料）は、WEBに掲載しておくので、欠席の場合も、各自でレジュメとテキストで授業内容を理解しておくこと。
- ・各自で、関心のある分野のNPOの事例などを、インターネット等で調べたり、実際に活動に参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

「市民社会とNPO」 かながわ女性会議発行 600円

【参考書】

「知っておきたいNPOのこと基本編」 日本NPOセンター発行 500円

【成績評価の方法と基準】

定期試験（論述式。テキスト・レジュメ等の持ち込み可）を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか、③考えを整理してわかりやすく論じられているか、を重視して評価する。

※毎回のリアクションペーパーの提出回数や記述内容は、成績評価に影響しません。

【学生の意見等からの気づき】

NPOにボランティア等で参加している学生に、自らの経験を報告してもらっていますが、学生の報告は、他の学生にとって興味深く、刺激になるようです。NPOでの活動経験がある学生には、ぜひ積極的に報告してもらいたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

フィールド調査論**傅 凱儀**

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査とは何かを認識し、調査と分析の基礎力を形成することを目的とする。講義では、社会調査についての歴史、各種の調査、アンケートや統計、フィールドワークなどの概念について説明し、調査の目的や仮説の立て方、調査の実施、データの集計・分析など、社会調査を行うための基礎を身につけるための学習をする。

【到達目標】

この授業の目標は社会調査の基本を学ぶこと、社会調査の概念、調査技法、調査のプロセス、分析の技法についての知識を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会調査に関する知識、技法についての講義が中心であるが、受講者のグループワークまたは個人的な作業も同時に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（受講者の選抜等も含む）	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。
第2回	社会調査の概要（1）	社会調査とは何か、その歴史的展開と学ぶ意義を講義する。
第3回	社会調査の概要（2）	社会調査における質的調査と量的調査の関係を講義する。
第4回	社会調査のファースト・ステップ	社会調査を企画・設計するための既存資料へのアクセス法と活用術について説明する。
第5回	社会調査の基本ルール	社会調査における「記述」と「説明」について講義する。
第6回	社会調査の基本道具	「概念」、「変数」、「仮説」について講義する。
第7回	調査票調査の方法（1）	調査の企画・設計と調査票作成のプロセスを説明する。
第8回	調査票調査の方法（2）	サンプリングの考え方、原理について講義する。
第9回	調査票調査の方法（3）	調査票調査のプロセスとデータ化作業を実習する。
第10回	調査票調査の方法（4）	データ整理のための基礎知識を講義し、統計的検定を実習する。
第11回	質的調査の方法（1）	フィールドワークの発展とデータ収集の手法について講義する。
第12回	質的調査の方法（2）	参与観察法とアクション・リサーチについて講義する。
第13回	質的調査の方法（3）	インタビューの種類と実践について講義する。
第14回	質的調査の方法（4）	ライスヒストリー分析、内容分析について講義する。
第15回	総論	社会調査の倫理について講義し、社会調査の方法論のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対してグループワークまたは個人的な作業を求める。

【テキスト（教科書）】

授業の進み具合を見て適時指定する。

【参考書】

大谷信介ほか編、2013、『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房。
 篠原清夫ほか編、2010、『社会調査の基礎』弦文堂。
 佐藤郁哉著、2015、『社会調査の考え方「上」』東京大学出版会。
 佐藤郁哉著、2015、『社会調査の考え方「下」』東京大学出版会。
 谷富夫・山本努編著、2009、『よくわかる 質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。
 谷富夫・山本努編著、2010、『よくわかる 質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。
 ウヴェ・フリック著、小田博志、他訳、2011、『新版 質的研究入門－（人間の科学）のための方法論』春秋社。
 佐藤郁哉著、2006、『フィールドワーク 増訂版 書を持って町へ出よう』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

授業への参与度（30%）、講義中の課題提出（30%）、期末の課題提出（40%）

【学生の意見等からの気づき】

2015年度の秋学期より担当しているが、昨年度の内容は「質的社会調査」であり、本年度の講義内容とは異なっている。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってはPCを用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

本講義の定員は30名である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

フィールド調査論

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会調査の方法」を学ぶ

【到達目標】

この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成法など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②調査結果の見方、調査の限界と問題点、調査における倫理などを学ぶ、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。調査法のいくつかを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査計画の建て方の解説を行った後、①面接調査法、②調査票調査法について調査事例を紹介しながら、各調査法のプロセスを検討する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」がおり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第2回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査するとわかるのか、調査の限界。リサーチリテラシーを高める意義。
第3回	調査の方法	課題を提示、調べ方のグループ討議（GW 1）を行う。
第4回	調査を計画する	社会調査のプロセス。調査デザイン、実査、分析、報告。（GW 2）
第5回	調査法の類型	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法の解説。
第6回	参与観察法	参与観察による調査の事例、実施可能性、対象者（集団）の選定と技法。
第7回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。（GW 3）
第8回	面接調査法②	面接調査における留意点、メリットとデメリット。
第9回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査、サンプルサイズと抽出法。
第10回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第11回	質問紙調査法③	調査票の構成、フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第12回	質問紙調査法④	質問文作成法、ワーディングの注意点。（GW 4）
第13回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習。（GW 5）
第14回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習。（GW 6）
第15回	よりよい調査を目指して－調査者の倫理－	GW 発表。集計法など残された課題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

佐藤郁哉,2015,「社会調査の考え方 上・下」 東京大学出版会
 宮内泰介,2004,「自分で調べる技術」 岩波書店
 大谷ほか編,2013,「新・社会調査へのアプローチ」 ミネルヴァ書房、
 玉野和志,2008,「実践社会調査入門」 世界思想社
 佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」 新曜社
 このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

①定期試験、②講義時に行うグループ作業への参加度と作業成果も評価の対象とする。出席も重視します。

【学生の意見等からの気づき】

調査票作成実習の時間数を増やします。

【その他の重要事項】

受講者の制限（30名まで）をします。希望者が多い場合は抽選とします。グループワークを行いますので、欠席しないことが受講条件です。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

社会統計論

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータ集計の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計・分析していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計・分析を行う。データの集計・分析には、統計解析ソフトの SPSS とエクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第 2 回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第 3 回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第 4 回	データセットの作成	データの入力方法や、SPSS で外部データを読み込む方法を学ぶ
第 5 回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第 6 回	確率分布について・データの加工	確率分布の考え方や、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第 7 回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第 8 回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方や作成方法を学ぶ
第 9 回	カイ 2 乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の関連の測定方法を学ぶ
第 10 回	平均値の差の分析	t 検定や分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第 11 回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第 12 回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第 13 回	集計結果のまとめ方	SPSS の集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第 14 回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する
第 15 回	試験	統計調査のプロセスや分析の手順に関するペーパーテストを行う（授業内試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSS やエクセルを使った集計方法などを復習する。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜紹介する。

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業内で作業した結果（ファイル）を提出してもらい、データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方）の提出を求める。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う。

【学生の意見等からの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

【その他の重要事項】

パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第 1 回目の授業には必ず参加すること。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

ファシリテーション論

三田地 真実

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できるということはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要性がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。具体的な目的は以下の通り。

1. 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
2. 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

【到達目標】

本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- (1) 「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）
- (2) コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）
- (3) 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ファシリテーションは実際に話し合いやワークショップの場でどのように実践するかが問われる。そのため、本授業は講義だけではなく、演習を随所に織り交ぜながら進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出、課題に応じたレポートの提出（随時）がある。また最終プレゼンテーションは、グループプロジェクトとして行うので、授業外での打ち合わせ・準備が必須となる。授業全体がアクティブ・ラーニングとして構成されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての3つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第2回	ワークショップ体験（自己紹介ワーク）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す ・問いかけの重要性について考える
第3回	ワークショップ体験（アイスブレイク）	・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第4回	コミュニケーションの基礎	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る（プレゼンテーション概論を含む）
第5回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の3つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ

第6回	ファシリテーションの準備（1）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第7回	ファシリテーションの準備（2）	・空間のデザインである場づくりと、基本の10ステップについて学ぶ
第8回	ファシリテーションの本番に向けて（1）	・10ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ
第9回	ファシリテーションの本番に向けて（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第10回	ファシリテーションの本番（1）	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならぬことを理解する ・行動計画の書き方
第11回	ワークショップのプレゼンテーション	・ワークショップの総仕上げ
第12回	ファシリテーションの本番（2）	・グループにてワークショップを実施（第1回）
第13回	ファシリテーションの本番（3）	・グループにてワークショップを実施（第2回）
第14回	ファシリテーション全体のまとめと振り返り	・ファシリテーション全体の振り返り「意味ある場づくりのために」ワークショップ実施
第15回	まとめと未来に向けて	・ライフヒストリー曼荼羅ワークショップによる、授業の学びの未来への発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まっての話し合いや準備活動（相当数の時間を必要とする。必須）
- ・様々な場面の観察実習など

【テキスト（教科書）】

- ・「ファシリテーター行動指南書」（三田地真実、ナカニシヤ出版、2013）

【参考書】

- ・中野民夫（2003）「ファシリテーション革命」、岩波アクティブ新書
- ・三田地真実（2007）「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」、金子書房
- ・三田地真実（2014）「社会的・環境的变化に応じたキャリア教育」、星槎大学教員免許状更新講習センター（編著）『共生への学び—先生を応援する教育の最新事情』、130-142、ダイヤモンド社
- ・三田地真実（2012）「『共生』は目の前の人を真に理解するところから—ライフヒストリー曼荼羅図を描く・聴くことの意味—」、星槎大学共生科学研究会（編）『共生科学研究序説』、101-121、なでしこ出版

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：約60%（毎回、出席カードの代わりにの振り返りシートへ記入する）
- ・最終グループプレゼンテーション：約40%（グループ、個人での提出物も含む）

【学生の意見等からの気づき】

講義と演習を交えた授業展開については、大変好評であった。今後は、グループ演習の方法をさらに思考力・チーム力を必要なものに発展させ、学生の主体的な関わりを増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思います。
- ・なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

初回授業についての連絡は、「学部掲示板」に行きますので、掲示板をよく読んでから出席してください。

・旧科目名称「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連するコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

グローバル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

【到達目標】

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第 2 回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第 3 回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第 4 回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第 5 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures

第 6 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第 7 回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第 8 回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第 9 回	Presentation Activity	Planning & preparing oral presentations / Presentation techniques
第 10 回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第 11 回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第 12 回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第 13 回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming interculturally competent / The future of intercultural communication
第 14 回	Group project	Students discuss and prepare for their group project.
第 15 回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class

【参考書】

Jackson, Jane. (2014). *Introducing language and intercultural communication*. Routledge.
James W. Neuliep. (2014). *Intercultural Communication: A Contextual Approach (6th Edition)*. SAGE Publications.
Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). *Intercultural Communication: A Reader (14th Edition)*. Wadsworth Publishing.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation, a group project, a written assignment, and a take-home exam.

* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA358

地域形成論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、新時代における人々の生活の基盤としての地域空間の形成、すなわち「サステイナブルで豊かなコミュニティの形成」というテーマについて、具体的かつ総合的に考えていく。

【到達目標】

人間と環境の時代の「地域プランナー」となるための基礎として、まずは基本的なセンスと柔軟な考え方、そして骨太の方向感覚を身につけることを第一の目標とする。その上で、問題発見から問題解決に至るプロセスについていくつかのケーススタディを通し、具体的な見方や対応力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域空間の形成として、国土開発、地方開発、都市開発、まちづくりを対象とし、基本的な考え方、計画手法、制度、政策等について論じる。各回とも、なるべく具体的な国内外の事例を対象としてとりあげ、実際のな問題に触れる。また、まちづくりプロジェクトや地域おこしプロジェクトの創案などにも試みるにより、実践的な企画能力も養成する。授業は、常に問題発見、問題提起からはじめ、様々なソリューションを考えていく形での、思考の訓練に重点を置いて進めていく。授業は講義形式で進めるが、授業内演習として、問題提起に対する自分の考えをまとめるなどの数分間のミニペーパーを作成し提出することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域形成論の学び方 「地域プランナーの『地域を見る眼』」
第 2 回	地域のシステム考現学 (1)	具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「『混雑現象』はなぜ起こるのか」
第 3 回	地域のシステム考現学 (2)	具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「『集中と分散』の動きの諸原因」
第 4 回	地域の具体的課題の事例 (1)	広域事業と地域問題の葛藤・市民参加 (例)「『東京外郭環状道路』の建設」
第 5 回	地域の具体的課題の事例 (2)	一極集中問題への対応、政策的議論 (例)「『首都機能移転』の議論の経緯」
第 6 回	日本の国土形成の歴史 (1)	戦後の国土開発と地域開発の流れ (例)「旧『全国総合開発計画』の歴史」
第 7 回	日本の国土形成の歴史 (2)	近世の地域環境と現代における復元 (例)「『庭園の島・日本』の復元」
第 8 回	地域の総合的事例研究 (1)	「沖繩の地域社会と経済」を考える (例)「沖繩の経済と『非貨幣経済』」
第 9 回	地域の総合的事例研究 (2)	「沖繩の開発と環境」を考える (例)「『新石垣空港』建設と環境問題」
第 10 回	日本の現代的な地域課題 (1)	過疎地域・中山間地域問題とその挑戦 (例)「『地域主義』と『内発的発展論』」
第 11 回	日本の現代的な地域課題 (2)	中心市街地問題と活性化への努力 (例)「『まちなか再生』まちづくり」
第 12 回	地域プロジェクト企画 (1)	地域プロジェクト、創案と評価 (例)「『環境都市』『観光地域』構想」
第 13 回	地域プロジェクト企画 (2)	地域プロジェクト、創案と評価 (例)「『臨海部埋立地』の利用構想」
第 14 回	地域デザインへの新視点 (1)	人間と環境の時代の都市・地域開発 (例)「『エコ・コミュニティ』への道」
第 15 回	地域デザインへの新視点 (2)	空間から場所へ、計画論の再考 (例)「『土着性』『地霊』『場所愛』」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じた自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。パワーポイントによる映像資料も多用する。

【参考書】

基本的なものに関しては第 1～2 回目に紹介する。各回の内容に関連するものはそれぞれ授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70 %、平常点（授業内でミニペーパーの提出ほか）30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業外の学習活動が比較的少ない。これを活発にするため適宜ホームワークも課することとする。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA338

地域経済論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の豊かさや活力の経済的側面について基礎的な分析から応用的な問題や政策まで幅広く論じる。特に、地域の産業について詳しく触れるとともに、地域の経営についても考えていく。

【到達目標】

地域経済に関する、基礎的理論、実際問題、政策について理解し、地域経済への基本的な見方を習得することを目標とする。また、いくつかの具体的な企画能力を身につけることももう一つの目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域の発展を考えると、地域の環境的側面や社会的側面に加えて、経済的側面をとらえることが不可欠である。この授業では、地域の経済構造、産業立地、社会資本整備を中心に理論上の整理を行うとともに、実際面での諸問題を論じる。また、地域の産業連関、自治体の産業政策、立地企業の動向、地域活性化の動きなど各地のケーススタディも行い、実際の地域経済問題に対する分析能力とともに企画立案能力を養う。授業は講義が主体であるが、簡単な演習として毎回授業内で、数分間のミニペーパーを作成提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域経済とは何か、地域経済論の学び方
第 2 回	地域経済の分析・基礎 (1)	地域人口分布、人口移動、地域所得構造
第 3 回	地域経済の分析・基礎 (2)	地域産業立地、産業クラスター、地域集積
第 4 回	地域経済の分析・実際 (1)	首都圏の事例分析、例「シブヤ圏の解剖」
第 5 回	地域経済の分析・実際 (2)	海外地域の事例分析、例「シリコンバレー」
第 6 回	地域発展と産業 (1)	ICT 産業集積を考える、世界の ICT クラスタ
第 7 回	地域発展と産業 (2)	地域インテリジェンスと地域産業の関係
第 8 回	地域発展と産業 (3)	地域と観光、観光産業の系譜、地域観光開発
第 9 回	地域発展と産業 (4)	地域と集客、イベント・博覧会・テーマパーク
第 10 回	地域経済と地域経営 (1)	地域の情報・経済装置、地域経済活性化
第 11 回	地域経済と地域経営 (2)	地域プロジェクトメイキング、企画の進め方
第 12 回	地域経済と地域経営 (3)	地域プロジェクトの投資採算計算とその評価
第 13 回	地域経済と地域経営 (4)	地域プロジェクトのファイナンス、手法と実際
第 14 回	地域と社会経済 (1)	地域環境の経済分析、事業の社会的費用便益分析
第 15 回	地域と社会経済 (2)	地域コミュニティビジネス、地域マーケティング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。

【参考書】

第 1 回目に基本的な参考書を紹介する。また、各回講義時にテーマに応じた参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70 %、平常点（授業内でのミニペーパーの提出ほか）30 %

【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく多くして、ノートテイキングを容易にしていく。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA340

地域福祉論

宮脇 文恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域福祉の理念とその展開について学ぶ。
2. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための、コミュニティソーシャルワークとソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【到達目標】

人が、自分が暮らしたい地域において、自分らしく生きるためにどのように支え合ったらよいか、地域福祉の理念とその援助方法について学び、履修者自らが地域住民として、援助職として、ボランティア活動者として地域において活動を主体的に展開していくための基礎的な力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

これまで日本の福祉施策は、課題を抱えた人を福祉施設に入居させてきたが、今後は、専門的なサービスを利用しつつ、地域において、家族や地域住民に支えられながら暮らしていくことの実現が目指されている。本講義では、そのために、地域福祉とは何か、地域の様々な社会資源の活用法とその開発について理解し、地域においてお互いを支え合っていくための方法を学び、自らも社会資源として地域福祉に参画していく基盤を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉に関する論を解説し、現代社会における地域福祉の理念を学ぶ
第3回	地域福祉の歴史	欧米・日本における地域福祉の歴史をとりあげる
第4回	街に生きる人々(1)	障害のある人、高齢者を中心としてとりあげ、街に生きる意義を学ぶ
第5回	街に生きる人々(2)	子ども、生活困窮者を中心としてとりあげ、街に生きる意義を学ぶ
第6回	地域福祉の主体形成と福祉教育～福祉教育の内容～	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点
第7回	地域福祉の推進主体(1)～社会福祉協議会、社会福祉法人～	地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ
第8回	地域福祉の推進主体(2)～NPO、民生委員・児童委員、保護司～	地域福祉を推進する NPO、地域の期待される人材について学ぶ
第9回	地域福祉計画	地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ
第10回	コミュニティソーシャルワーク(1)～考え方、展開とシステム～	個人を大切にすることを出発点に、地域において援助するあり方を学ぶ
第11回	コミュニティソーシャルワーク(2)～方法、チームアプローチ～	コミュニティソーシャルワークの実践事例についてとりあげる
第12回	地域福祉推進における住民参画(1)～意義と目的～	地域はそこに住む住民自らがつくるもので、その参画の方法、留意点を学ぶ
第13回	ボランティア活動の意義と実際	ボランティアの起源、その意義と活動の実際について学ぶ
第14回	ソーシャルサポートネットワーク	地域に暮らす個人を支え合う社会資源のつながりについて学ぶ
第15回	まとめ	総括、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終了時に、毎回リアクションペーパーを記入します。視聴覚教材を多用し、その際に、合計2～3回、レポートを執筆します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』11、12巻（講談社）
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社） 他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席率（遅刻は授業開始後20分まで受付、退室は欠席とみなす）30%、テスト30%、課題提出（正当な理由のない遅延は受け付けない。応相談）20%、授業態度（飲食・携帯電話操作・他の授業のための学習や読書などの内職は不可とし、発見し次第減点とする）20%。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、綴じておいてください。レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

毎回、授業についてリアクションペーパーを記入していただき、そのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

皆さんが学習主体です。地域は、「住めば都」ではなく、「住んで都にしていく」ものです。待っていても実現するものではなく、「自らがつくっていく」ものであることを意識し、今後、自分がどこでどう暮らしたいか、どんな地域社会にしたいか、ということをして、授業を通して共に考え、より良い方法を模索していければと思います。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA340

地域コモンズ論

傅 凱儀

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コモンズ論を軸に、地域社会における自然環境・資源の共同利用や共同管理のあり方について学ぶ。

【到達目標】

コモンズ論における諸概念を理解し、実践的知識を蓄積すること。地域住民レベルでの資源保全と地域共同体のあり方において幅広い視座を養うこと。身近なモノ、自然、そして環境利用・管理について、コモンズ論を踏まえて自身の考えを示すことが出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

自然資源を共同で利用・管理する組織や仕組み、及び、共同で利用・管理する資源そのものは、コモンズと呼ばれる。環境問題の解決を含めた、自然と人間の関わり方を改善する上で、有効な概念と考えられ、近年注目されている。コモンズ論の特徴は、自然環境と人間社会の相互作用に注目する点にある。この講義では、理論解説に加えて、日本と海外の現場の実例を紹介する。現代の環境問題の実践的解決方法としてコモンズ論が応用される議論を展開する。授業はテキストや資料に沿って講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の進め方、学習の仕方、評価方法などについての説明をする。
第2回	熱帯林の消失	熱帯林消失の原因を概観し、熱帯林の消失をもたらしてきた森林政策の理念を問い、森林管理への住民参加の必要性を提示する。
第3回	コモンズ概念	自然資源の保全におけるコモンズ概念、実態、および有効性について概説する。
第4回	カリマンタンのコモンズ	インドネシアのカリマンタンにおける先住民の共同森林利用・管理とコモンズの変容について講義する。
第5回	米国で展開するコモンズ論	米国で展開された共有資源管理における「悲劇のコモンズ」、「コモンズの長期存立条件」の論説について講義する。
第6回	イギリスの高地コモンズ(1)	イギリスにおけるコモンズの囲い込みと保全に関する歴史的展開について概説する。
第7回	イギリスの高地コモンズ(2)	同上。
第8回	広義の経済におけるコモンズ(1)	健全なエコロジーが支える経済における「実在としての経済」、「経済の共的な部門」などの概念を把握し、地域自立におけるコモンズの役割について講義する。
第9回	広義の経済におけるコモンズ(2)	同上
第10回	生態学におけるコモンズ	エコロジカル・フットプリントを通じて地球の環境容量の利用実態を把握し、人間活動が環境に与える負荷を減らすにはコモンズの役割を考える。日本の近世以降の入会林野の歴史を概観する。
第11回	日本の入会林野	歴史を生き抜き、現在も存在し続けている日本のコモンズの事例（草原、里山、里道など）を紹介する。
第12回	コモンズとしての海	沖縄の先地住民におけるサンゴ礁の自治的管理について講義する。
第13回	アフリカの資源利用・管理	ナイジェリアにおける遊牧民と農耕民の互恵的な資源利用関係について紹介する。
第14回	補足とまとめ	今まで行った講義の要点の確認と必要があれば補足を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前によく読むこと。

【テキスト（教科書）】

授業の進み具合を見て適時指定する。

【参考書】

多辺田政弘著『コモンズの経済学』学陽書房、1990年
井上真・宮内泰介編『コモンズの社会学：森・川・海の資源共同管理を考える』新曜社、2001年
室田武・三保学『入会林野とコモンズ：持続可能な共有森』日本評論社、2004年
井上真著『コモンズの思想を求めて—カリマンタンの森で考える』岩波書店、2004年
三保学・森本早苗・室田武編『コモンズ研究のフロンティア：山野海川の共的世界』東京大学出版会、2008年

【成績評価の方法と基準】

コメントカード兼出席票 50%、期末試験 50%（受講者数によってはレポート）を総合して評価する。期末試験の受験は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

2014年度より担当。アンケート結果を参照の後、可能な範囲にて改善に取り込む。

【その他の重要事項】

英語資料を利用することがある。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA358

都市環境論 I

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における都市の形成、すなわち、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論 I では、まず、いくつかの具体的側面からそのイメージを構築する。

【到達目標】

新しい時代の都市づくりのプランナーに必要な、基本的センスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論 I では、都市問題への興味と探究心を深め、自律的な課題発見と学習ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

都市環境に関わるいくつかの側面から基本的な考え方を探っていく。秋学期の都市環境論 II で総合的なプランニングの議論へと進むが、その準備段階としての位置づけである。授業では国内外の都市環境（居住、交通、自然、景観、歴史など）について、様々な事例をとりあげ映像や資料を多用し、考えながらイメージを形づくっていく。思考訓練のために、ほぼ毎回、事業の最後にミニペーパーを作成提出。また、身近な事例調査を含むホームワークも課する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市環境論の視点と方法、および、学び方について
第 2 回	都市の住まい：住宅地開発の系譜（1）	英国における田園都市の建設、その背景と展開
第 3 回	都市の住まい：住宅地開発の系譜（2）	日本、米国他における住宅地開発の歴史、方向性
第 4 回	都市の自然：緑地空間の形成と保全（1）	都市における緑地空間の価値、都市構造との関係性
第 5 回	都市の自然：緑地空間の形成と保全（2）	日本における公園など都市内緑地空間の課題と展望
第 6 回	都市の水と水辺：水環境と水辺空間（1）	都市の形成と水の関わり、大都市の水辺、水環境
第 7 回	都市の水と水辺：水環境と水辺空間（2）	世界の都市における水辺空間整備の現状と方向性
第 8 回	都市の記憶：歴史遺産の保存と活用（1）	都市の歴史遺産、街並み、その保存、活用、変化
第 9 回	都市の記憶：歴史遺産の保存と活用（2）	世界の都市における歴史遺産保存の現状と方向性
第 10 回	都市の美しさ：都市景観とその論争（1）	都市の美しさへの視点、景観を巡る議論、改善手法
第 11 回	都市の美しさ：都市景観とその論争（2）	国内外における都市景観に関わる争いのケーススタディ
第 12 回	都市の優しさ：バリアフリー・UD対応	バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方と方策
第 13 回	都市の移動：都市交通の問題と対策（1）	都市基盤としての道路整備のあり方、自動車対策
第 14 回	都市の移動：都市交通の問題と対策（2）	都市基盤としての都市交通のあり方、新しい動き
第 15 回	都市の総合的な計画に向けて	都市のダイナミズムと制御、都市再生ビジョン、都市環境論 I のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。また、毎回の最後に次回のテーマを略説する。これにもとづき毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じた自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

【参考書】

多岐にわたるため、各回講義時に参考となるものをいくつか紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか）30%

【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、講義のスピードを若干ゆっくりし、板書もなるべく多くする。

【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA358

都市環境論Ⅱ

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における都市の形成、すなわち、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、同Ⅰでの個別的な各側面の学習を踏まえ、基本的かつ総合的な議論を進めていく。

【到達目標】

この授業では、都市環境論Ⅰでの目標に加え、新しい都市づくりプランナーに必要な、都市環境問題への対応や政策を含めた、プランニングに関する基本的な知識と感覚を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

都市環境問題への総合的なテーマによる現状の把握と分析をするともに、実践的な課題についても、各種の理論、法規、技法を含め、都市環境の改善に必要な基本的事項について説明し議論をしていく。理解確認のために、ほぼ毎回、授業の最後にミニペーパーの作成提出をする。また、ミニ研究的なホームワークを課することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市づくりの歴史、都市の持続可能性に関する基本的な考え方
第2回	都市と地球環境問題(1)	都市構造と地球環境負荷の関係性、低減への諸課題
第3回	都市と地球環境問題(2)	都市の土地利用、成長管理、コンパクトシティの議論と実際
第4回	都市の災害と安全対策(1)	都市における自然災害、人為災害の歴史と対応
第5回	都市の災害と安全対策(2)	都市における自然災害、人為災害の減少への方策
第6回	都市の計画制度(1)	日本の都市計画関連法規、開発規制、建築制限
第7回	都市の計画制度(2)	都市マスタープランと土地利用計画、各地の例
第8回	都市の計画技法(1)	市街地再開発事業、土地区画整理事業など市街地整備手法
第9回	都市の計画技法(2)	都市憲章や市民参加など都市づくりの自主的なあり方
第10回	都市のリノベーション(1)	安全で快適な都市への再生修復、各種の再生技法、各地の事例
第11回	都市のリノベーション(2)	都市の自然回復、流域圏の発想、デザイン・ウィズ・ネイチャー
第12回	都市デザインの新潮流(1)	都市のエコロジカルデザイン、ニューアーバニズム
第13回	都市デザインの新潮流(2)	都市のアイデンティティ、バナキュラー（風土性）、隠された意志
第14回	都市の持続可能性に向けて	子供のためのデザイン、複雑な社会における新しいプランニングのあり方
第15回	都市の総合的な計画に向けて	総集編および都市プランナーへの道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。また、毎回の最後に次回のテーマの概略を説明する。これにもとづき各回とも毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。なお、具体的な実感を待たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

【参考書】

多岐にわたるため、各回講義時に参考となるものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか）30%

【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、講義のスピードを若干ゆっくりにし、板書もなるべく多くする。

【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA358

都市デザイン論

田中 大助

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。

【到達目標】

自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品（住宅の設計）を残すものである。

講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木構造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第2回	「棲む」と「住む」の違い	生息する（巢）ことと生活する（家）ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する
第3回	住宅設計における建築家（アーキテクト）と建築技師の違い	建築家と建築技師の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第4回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する
第5回	住空間の単位空間（1）（玄関）	第1回目の課題を出題する 玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう
第6回	住空間の単位空間（2）（居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋）	第2回目の課題を出題する 居間などの日常生活空間について説明する
第7回	住空間の単位空間（3）（台所・風呂・便所・階段）	台所など水場について説明する
第8回	住環境の物理要素（熱・光・水・風）	第3回目の課題を出題する 住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第9回	住空間の構成要素（基礎・床・壁・屋根など）	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する
第10回	ユニバーサルデザインについて	第4回目の課題を出題する これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する
第11回	住宅事例の紹介（1）	第5回目の課題を出題する プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介
第12回	住宅事例の紹介（2）	前年までの学生の作品を紹介する
第13回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取り組み方の指導をオープンで行う
第14回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う
第15回	総括	習得事項の整理および確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。

【参考書】

「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著 彰国社

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題と最後に提出する住宅設計による総合評価。

出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組めないで、課題と作品によって全て判断する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料が多すぎるとの指摘が毎年あるので、適宜最小限必要なものに留めて配布する。

【その他の重要事項】

課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA340

環境社会論 I

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別されるが、両者を概観しながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、「理論」と「実証」の往復という環境社会学の基本的なスタイルを学ぶ。

【到達目標】

本講義では、社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチを習得することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害－被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水のかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会学／環境社会学とは何か？（1）	社会的なアプローチの概要について講義する。
第2回	社会学／環境社会学とは何か？（2）	環境社会学の2つのアプローチに関する概要を講義する。
第3回	日本の環境問題の歴史とその構造（1）	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第4回	日本の環境問題の歴史とその構造（2）	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第5回	日本の環境問題の歴史とその構造（3）	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害－被害論と、被害構造論について講義する。
第6回	受益圏と受苦圏（1）：概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第7回	受益圏と受苦圏（2）：事例研究	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第8回	環境破壊と社会的ジレンマ（1）～社会的ジレンマ論	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第9回	環境破壊と社会的ジレンマ（2）～事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第10回	環境破壊と社会的ジレンマ（3）～社会的ジレンマの類型化と解決策の条件	社会的ジレンマの解決策について、事例を通じて考える。
第11回	「水」と生活文化（1）～生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第12回	「水」と生活文化（2）～「近い水」「近い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第13回	「水」と生活文化（3）～河川管理の変遷	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第14回	「水」と生活文化（4）～技術と災害、災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。
第15回	環境社会学の方法論	理論と実証の往復という作業と、実践の志向性を持つ環境社会学の方法論を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

【テキスト（教科書）】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房
その他、適宜、指示をする。

【参考書】

同上。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験（70%：持ち込み可）＋出席点、講義中に行うコメントペーパーなど（30%）

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA340

環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という視点から捉え直し、社会運動から見える現代社会や社会問題（環境問題）について理解する。

【到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様なかたちや活動の条件、活動の意味などを理解することを目的とする。環境問題に対して住民、市民がどのように関わるのが可能なのかという実践的な課題にアプローチするために、環境問題や地域問題の解決を担う新たな動きを、国家・行政が独占してきた公共性の再編と捉えた上で、地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解きながら講義する。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について述べる。続いて社会運動が社会問題を立ち上げるといった側面を議論した後、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに応える。最後に戦後日本の社会運動のマクロな動態を、政治体との関連が議論した後、反原発運動、脱原発運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）	チェルノブイリ原発事故と反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	環境問題の設定者としての環境運動：社会問題の構築論	社会構築主義に依拠しながら、環境（社会）問題の設定者としての環境（社会）運動の役割について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（1）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第7回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（2）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第8回	運動のさまざまな形とその変化（1）	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第9回	運動のさまざまな形とその変化（2）	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（1）：資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第11回	どのように環境運動を展開するのか（2）：フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第12回	環境運動と政治	イベントデータを用いたマクロ分析によって、戦後日本の社会（環境）運動と政治との関連について講義する。
第13回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（1）	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。

- 第14回 再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開(2) 市民風車運動・事業を事例として、再生可能エネルギーの普及と環境運動の可能性について論じる。
- 第15回 現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力 講義のまとめとして、現代社会における社会運動の潜勢力と可能性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に参照した文献の講読。

【テキスト（教科書）】

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004年）

【参考書】

西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）（できれば教科書として購入することが望ましい）
丸山康司・西城戸誠・本巢芽美（編著）『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー（仮題）』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験と、コメントシートもしくは追加レポートで評価する

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA340

環境社会論Ⅲ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像資料を用いて具体的な事例を提示し、環境（自然）と地域の持続性に関する「環境と社会」の社会的な議論（応用編）を展開する。

【到達目標】

本講義の目的は、日本国内の事例を中心に取り上げながら、環境（自然）と地域の持続性に関する議論について、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点(1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー(1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー(2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理(1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理(2)：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理(3)：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理(1)：コウノトリと地域再生	兵庫豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理(2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会(1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会(2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	再生可能エネルギーと地域社会(1)	再生可能エネルギーの地域社会への普及のための、さまざまな「社会的しかけ」に関して講義する。
第12回	再生可能エネルギーと地域社会(2)	風力発電に対する反対運動も含めて、再生可能エネルギーの地域社会への受容性について講義する。
第13回	負の遺産と地域再生(1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第14回	負の遺産と地域再生(2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第15回	環境・地域社会のサステイナビリティと「当事者性」を考える	環境・地域社会のサステイナビリティについてまとめながら、「当事者性」という観点から環境・地域の持続性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

関礼子・中澤秀雄・丸山 康司・田中 求『環境の社会学』有斐閣（2009 年）
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008 年）
宮内泰介編『半栽培の環境社会学』昭和堂（2009 年）

【成績評価の方法と基準】

講義中に映像資料等に対するリアクションペーパー（小レポート）の提出を求める。また、学期末に筆記試験（受講者数によってはレポート）を課す。

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【その他の重要事項】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定しているものの、履修制限は行わない。旧科目名称「人間環境特論（環境と地域の持続性を考える）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA340

労働環境論Ⅰ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「仕事を通して労働環境を考える」

【到達目標】

本講では、仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の賃金や昇進、昇給、教育訓練、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関係する基本的な概念や現象を理解できるようになることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用して、その時々話題になっているアプトゥデートな諸問題をも随時紹介しつつ、現実への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働環境論入門	労働環境論では何を学ぶのか、なぜ学ぶのか等について考える。
第 2 回	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
第 3 回	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それが過去どう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
第 4 回	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
第 5 回	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
第 6 回	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみる。
第 7 回	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
第 8 回	賃金システム	労働条件の基本をなし、きわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
第 9 回	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
第 10 回	失業と転職	市場経済で失業は避けられない現象である。失業と転職、国の失業対策等について学ぶ。
第 11 回	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生設計について考える。
第 12 回	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
第 13 回	自立的な働き方	ベンチャーも含めて起業が盛んな今日、企業に雇われない働き方も働き方の 1 つとしてある。その現状について学ぶ。
第 14 回	日本の雇用慣行のまとめ	日本の雇用慣行の特徴は何か、そのメリット、デメリットを含め総合的に評価する。
第 15 回	試験	試験によって本講義の理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より効率的に講義が理解できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認し質問する。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方 [改訂版]』有斐閣ブックス、2012 年。

【参考書】

テキストでカバーできないテーマについては、随時、プリント等で補う。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験により、特定のテーマについて基本的な理解ができていないか、説明ができていないかを評価の基準にする。

【学生の意見等からの気づき】

この科目に関連した時事的な事象についてはほぼ毎時間紹介しているが、これには要望も多く今後も継続する。

【その他の重要事項】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすれば解決できるか、それを考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA340

労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な問題との関連のなかで労働環境への理解を深める。

【到達目標】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかのトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいか、それに必要な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1つのトピックにつき1～2回で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて考える。
第2回	日本的雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本的雇用慣行の特徴を概観する。
第3回	日本的雇用慣行 2	前週に続いて、日本的雇用慣行をどう理解すればよいか、近年の変化もふまえて学習する。
第4回	大学生の就職 1	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのかを考える。
第5回	大学生の就職 2	大学生の就職と近年話題となっているグローバル人材の問題を考える。
第6回	労働環境と安全衛生 1	仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第7回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第8回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第9回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に、最近のホワイトカラー・エグゼンプションをめぐる議論についても学ぶ。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は毎年のように国際機関から雇用に関する女性の地位の低さを指摘されている。なぜか、その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、とくに女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	企業の社会的責任（CSR）	企業の社会的責任（CSR）とは何か、とくに労働の領域におけるCSRについて考える。
第14回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。どういったことが起こり、当事者や行政等はそれについてどう対処したのかについてみていく。
第15回	試験	試験によって14回の学習の到達度を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習を必須とする。

【テキスト（教科書）】

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本をテキストとして使うことはしない。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方（改訂版）』有斐閣ブックス、2012年。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

【その他の重要事項】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をもう少し掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性差別など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA340

NGO活動論

小野 行雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動するべき場を確認した上で、さまざまなNGOの事例からその立場や活動方法を学ぶ。NGOによる世界的なネットワークやキャンペーンについても視野を広げ、隣接分野である社会的企業やCSR、BOPビジネスとの関係、ODAとの関係や問題点にも踏み込む。そして市民社会におけるNGOの役割、そして市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 「途上国」の人々が直面している問題とそれらのつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

自ら学び、自ら主体的に関わり自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面でのNGO活動の大きな柱である。それをふまえて、ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。学生は毎回、体験し、意見を交換し、調査し発表する積極的な参加が求められる。映像資料も多用し、学生によるゲストへの直接インタビューも実施する予定である。毎回簡単なレポートを作成する時間をとり、次の授業の始めにそれをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション NGO活動の基礎－フィリピン の例	グループづくりワークショップ ワークショップ「24人にインタビュー」と討議
第2回	NGO活動の基礎－インド の例	ワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」と討議
第3回	世界の現状－貧困問題	ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」と討議
第4回	世界の現状－グローバリゼーション	ワークショップ「なつかしい未来」と討議
第5回	様々なNGO	フィールドワークをふまえたグループ単位での事例整理と発表
第6回	NGOの歴史と理論	NGOの歴史をめぐる講義と事例調査および討議
第7回	NGOシミュレーション1	オリジナルNGO立ち上げを想定したグループ計画作成
第8回	NGOシミュレーション2	各グループ計画の発表および改善策検討
第9回	NGO事例研究－日本のNGO	日本のNGOについて講義と事例調査および討議
第10回	NGO事例研究－国際NGO	国際NGOおよびネットワークNGOについて講義と事例調査および討議
第11回	NGO事例研究－「途上国」NGO	「途上国」NGOについて講義と事例調査および討議
第12回	NGO事例まとめ	3回の事例研究をふまえたまとめと想定したオリジナルNGOの改善策討議
第13回	NGOと企業	社会的企業、CSR、BOPビジネスについて講義と事例調査および討議
第14回	NGOとグローバリゼーション	MDGs、SDGsとグローバリゼーションについて講義と事例調査および討議
第15回	ふりかえり	ふりかえりレポート作成・提出と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

10月にお台場で行われる「グローバルフェスタ JAPAN」または横浜で行われる「よこはま国際フェスタ」に行くことを強く勧める。最初の講義で説明するが、これを一種のフィールドワークとし、情報収集とインタビューを行う実践の場として、授業内でそれを整理する。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

参加型グループワークを中心とするため、全 15 回遅刻せず必ず出席することを求める。毎時間のレポートおよび最後のふりかえりレポートも重視する。期末試験は行わない。

平常点 (出席+発表)40%、毎時間のレポート 40%、ふりかえりレポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度より担当

【学生が準備すべき機器他】

第 5 回以降の授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートフォン持参が必須となる。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース (国際環境協力コース)

HA327

ローカルスタディーズ I

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

農山村の現状と課題について考える。

【到達目標】

農山村の現状や課題を理解するだけでなく、その問題解決まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本授業では、「地域」を「農山村」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようにすることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）を使い、毎回、それぞれ 1 章分を受講生に発表をしてもらい、その解説と説明をしたらうえて、全員で討論を行う。なお、本授業は「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを受講条件とし、またゼミ形式を導入するため受講者の定員を 30 名程度にする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第 1 回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。テスト問題は「食と農の環境学Ⅱ」の内容から出題する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第 2 回	テキストの輪読・発表・討論 (1)	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第 3 回	テキストの輪読・発表・討論 (2)	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第 4 回	テキストの輪読・発表・討論 (3)	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集团的土地利用」をとりあげる。
第 5 回	テキストの輪読・発表・討論 (4)	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第 6 回	テキストの輪読・発表・討論 (5)	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。
第 7 回	テキストの輪読・発表・討論 (6)	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第 8 回	テキストの輪読・発表・討論 (7)	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第 9 回	テキストの輪読・発表・討論 (8)	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第 10 回	テキストの輪読・発表・討論 (9)	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第 11 回	テキストの輪読・発表・討論 (10)	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多面的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第 12 回	テキストの輪読・発表・討論 (11)	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。

- 第13回 テキストの輪読・発表・討論(12) 『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。
- 第14回 テキストの輪読・発表・討論(13) 『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。
- 第15回 テキストの輪読・発表・討論(14) 『むらの社会を研究する』の「定年帰農と新たな農村コミュニティの形成」、『むらの資源を研究する』の「農村女性起業とエンパワメント」をとりあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

日本村落研究会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）
日本村落研究会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）

【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（出席回数、発表内容、討論への参加姿勢など）を50%として評価する。さらに学期末に課すレポートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA327

ローカルスタディーズⅡ

後藤 純

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルスタディーズは、ひとことでいえば、まちづくり（最近の流行では、コミュニティ・デザイン）の理論と技法について学びます。日本は少子高齢社会に突入していますが、住みよいまちをつくるには、住民やコミュニティの構成員が自らのリソースを提供して行うまちづくりが必要です。これまでは、行政が単独で計画をつくってきましたが、これからは行政だけでなく、住民自治組織、企業等が連携できるフレームワークづくりが重要となります。本授業ではまちづくり（＝コミュニティ・デザイン）の方法論を学ぶとともに、コミュニティ・デザインに関する理論、技術、制度について基礎知識を獲得し、理解を深めます。

【到達目標】

コミュニティ・デザイン（まちづくり）に関する理論、技術、制度について基礎知識を習得する。この知識をもとに身近なまちづくりの事例を調査分析できるようにする。さらには、分析の結果として、10年、20年先を見すえた、望ましい解決策を提示することができるようになる。これらをレポートにまとめることで、個人的なスキル（技能）を超えて、社会的技術としてのコミュニティ・デザインの技法を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

もはやゼロから都市を形成していくことは不可能です。既に先人が創りこんできた制度及び空間の上に、現在の都市が形成されており、これを再び地域に住む人々が解釈・再解釈して次の時代の制度及び空間を構築していきます。本授業では2030年の超高齢社会を念頭におきながら、都市における参加・協働のまちづくり実践について考えます。これからの日本社会を支える皆さんには、特に（1）コミュニティ・デザインの基礎的な制度や空間を読み解くポイントを学んでいただき、次に（2）市民・住民の地域に対する意思やニーズを把握するポイントについて学んでいただきます。また（3）課題解決・地域形成のためにどのような社会経済的実現方法が考えうるのか、具体ケースをみながら、考えて行きます。（4）本授業では各人調査テーマを一つ決め、講義で学んだことを踏まえつつ、（1）～（3）に注意して、自ら問いを立てて、自ら解決策を検討していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、単位の取り方などを説明します。
第2回	超高齢社会の都市と課題	10年後、20年後、私たちの社会はどのように変わっていくのか。予測が出来れば、対策もしやすい。超高齢社会という観点からみたコミュニティの変化を学びます。
第3回	コミュニティ・デザインとはなにか	コミュニティとは何か？ どのように考えればよいのか？ コミュニティ・デザインの歴史の変遷から基礎論を学びます。
第4回	コミュニティ・デザインの技法	コミュニティ・デザインの具体的な技法を学びます。住民ワークショップを行い、地域活性化イベントを行うことは、コミュニティデザインではありません。
第5回	コミュニティ・デザインの歴史的展開	1960年代～今日までのコミュニティ・デザイン（日本型まちづくり）の歴史を学びます。歴史を学ぶと、これから先の正確な展開予測が出来ます。
第6回	コミュニティ・デザインにおける主体論、主体形成及び組織形成の理論と技術	よきコミュニティは、短期間では出来ません。コミュニティの担い手の育成とともにコミュニティが育っていくことが重要です。時間軸を踏まえた、主体形成の理論と技術について学びます。
第7回	レポート中間報告	成果報告に向けてレポートの中間報告を行います。
第8回	住民参加、協働の理論	コミュニティ・デザインは、多様な主体が関わります。多様な主体の参加、協働がなぜ必要なのか、その社会的背景、理論について学びます。

第9回	新しい公共性と都市空間のガバナンス	多様な主体が関わったけっかとして、新しい社会や価値をどのように創造すればよいか。新しい公共性、ガバナンスという観点から考えます。
第10回	コミュニティ・デザインの事例分析1	空き家の活用、コミュニティカフェ、サードプレイスなど居場所づくりの事例を学びます。
第11回	コミュニティ・デザインの事例分析2	震災復興におけるコミュニティ・デザインの課題と今後の展望について学びます。
第12回	コミュニティ・デザインの仕組みを考える	最終レポートに向け、これまでの事例分析を踏まえ、各自の考えるまちづくりの仕組みについて議論します。
第13回	コミュニティ・デザインの事例分析3	高齢者の生活を最期まで支える地域包括ケアのまちづくりについて考えます。
第14回	成果発表1	半期の調査研究成果の報告会
第15回	成果発表2	半期の調査研究成果の報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・都市、地域、まちに興味を持ってください。
 ・都市におけるコミュニティ・デザインの実践には、これといった教科書がありませんので、上記のことに興味を持ちつつ自分で問いを立てて自分で答えを導き、様々な人と議論を通して合理的な判断をしていく思考訓練を心がけてください。
 ・そのためには、講義で言及したまちづくりの事例を実際に見学したり、関連する情報の収集に積極的に努めてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しませんが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付します。

【参考書】

・2030年超高齢未来、東洋新報社
 ・超高齢社会、中央経済社
 ・住民主体の都市計画—まちづくりへの役立て方、学芸出版社
 ・新時代の都市計画—市民社会とまちづくり、ぎょうせい
 その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は最終回でのプレゼンテーションとレポートで評価します（100%）。なお評価されるレポートは、教員、本授業の出席者との対話を通して生産されるものです。講義に常時出席していただくとともに、積極的なディスカッションを期待します。

【学生の意見等からの気づき】

少人数でディスカッションをしながら進めたいとの意見がありました。授業はディスカッションの時間を多くとりながら進めたいと思います。受講のモチベーションが維持できるように、わかりやすく進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影します。

【その他の重要事項】

定員は最大30名です。受講希望者が多数の場合には、第1回目の授業で選抜を行います。学ぶことともに、考えることの多い授業にしたいと思います。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA322

災害政策論

中川 和之

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害大国日本において、近年から、歴史的な災害まで振り返り、為政者による政策、人々の助けあい、そして日本の災害文化まで敷衍しながら、どのような災害政策が求められているのかを、共に考える。

【到達目標】

- ①災害とは何かを、事例から学ぶ
- ②現状の政策の背景と発展を学ぶ
- ③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。
- ④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを発見する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本列島は、これまでの地球の歴史を1年としたら、最も最近の1日でもきた若い列島だ。だからこそ「災害大国」となるが、古くからさまざまな災害対策や支え合いが、この列島に生きてきた私たちの祖先を支えてきた。社会の高度化や高齢化は、災害に対するぜい弱性を生む。大地動乱の時代に入ったとも言われる日本。そこで、これからの人生を生きていくのが君たちだ。災害対策は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマだが、限られた資源の中で、どのような備えと構えをとっていけばいいのか。誰かが正解を与えてくれるわけではない。君たち自身が考えていくことでもある。授業では、まず、近年の実災害への対応策から、現実の諸制度の役割と経緯を知る。また、社会のアクターの視点から現在の状況と与えられている役割を考える。備えから、応急対応、復興までの時系列から、災害政策の現状を知る。その上で、めざすべき社会のあり方と、制度のあり方をともに考えたい。できるだけ、参加型の授業としたい。また、中間的にレポートを何度か書いていただきながら、進めていこうと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明。災害とは何か？災害から守るべきこととは何か。なぜ災害政策が求められるのかを概説。災害時に向き合うシレンマを実感するゲームを体験し、皆さんと、問答をしながら災害政策の意義を考える。

- 第2回 自然現象と災害=社会的な制度を考える前提としての理科1 1500万年前に誕生した新しい大地の日本列島にある肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象=人がいたら災害と言われる現象によって形づくられた。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのか。
30年前には教科書にも載っていなかった「プレートテクトニクス説」が、もたらしたコペルニクスの展開と、社会の認識とハレーションなども含めて、「理科」的な話をベースに、これから考えていく「社会」の問題を考えるベースを押さえる。 私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのか。30年前には教科書にも載っていなかった「プレートテクトニクス説」が、もたらしたコペルニクスの展開と、社会の認識とハレーションなども含めて、「理科」的な話をベースに、これから考えていく「社会」の問題を考えるベースを押さえる。
皆さんの出身地や身近な場所についての、簡単なワークシートに、記入してもらう。
- 第3回 身近な景観と災害=理科2 3回目の授業の事前課題として、皆さんの出身地や身近な場所について、いくつかの指定したWebサイトの情報を元に、簡単なワークシートを作成してもらう。授業では、それを元に、グループディスカッションを行いたい。身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを全員で考察する。
- 第4回 東日本大震災後の近年の災害と法制度 東日本大震災以降に発生した災害について現状を確認。どのような政策が実行され、何が課題だったのかを振り返る。
広島土砂災害、御嶽山噴火災害、26年2月の雪害、平成25年台風第26号災害、平成24年7月九州北部豪雨、平成23年7月新潟・福島豪雨、23年度、24年度の連続豪雪、東北地方太平洋沖地震と一連の地震などを事例とする。
首長たちの経験談をもとに、グループディスカッションを行う。
- 第5回 東北地方太平洋沖地震と東日本大震災1 東北地方太平洋沖地震が、いかにして東日本大震災になったかを、2回に渡って、振り返り、現状も確認する。地震直後に自分で感じたことを、グループで共有するグループディスカッションを行う。
- 第6回 東北地方太平洋沖地震と東日本大震災2 東北地方太平洋沖地震が、いかにして東日本大震災になったかを、2回に渡って、振り返り、現状も確認する。復興まちづくりの現状や、福島原発事故による長期避難など、未だ継続している大震災に、どう対応していくべきなのかを、グループディスカッションで考える。
- 第7回 阪神大震災から、東日本大震災まで 都市の直下型地震の持つ破壊力と、現代社会のぜい弱性を浮き彫りにした1995年1月の兵庫県南部地震をきっかけに、日本の災害対策は、大きく見直された。
2000年の省庁再編によって発足した内閣府(防災)が、平時からの備えから応急対策までの大枠が作られていった。被災者には「毛布とオニギリ」が当たり前だった災害救助から、暮らしを建て直していく場としての避難所や福祉避難所が制度化。要援護者支援の制度化、住まいを失った世帯への支援制度の創設。土砂災害対策としての私権制限など、実災害を重ねながら、どのように現行の制度が形づくられてきたかを知る。
- 第8回 第2次大戦前後の災害から阪神大震災前まで 無謀な戦争で都市部が焼土となった日本。敗戦前後の南海トラフの地震と、相次ぐ直下型地震は、桁違いな戦災という人災の中で、十分、顧みられなかった。その後、戦災復興とともにハード対策も進み、1959年の伊勢湾台風の後には、大規模な災害がない時期が続く。高度成長と共に、日本の防災に対するの神話が生まれつつあった。戦後に制定された災害救助法が災害の基本法だった時代から、伊勢湾台風後に災害対策基本法が制定された意味を知る。また、仮説としての東海地震説によって作られた「大規模地震対策特別措置法」の意義と問題点を知る。
- 第9回 歴史時代から戦前まで 天才・菅原道真が9世紀に受けた国家公務員試験の問題が「地震を弁ず」というぐらい、自然災害は古来から政策課題であった。江戸時代以前の歴史時代の災害救援制度や、災害に対する受け止め方の変遷。日本人の宗教観や哲学、文化に内包する自然災害についても考えながら、明治維新から敗戦までの、日本国政府としての災害対策の変遷と実災害を知る。日本のハード防災の原点となった、1891年の濃尾地震や1923年の関東大震災による建築基準法や都市計画、防火対策の強化。1888年の磐梯山噴火と赤十字史上世界初の災害救援なども振り返る。

- 第10回 東日本大震災後の制度改正を学ぶ 東日本大震災の教訓を踏まえ、災害対策基本法の改正が2013年6月に行われた。基本理念が初めて盛り込まれ、要支援者対策や防災教育、町内会単位での「地区防災計画」の法定化などが初めて盛り込まれた。災対法と表裏の国土強靱化法も含めて、これから求められる災害法制度について概観する。広島土砂災害後の土砂災害防止法の改正、活火山法の改正についても理解する。
- 第11回 想定首都直下地震と南海トラフの地震 国難とも言われる2つの大地震について、科学的に分かっていることと、対策の現状と、今後、社会に求められていることを知る。それぞれ、出身地などにわかれて、グループディスカッションで、どう備えていくかについて議論する。
- 第12回 災害報道・災害情報 かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのかも考えたい。
できればメディア関係者のゲスト講師を招いて、学生とも対話しながら、考えたい。
- 第13回 市民防災・ボランティア この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。すべて、自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力が鍵になる。ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割をともに考える。
できれば、災害ボランティア関係者のゲスト講師を招いて、学生とも対話しながら、考えたい。
- 第14回 災害と恵み・ジオパーク 文部科学省の生きる力を育む防災教育(2013)には、「自然には恩恵と災害の二面性があることを児童生徒が意識できるようになることを期待する」とある。私は、地震・火山の学会によるこどもサマースクールでは、基本理念として「災害と恵みの両面がある自然の本質を専門家と共に実感する」という活動を1999年から行ってきた。2008年からは、大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。これらの活動の現状を知ること、危険性だけを強調して、自分の地域が嫌いになり、また考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
試験に必要な準備を授業中に伝える。
- 第15回 めざすべき社会と災害 これまでの授業で学んだことをベースに、授業時間中に試験(レポート)を書いてもらう。
【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】
自らの出身地や、現在の居住地が、過去にどのような災害に遭ってきたのか、その災害が今はその地に何をもたらしているのか、身の回りを再確認して欲しい。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。
【テキスト(教科書)】
授業では、PPTを使用する。その資料は、毎回、授業サイトに掲載する。就活などで出席できなかった場合、資料を参考にして授業レポートをメールで提出してください。
【参考書】
自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画は、授業課題で必読となりますので、早い段階で読んでおいて下さい。内閣府防災情報のページ、被災自治体のホームページ、学会関係のホームページなど。
【成績評価の方法と基準】
平常評価30%、授業中のレポート評価30%、期末試験(授業中レポート)評価40%
【学生の意見等からの気づき】
好評だった災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」の実施の他、授業中の相互のディスカッションや、外部講師とのディスカッションの時間を多くしたい。
【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース(地域環境共生コース)

HA319

科学技術社会論

託問 直樹

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術は、内在するルーティーンやパラダイムに従って独自に発展する性格をもつと同時に、社会に埋め込まれた活動であるので当然、社会と相互作用を行う。また、科学技術活動のアウトプットが社会に多大な（正負両面）の影響を与える一方で、科学技術の側も社会条件の制約を受ける。従って、科学技術と社会は相互に影響しながらお互いを形成していく—共進化していく—と見ることができる。この共進化のプロセスを解明し、その問題点を社会に呼びかけていくことが、科学技術社会論の一つの使命である。

本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために、有用なキー概念を学び、またそれらの概念を用いて具体的に科学技術という社会現象を理解する訓練を行う。

【到達目標】

科学・技術と社会との関わりを理解するために有用となる重要概念を理解し、それらを用いて具体例事例を論じる能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキスト—平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』、NHK出版生活人新書、2010年）をベースとし、各章ごとに、内容の解説を行う。

それとともに、主要な概念と事例について、学生との質疑応答・ディスカッションを行う。ディスカッションを活性化するために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

また、毎回、コメントシートに感想・意見・質問を書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明。
第2回	科学・技術と社会（概論）（つづき）	科学・技術と社会（概論）。科学と技術におけるルーティーン（パラダイム）の形成、自己再帰的な発展、パラダイムから外に出る（ヘテロな発展）、社会に埋め込まれた活動としての科学技術、ほか。
第3回	現代科学技術の履歴と功罪（テキスト対応箇所：第1章「輝かしく陰鬱な1970年代という曲がり角」）	1960年代における科学技術に対する期待の高まり、1970年代以降における科学技術に対する認識の変化、公害問題、核問題、ほか。
第4回	科学技術のガバナンス（その1）（テキスト対応箇所：第2章「統治」から「ガバナンス」へ）	統治とガバナンス（舵取り）の違い、科学技術の舵取りをどう行うか、なぜ舵取りが必要か（間接民主主義の問題、シングルイシューへの市民の関与、ユーザー主導のイノベーション、参加型イノベーション、双方向コミュニケーション、ほか。ディスカッション。
第5回	科学技術のガバナンス（その2）	舵取りの制度的仕掛け：市民参加型テクノロジーアセスメント・コンセンサス会議・市民陪審、シナリオワークショップ、サイエンスカフェ、ほか。ディスカッション。
第6回	科学技術の切れ味・限界・副作用（その1）（テキスト対応箇所：第3章「科学技術は「完全無欠」か」）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病における完璧主義（行政と裁判における確実な科学的証拠の要求）、実験室の科学的成果から「ファイナルアンサー」への長い道のり、ほか。ディスカッション。
第7回	科学技術の切れ味・限界・副作用（その2）	「すでに知られている無知」（“Known Unknowns”）と「まだ知られていない無知」（“Unknown Unknowns”）、想定外にどう対処するか、理想化に伴う不確実性、枠組みの功罪、理想系と現実系とのギャップ、ほか。ディスカッション。

第8回	科学技術の切れ味・限界・副作用（その3） —特別追加メニュー：科学技術の諸前提を見直す	(1) その変数、本当に存在しますか？ —変数結節の問題 (2) 科学法則における“Ceteris Paribus”（「他の条件が等しければ」）と“Ceteris Absentibus”（「他に妨げるものがなければ」） (3) エンジニアリングにおけるバウンダリー設定の功罪 (4) 確率論・統計学はモデル・フィッティング（当てはめ）に過ぎないか？
第9回	科学技術の社会における作用（その1） （テキスト対応箇所：第4章「科学技術と社会の深い関係」）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生」という考え方、研究開発の国家総動員体制、科学技術は価値中立か、人工物に埋め込まれた政治性、アーキテクチャの権力（環境管理型権力）。 ディスカッション。
第10回	科学技術の社会における作用（その2）	「緑の革命」の光と影、「技術—社会パッケージ」、社会的作動条件への不適合、フレーミング（問いの立て方、問題のとらえ方）の失敗、「技術の囲い込み症候群」、利益構造について考える、貨幣と市場の役割をどう評価するか、ほか。 ディスカッション。
第11回	科学技術とリスク（その1） （テキスト対応箇所：第5章「科学の不確実性とどうつきあうか」）	リスク論争で問われるものは？、調べる人が変わればデータも変わる、価値基準と変数結節、挙証責任はどちらにあるか、リスク容認の基準、遺伝子組み換え作物の事例、リスク容認基準を左右する政治的社会的理由、ほか。 ディスカッション。
第12回	科学技術とリスク（その2）	事前警戒原則（予防原則）、欧州における組み換え作物規制が意味するもの、問いの立て方（フレーミング）次第で結論が大きく変わる、価値中立性を再定義する、偽陽性と偽陰性、過剰規制とコストのトレードオフ、さまざまなメリット・デメリットのポートフォリオを作成しておく、ほか。 ディスカッション。
第13回	科学技術問題を理解し関与するための術 （テキスト対応箇所：第6章「知ることと、つながること」）	どうやって科学技術問題に関わるのか、「一人一人の心がけ」でよいのか、具体的なすべを身につける、科学技術を理解するための術（不自然な省略を見抜く、言及されていないことこそ重要、見せ球・吊り球にも注意）、知的協働のアクションチャート（第1条～第5条）、信頼できる資料の見つけ方、ほか。 ディスカッション。
第14回	科学技術イノベーションへの市民参加（その1） （テキスト対応箇所：第7章「知を力にするために」）	市民参加型イノベーションの例：エイズ患者とエイズ活動家による治験方法のイノベーション、Community-based Research、ほか。 ディスカッション。
第15回	科学技術イノベーションへの市民参加（その2）	科学が問えない問いを問う、問題の可視化、フレームそのものを作る、参加型テクノロジーアセスメント（復習と再論）、サイエンスショップという仕掛け、科学的認識が難しい問題に取り組む：ソーシャルキャピタル（人間関係資本）・ローカルノレッジ（暗黙知）、ほか。 ディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書）の該当箇所を事前に読んできてもらう。（全員）
・授業時間中に理解を深めるためディスカッションの時間を適宜とるが、ディスカッションを活性化するために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

【テキスト（教科書）】

平川秀幸『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』、NHK出版生活人新書、2010年。
本講義を履修する者には、教科書を購入し、毎回の授業時に持参することを義務付ける。紙媒体・電子書籍の両方があるが、紙媒体で購入することを推奨する。（電子書籍には、一覧がない、ページ番号が表示されないといった欠点があるため）

【参考書】

必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点60%、期末レポート40%。
・期末レポートの概要：
テキストに関連する好きなトピックを選び、自説の根拠となる文献の要約をした後、自説を展開してもらう。A4用紙5枚程度。

【学生の意見等からの気づき】

・人文社会系の概念についても、ところどころ高度な概念が登場して難しく感じたという意見があったので、わかりやすく伝わるように一層の工夫を行う。
・授業改善アンケートのなかに、まとまった時間を割いて突っ込んだディスカッション（討論会・熟議）を実施すべきだという指摘があった。まだ未定であるが、余裕があれば、実施を検討してみたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

教科書は、紙媒体を購入し持参することを推奨するが、どうしても電子書籍を購入したい者は、プラットフォームとなる端末（kindle 端末やスマートフォン、パッド、PC など）を毎回の授業に必ず持参すること。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA340

社会開発論

新村 恵美

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。しかしながら、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。その上で、社会的に弱い立場に置かれている人びとを中心に据え、すべての人が持続可能で豊かな人生の選択肢を持てるようになることに注目し、授業を展開する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。まず、社会開発とは何か、その定義や歴史的経緯、課題とされることを理解する。次に、社会開発のもたらす社会変容を日本及び海外の事例を検討する。最後に、社会開発の役割を、社会的包摂、社会保障等の視点から考える。

学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発とは1	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。社会開発がどのように位置付けられてきたのか、国際社会及び日本における歴史的経緯を概観する。
第2回	社会開発とは2	課題レポートの説明も行う。なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差の拡大を体験し、考察する。
第3回	社会開発とは3	国連の「人間開発」「人間の安全保障」等の概念を理解し、社会開発を検討する。統計資料を使うほか、南アジアを例に考える。
第4回	社会開発とは4	途上国の貧困問題への取り組みを、バングラデシュのストリートチルドレンや児童労働をせざるを得ない子供達の「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。

- 第5回 社会開発とは5 日本を含めて先進国における貧困について、OECD や ILO のデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。また、日本の NPO による貧困問題への取り組みを理解する。
- 第6回 社会開発と社会変容1 貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることを意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。途上国及び日本双方の、識字教育の現場での声を紹介する。
- 第7回 社会開発と社会変容2 ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動と NGO 等による社会開発の役割について考える。
- 第8回 社会開発と社会変容3 人々はどのように連帯し、国際社会を変えようとするのか。ILO の「家事労働者のディーセントワーク条約」を取り上げ、国際ネットワークの構築とその意義を考察する。
- 第9回 社会開発と社会変容4 日本の社会開発について考察する。社会問題の「発見」について交通事故や水俣病の事例から学ぶ。また、阪神大震災、東日本大震災からの復興の鍵になるのか、コミュニティやレジリエンスをキーワードに考える。
- 第10回 課題レポートの共有と発表準備（グループワーク） 学生各自が取り組んだ課題レポートの内容を共有し、グループごとに発表の準備をする。
- 第11回 課題レポートの発表 課題レポートの発表を行う。
- 第12回 社会開発の役割1 なぜ格差がない方がいいのかー根本的な問いから、格差を是正し公正な社会にするには何が必要なのかを、社会保障と社会的包摂の視点から考察する。
- 第13回 社会開発の役割2 超高齢社会を迎えた日本が、この先どこに向かうのか、労働力不足、移民受け入れ、ディーセントワーク、多文化共生などを手掛かりに考察する。
- 第14回 社会開発の役割3 ディーセント（適正）な労働とはどういうことか。途上国のインフォーマルセクター労働、非正規/正規雇用、女性の労働参加など、労働をテーマに社会開発を考える。
- 第15回 まとめ 学生のフィードバックから論点を取り出し、考察する。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度より担当。各回授業の学生からのフィードバックを踏まえて、双方向の授業にする。

【学生が準備すべき機器他】

授業では主にスライドを使用する。授業で使用した配布資料は、授業支援システムに掲載する。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料にテーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化する。

【参考書】

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
アマルティア・セン（1999）池本幸生ら訳『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：20%
期末試験：50%
毎回の授業での記述:30%

HA332

グローバルコミュニティ

荒川 裕子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のグローバル化が一段と進むなか、世界のさまざまな情報をキャッチしたり多様な人々とのコミュニケーションを図るうえで、英語の使用はもはや不可欠のものとなっています。この授業では、アイデンティティ、文化、コミュニティ、まちづくり等、「ライフキャリア」の領域に関わるキーワードにそって、さまざまなトピックスのもとに英語で情報を検索する・文献を読んで理解する・自己を表現する、といったスキルを身につけます。

【到達目標】

初年次の終わりにまでに修得した英語力をもとに、学生各自が自らの関心事や専門性によって、更なる英語の読解力・表現力を身に付けていきます。「ライフキャリア」に関連した英語文献（新聞・雑誌記事、統計資料、論文、ウェブページなど）に数多く触れることによって、速読の訓練を積むとともに、この分野でよく用いられるさまざまな単語や表現にも慣れていきます。英語というツールを実践的に用いることによって、各自のキャリア形成における可能性を広げていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、受講生自身の問題意識に即して英文の文献を探し、それを読み込む、自分の考えを英語で表現する、といったプロセスを通して、外国語をより身近なものにしていきます。外国語の習得には自己の強い関心と積極的な参加が必要です。受講生は、特に優れた語学力は必要としませんが、授業への積極的な参加と、予復習におけるたゆまぬ学習の積み重ねが求められます。なお、参加型の授業の性質上、必要に応じて受講者数に制限を設ける場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス	授業の進め方、必要な辞書等について説明（受講希望者数に応じて簡単なテストを行う場合がある）。
2	英語による自己紹介	自身が関心のある領域やテーマについて英語で紹介する。
3	情報検索①	英文の HP やデータベースの活用方法を学ぶ。
4	情報検索②	英文の HP やデータベースの活用方法を学ぶ。
5	文献講読①	指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
6	文献講読②	指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
7	文献講読③	指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
8	文献講読④	指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
9	テーマの設定①	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する。
10	テーマの設定②	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する。
11	英語によるスピーチ①	各自のテーマに基づいてスピーチ・質疑応答を行う。
12	英語によるスピーチ②	各自のテーマに基づいてスピーチ・質疑応答を行う。
13	英語によるスピーチ③	各自のテーマに基づいてスピーチ・質疑応答を行う。
14	ディスカッション	スピーチの内容を基に全体で議論を行う。
15	まとめと振り返り	学習の成果と課題について検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学の学習は時間を要します。授業外においても、課題文献の講読の予習や短い英文エッセイの執筆などのホームワークが適宜課されます。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、適宜プリントを配布します。原則として毎時間、英和・和英辞書を持参してください。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（ホームワークの成果、ディスカッションなど）：50%
学期末の記述試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

これまでは主として文献講読と英作文（および添削）に時間を費やしてきましたが、本年度はさらにスピーチの機会もできるだけ多く設けたいと考えています。

【授業中に求められる学習活動】

C, D, G

HA335

開発教育

福田 紀子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた開発即ち社会のより良い変化に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の中で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解と、その解決の為に必要なスキルを「対立から学ぼう Conflict Resolution」のテキストから考えます。また、緊急事態における「人道支援」の基本的な概念やの国際基準のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した「価値観＝大切にしているもの」に近づきたいと思います。その背景や基本概念の理解のために汎用されている参加型アクティビティを経験し、実践する場も取り入れて、人権尊重の為に「参加」「学習」について考えます。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、平和／暴力、多文化主義、ジェンダー等、人間理解と共生に必要な思考と行動のスキルを自分の生き方／暮らし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会と、2～3名のチームでハンドブック（進め方ガイド）にある参加型学習のファシリテーターを実践する機会もあります。

授業は講義と参加型アクティビティ、学生の発表（ファシリテーション）を進めていきます。その中でのディスカッションは日本語で行います。テキスト他の情報から何を学んだのかを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation -Wants, Needs, Rights -Education as Human Rights -Participation & Empowerment Self-esteem & Communication	この授業の進め方 教育・学習・人権に関わる文書や文言を通してこの授業で捉えたい概念を概観します
2	Why Human Rights should be required? Humanitarian Response Cross Cutting Theme What is Conflict? Dimensions of Conflict	人権教育の4つの側面とその基本となる概念でありスキルである「自尊心」「コミュニケーション」について学びます
3	Peace Is... positive peace/ negative peace	人権を考えることがなぜ必要なのか？マイノリティとは？公正な場づくりに必要な視点を学びます
4	Responses to Conflict How I Respond to Conflict Basic Needs How I Meet My Basic Needs	課題解決の為に基本的なスキルとして「対立から学ぶ」思考と行動のスキルを理解します
5	Resources - Enough is Not Enough Different Values	対立解決に必要な「平和」と「暴力」の概念について学びます
6	What's Humanitarian Response?	対立に向き合うとどのようなものなのでしょうか。自分自身の経験も踏まえて、対立の背景にあるものを考えます
7		対立の背景にある要望、価値観について考え、お互いを尊重しあう解決の方向をさぐる基礎的なアプローチを知ります
8		人道支援とは何か？誰もが知っておきべき緊急時の支援のありかたについて考えます。

9	Humanitarian Response History & Background	人権に関わる世界の大きな流れを緊急時の人道支援活動のイメージ、課題提起から理解します。
10	Humanitarian Charter-The Body of the Sphere Project	スフィアの中心的理念、行動の根拠となる「人権憲章」「行動規範」から理解します。
11	Core Humanitarian Standard(CHS) Commitment1-2	スフィア基準が発展人道支援活動の指針 CHS から、人権に基づいた活動の公正さを考えます。
12	CHS Commitment3-4	支援は“可哀想な人を助ける”ものではありません。被害を受けた人々が持っている力を活かし、参画するための指針を学びます。
13	CHS Commitment5-6	支援を受ける人の声は「感謝」ばかりではありません。組織の効果的な働き、苦情や問題の指摘を受け止める能力について考えます。
14	CHS Commitment7-9	活動を通して、学び続けること、人道支援を行う側の人と組織に求められるものについて考えます。
15	participatory evaluation	この授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおくください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と発表の準備が必要となります。日常に起こる国際的な出来事や身近な社会の課題に関心をもち、授業の理解につなげて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。毎回教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

Conflict Resolution and Peer Mediation Soucebook
<https://www.irex.org/sites/default/files/Conflict%20Prevention%20and%20Peer%20Mediation%20Toolkit%209.12.13.pdf#search=Conflict+Resolution+and+Peer+Mediation+Sourcebook>
 The Sphere Project-Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response
<http://www.spherehandbook.org>
 Core Humanitarian Standard/ Guidance Notes and Indicators
<http://www.corehumanitarianstandard.org/files/files/CHS-Guidance-Notes-and-Indicators.pdf>
 Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)

『ワールドスタディーズ-教養学習方法ハンドブック』『人権教育ファシリテーターハンドブック（基礎編・発展編・実践編）』『参加型で考える12のもの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
 『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

出席と各回授業のふりかえりシート 35%
 個人／グループでの発表と成果物（模造紙作業やワークシート）35%、
 レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じる時もあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

【その他の重要事項】

災害時の支援としての「国際基準」は日本ではまだ医療や一部の国際協力 NGO 関係者の中で認識されている程度です。しかし、あらゆる活動にグローバルな文脈があり、影響があります。さまざまな不足や困難がある災害時という与えられた場で、公正で人権尊重に基づく行動を行おうとする意志に基づく指針や基準は、あらゆる公務活動、市民活動に求められ、応用できるものだと思います。「参加」も重要なテーマの一つであるこの授業では、分担した資料のプレゼンテーション、ファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【授業中に求められる学習活動について】

A,B,C,D,E,F,G,H

HA340

国際社会学

新藤 慶

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、在日ブラジル人をめぐる状況を、日本とブラジルの両国の視点から理解することで、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

本授業を通じて、在日ブラジル人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際社会学とは	国際社会学の考え方について概説する。
第2回	在日ブラジル人の増加と行政の対応	在日ブラジル人の増加の背景と行政の対応について概説する。
第3回	在日ブラジル人の労働と生活	在日ブラジル人の労働と生活の実態について講義する。
第4回	ブラジル系エスニック・ビジネスの展開	在日ブラジル人を対象としたエスニック・ビジネスについて講義する。
第5回	在日ブラジル人に対する地域住民の意識	在日ブラジル人に対する地域住民の意識について講義する。
第6回	在日ブラジル人と町内会活動	在日ブラジル人の集住地域における町内会の対応について講義する。
第7回	公立学校における在日ブラジル人教育	公立学校での在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第8回	ブラジル人学校における在日ブラジル人教育	ブラジル人学校における在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第9回	在日ブラジル人の保育	在日ブラジル人の子どもに対する保育について講義する。
第10回	ブラジル政府による教育支援	ブラジル政府による在日ブラジル人教育に対する支援について講義する。
第11回	大都市におけるデカセギの影響	ブラジルの大都市における日本へのデカセギの影響について講義する。
第12回	大都市近郊農村におけるデカセギの影響	ブラジルの大規模近郊農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第13回	僻地農村におけるデカセギの影響	ブラジルの僻地農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第14回	帰国児童生徒へのデカセギの影響	日本から帰国したブラジル人の子どもに対するデカセギの影響について講義する。
第15回	ブラジル人のトランスナショナルな移動と定住	ブラジル人のトランスナショナルな移動と定住の実態から、国際社会学への示唆について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会学的な関心を持ちながら生活することも重要となる。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

【参考書】

宮島喬ほか編、2015、『国際社会学』有斐閣。
小内透編、2009、『講座トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）、御茶の水書房。

【成績評価の方法と基準】

論述試験（70%）+毎回のリアクションペーパー（30%）

【学生の意見等からの気づき】

2016年度から開講する科目のため、授業改善アンケートのデータはないが、改善が必要な事項はリアクションペーパー等を通じて伝えていただければ、対応するようにしたい。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA229

西欧近代批判の思想

越部 良一

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の中心となる視点は、西洋近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判として把握することである。

【到達目標】

西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体の概観。
第2回	プラトンの思想Ⅰ	プラトンの魂と正義の考え方について。
第3回	プラトンの思想Ⅱ	プラトンの民衆制批判の考え方について。
第4回	聖書の思想	イエスにおける人間と神の関係について。
第5回	功利主義の思想	ベンサム、ミルの功利主義の基本的な考え方。
第6回	デカルトの思想Ⅰ	デカルトの「我思う、ゆえに我あり」等について。
第7回	デカルトの思想Ⅱ	デカルトの人間中心主義的な思考について。
第8回	ヘーゲルの思想Ⅰ	ヘーゲルにおける絶対者と人間精神の一致について。
第9回	ヘーゲルの思想Ⅱ	ヘーゲルの歴史観について。
第10回	マルクス主義の思想	マルクス主義の人間中心主義について。
第11回	キルケゴールの思想Ⅰ	キルケゴールのヘーゲル批判。
第12回	キルケゴールの思想Ⅱ	キルケゴールの現代批判。
第13回	ニーチェの思想Ⅰ	ニーチェのニヒリズム論について。
第14回	ニーチェの思想Ⅱ	ニーチェの大衆批判。
第15回	試験	筆記（論述）試験を行う予定である。定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等に注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末試験（60％くらい）によって成績を評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているのだから、学生諸君は、授業では取り上げないとはいえ、今の日本の思想状況と照らし合わせる視点を持つとよい。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）

HA229

仏教思想

関口 和男

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教のさまざまな思想を概観して、東洋的な考え方の特質をじっくり学び、それによって、わたしたちのものの見方を決定する思惟構造の相違を自覚する。

【到達目標】

インドの初期仏教思想の展開を手掛かりにして、西欧的思考法とは異なる東洋的な思考法を身につけることによって、自分を見直す力を養い、複眼的な視点を身につけ、身の回りの諸問題に対して様々なアプローチができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業計画にある通り、インド初期仏教の成立から密教への道程を中心に授業を行います。参加する学生諸君との質疑応答をできるだけ入れて、ユニークな講義形式をとっていくつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	仏教思想を学ぶ今日的意義	西洋的な思考とは全く異なる仏教の思想がもたらす新たな視点について考える。
第2回	初期仏教思想史の概観とゴータマ・ブッダの生涯	巷にあふれる誤った仏教史・仏教思想史を正し、初期インド仏教史を概観する。
第3回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅰ）四諦説	四諦（四つの真理）について学び、それらを「無明」という視点から総括する。
第4回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅱ）五蘊説	西洋的な主観や自我の観念との相違を明らかにする。
第5回	初期仏教の基本概念－苦・無我・無常－	アーガマ經典類が説く苦・無我・無常について考える。
第6回	説一切有部の教説の意義	いわゆる有部の思想を概観し、それが仏教思想史において果たした役割を考える。
第7回	大乘仏教の興起（Ⅰ）仏塔崇拜集団・アショカ王の事績	いわゆる大乘仏教とは、何かをその形成過程から考える。
第8回	大乘仏教の興起（Ⅱ）十方世界観の形成と諸仏・菩薩論	同上
第9回	大乘仏教の理論的展開（Ⅰ）中観の思想	ナーガルジュナの中観の思想を概観する。とくに、「空」の観念を徹底的に考える。
第10回	大乘仏教の理論的展開（Ⅱ）唯識の思想	唯識の内容とその現代性について考える。
第11回	大乘仏教の理論的展開（Ⅲ）如来蔵の思想	いわゆる大乘仏教の思想的な柱である「如来蔵」思想の意味と意義を明らかにする。
第12回	インド密教の形成とその特質	密教についての正しい理解のために、その形成過程を学ぶ。
第13回	チベット仏教の史的概観	チベット仏教とは、そもそも何か、史的側面から学ぶ。
第14回	チベット仏教の思想	チベット仏教の思想的特質を考える。
第15回	中国・日本の仏教の特質	とくに、日本の仏教とは何か、上記の講義を振り返りつつ考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今まで皆さんが、当たり前として受け取ってきた仏教行事や説法などを整理して、授業に臨むこと。新聞の文化思想芸術関係の記事を精読し、そこに現れてくる現代社会の精神的な病巣を認識しておくこと。

【テキスト（教科書）】

原則として用いません。

【参考書】

授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末に実施されるテストの結果によります。

【学生の意見等からの気づき】

もっと積極的に質問することを望みます。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）

HA231

日本詩歌の伝統

日原 傳

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」の実作を体験する機会も設ける予定である。

【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。
- ・主だった季語の季節を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設けて、日本の詩歌の作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にはほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	俳句と俳諧	俳句の約束事～定型・季語・切字、発句と俳句／実作（俳句）
第2回	季語と季題	歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切字と取り合わせ	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」、俳句と川柳／実作（俳句）
第4回	俳句の表記法・俳句の読み方	「旧仮名遣い」について、俳句を読むということ／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第6回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第7回	「吟行」について	吟行という作句法／実作（俳句）
第8回	川柳と俳句	川柳と俳句の違い／実作（俳句）
第9回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌）
第10回	正岡子規の俳句革新	『俳諧大要』より、「写生」について／実作（俳句）
第11回	高濱虚子とその弟子たち	鑑賞（ホトトギスの俳人たち）／実作（俳句）
第12回	自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句	鑑賞（自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句）／実作（俳句）
第13回	前衛俳句・現代俳句	鑑賞（前衛俳句・現代俳句）／実作（俳句）
第14回	国際俳句	鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）
第15回	青春俳句	鑑賞（青春俳句）／実作（俳句）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自作の俳句（毎回3句ほど）を作り、持参する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）

山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）

平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）

藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）

片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）

日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）

佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）

Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）

馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）

岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・提出作品）と最終レポートによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作を素材とし、どう推敲したらよいか一緒に考える時間を多くとりたい。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）

HA230

日本美術史論

豊田 和乎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本美術史全体の流れを念頭におきつつ、その中で特に近代日本画に焦点をあわせる。各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画壇の発展の歴史をたどり、近代日本画の美術史的な意義を考察するとともに、絵画に対する読解力を養う。「日本画」という、時代的、地域的に極めて限定的な絵画のジャンルが、日本美術史上どのような意義を持っているのかということ、人々の暮らしおよび社会との関係を考慮にいれつつ考察していく。

【到達目標】

史料講読などを通じて、近代日本画に関するさまざまな用語の意味を理解し、その発展の歴史に関する基礎的知識を身につけることを目指す。さらに、講義でとりあげる絵画に関する意見を表現するトレーニング（アンケート方式、数回程度実施予定）などを通して、近代日本画の読解力を養うことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ～古代、中世	本講義の導入として、日本の絵画史の全体像を概観する。その前半として、古代、中世の日本絵画史を概観する。
第2回	日本美術のながれ～中世、近世	前回に引き続き、日本絵画史の全体像を概観する。その後半として、中世、近世の日本絵画史を概観する。
第3回	日本美術の一系譜としての近代日本画	本講義の導入として、日本美術史の中で、近代日本画の占める位置、特質や概略を学習する。
第4回	近代日本画のすがた、かたち	作品制作の際に用いられる材料や、作品の装丁方法など、近代日本画作品についての基礎的知識を共有する。
第5回	近代日本画のイメージ	文化勲章を受章した近代日本画家や、重要文化財に指定された近代日本画作品を通して、現在実際に近代日本画がどのように評価されているかを概観する。
第6回	近代日本画の誕生	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第7回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第8回	東京美術学校の開校	東京美術学校開校前後の画壇の状況を概観する。
第9回	近代日本画壇の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第10回	近代日本画壇の勢力～京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第11回	大正期の日本画壇～概観	大正期の近代日本画壇の状況を概観し、その意義について考察する。
第12回	大正期の日本画壇～再興院展と法政大学	日本美術院の再興に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第13回	大正期の日本画壇～金鈴社と国画創作協会	金鈴社と国画創作協会に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第14回	大正期の日本画壇～文、帝展の佳作	大正期の官展について、帝国美術院の創設と帝展の開催について概観する。

第15回 近代日本画の意義／まとめ これまでの講義の内容を振り返りながら、まとめとして、日本美術史における近代日本画の意義を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

【テキスト（教科書）】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中中佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のなごれー 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験期間中）の成績による。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説する力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

【学生の意見等からの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

【その他の重要事項】

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。

・旧科目名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）

HA230

西洋美術史論

鶴飼 敦子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス工芸とジャポニスム「日本的なるもの」はどのようにつくられ、受容されたのか

19世紀から現代までの美術工芸史を概観し、博覧会での展示意義について考察することにより、「日本」イメージの受容、変遷がどのようなものであったかを学びます。

【到達目標】

近年、日本のから発信されたマンガやアニメ、食文化やファッションなどが海外で大きな注目を集めています。こうした海外での日本の物事に対する高い関心は、19世紀半ばの日本の開国直後にも、ジャポニスムという形をとって存在していました。この時期、日本では急速な「西洋化」が進められ、自国の文化を失いつつありました。その一方で日本の国外で「日本的なるもの」に幻想をいだき、それらを自分の作品にとりいれようと試みる芸術家たちがいました。とりわけ、日本の美術工芸品は、欧米で大きな注目を集めました。このような事象を比較文化の手法で見ることによって、一方的な文化の影響論や、盲目的な「日本文化」の礼讃論にかたよることなく、異文化交流の背景を解明することが目標です。

本講義ではまず、19世紀末から現代までの美術工芸史の動きと万国博覧会の日本美術の展示を学ぶことにより、「ジャポニスム」ブームについて検討します。後半では、エミール・ガレやルネ・ラリックなどの個々の芸術家とその作品を見ることによって、ジャポニスム後に流行した様式であるアール・ヌーヴォー、アール・デコなどのデザイン史の背景を学びます。そして、このふたりの芸術家が残した言葉から、日本とフランス工芸のかかわりについて分析し、「日本の美術」がどのように受け止められ、つくられた「日本」のイメージが広がっていったのか、また「ジャポニスム」がいくつかの美術様式の選択肢のひとつにすぎなかったことを確認します。最後に、ネオ・ジャポニスムともよべる、現代の工芸におけるジャポニスムを検討することにより、異文化交流の「影響」の方向性が一方方向ではなく、双方向に作用していることを確認することにより、ひとつの事象を多角的に見て、考え、意見を述べるができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用して、作品のスライドや映像資料を用いながら、講義形式で授業を進めます。授業のポイントとなる箇所などは、簡条書きにしてスライドで提示しますが、プリント等は配布しません。重要な内容は口頭で伝えることが多いので、各自ノートにまとめるようにしてください。また、授業の最後に、講義内容を踏まえたリアクションペーパーを随時書いて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業計画と用語の説明、問題点の提示	15回の授業内容の概略紹介、頻出する美術様式用語を解説
第2回	万国博覧会と美術展示①	博覧会の成り立ち説明、現代から19世紀までの博覧会と美術展示の関わりを分析
第3回	万国博覧会と美術展示②	万博での美術展示による「日本イメージ」の変遷を確認
第4回	万国博覧会における「日本美術」の展示	ロンドン、パリ、ウィーンにおける万博で展示された日本の美術品を
第5回	日本の輸出工芸品とその受容	明治期に日本からヨーロッパに渡った美術品がどのように評されたのかを分析
第6回	ジャポニスム・ブーム	ジャポニスム現象の背景とジャポニスム研究について解説
第7回	工芸のジャポニスム	日本から輸出された「美術」と西洋の工芸に現れる「日本」イメージの差異を確認
第8回	ジャポニスム流行後①	アール・ヌーヴォーのデザイン史の解説と作品分析
第9回	ジャポニスム流行後②	アール・デコのデザイン史の解説と作品分析
第10回	アール・ヌーヴォーとアール・デコ	異なるふたつの様式の対比と工芸における表現方法を比較
第11回	フランス工芸①	エミール・ガレのガラス工芸作品と制作現場

第12回	フランス工芸②	エミール・ガレの言辞にあらわれる「日本」と「東洋」
第13回	フランス工芸③	ルネ・ラリックの宝飾デザインとアール・ヌーヴォー、アール・デコ
第14回	フランス工芸④	ルネ・ラリックの作品と日本との関わり
第15回	ネオ・ジャポニスム	現代の工芸におけるジャポニスムとその意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前に参考書に目を通しておいください。授業中、美術作品のスライドを提示しますが、実物の美術作品を鑑賞してほしいので、各自、実際に美術博物館やギャラリーなどに足を運ぶ時間をつくってください。宿題は課しませんが、リアクションペーパーや期末試験には作品に触れた体験に関する報告も必要となるので留意してください。

【テキスト（教科書）】

毎回授業で使用する教科書はありません。

【参考書】

吉見俊哉『博覧会の政治学—まなざしの近代』講談社学術文庫、2010年
佐野真由子『オールコックの江戸—初代英国公使が見た幕末日本』中央公論新社、2003年
ジャポニスム学会編『ジャポニスム入門』思文閣出版、2000年
馬淵明子『ジャポニスム 新版—幻想の日本』ブリュッケ、2015年
その他、授業中にも関連する参考文献、展覧会図録などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（30%）出席点および授業への取り組み（20%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）

HA229

生命の現在と倫理

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「生きること」「いのち」を最優先のキーワードとして成立する生命倫理学を中心に据えて展開する。そこで、「ただ生きること」と「よく生きること」の乖離が、先鋭なかたちで顕著になりつつある現代社会の現状（遺伝子操作・脳死・安楽死・生殖補助医療技術など）に対して、プラトンの生命論という原理的地平から考察する。現代倫理学の基本的概念（人格・自律・自己決定・ケア）の論議を素材にして「主体的に生きるとは、いかなることか」を学ぶ。

【到達目標】

生命倫理学における基礎的概念を正しく理解し、自分でも使えるようにする。インフォームド・コンセント、クオリティ・オブ・ライフ、出生前診断、生殖補助医療について技術面、法律面における現状を正しく理解する。そしてそれらがいかなる倫理的問題を含んでいるかを把握する。その上でその問題を受講生は、自らの問題として考え、判断し、その結論をどのように実行するかといった能力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に「いのち」とは、どのようなものなのかを、プラトンの生命観から原理的考察をします。その上で bio(生命)ethics(倫理学)の成立と歴史を学ぶことにします。その後は、生命倫理学で取り扱う問題群を、個別に授業計画に沿って講義します。

この分野の技術革新は日進月歩で進むので、その都度、資料をプリントして配布し、VTR・DVD・NIE などを用いて学ぶことにします。人数によってはグループで議論を、また大教室の場合は意見の記述(レポート)を実施します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と学び方
第2回	「生命とは何か」	プラトンの生命観から遡源
第3回	「bioethicsの歴史」	米国における bioethics の成立と日本への輸入と現状
第4回	「健康と病気」	健康の定義をめぐる議論と病気の定義をめぐる議論
第5回	「エイジング」	高齢者介護の問題
第6回	「高齢社会と生命の質」	クオリティ・オブ・ライフとサンクティティ・オブ・ライフ
第7回	「パーソン(人格)論」	パーソン論の内容とそれに伴う問題点
第8回	「自己決定権の限界」	インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
第9回	「自律(autonomy)の倫理」	自律と弱いパターナリズムの共存の可能性
第10回	「生殖補助医療技術をめぐる倫理的問題」	生殖補助医療技術の原則とは何か
第11回	「脳死と臓器移植」	臓器移植の現実的諸問題
第12回	「積極的安楽死と消極的安楽死」	安楽死の分類と治療停止問題
第13回	「ケアの倫理」	ターミナル・ケアの現実とその意味
第14回	「生命倫理学の課題」	その現状とそれへの要請
第15回	期末試験	論述試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業では、今、現実社会で起きている生命倫理問題を提題して、受講者一人ひとりがどのように対処すべきかを自分で考える必要があります。そのためさまざまな事例研究の課題を出すので、そのレポートの提出が義務づけられます。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。講義時に資料プリントを配布します。

【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも8回以上が必要です。試験は、期末試験を1回、レポートは、1～2回を課します。平常点で30%、期末試験で50%、レポートで20%、それぞれの配点を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

【関連の深いコース】

人間文化コース(環境文化創造コース)

HA229

環境倫理学

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代倫理学の基本的な学説の流れを学ぶ。そこで環境倫理学が、どの立場に立脚しているかを明らかにする。そして環境倫理思想がどのように成立し、発展していったのかを、さまざまな思想家の環境倫理思想を取り上げて検証する。

【到達目標】

さまざまな環境倫理学の思想内容や立場を理解することによって、偏在した一方的な環境倫理思想に捕らわれることなく、広範で総合的な環境倫理思想の視野を形成し、環境倫理を考える上での理論的支柱の陶冶をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境倫理学は、「人間中心主義と人間非中心主義」という二項対立図式のなかで成立した。そして人間中心主義からの脱却と人間非中心主義の主張とその検討により、人間以外の生命（生物）や生態系に対する配慮とそれらの権利（自然権）付与へと議論が展開する。この授業では、環境倫理思想の歴史を学び、その学説史の把握に努める。その基盤に立ち環境倫理をダイナミックに広範に捕えて、新たな「環境倫理」を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学的な倫理学について学ぶ	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学の概要
第2回	持続可能な社会を迫る環境倫理学	環境倫理学の基本概念
第3回	人間中心主義の立場に立つ環境倫理学	自然保護から環境主義へ
第4回	人間中心主義克服の潮流	人間非中心主義の環境倫理
第5回	パトス中心主義	自然中心主義における感覚・感受性の意義
第6回	生命中心主義	あらゆる生命の内在的価値とそれへの倫理的配慮
第7回	生態系中心主義	生態系全体の道徳的価値の保護
第8回	環境プラグマティズム	環境倫理の実践的な公共哲学への志向
第9回	環境正義の思想	環境正義による公平な分配と社会的弱者の救済
第10回	環境倫理における動物解放論	シンガーとレーガンの「動物の権利」論
第11回	土地倫理	レオポルドの「土地倫理」思想における全体主義
第12回	ディープ・エコロジー	生命圏の中の全生命体平等主義の思想
第13回	エコフェミニズム	「リベラル・カルチュラル・ソーシャル・ソーシャリスト」のエコフェミニズムの思想
第14回	道徳的多元論と道徳的一元論	価値一元論と価値多元論の対立点とその批判根拠
第15回	現代環境倫理は何をめざすべきか	エコロジー的な持続可能な環境社会システムの構築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で取り扱う環境倫理思想の基本文献を授業時に提示します。それを読み込んでおくことが、必要です。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義時に適宜、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも8回以上が必要です。試験は、期末試験を1回、レポートは、1～2回を課します。平常点で30%、期末試験で50%、レポートで20%、それぞれの配点を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）

HA329

環境哲学基礎論

関口 和男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境哲学基礎論の授業の目指すところは、文字通り、環境について基本的なことを哲学すること、環境問題や日常生活の中であまりに当たり前すぎて疑問に感じないことに目を向けて、批判的に考え抜くことである。

【到達目標】

現実の環境問題なるものは、その強い倫理的要請のゆえに、環境そのものについて考え抜くことをなかなか許さない状況にある。だがこのままでは、3・11以降の社会の現状に対応することができず、環境に関する論議はいつまでたっても、うわべだけの皮相的なものにとどまらざるを得ないと思われる。そこで当講義では、あえて環境政策的思考を避けて、環境そのものを徹底的に考え、そこに何を発見することができるのか、受講生の諸君と体験していきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

内容が哲学的なもので、できるだけゆっくりと優しく、双方向的な質疑応答を重視するので、一方的な講義にはしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現在の環境問題のおかれている思想状況について	3・11以降の環境運動の在るべき姿とは何かを考える意味を明確にする
第2回	「考える・哲学する」とはどのようなことか。	思惟・判断・行為について説明し、「考える」ことの重要性を理解する。
第3回	環境哲学とは何か。	従来の様々な環境思想の長所・短所を明らかにし、これからの環境哲学の意味を明かにする。
第4回	基礎作業Ⅰ 意識と環境①	まず、環境という観念は何を意味するのかを考える。
第5回	基礎作業Ⅰ 意識と環境②	環境という意識が、どのように「わたし」に出来るか、そのプロセスを考える。
第6回	基礎作業Ⅰ 意識と環境③	同上
第7回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界①	環境という観念の持つ空間性とは何かを考える。
第8回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界②	仮想実在性という観念を通じて、環境世界の世界性を明らかにする
第9回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界①	人間存在を根源的に規定する時間意識について考える。
第10回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界②	時間意識と環境世界との関係を、哲学的な観点から考える。
第11回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界①	共同体と環境世界との関係を考える。
第12回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界②	共同体とは何か。
第13回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界③	共同体の正義と環境世界の正義と相異性について、昨今の「正義論」を参考にしつつ考える。
第14回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題①	なぜ、いま、環境哲学なのか、という視点から諸問題を抽出する
第15回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題②	同上
第15回	総括：環境とは何か。	人間環境学における環境哲学の位置について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に重要なのは、新聞の政治・経済・国際面を毎日読んでおくこと。そのほか、哲学史関係の本を読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。毎回、プリントを配布します。

【参考書】

講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末のテストによる。

【学生の意見等からの気づき】

質問はなるべく、授業時間中にするように。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）

HA333

日本環境史論 I

根崎 光男

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近世日本の人間社会と自然環境

近世日本の人間と自然との関係を歴史的に問うだけでなく、人間が自然と交流してきた歴史的産物としての環境についても学んでいく。このため、環境の歴史を見出すためのノウハウを学び、環境問題解決の歴史的知見を身につけることを目的とする。

【到達目標】

この講義を通して、日本の環境史を理解するのに必要なさまざまな学習スキルを習得し、また歴史資料の読解・分析を通じて歴史事実を論理的に組み立てる思考力を養うことができる。これにより、現在の環境問題解決に資する歴史的教養を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	歴史学と自然・環境	自然・環境の歴史的な位置づけを学ぶ
第2回	人間の暮らしと山林利用	人間の暮らしと山林利用の相互関係を学ぶ
第3回	山林荒廃と人間社会への影響	近世社会の山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第4回	環境思想と自然	近世の環境思想を山林荒廃の論理から学ぶ
第5回	幕府・諸藩の山林保護政策	幕府・諸藩による山林保護政策を学び、その地域性を理解する
第6回	山林保護と地域慣行	各地域で培われた山林保護慣行の多様性を学ぶ
第7回	植林政策の諸相と問題点	各地域で実践された植林政策の歴史の多様性を学ぶ
第8回	共有資源の所有と利用	山野河海の利用をめぐる争論の地域慣行と幕府の裁定方針を学ぶ
第9回	山野河海の入会慣行	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質を学ぶ
第10回	狩猟と幕府の環境保全政策	幕府の鷹場環境保全政策と地域社会との関係を学ぶ
第11回	狩猟と地域社会	鷹狩りにみられる鳥類保護の諸相を地域事例を通して学ぶ
第12回	鳥獣害対策と地域社会	地域の鳥獣被害対策と「鳥獣成し」の実態を学ぶ
第13回	人間と鳥獣との共生関係	人間と鳥獣との多様な関係性から共生のあり方を学ぶ
第14回	公害の発生とその種類	近世社会で生じた公害の多様性とその発生要因を学ぶ
第15回	公害と地域社会	領土の公害対策と公害訴訟における補償のあり方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの史料を事前に読んでおくこと。

テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA333

日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境について

江戸町の拡大によって生じた都市・環境問題を歴史的に把握しながら、その問題解決の取り組みを検証し、江戸の都市環境についての理解を深める。このため、環境の歴史を見出すためのノウハウを学び、環境問題解決の歴史的知見を身につけることを目的とする。

【到達目標】

この講義では、日本の環境史を理解するために必要なさまざまな学習スキルを習得し、また歴史資料の読解・分析を通じて歴史事実を論理的に組み立てる思考力を養うことができる。これにより、現在の環境問題解決に資する歴史的教養を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	江戸の都市環境を学ぶにあたって	江戸の町の歴史の基礎とその特質を学ぶ
第2回	将軍の城下町・江戸の都市化	江戸の町の都市化を開発・人口増大などの環境変化から学ぶ
第3回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を環境思想などの視点から学ぶ
第4回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特質、および問題点を学ぶ
第5回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営と地域コミュニティのありようを学ぶ
第6回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史的変遷を通して身分差別のありようを学ぶ
第7回	市民生活と衣食環境	衣食のありようやそれを支えた江戸周辺地域との関係性を学ぶ
第8回	物直し産業の発達	物直し産業の業態と同業組織の特質について学ぶ
第9回	物直し産業の発達要因と歴史的評価	物直し産業の発達要因とその歴史的評価を学ぶ
第10回	ゴミ問題の発生とその対策	ゴミ問題の発生と住民生活との関係について学ぶ
第11回	ゴミ処理システムの運用と課題	幕府のゴミ対策とゴミ処理システムの運用を学ぶ
第12回	火災と消防組織	江戸の火災と幕府・町方の消防組織のあり方を学ぶ
第13回	火災と防災対策	江戸町方における消防組織と多様な防災対策について学ぶ
第14回	信仰・娯楽と行動文化	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を行動文化の視点から学ぶ
第15回	幕府の園地政策と江戸の名所	幕府の園地政策と江戸の名所の関係性を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んでおくこと。

テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

『環境』都市の真実（根崎光男著、講談社＋a新書電子版、2008年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がける。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA333

ヨーロッパ環境史論 I

辻 英史

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ都市の環境史

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的發展を、その景観、住民の生活世界や、自然環境との関係などから理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、空間・緑・防災・衛生という4つの観点から、特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第2回	<都市と空間>その1 中世都市	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第3回	<都市と空間>その2 近世都市	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第4回	<都市と空間>その3 都市計画と近代都市	19世紀を迎えて国家権力の主導する大規模な都市改造/拡大の事業が各国でおこなわれた。
第5回	<都市と空間>その4 現代都市の変容	20世紀前半から後半へ、都市景観をめぐる考え方の変化と、生活空間の変化を関連づける。
第6回	<都市と緑>その1 都市と公園	都市と公園 都市の中に管理された自然を作り出す試みについて、その思想や実践の歴史を探る。
第7回	<都市と緑>その2 都市と食	都市と食 人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかんして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第8回	<都市と緑>その3 都市と観光	都市と観光 19世紀から都市住民の余暇活動は観光という形で都市の外に向けられた。新たに成立した都市と外部の自然との関係を論じる。
第9回	<都市と防災>その1 都市を襲った災害	都市を襲った災害 火災や地震といった災害は、いかに都市を破壊したのか、そこからどのように復興がおこなわれたのか。そしてそこから引き出された教訓とは。
第10回	<都市と防災>その2 警察・消防の歴史	警察・消防の歴史 災害から都市をどのようにして守るのか。その思想と組織の発展を、担い手である都市住民の変化と関連づけて論じる。
第11回	<都市と防災>その3 空襲の脅威	空襲の脅威 20世紀を迎え、主として航空機の発達により戦争は新たな次元を迎える。新たな空中からの脅威に都市はどのように対応しようとしたのか。
第12回	<都市と衛生>その1 都市と上下水道の発達	都市と上下水道の発達 上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水と都市の関わり方の歴史。
第13回	<都市と衛生>その2 都市と河川	都市と河川 河川の近くに立地し、それと密接な関わりを保った都市は多い。橋や運河、河川交通といった水運の面から都市を考える。
第14回	<都市と衛生>その3 都市と海	都市と海 海辺に位置し、港を持つ町は、内陸の都市に比べて特殊な発展を遂げた。そうした港町や港湾都市を舞台として、遠距離交通の歴史を考える。

第 15 回 まとめ 都市史と環境史 環境という視点が歴史研究にもたらすものは何かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布する。

【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA333

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀の後半以降、われわれの生きる世界の理想的なあり方として「サステナビリティ（持続可能性）」という概念が取り上げられるようになってきている。環境、経済、政治、文化のそれぞれの分野において「持続可能な発展」は、どのようにしたら可能になるのか、真剣な議論が積み重ねられてきている。われわれは「サステナビリティ」というパラダイム（認識の枠組み）のなかに生きていっていると言っても過言ではない。

この新しい、現代的な「サステナビリティ」というパラダイムは、過去の歴史的な世界を考える際にどのように応用することが出来るのであろうか。その当時には存在しなかった概念や価値観で過去の出来事を分析し評価することは、しばしば表面的で独善的な解釈を引き出す危険がある。それでもなお、われわれは過去の世界の歴史から、現代の「サステナビリティ」に対して教訓や警告を引き出すことは出来ないのだろうか。この講義は、歴史学研究の側からのサステナビリティ研究についての応答である。

【到達目標】

1920-30 年代のヨーロッパ——「サステナブルな世界」の作り方を学ぶ
本講義では、1920-30 年代のヨーロッパを題材に、「サステナブルな世界」をつくるための努力が、どのようになされ、どのように失敗に終わったかを、検証する。第一次世界大戦を経験した後のこの時代は、戦争中から戦後にかけての社会の大きな変動をふまえて、新しい体制をつくりあげ、それを安定化しようとするさまざまな試みがなされた時期であった。こうした試みは、世界大恐慌による経済的混乱とファシズムの勃興、そして第二次世界大戦というさらに大きな戦争に帰結してしまった。この失敗の過程を再検証し反省することを通じて、われわれの時代の「サステナブルな世界」についての理解を深めることがこの講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

全体の概観をおこなったあと、「政治体制のサステナビリティ」、「経済と社会のサステナビリティ」、「文化のサステナビリティ」、「共同体のサステナビリティ」の 4 つの観点から、個別の事例を分析・紹介していく。
毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 「サステナブルな世界」とは？	「サステナビリティ（持続可能性）」についての考え方を紹介し、その歴史学研究への応用可能性と問題点について考える。
第 2 回	第一次世界大戦後のヨーロッパ世界	大戦の結果出現した新興独立国をはじめ諸国の状況を概観する。
第 3 回	第一次世界大戦後のヨーロッパ社会	大戦は戦勝国・敗戦国を問わず社会のあり方を大きく変えた。その一般的特徴を概観する。
第 4 回	戦勝国の国内政治体制	戦勝国であったイギリスやフランス、イタリアにおいて、戦前の体制への復帰はいかにすすめられたか、その内容を検証する。
第 5 回	敗戦国の国内政治体制	敗戦国のドイツやオーストリアでは政治体制は新体制のもと再出発した。その道のりはどのようなものであったか。
第 6 回	新興独立国の諸問題	ポーランド、ハンガリー、ユーゴスラヴィアなど東欧の新興独立国家群が抱えた国内外の課題を検証する。
第 7 回	大戦後の国際秩序	戦勝国を中心に新たな国際秩序の構築を目指したヴェルサイユ体制の目指したものと、その問題点および修正の試みについて。
第 8 回	社会主義という選択肢	史上初の社会主義国家ソ連の誕生と発展の状況を紹介します。政治が安定せず経済の混乱が続くヨーロッパ諸国に、ソ連の存在と社会主義運動がどのような影響を与えたかを論じる。

発行日：2021/6/1

- 第9回 ファシズムの登場 イタリア、ドイツ、スペインなど、各国で自由主義・民主主義を否定する政治経済体制が出現してきた過程を明らかにする。
- 第10回 世界大恐慌とその対応 戦争直後の混乱を克服し、戦前の繁栄を取り戻そうとする各国の取り組みは、しかし1929年世界大恐慌により大きな打撃を受けた。
- 第11回 消費社会と前衛芸術 1920年代のヨーロッパの社会と文化の状況をとくに前衛芸術運動の展開に注目しつつ分析する。
- 第12回 ヨーロッパ文明衰退への危機感と再生の試み 大戦のもう一つの帰結として、知識人の間にヨーロッパ文明の未来についての悲観的な見方が広がったことが挙げられる。この危機感と、そこから出現してきた社会改革の提案を紹介する。
- 第13回 国民国家内部の統合の問題 新興独立国家では、しばしば強引な国民統合政策がおこなわれ、少数民族のあつかいをめぐって事態は紛糾した。
- 第14回 植民地支配の動揺 大戦は本国と植民地の関係にも変化をもたらし、独立への欲求が強まった。これに本国はどのように対応したか。
- 第15回 戦争への道 1930年代末にはヨーロッパ世界は緊張が深まり、戦争の危険が迫っていた。危機の回避はなぜ失敗におわったのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布する。

【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA235

環境人類学Ⅰ

高橋 五月

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅰでは、人間と自然の関係について探求してきた国内外の人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学ぶ。また、環境人類学的アプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深める。

【到達目標】

本講義では、身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介する。
第3回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介する。
第4回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学に考察する研究を紹介する。
第5回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介する。
第6回	狩猟採集文化	狩猟と採集という文化を通して人間と環境の関係について講義する。
第7回	中間試験	筆記での中間試験を行う。
第8回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第9回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義する。
第10回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義する。
第11回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第12回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第13回	環境思想と運動	環境思想と環境運動から見た人間と環境の関係について講義する。
第14回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義する。
第15回	期末試験	筆記による期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社
その他、第一回目の授業で指示します。

【参考書】

同上。

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA335

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱでは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と人類学的アプローチをもとに講義し、議論する。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、生徒が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する
第2回	サステナビリティとは？（1）	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義する
第3回	サステナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？これまで実行された方策とその課題について講義する
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論する
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論する
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論する
第7回	中間試験	筆記の中間試験を行う
第8回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論する
第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論する
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第11回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論する
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論する
第14回	地球の未来	時間の人類学と環境人類学の接点について、地球環境の未来像について講義・議論する
第15回	期末試験	筆記による期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

資料を配付する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA328

環境表象論 I

概 裕 史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。「文化的景観」は、もとは手付かずの「自然景観」に対して、人間の暮らしが創った地表のすがたを指す地理学用語です。1990年代、ユネスコがこれに新たな意味づけをして世界遺産の登録基準として採用して以来、エコな地域形成に資する概念として注目が高まっています。典型的には「自然と人間の共同作品」といえるような農林水産業の景観などを思い浮かべるとよいですが、手付かずの自然であっても、古来、宗教上の聖地として自然が守られてきた場所、古典文芸の「名所」として大事にされてきた場所の眺めなどは、人間が意志的に守ってきた「文化的景観」とみなします。また、都市や鉱工業・交通に関する景観も含まれます。そして「景観」の構成要素は可視の有形物に限定されません。「無形」の要素や「五感」で感受される要素も含まれ、このような「目に見えない部分」が価値の本質となる場合が多いことに特色があるといえます。「景観」とは、本質的には見た目ではなく、心の中に結ばれる像である、ということを知り、持続可能性豊かな「景観」とはどのようなものなのか、を考えるのに「文化的景観」は好適です。

【到達目標】

- ・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方は一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。
- ・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながるが多いということに気付くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPT や OHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	「文化的景観」導入の経緯	「自然遺産」「文化遺産」のはざま
第 4 回	ユネスコによる「文化的景観」の定義・内容	「環境」、持続可能性重視の新視点
第 5 回	日本の対応	「文化財保護法」の新文化財として導入の経緯
第 6 回	「文化的景観」保全の多面的効用	文化庁種別Ⅰ類（農林漁業の持続可能性豊かな土地利用の景観）を例として「センス・オブ・プレイス」も併せて
第 7 回	「景観」・「風景」・「原風景」	
第 8 回	近江八幡から学ぶべきこと	国内の新文化財「重要文化的景観」第 1 号
第 9 回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（1）	宗教・信仰の聖地として守られてきた場所
第 10 回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（2）	古典文芸の“名所”として守られてきた場
第 11 回	Ⅱ類の拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創る／心の中のイメージの重要性 など
第 12 回	生きて変化する文化財として（1）	「五感」で体感される周期変化。日本人が季節感覚豊かな理由とその価値
第 13 回	生きて変化する文化財として（2）	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観。四万十川や沖縄県竹富島を事例に
第 14 回	「伝統」継承のための階層的発想	「無形」の文化尊重の潮流とも関連づけて
第 15 回	無形文化尊重の潮流／概念発展の可能性	視覚のみから「五感」へ／鉱工業や都市の産業・生活に関わる景観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】

概裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第 5 章、ミネルヴァ書房、2012）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり。授業の初回または 2 回目に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配布します。このプリントの内容を守れない人は成績に響くでしょう。

【学生の意見等からの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して（当然ながら）雰囲気が悪くなる場合があります。しかし大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。また、「雑談」「余談」的なくだけた話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストだと思います。

また、写真等をたくさんお見せしますが、専用の時間を設けるというかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見ると、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・日本の伝統文化をサステナビリティの視点から見直すことや、エコリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。
- ・旧科目名称「環境表象論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）

HA328

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できること。

・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であることを）理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「文化的景観」については、「環境表象論Ⅰ」のシラバス参照。表象論Ⅰと連続性が強いので、まずその概要の復習から入り、その後は便宜的に世間一般の五分類に沿って、項目を設けます。授業計画各回のテーマは視覚・聴覚中心にみえますが、特に「音風景」の中で嗅覚・触覚・味覚の話題も盛り込んでゆきます。「五感」はふつうは本人がリアルタイムに実体験する感覚を指し、これによる表象は「知覚表象」「感覚表象」と呼ばれますが、持続可能な地域づくりには、「記憶表象」「想像表象」と呼ばれる類で、かつ個人を超えた地域の集団的な心意に関わるものが重要と考えて、クローズアップしてゆきます。そしてその資料として、日本の伝統的な文学や民間伝承を紹介する時間も多くとる予定です。

授業の形式は、ふつうの講義形式。表象論Ⅰ同様、現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、Ⅰに引き続き、視覚的画像をみることがメインではなく、むしろ春学期以上に「目に見えないもの」を重視した内容になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション： 「五感」のエコロジーと文 化的景観	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて
第2回	日本の「いろ」の話（1）	日本文化における色彩、配色の特色
第3回	日本の「いろ」の話（2）	日本文化における「色づかい」の二面性
第4回	日本の「いろ」の話（3）	3回のまとめ。日本人にとって「いろ」とは何か
第5回	光と影・闇（1）	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第6回	光と影・闇（2）	「エコ」の視点からの陰翳・闇の魅力と重要性
第7回	音の風景とは何か	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（1）
第8回	日本人の「風景を聴く」 伝統	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（2）
第9回	環境省「残したい日本の 音風景100選」を窓口に （1）	「自然」の音風景の具体例
第10回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に（2）	生き物に関わる音風景の具体例
第11回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に（3）	生業や交通などに関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第12回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に（4）	伝統祭事に関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第13回	方言をめぐる（1）	音風景の一種として、地域文化の核である地域のことばに注目
第14回	方言をめぐる（2）	同上
第15回	まとめ	「文化的景観」の中身の把握やその活用に、五感の視点が重要であることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】

環境表象論Ⅰに同じ。

【成績評価の方法と基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり。（授業の初回または2回目に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配ります。このプリントの内容が守れない場合は、成績に響くでしょう。）

【学生の意見等からの気づき】

授業環境については、環境表象論Ⅰとはほぼ同様です。

昨年度は、春学期の「表象論Ⅰ」の授業が予定通り進まず、Ⅰのシラバス終盤の内容を「表象論Ⅱ」に持ち越したため、特に前半がシラバスとは異なる内容になったことが反省点です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA253

サイエンスカフェⅠ

石井 利典

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習からはじめます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学もできるだけ授業に取り入れてゆきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1章 物質を構成するミクロな世界	原子の構造と性質
第2回	第2章 ミクロな世界から日常世界へ	化学結合と分子間力
第3回	第3章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第4回	第4章 反応の進行をきめるもの（1）	活性化エネルギーと反応速度
第5回	第4章 反応の進行をきめるもの（2）	化学平衡
第6回	第5章 酸と塩基	酸塩基反応
第7回	第5章 酸化と還元	酸化還元反応
第8回	第6章 有機化学の基礎	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第9回	第6章 有機化学反応のしくみ	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第10回	第7章 油脂	脂肪酸の種類、油脂の分類
第11回	第8章 糖類（1）	単糖類の構造と性質
第12回	第9章 糖類（2）	二糖類、多糖類の構造と性質
第13回	第10章 タンパク質（1）	アミノ酸の種類、アミノ酸水溶液の電離平衡
第14回	第10章 タンパク質（2）	タンパク質の種類と立体構造
第15回	第11章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最初の10分間程度は、前回授業の確認テストを行います。前回分の授業内容を配布したプリント類、ノートで必ず確認してください。欠席者は授業支援システムにログインして、その日に配布したプリント類を各自ダウンロードしてください。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布します。授業で取り扱ったすべてのプリント類は、授業支援システムからダウンロードできます。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業時に実施する確認テスト（10分間程度）（50%）と期末試験（50%）の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度は前年度と担当者が異なります。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA267

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。
第3回	血液について	ビデオ鑑賞 血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。心臓について。血管について。
第6回	消化器（1）	循環器系の病気。消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸
第7回	消化器（2）	消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞 肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について 生殖の仕組み ビデオ鑑賞
第10回	生殖	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第11回	神経	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚
第12回	感覚・知覚	視覚について ビデオ鑑賞
第13回	感覚・知覚	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞
第14回	発達	授業内試験
第15回	試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を行う。持ち込みは不可。

【学生の意見等からの気づき】

本シラバス作成時点では 2014 年度のアンケート結果を受領していないため、受領後にアンケート結果を反映させた授業改善を行うものとする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA268

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係を理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、生き物を中心とした自然の仕組みについて基本的な知識を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②様々な生態系の特徴と仕組み

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「動物と植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「主な生態系の特徴と機能」、「生態系をめぐる諸課題」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第 2 回	鳥類の生態	日本の鳥類相、鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係
第 3 回	種子の散布	様々な散布形式、動物と植物の相互作用
第 4 回	進化と適応	適応とは、進化と自然選択、適応のための様々な生存戦略
第 5 回	動物の行動生態 (1)	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第 6 回	動物の行動生態 (2)	昆虫の不思議、シカとカモシカ
第 7 回	動物の行動生態 (3)	クジラとイルカ
第 8 回	森林生態系	森林の仕組みと機能、物質の循環、クマとブナ
第 9 回	淡水生態系	河川・湖沼の生物と生態系、水生昆虫と魚類、ため池の環境
第 10 回	湿原生態系	湿原と泥炭、生態系を支える仕組み、特異な生物相
第 11 回	島嶼生態系	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第 12 回	海洋と沿岸生態系	海から陸への物質輸送、サケと海洋環境、サンゴ礁
第 13 回	生態学を取り巻く諸問題	絶滅・レッドリストと貴重種保護の事例、外来種問題と取り組み事例
第 14 回	生物多様性	生物多様性とは、生態系サービス
第 15 回	まとめ	これまでの復習、野生生物との共生に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境論Ⅳ（秋期）は本講義をより深めたものとなっていますので、併せて受講することが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA221

自然環境論 I

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

【到達目標】

自然環境（気候や地形、水循環など）の地域的差異とそのメカニズム、歴史的な変遷の概要を把握し、人間社会が自然環境に左右される側面を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

われわれをとりまく自然環境は地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決まらない。自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自然環境と人間社会	環境決定論・環境可能論・その後、自然地理学、自然災害
第 2 回	大気のしくみ・大気大循環	地球のエネルギー収支、ハドレー循環等、偏西風等
第 3 回	海洋のしくみ・海洋大循環	表層循環・深層循環、潮汐と潮流
第 4 回	気候要素・気候因子・気候区分	気温・降水・風、緯度帯・海流・地形、ケッペンの区分・アリソフの区分
第 5 回	日本列島の気候	気団と海流、めぐる四季、偏西風の蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候、暦と二十四節気
第 6 回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、花粉、珪藻
第 7 回	グローバルな気候変動と海水準変動	氷期と間氷期、酸素同位体比、メカニズム、昨今の地球温暖化
第 8 回	固体地球のしくみ・プレートテクトニクス	プレートとは、プレート境界、火山フロント・中央海嶺・ホットスポット
第 9 回	地震と火山噴火	島弧-海溝系、プレート境界・活断層、大地震の長期予測、火山噴火
第 10 回	地形をつくる力・地形のスケールと成り立ち	外的営力、内的営力、外来作用、地形種
第 11 回	日本列島の地形と地質	現在の地形形成環境、日本列島の成り立ち、鉱物資源
第 12 回	水	水のかたち、収支・循環・滞留時間、地下水、水利用、都市の水循環
第 13 回	土壌	因子、土壌型、日本の土壌、世界の土壌、砂漠化
第 14 回	植生・動物	自然植生、現存植生、潜在自然植生、植生遷移、動物分布と成り立ち、外来種・絶滅種
第 15 回	人間社会が自然環境に及ぼす影響	自然環境の保全、地球環境問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA221

自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いかなる社会も土地の個性に根ざして成り立っている。本講義では「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

大地の個性と成り立ちを知って土地が変貌する必然性を受容し、土地条件や土地利用といった視点から人間社会のあり方を考える素養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。その実態について、背景となる自然的要素を総合的に鑑みつつ、主に地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査の生データを含むスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会・東京の自然史	土地条件、土地利用、自然災害、1923年大正関東地震と東京中心部の地形・土地条件・歴史
第2回	日本列島の自然環境の概要	湿潤変動帯といわれる所以
第3回	外的営力・内的営力のメカニズムと地域性	太陽エネルギーと重力、地球内部の熱と重力、地域性
第4回	地図・空中写真・DEM	測地系、地図投影法、縮尺、等高線、航空写真、衛星画像、DEM（数値標高モデル）、地形判読
第5回	GISとGPS	GIS（地理情報システム）・GPS（全球測位システム）
第6回	山地の隆起と解体	山のすがた、風化と侵食、山地形成論、氷河地形
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用	扇状地、氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用
第9回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、グローバルな気候変動と海水準変動、地殻変動、土地利用
第10回	変動地形の成り立ち	活断層、地震性隆起、1703年元禄関東地震、1923年大正関東地震
第11回	火山地形の成り立ち	マグマの組成、噴火様式
第12回	海底地形の成り立ち	大陸棚、陸棚斜面、プレート境界、大洋底、海底火山
第13回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、関東ローム層、段丘面に基づく隆起量の見積もり
第14回	関東平野の地形発達史と古地理	丹沢山地、多摩丘陵、下末吉台地、武蔵野台地、立川面、沖積低地、縄文海進、江戸期以降のまちづくり
第15回	人間社会が土地に及ぼす影響	歴史時代の地形改変、鉄穴流し、切土盛土問題、砂漠化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA221

自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。その成り立ちを知り（とくにプレート境界と活断層について）、地震発生環境の地域的個性、そして人間社会のあり方を見つめなおす。

【到達目標】

変動地形と古地震の調査法を学んだ後、日本列島各地の変動地形について、海外の事例を参照しつつ地域的差異・メカニズム・歴史の変遷の概要を理解し、地殻変動の必然性を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本列島はプレート境界に近く地殻変動が顕著であり、変動地形がよく発達する。これらは大地震発生と密接に関わって成立しており、地震災害はわが国の宿命ともいえる。本講義では主に変動地形学のアプローチを通じ、日本列島の地形的枠組みや地震発生環境の理解をはかる。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地形環境の概要	プレートテクトニクス、島弧-海溝系
第2回	変動地形と地震発生環境	地形のスケールと種類、地形をつくる力、変動地形、プレート境界・活断層
第3回	変動地形と古地震の調査法	地形調査、地質調査、物理探査
第4回	歴史地震	歴史記録、文献史料（文献資料）、時代性
第5回	地形の調べ方	空中写真の実体視判読、GISとDEM
第6回	プレート沈み込み帯・プレート衝突帯	インドネシア、ヒマラヤ・チベット
第7回	活断層	サンアンドレアス断層、北アナトリア断層
第8回	2011年東北地方太平洋沖地震	概要、メカニズム、地殻変動
第9回	千島海溝～日本海溝	分布、歴史地震、超巨大地震、地殻変動
第10回	相模トラフと神縄・国府津-松田断層帯	分布、歴史地震、地殻変動、首都直下地震
第11回	南海トラフと富士川河口断層帯・琉球海溝	分布、歴史地震、地殻変動、日向灘
第12回	1995年兵庫県南部地震	概要、メカニズム、地震の歴史
第13回	東北日本の変動地形と活断層	北海道～下北半島、日本海東縁、糸魚川-静岡構造線断層帯、立川断層帯
第14回	西南日本の変動地形と活断層	中部山岳地域、飛騨・美濃、近畿三角帯、中国地方、四国の中央構造線断層帯、九州
第15回	地殻変動と地震災害	日本列島の地震発生環境

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA261

エネルギー論Ⅰ

北川 徹哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーを表す量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱と力	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	エネルギー使用と仕事	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第15回	原子力発電の安全性と国際組織	多重防護、スクラム、原子力安全委員会、国際原子力機関

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておくとうまい。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実績、第5～8回：前回の講義内容の見直し、第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題、第15回：我が国の地震

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。
試験（50%）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。科学的な内容については焦点を絞って取り上げます。わからないところは質問しましょう。本科目は「環境科学入門」の代替科目として履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

HA219

地球科学史 I

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

【到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなくて、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**【授業の進め方と方法】**

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を評述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロムス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライプニッツの『プロトガイア』(1691) 啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験を中心にして総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

HA219

地球科学史Ⅱ

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

【到達目標】

地震学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

18世紀末からプレートテクトニクス誕生までの200年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圏というもっとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するために必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosauria（恐竜）の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』（1859）
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地向斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アインスターン説と地震学
第10回	大陸移動説（1）	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説（2）	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（1）	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（2）	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球科学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験を中心にして総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

HA280

環境健康論Ⅰ

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方で、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。今後高齢化社会が進むにつれて、課題とされる健康寿命の延長に何か必要であるか？健康で過ごすにはどうすればよいか？適度な運動、自然素材の食事、十分な睡眠など、自らが考え実践できることは沢山ある。

本講義では、普段何気なく過ごしているその内容に焦点をあて、いかに生活習慣が大事であるかを、がんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに考察していく。

【到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスタシスと病気の関連性について述べることができる。
3. 日本人の死因について述べるができる。
4. 人間のがんに関わる要因について説明する。
5. 創傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べるができる。
8. 食べることの重要性を述べるができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 治癒と排出の関係を説明できる。
11. 治癒を妨げるものを列挙できる。
12. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 自らの健康感を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVDを用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	ホメオスタシスと病気ー病気になる人となりにくい人ー	人間に備わっているホメオスタシスの意義について説明し、病気との関連性を検討する。
第3回	がんの基礎知識Ⅰ	人のがんに関わる要因について説明する。
第4回	がんの基礎知識Ⅱ	がんに関する多目的コホート研究から飲酒、喫煙に関わる内容を解説する。人のがんに関わる要因について説明する。
第5回	免疫系と自律神経系：免疫力アップは腸内細菌の元気から	がんに関する多目的コホート研究から食生活、運動習慣に関わる内容を解説する。
第6回	治癒の本質：治癒の3局面（反応・再生・適応）	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系との関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第7回	創傷の治癒：線維の増殖、瘢痕の成熟、組織修復による合併症	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治癒能力（自然治癒力）について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第8回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを解説する。
第9回		人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について解説する。

第9回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性を解説する。
第10回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人間は日々の摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第11回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。
第12回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
第13回	こころが治癒に果たす役割：治癒とこころの相関関係（笑いが地球を救う）	精神的および感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、こころが治癒系に与える影響について解説する。
第14回	成熟した患者になるために：治療は外から、治癒は内から	治療(cure, treatment)と治癒(healing)の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。
第15回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

HA280

環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。またアメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しがなされ、多くの人が日常的にとりいれ、その効果を実感している。

本講義では、世界におよそ600種あると言われている補完代替医療のうち、代表的ないくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追求する。

【到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVDを用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第3回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状をDVDを視聴しながら解説する。
第4回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第5回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第6回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第7回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第8回	補完代替医療システム：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第9回	補完代替医療システム：インド伝統医学（アーユルヴェーダ、ヨガ）	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるアーユルヴェーダ、ヨガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第10回	精神・身体相互介入による医療：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禪」との関連性を解説する。

第 11 回	生物学的療法 ：マクロビオティック、 ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが 行っていると言われている、「マクロ ビオティック」について、健康観や哲 学、長所や短所などを概説し、実際に その調理方法を解説する。
第 12 回	手技および身体を介する 療法 ：按摩・指圧・マッサー ジ	按摩・指圧・マッサージについて、そ の発祥と発展、施術の法則と方法、特 徴的な手技、長所と短所などを説明す る。
第 13 回	手技および身体を介する 療法 ：カイロプラクティッ ク、オステオパシー、リ フレクソロジー	カイロプラクティック、オステオパ シー、リフレクソロジーについて、そ の発祥と発展、健康観や哲学、長所と 短所などを説明する。
第 14 回	エネルギー療法 ：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥 と発展、健康観や哲学、長所と短所な どを説明する。
第 15 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連 項目について、質問や意見交換を行い 総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

【参考書】

補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版
近代中国の伝統医学 ラルフ・C・クローツァー著 創元社
傷寒論を読もう 高山宏世著 東洋学術出版社
アーユルヴェーダとヨガ 上馬場和夫著 金芳堂
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

HA250

気候変動論 I

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。また、この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	気候変動研究の歴史	気候変動（とくに地球温暖化）がどのように理解されてきたか、その歴史を概観する。温室効果の発見、キーリング曲線、IPCC など。
第 3 回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第 4 回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第 5 回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第 6 回	地球の構造	地球の構造と元素組成を学びながら地球全体を概観する。
第 7 回	大気構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第 8 回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第 9 回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第 10 回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第 11 回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。
第 12 回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第 13 回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第 14 回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで指示をする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA214

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても解説する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第12回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第13回	気候変動をとりまく動き	地球温暖化の周辺動向について考える。懐疑論についても考察する。
第14回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を簡単に紹介する。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで指示をする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA316

自然環境政策論Ⅰ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立と、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれてきた主な保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「科学的調査に基づく保全管理」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第4回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第5回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第6回	貴重種の保護	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第7回	外来種問題	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第8回	日本の自然環境保全政策(1)	自然公園、自然環境保全地域、狩猟制度と鳥獣保護区
第9回	日本の自然環境保全政策(2)	種の保護法、鳥類や海獣に関する事例
第10回	日本の自然環境保全政策(3)	林業・河川管理・水産業と自然環境保全
第11回	日本の自然環境保全政策(4)	野生生物の保護管理、シカとサルの事例
第12回	里山問題	里山の特徴、なぜ生物は多様か、里山の変貌
第13回	生物多様性	生物多様性とは、生物多様性からの恵み、劣化損失の危機と保全
第14回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、エコアップ、日本や諸外国における自然再生事例
第15回	開発と保全	大規模開発事業を事例とした自然環境保全のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしておりますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

HA316

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取組みの事例とその仕組み、並びに国際条約による保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第2回	日本人と自然	日本における動物・水・森林と人との関わり
第3回	環境影響評価(1)	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価(2)	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	計画・指針による自然環境保全	生態学と環境計画、環境管理計画・環境基本計画、自然環境保全指針
第6回	法によらない保全メカニズム	土地の持つ社会性、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ(1)	フランスの地方自然公園とエコミュゼ
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ(2)	イギリスのナショナルトラスト、シビクトラスト、グラウンドワーク
第9回	海外の自然環境政策に学ぶ(3)	欧州農業環境政策、マネージメントアグリーメント、環境支払い、ドイツのピオトープ
第10回	国際的な取り組み(1)	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第11回	国際的な取り組み(2)	ワシントン条約と象牙問題の事例
第12回	国際的な取り組み(3)	世界農業遺産、ジオパーク
第13回	国際的な取り組み(4)	その他の国際的な取り組み
第14回	観光と自然環境保全	エコツーリズム、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光
第15回	地域自然資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例、野生生物を生かした取組事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていきますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA315

環境科学Ⅰ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第3回	大気汚染・その2（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染（第3章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2（第5章）	産業廃棄物
第12回	リサイクル（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第14回	基準の決め方（第6章）	環境基準と排出基準
第15回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第16巻，第1号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。受講生がおおむね100名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

HA315

環境科学Ⅱ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響、国際交渉
第6回	気候変動・その3（第8章）	京都議定書、京都メカニズム
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境大気汚染（第9章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境の評価（第12章）	環境アセスメント、L C A、環境ラベル
第13回	環境と貿易	貿易は環境に悪影響を及ぼすか？ G A T T、W T O
第14回	国際環境協力	開発援助の環境配慮、環境O D A
第15回	まとめ	全体のとりまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。受講生がおおむね100名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA315

環境科学Ⅲ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第 2 回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第 3 回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第 4 回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第 5 回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第 6 回	エネルギー（3）	石炭、水力
第 7 回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第 8 回	土壌（1）	土壌の構造
第 9 回	土壌（2）	土壌の機能
第 10 回	リンと窒素	循環、機能、存在
第 11 回	遺伝資源	遺伝子の多様性、名古屋議定書
第 12 回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第 13 回	金属（2）	レアアース、レアメタル
第 14 回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第 15 回	まとめ	今後の資源利用のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第 15 巻第 2 号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA381

衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、学生が取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、何が問題なのかを知り、どのような飲酒習慣を身に付けていくべきかを考える。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～IIIの内容は若干重複することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え
第 2 回	予防医学の基本的概念	予防医学の基礎について
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患
第 5 回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病の予防について
第 6 回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第 7 回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み、
第 8 回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病 禁煙について
第 9 回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第 10 回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について ビデオ
第 11 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会 健康問題
第 12 回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題について 高齢者虐待
第 13 回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第 14 回	感染症	性感染症・食中毒
第 15 回	授業内試験	試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

期末試験を最終講義日に授業内で行う。持ち込みは不可。原則として出席はとらないが、感想文などを求めることがある。

【学生の意見等からの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

HA381

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育を上げさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。日本の医療の現状について学び、患者としての受療行動を考える。また、生命倫理の諸問題について取り上げ、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。

さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	母子保健・学校保健	母子保健・学校保健 就労女性の母性保護 ワークライフ・バランス
第10回	社会保障	社会保障制度について 日本の医療制度
第11回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊
第12回	生命倫理②	患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死 医療訴訟
第13回	生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第14回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第15回	授業内試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に復習を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静粛な環境で講義を進められるように努力する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

HA381

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。現在、わが国においては年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えており、精神的な問題を抱える人の数が大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では、とくに精神関連の話題を取り上げ、メンタルヘルスについての幅広い知識を身につけていく。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようになることを目指す。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除いて行くことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト、配布資料、パワーポイントを用いながら講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺の現状
第3回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	快適職場について
第5回	メンタルヘルスケア④	ストレスについて こころの健康を保つために
第6回	精神障害	睡眠障害 よい睡眠をとるために
第7回	精神障害	気分障害
第8回	精神障害	新型うつ病
第9回	精神障害	摂食障害
第10回	精神障害	心身症、PTSD
第11回	精神障害	統合失調症
第12回	精神障害	不安障害
第13回	精神障害	心身症、摂食障害
第14回	精神保健	まとめ
第15回	授業内試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に復習を行う。新聞をよく読む。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込みはテキストのみ可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

【学生の意見等からの気づき】

他人数の講義のため、騒がしいことがあるが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

HA361

エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという循環の輪の中にあつた。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車の種類と性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱発電、海洋温度差発電
第14回	燃料電池	EVとFCV、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ
第15回	エネルギー貯蔵	エネルギー貯蔵方法の種類と特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておくこと。第1回：エネルギーのCO2換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題、第15回：回生と蓄電

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50%）：各種再生可能エネルギーの仕組みや原理、環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

HA314

大気と社会 I

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気は地球を覆う薄い膜のようなものである。その中で空気が動き、人は生活している。人にとって大気は生存するために必要なものであると同時に、時には強い気流となって襲いかかってくる存在であり、またある時は心地良さをもたらすものでもある。大気と社会 I、II においては、大気の動きと人間、社会、都市との関係について多角的に学ぶ。大気と社会 I においては、気流の性質と社会への影響を中心に講義する。

【到達目標】

1. 大気運動現象の性質を説明できる。
2. 大気をもたらす社会リスクを説明できる。
3. 人間生活圏における気流の流れ方を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会にとっての大気	大規模大気循環、人の生活圏の気流、強風の要因
第 2 回	台風	台風のエネルギー、台風の発生と移動
第 3 回	局地風	陸海風、日本三大悪風、オロシ、ダシ、フェーン
第 4 回	竜巻、ダウンバースト	竜巻の構造、フジタスケール、マクロ・マイクロバースト
第 5 回	気流による社会の被害	強風による都市、交通、インフラ、文化財などの損壊
第 6 回	大気観測	大気の観測方法
第 7 回	気流の統計的性質（1）	平均風速、瞬間最大風速、最大風速
第 8 回	気流の統計的性質（2）	風速の超過確率・非超過確率、再現期間
第 9 回	気流の統計的性質（3）	再現期待値、T 年最大値
第 10 回	地表面性状と気流	地表面の粗度、風速の高度分布
第 11 回	気流の周期性と評価時間	風速のスペクトル、風速の長周期変動、10 分間平均
第 12 回	気流の乱れ	風速の短周期変動
第 13 回	風の息	渦の性質、風速変動と渦の重なり
第 14 回	騒音と大気	音の強さ、風騒音、空振
第 15 回	生活と大気	強風による生活障害、高層建物とビル風

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておくが良い。第 1～4 回：大気・天候・強風に関する時事問題、第 5 回：気流災害の事例、第 6 回：風向風速計、第 7～9 回：確率統計の基礎的な用語、第 10 回：べき乗、第 11～13 回：周期あるいは周波数、第 14 回：音の大小・高低、第 15 回：ビル風

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100 %）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題（2、3 回程度）を通じ、到達目標 1～3 の習得度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

大気の動きと社会に関する話題を分野横断的に取り上げます。本講義を受講することにより、気象や都市の見方が変わると思います。

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA314

大気と社会Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、大気と人の生活環境との関わりに重点をおいて講義する。

【到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	沿道大気汚染、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質
第5回	クリマアトラスと風の道	気候情報に基づく都市計画・環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	ダストストーム、黄砂の発生源、黄砂の飛来性状
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候
第9回	住居環境と気流（1）	室内の汚染物質、換気
第10回	住居環境と気流（2）	通風、温冷感
第11回	火災と大気	延焼と市街地火災、火災旋風、火災の熱と大気
第12回	鉄道・自動車と大気	車両の転覆限界、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制
第13回	農作物と大気（1）	受粉と気流、光合成と大気、農作物の倒伏、塩害
第14回	農作物と大気（2）	地域大気利用農業、霜害、気温逆転層
第15回	損害保険と大気	自然と損害保険、気象リスクヘッジ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておく。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさと形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害の種類、第12回：列車や自動車の形状・構造、第13回：揚力、第14回：受粉、第15回：大気関連災害の損害保険額の規模

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100％）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題（2、3回程度）を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA249

サイエンスカフェⅣ

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題へ
 本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでいただくための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1) 我々の生活に密接に関連していること、そして (2) 環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について、物理学的な知識が環境問題を考察するための基礎であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

視聴覚教材や実験のデモンストレーションを見ながら学習していく。文系の学生、物理を苦手としている学生にわかりやすい授業となるように留意したいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第2回	スピードガンで測ろう1（落下するボールの運動と力学、シミュレーション付）	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について。
第3回	スピードガンで測ろう2（振り子運動・放物運動と力学、シミュレーション付）	エネルギーは保存される。ジュール（J）、ワット（W）などの基本単位の超入門。人間はエネルギー的に約100Wの電球と同じ、など。
第4回	熱とエネルギーを理解しよう1（エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る）	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ calとJ（エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る）
第5回	熱とエネルギーを理解しよう2（気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する）	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について。
第6回	熱とエネルギーを理解しよう3（熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱+空気の流れにより伝わる熱+電気ストーブによる加熱）	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう1（水の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について）	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命維持における水の役割は？
第8回	物質の三態と状態変化を調べよう2（水の密度と膨張率+水の密度と浮力、氷の融解現象について）	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は海面上昇に関係しているのか？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？

第9回	波の性質を知ろう (横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる)	横波と縦波、周期と振動数(周波数)、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波などの理解。
第10回	電気回路の性質を調べてみよう (電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通る電流による熱発生(ジュール熱)について)	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは? 電力系統網における送電ロスとは熱に転化する。
第11回	磁石を使って電気を作ろう&電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、モーターと発電機の原理を知る)	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か? 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線なども電磁波の仲間。
第12回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq(ベクレル)とSv(シーベルト)などについての解説。原子力発電とウラン、セシウム、プルトニウムなどについて。
第13回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう1 (水と湯の間の熱移動+水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から空間全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第14回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう2 (LED電球と白熱電球の熱発生について)	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか? エネルギー変換にはロス(損失)が伴う。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピーの解釈超入門。
第15回	総括	授業内容をまとめ、環境問題と物理学との関係について考察する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】
毎回、授業時に作成したノートを復習してください。

【テキスト(教科書)】
テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価します。出席は取りません。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
様々な現象についての教材や実験のデモンストレーションをプロジェクターに映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】
くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

HA215

環境モデル論 I

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4年/2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生じる環境問題はどのような自然法則に支配されて(制約を受けて)いる結果なのか? 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標(手法)についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する(空間的に拡散する)という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」や「持続可能」という問題を科学的に捉えるための基礎という位置づけにもなっている。

【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることが目標である。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたいと考えている。画像、映像などのビジュアルな教材等をできるだけ使用しながら進めていく予定である。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目(サイエンスカフェ IV、統計とデータ分析、環境モデル論 II など)の概要と本科目との関連性についての解説。
第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか?	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは?
第3回	地球というシステムを眺める(宇宙から微生物までを考える)	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと炭水化物(糖)。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物(生産者、消費者、分解者)は物質循環に対してどのような役割を担っているのか?
第4回	物質と人為を考える(人間活動による物質とその移動について)	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか? 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、はたして物質は消えて無くなったのか?
第5回	エネルギーと人為を考える(人間活動によるエネルギーの変化とその移動について)	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか? エネルギーは消費されると消えて無くなるものなのか?

第 6 回	自然の法則と環境 1	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ エクセルギーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。
第 7 回	自然の法則と環境 2	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。
第 8 回	ライフサイクルアセスメント (LCA) に見る人為の熱力学 1	人間活動の特徴を LCA の立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ イベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則は LCA ではどのように表現されているか？
第 9 回	ライフサイクルアセスメント (LCA) に見る人為の熱力学 2	製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費 (使用)、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。
第 10 回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る 1	人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等排出の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培 (野菜工場) の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培とはどちらが負荷は少ないのか？
第 11 回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る 2	人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球は今そこで行われている人間活動を支え扶養する力 (容量) を持っているのか？
第 12 回	持続可能性への考察 1	資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性 (地球の有限性) と成長の限界について考察する。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリーは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。
第 13 回	持続可能性への考察 2	玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。しかしその狭い空間でも工夫すると動きが持続する。エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデルする。
第 14 回	総括 1	参加者による総合討論を行う。
第 15 回	総括 2	講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により判定します。授業時には出席は取りません。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論 II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ IV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することをお勧めします。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA215

環境モデル論 II

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：環境基礎論として「循環」と「持続」を考える
 本科目では持続可能とは何か？ という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。自然界においては物質・エネルギーは保存されているが、様々な現象はこの保存則だけによって支配されているわけではない。物事が進むにはその方向 (時間の矢) があり、それらは拡散する (言い換えるとエントロピーは増大する) という特徴を持っている。系を持続可能とするためにはこの増大したエントロピーを廃棄し続ける必要がある。持続という言葉はシステムの時間経過に対する不変性 (安定性) を意味するものであり、その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子 (時間発展、ダイナミクス) を調べるのがひとつのアプローチであろう。本科目では、自然界において観察されているいくつかの現象や具体例を眺めてみることで、自然界において持続していくための条件等を探ることとする。そのため比較的容易に理解できるシステムダイナミクス (SD) 手法を習得し様々な系のダイナミクスをシミュレーション体験する。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能というテーマに対しエントロピー増大則などを含む熱力学的考察をおこなう。

【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。自然界で観察されている幾つかの現象を再現しそれを分析する力を身につけることを目標としている。またエントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることも目標のひとつである。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたい。情報教室を使用し、特に EXCEL を利用することが多くなる。授業では、ほぼ毎回 EXCEL についての演習を行う時間を設ける予定である。EXCEL をより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第 2 回	情報教室の利用のしかた	情報実習室環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて
第 3 回	EXCEL ラーニング	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第 4 回	システムダイナミクス (SD) 入門 1	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SD で使用される記号とフローの描き方。レベル (ストック、状態) とレート (流量)、フロー (流れ)、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得。
第 5 回	システムダイナミクス (SD) 入門 2	具体例をもとにして SD 計算を EXCEL 上で体験する。正と負のフィードバック (因果関係) ループの理解。その構造がシステムに与える影響 (効果) を調べる。それにより「持続する」を考察する。
第 6 回	システムダイナミクス (SD) 入門 3	具体例をもとにして SD 計算を EXCEL 上で体験する。時間遅れの構造とそれがシステムに与える影響 (効果) を調べる。それにより「持続する」を考察する。

第7回	成長の限界1	ローマクラブ「成長の限界」(1972)とSDによる世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長(指数関数的成長)のメカニズムを銀行預金、利子返済などの簡単な例で体感する。
第8回	成長の限界2	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線(S字型曲線、ロジスティック曲線)にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース(栄養)の減少との関係について。
第9回	成長の限界3	喰う者と喰われる者(例えばウサギとヤマネコ)に関する個体数変動のダイナミクスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被捕食(2体)の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムをSDにより解析する。
第10回	成長の限界4	喰う者喰われる者の拡張としての多体間の個体数変動のダイナミクスについて。3体、4体間の競合と持続性をSDにより解析する。
第11回	複雑系の世界1	複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性(バタフライ効果)と予測(不)可能性、ロジスティック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス(非線形力学)と環境問題との関係性を考察する。
第12回	複雑系の世界2	複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか?などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。
第13回	循環と持続を考える1	本科目で見てきたダイナミクスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。
第14回	循環と持続を考える2	ローマクラブ「成長の限界」(1972)、「限界を超えて」(1992)、「成長の限界 人類の選択」(2004)をどのように読むか? ナチュラル・ステップ「ナチュラル・チャレンジ」(1998)の言う持続可能な社会のための条件をどのように解釈するか?
第15回	総括	講義内容をまとめ、レポートの出題を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。出席状況を重視し、これと最終授業時に出席するレポートの内容を勘案して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論I」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェIV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお勧めします。本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA222

自然災害論

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。実例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

【到達目標】

自然災害を決定づける要因を俯瞰し、自然界がもたらすハザードや社会基盤の脆弱性といった側面から災害と正しく向き合う視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。東日本大震災を経験しつつあるいま、リスクに配慮した防災力の高い地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが急務である。本講義ではハザードの実態やまちづくりのハード面に関わる現状を解説する。講義形式。災害調査現地データを含むスライドも活用。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然災害のとらえ方	自然界のもたらすハザード、人間社会の脆弱性、防災の考え方
第2回	実際の自然災害：地震災害1	東日本大震災、阪神・淡路大震災、地殻変動、地震動、切土盛土問題
第3回	実際の自然災害：地震災害2	建物、耕作地、道路鉄道網、ライフライン、電話網、工場、学校・病院等、文化財
第4回	実際の自然災害：気象災害	紀伊半島豪雨災害、東海豪雨災害、河川氾濫、内水氾濫
第5回	地震災害のメカニズムと将来予測1	地震の長期評価、地盤増幅率、キラールパルス、長周期地震動
第6回	地震災害のメカニズムと将来予測2	液状化、地震火災、津波
第7回	火山災害のメカニズムと将来予測	噴火予測、火砕流、火山泥流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第8回	気象災害のメカニズムと将来予測	豪雨と積乱雲、竜巻、落雷、台風、大潮、大雪
第9回	土砂災害のメカニズムと将来予測	斜面崩壊(表層崩壊・深層崩壊)、地すべり、土石流、岩屑なだれ
第10回	防災気象情報	長期予測と直前予測、伝達手段、担い手、気象警報、緊急地震速報、噴火警報、避難指示等、災害対策基本法
第11回	災害と土地利用	災害危険区域、移転促進区域、土砂災害警戒区域、活断層直上、適応と退却
第12回	災害と社会基盤	耐震化、不燃化、建築基準、治山、砂防、治水、避難場所、避難所
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	2011年東北地方太平洋沖地震と869年貞観地震、2004年中越地震と1847年善光寺地震、災害地名、震災遺構
第14回	ハザードマップのこれから	行政からみたハザードマップ、地域住民からみたハザードマップ、地域防災計画、防災教育、地域コミュニティ
第15回	自然災害の激化とその背景	地球温暖化、都市集中、人口減少、高齢化率上昇、まちづくり

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境、自然災害、防災、まちづくり、災害の歴史といったキーワードを意識し、時の話題や映像等に積極的に触れる。

【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA316

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解し、人間活動との持続的な調和を探索していくには、科学の視点が欠かせません。本講義では、様々なスケールで自然環境の仕組みや歴史を捉えるとともに、人間活動による影響軽減に向けて保全生物学、景観生態学、環境倫理学からのアプローチの重要性を理解し、人と自然との望ましい関係を考察することを目的とします。

【到達目標】

以下の5点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物の進化と地球的視野の自然環境問題
- ②保全生態学による野生生物の保護と管理
- ③東南アジアにおける自然との軋轢と共生
- ④景観生態学と環境倫理学
- ⑤企業活動や都市と生物多様性

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「生物進化の概要」、「食料資源としての野生生物」、「保全生態学の基礎と事例」、「地球温暖化の影響」、「アジアに見る人と自然との関わり」、「景観生態学と環境倫理学の基本」、「経済活動と生物多様性」、「都市の自然」などについて学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づいて保全のあり方を考える能力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、社会と人を動かすこと
第2回	生物の進化(1)	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第3回	生物の進化(2)	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第4回	食料資源か野生動物か(1)	マグロ問題を例とした国際的・国内的な取り組み
第5回	食料資源か野生動物か(2)	ウナギ問題を例として、漁業資源の管理
第6回	保全生物学入門	カワウソを例として、保全生物学とは
第7回	地球温暖化と野生生物	気候変動による生物多様性への影響、渡り鳥などの事例
第8回	環境倫理学入門	環境倫理学とは、軋轢の事例から考える
第9回	アジアに見る人と自然との関わり(1)	熱帯泥炭地の役割と炭素管理問題
第10回	アジアに見る人と自然との関わり(2)	熱帯林を管理と利用を取り巻く現状と諸課題
第11回	アジアに見る人と自然との関わり(3)	湿地と人との共生文化
第12回	企業活動と生物多様性	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット
第13回	景観生態学入門	景観生態学の基本、地理情報システムとリモートセンシング技術とその適用事例
第14回	都市の自然	都市緑地と都市公園、都市の水辺と緑
第15回	まとめ	これまでの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアや日常生活において、自然環境に関わる情報や科学的な話題などに関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

本講義は応用的内容を含みますので、基礎的な知識や理解として自然環境科学の基礎（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を併せて受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

HA315

公害防止管理論Ⅰ

大岡 健三

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境管理の中で製造業などの水に関する基本的技術と法令を学ぶ。経営や企業の海外展開において環境の実務知識は極めて重要であり、行政職含め環境保全で国際協力する機会も増えている。当講座では海や河川、地下水などの水環境と公害防止の知識をビジュアル中心で学び、基本的な浄化技術と法規の基礎知識が理解できる人材育成をめざす。同時に、文系学生向けに公害防止管理者国家資格の取得準備のための基礎知識を分かりやすく解説する。

【到達目標】

水に関する環境キーワードを理解し、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則と実践的知識を基礎から習得する。汚れた廃水が透明に浄化される仕組みなど工場水質管理の興味深い事例に加え、米国の教養課程（環境科学）や報道記事なども一部交えて国際レベルの環境情報も学ぶことができ、実社会において有効な環境スキルの理解を深める。さらに、理系知識がない学生向けに公害防止管理者国家試験レベルの基礎問題を解く訓練も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

水環境の事例から実践知識を学ぶ。毎回資料を配布してスライドで説明する。各論では、国内外で取材した産業公害の実際、有害物質、汚染メカニズム、環境法等を理解して、環境問題の基礎を学ぶ。同時に、水質浄化技術の基礎を学ぶことによって水に関する環境保全方法を習得する。実際に企業が新入社員向けに使用している教材なども適宜使用し最新情報にも触れる。毎回学生の質問や意見、要望を聞いて次回講義に反映する。成績評価は、授業内を行う簡単な試験と出席率で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地球温暖化問題への対応、水俣病から廃棄物問題、さらにベトナム、マレーシア、ネパール及び米国の環境事情	現地取材の写真などで見て、浄化対策及び公害防止の側面からの評価分析をする。日常の環境情報の入手が望ましい。
第2回	日本の水質汚濁の現状と原因	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に研究。
第3回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第4回	環境法概論および水質環境基準	環境基本法、水質汚濁防止法、公害防止者管理法等の概論。
第5回	水に関する環境法各論	水質汚濁防止法や廃棄物処理法の各論。実際の違反事例なども研究。
第6回	物理化学的処理法 1	処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第7回	物理化学的処理法 2	工場排水を浄化するための浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術も学ぶ。
第8回	物理化学的処理法 3	化学処理法その他手法を学ぶ。pH調整、酸化と還元、膜分離、汚泥脱水など
第9回	生物学的処理法	排水を浄化するための好気性微生物を利用する処理法の概要を学ぶ。
第10回	生物処理法	嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説する。
第11回	高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用等高度な処理法および最新技術を応用した各種処理法について学ぶ。
第12回	有害物質処理法	健康に有害な有機化合物質などを含む排水を浄化するための処理法。
第13回	水質管理のパラメータと水質測定法	BOD/COD,pH,DO 溶存酸素などの知識の整理。水質測定の基礎と水質汚濁物質について解説
第14回	環境法令の復習	法律面の要点復習および予備小テスト。
第15回	技術総括と試験	環境技術面の整理と復習。最終テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に使用する。なお、国家試験受験希望者は市販の書籍またはインターネット検索により予習復習する必要がある。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」
発行所 （社）産業環境管理協会
「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」
発行所 （社）産業環境管理協会
「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」
発行所 （社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業内で小テストを行い、出席率など平常点と合わせて総合点で判定する。配分は小テストが80%、平常点20%。
A + : 100-90 A : 89-80 B : 79-70
C : 69-60 D : 59 点以下で不合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントによる映像を利用

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、環境サイエンスコース

HA315

公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の生産現場における公害防止技術が必要不可欠である。

我が国は1960年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、1970年代に環境法規の整備、環境設備への投資、処理技術開発、企業努力によってそれを克服した経緯がある。本講座では大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的知識を習得し、企業の環境管理について学ぶ。

【到達目標】

大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的知識を習得し、企業の環境管理を担う、公害防止管理者の国家資格取得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は大気汚染の歴史、現在の大気汚染問題や汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。温暖化問題や新興国の公害問題等について課題レポートを提出し、グループディスカッションで問題定義や課題解決の方法を学ぶ。定期試験ではなく、授業内を行う2回の試験と出席率で成績評価を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と現状	日本の公害問題の歴史と近年の大気環境問題について。
第2回	大気関係の法律	環境基本法や大気汚染防止法、管理者法について概要を学ぶ。
第3回	大気汚染のメカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要
第4回	大気汚染物質の発生源	大気汚染物質とその発生源の種類。発生のプロセスについて。
第5回	大気汚染による影響	大気汚染物質による人への健康及び植物への影響について。
第6回	燃料の種類と燃焼管理方法	燃料の種類や燃料を燃焼するために必要な空気量や発生する燃焼ガス量等の算出方法。
第7回	燃焼管理に必要な測定	酸素、二酸化炭素、一酸化炭素、温度や湿度の測定方法を学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減及び処理技術。
第10回	除じん・集じん技（Ⅰ）	排出ガスに含まれる粒子（すす）を除去する技術を習得するための基礎知識。
第11回	除じん・集じん技術（Ⅱ）	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第12回	硫黄酸化物の測定法	排ガス中の硫黄酸化物の測定におけるサンプリング方法及び分析方法。
第13回	窒素酸化物の測定法	排ガス中の窒素酸化物の測定におけるサンプリング方法及び分析方法。
第14回	ばいじん測定方法	排出ガスに含まれる粒子についての測定技術。
第15回	総括試験	本講座の内容を総括した試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編
発行所 （社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。
A+ : 100-90 A : 89-80 B : 79-70 C : 69-60 D : 59 点以下で不合格

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果が出ていなので、記述できない。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、環境サイエンスコース

HA315

廃棄物・リサイクル論

鍋木 儀郎

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の環境問題全体を俯瞰したうえで、それらの中でも特に重要なテーマのひとつとなっている廃棄物の処理の現状と課題やリサイクルの手法と意義などに関する基礎知識を学ぶとともに、超高齢化など将来への変化に伴って想定すべき廃棄物問題とその解決策を自ら考えようとする姿勢を身につけるための基礎として、いま「廃棄物処理はみんなの問題」と言われるのはなぜなのか、循環型社会の形成が推進されている背景事情は何なのかなどの知識を学ぶ。

【到達目標】

現実の廃棄物問題は複雑で多様で簡単には片付かない。その第一の理由は「廃棄物」の定義の難しさにあるのでまず廃棄物と有価物の差異を学ぶとともに各自の生活に身近な廃棄物がどこに運ばれどのように処理されるかを知り、処理方法のうちリサイクルはどのように位置づけられるか理解する。また廃棄物処理法と各種リサイクル法規の考え方を学ぶ。そのうえでリサイクルなど3R政策の現状と意義、今後の廃棄物対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の講義資料をもとにして講義を進め、日常の生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎的知識を学ぶ。毎回の出席表に各自のコメントなどを記入するリアクションペーパーを用いる方式により、廃棄物問題についての考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体構成と進め方 ま ず知っておくべき基本 的な事実と知識（1）	講義の全体像を説明したのち今日の環境問題全般について俯瞰したうえで廃棄物・リサイクル問題にフォーカスする
第2回	廃棄物の基本的な事実 と知識（2）	自分が日常排出しているごみの処理方法について考えることを通じて廃棄物処理方法の多様さについての知識を得る。
第3回	廃棄物の基本的な事実 と知識（3）	明治時代の東京、大阪や中世のバリなどの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化についての知識を得る。
第4回	廃棄物処理の法制度の 基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第5回	廃棄物処理はみんなの 責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第6回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第7回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第8回	特別管理廃棄物の処理 の考え方	P C B廃棄物を具体的に学び特別管理廃棄物制度の意義や処理方法についての知識を得る。

第9回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第10回	中間処理技術と最終処分技術	焼却などの中間処理技術と埋め立て技術について知識を得る。
第11回	リサイクル技術	今日のリサイクル技術など環境産業、環境技術の現状を学ぶ。
第12回	有害廃棄物処理技術	有害な特性を持つ物質の処理技術について学ぶ。
第13回	災害環境研究と海外の廃棄物処理	東日本大震災を契機として行われている災害環境研究や海外の廃棄物に関して学ぶ
第14回	まとめとレポートの課題	講義全体の内容をまとめるとともに、講義内容全体の理解を深めて考える力をつけるためのレポートを出題する
第15回	レポートの提出と小テスト	レポートを提出するとともに講義で得た基礎知識の理解度を確認するための小テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より効果的に講義が受講できるように、各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておくと良い。新聞報道等でごみ処理やリサイクルなどの記事があったら注意深く読みなぜ記事のようなことが起こっているのか考える訓練をしておくと良い。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布する。

【参考書】

図で見る環境・循環型社会・生物多様性白書
「人間とごみ」カトリーヌ・ド・シルギー著 新評論
「明治日本のごみ対策」溝入茂著 リサイクル文化社
「ごみ減量 全国自治体の挑戦」服部美佐子著 丸善

【成績評価の方法と基準】

出席の状況、提出レポートの内容、小テストの結果により総合的に評価する。成績評価要素ごとの配分は小テスト40%、レポート45%、平常点15%とする。小テストは配布資料、ノート、参考書などの紙資料は何でも持ち込み自由だが、モバイルパソコン、スマートフォン、携帯電話などの情報機器の使用は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもらった出席票に書き込まれる各自のコメントや質問を次の講義に反映できるようにし、双方向の講義の実施を図る。

【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

【その他の重要事項】

・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。
・旧科目名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。
・講義内容は入れ替えがあり得ます。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

HA318

環境教育論

野田 恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年深刻化する環境問題を解決するアプローチのひとつである環境教育およびESD（持続可能な開発のための教育）について学び、持続可能な社会の構築における環境教育の意義や役割、可能性や限界について自分なりの考えを深める。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法についての知識を身に付け、環境教育の現状や課題、可能性などについて複眼的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。実践事例については、特に自然体験学習に焦点を当てる。なお、授業では一人ひとりの意見や思いを共有するために、対話型および参加型の手法を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：「わたしと環境教育」	本講義のねらい・進め方についてのオリエンテーションと自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育とは何か？	環境教育について、その意義や理論的背景について学び、なぜ環境教育を学ぶのか考える。
第3回	環境教育の歴史（1）－概要	環境教育についての国際的取り組みと日本の環境教育の歴史を概括する。
第4回	環境教育の歴史（2）－公害教育	日本の環境教育のルーツのひとつである公害教育について学ぶ
第5回	環境教育の歴史（3）－自然保護教育と自然体験	日本の環境教育のもうひとつのルーツである自然保護教育とその発展形態である以前体験学習について学ぶ
第6回	学校における環境教育（1）	学校での環境教育のあり方について、地域との連携も含めて学ぶ。
第7回	学校における環境教育（2）	学校における環境教育の実践例から学ぶ。
第8回	社会教育における環境教育	社会教育施設における環境教育について学ぶ。
第9回	自然学校について	自然体験・ESDの拠点として近年注目されている自然学校について学ぶ。
第10回	環境教育とは何か？ 再び－（グループワーク）	これまでの講義を振り返り、環境教育とは何か自分なりの考えをまとめる。また受講者同士のディスカッションを通じて考えを深める。
第11回	環境教育のラディカルさを考える	環境教育に対して批判的な論考を読み考えを発展させる。
第12回	環境教育がもたらす「生の豊かさ」について考える	環境教育と「生の豊かさ」について考える
第13回	環境教育プログラムを考える（ワークショップ）	個人で環境教育プログラムを作成する。
第14回	環境教育プログラムを考える（グループワーク）	グループで環境教育の実践案（プログラム案）を作成する。
第15回	まとめ	これまでの内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献や配布する資料などを読むとともに、環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度・リアクションペーパー）30%、グループ活動30%、課題レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当

【関連の深いコース】

全てのコースと関連があります。

HA340

キャリア入門

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn job careers.

【到達目標】

This class aims to give students an opportunity to study what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, this subject will give students hints to consider about their own career and help them understand issues about career making and make their own career in the future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This class will be run in English and basically in the form of lecture. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked. Also, students will be required to make presentations in class. A few guest speakers may be invited. The lecture will deal with issues in several countries, but mainly Japan and English speaking countries.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to career studies	What Career Studies are will be discussed.
第2回	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
第3回	Basic aspects of career making	An overview will be given of what is considered important in career making by the Government and companies.
第4回	From education to occupation	Career education, training and support of students for their job seeking at the university.
第5回	Finding a job	The lecture will give an overview of how Japanese students and students in other countries find a job.
第6回	Global careers (1) how to make a global career	How and to what extent do Japanese companies employ students including kikokusei and Japanese students studying overseas who wish to make a global career?
第7回	Global careers (2) global human resources	What is the Japanese companies' attitude to the employment of overseas students studying in Japanese universities?
第8回	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
第9回	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn the present situation and why it is so.
第10回	Women in technical and professional jobs	Technical and professional jobs are jobs where men and women can make career on the relatively equal footing. Why?
第11回	How to make a job career (1)	Guest speaker will talk about his/her own job career.
第12回	How to make a job career (2)	Same as above.
第13回	How to make a job career (3)	Same as above.
第14回	Summary	Summary of the study in this class.

第 15 回 Final exam.

To check students' understanding of the lectures, students are to sit for the final examination.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are supposed to read materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk.

【テキスト（教科書）】

Reading materials are provided from time to time prior to the lectures. This class does not use a particular textbook.

【参考書】

References will be shown at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made in three ways; firstly by attendance, secondly by short exams and thirdly by a final exam or an essay. Minimum attendance required to get credits is 80%. Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final class or students instead may be required to submit an essay of 3,000 words.

【学生の意見等からの気づき】

Students are interested in listening to guest speakers' talks by people who have various job and life experiences.

【その他の重要事項】

Japanese students have been learning English for many years. This class will offer a challenging opportunity to learn something (job careers) in English, not to learn the English language itself. Never mind, just try to join us.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する人は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

HA374

食と農の環境学 I

西川 邦夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展段階が先進国段階に到達した現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学の立場から検討する。日本農業の現状を理解するに際して、置かれている国際的連関に基づく制約条件に留意する。

【到達目標】

農業経済学の基本的な知識を身につけるとともに、日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、論理的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本農業及び農業政策が現在置かれている状況について、国際交渉、国内市場、農業構造、環境問題等との関係から検討する。また、農業の現場で何が起きているのか、実例を踏まえて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ—現代日本における農業問題の枠組み—	先進国段階に到達した日本農業が直面している問題と取るべき政策について、理論的に解説する。
第 2 回	GATT ウルグアイ・ラウンドと先進国の農政改革	1990 年代以降の先進国の農政改革と、それを規定したガット・ウルグアイ・ラウンドについて解説する。
第 3 回	WTO ドーハ・ラウンドの展開と国際貿易交渉の多層化	現在も継続中の WTO ドーハラウンドの展開と、FTA/EPA の広がりを見解する。
第 4 回	TPP の政治経済学	TPP の交渉過程において、どのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第 5 回	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易	国際農産物市場の現局面と、日本の農産物貿易の状況、特に食料自給率に注目して解説する。
第 6 回	日本経済の構造転換と米市場	日本農業において最も重要な農産物である米について、日本農業の構造転換の影響を受けた家計との関係から考察する。
第 7 回	「イエ」と「ムラ」	日本農業・農村の基底を性格付ける「イエ」と「ムラ」について解説する。
第 8 回	就農ルートの多様化と新規就農者支援政策	農業労働力の高齢化・引退と、新規参入者等による補充の動きについて解説する。
第 9 回	地代・地価理論と農地制度改革	地代・地価の基礎理論をもとに、農地制度改革について解説する。
第 10 回	日本農業を支える多様な担い手	日本農業を支える「担い手」の経営展開について、地域的多様性に留意しながら解説する。
第 11 回	条件不利地域農業と政策	条件不利地域農業としての中山間地域農業と都市農業が抱える問題について、理論・実態から解説する。
第 12 回	農業と環境	農業と環境の関係について、「多面的機能論」と関わらせながら理論・実態から解説する。
第 13 回	食品安全問題と産直運動	BSE 問題を中心とした食品安全問題の発生と、それに対する産直運動の有効性を検証する。
第 14 回	農業協同組合の機能と課題	農業協同組合が日本農業において果たしてきた役割と抱えている課題について解説する。
第 15 回	エピローグ—現代日本の農業問題—	これまでの講義の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞で農業関係の記事があったら、読んでおくことをお勧めします。また、国際経済、地域経済、環境経済に関連した他の講義を合わせて履修することをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012 年（本体 2,600 円＋税）。

②中野一新・岡田知弘編『グローバリゼーションと世界の農業』、大月書店、2007年（本体3,000円＋税）。

【参考書】

速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。

【成績評価の方法と基準】

・期末テスト 100 %
 （受講人数によっては再検討する可能性もあります）

【学生の意見等からの気づき】

より現場に近い情報を講義に盛り込みたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する予定。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経営経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA374

食と農の環境学Ⅱ

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農」や「食」を自然環境の仕組みや環境問題から考える。

【到達目標】

「農」や「食」が現代の自然環境の仕組みや環境問題と密接にかかわっていることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

そもそも農業は、人間の「いのち」を支える「生命産業」である。また農産物は動植物の「いのち」そのものである。しかし「近代社会＝資本主義社会」においては、農業は「金儲け」の手段となり、農産物は「金銭的価値」として見なされる。こうして「市場原理＝経済的な効率性」を求めるとゆえに、農業は自然環境への負荷を高め、環境問題を引き起こしてしまうのである。そこで、この授業では、農業・農村にかかわる諸問題をとりあげるだけでなく、私たちの生命の源であり、暮らしの根幹である「食」の現場からも考察を深め、「農＝食」という立場から自然環境や環境問題を理解し、現代日本社会を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「農」から「現代日本社会」が見えてくる	まずは農業・農村に興味をもとう！・・・現代社会において農業や農村を考える意義について学習する。
第2回	高度経済成長と戦後の農業・農村社会～「ALWAYS 三丁目の夕日」は「美しい日本」なのか？	戦後の日本農業や農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習する。
第3回	「過疎」問題と「限界集落」の出現～「田舎に泊まろう！」では伝わらない現実とは？	過疎や限界集落の成立背景やその課題について学習する。
第4回	戦後農政と農薬・化学肥料の登場～なぜレイチェル・カーソンは「春は沈黙する」と言ったのか？	戦後の農業現場で普及していった農薬や化学肥料の功罪について学習する。
第5回	第5回 「WTO体制」と農業・農村の「多面的価値」～田んぼはコメだけでなく自然環境も生産している！	市場経済で取り引きされない農業や農村の価値について学習する。
第6回	食生活の欧米化と食料自給率の低下～いつから「牛丼」は国民食になったのか？	戦後の日本人の食生活の変化を高度経済成長との関連で学習する。
第7回	日本人の食生活と環境破壊～エビからアジアが見えてくる！	海外に依存する日本人の食生活が途上国の自然環境の破壊につながっていることを学習する。
第8回	ファストフード批判と「スローフード」運動～マクドナルドは食文化を破壊しているのか？	食のグローバル化に対する社会運動の意義について学習する。
第9回	農業とバイオテクノロジー～「GM（遺伝子組換え）」作物は良い？悪い？	遺伝子組み換え作物の普及背景やその功罪について学習する。
第10回	「BSE」の発生と食品行政の転換～なぜ食に「自己責任」を求めるのか？	BSE問題から食の安全・安心やリスクについての考え方を学習する。
第11回	「有機農業」運動の始まり～都市の消費者が農家を支える関係とは？	有機農業運動の目的や意図を理解することによって消費者の農業・農村に対する役割について学習する。
第12回	「グリーン・ツーリズム（都市農村交流事業）」の登場～「棚田オーナー制」は最先端の観光！	都市住民による農村滞在や農業体験の意義について学習する。

第 13 回	「生身の自然」から「切り身の自然」へ～バック詰め の鶏肉に「いのち」を 実感できるのか？	自分で育てた家畜を自ら解体する活動 によって現代日本の食事情について学 習する。
第 14 回	「循環」型社会をめざして ～生ゴミのリサイクルで 野菜を作って地域をつな げる！	生命・物質が循環する自然生態系のな かに農業の営みを埋め戻す意義につ いて学習する。
第 15 回	まとめ～「食」がかわれ ば「農」は変わる！	日本の食や日本農業・農村をめぐる諸 問題を理解したうえで農業や農村の意 義について再度考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。その
うえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な
学習を望む。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は、授業で毎回紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を 90 %、授業後に課すリアクションペー
パーの内容を 10 %として評価する。なお受講者の人数次第では、評価方法を
変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業では出席をとらなかったため、授業を欠席する学生がいたよ
うである。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではないが、授業後
にリアクションペーパーを課したいと考えている。

【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）」を修得済の場
合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステ
イナビリティコース（地域環境共生コース）

HA374

食と農の環境学Ⅲ

吉田 岳志

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農業問題を考える

【到達目標】

食料生産を担う農業・農村の現状を理解するとともに①食料自給率や食品の
安全性確保の現状と課題②農業生産を支える技術の発展と課題③産業として
の農業生産活動と環境保全機能の関係④地球環境問題に対応した農業生産⑤
新たな農業生産の展望、等についての知識を取得し、農業問題について多面的
なものを見方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

（概要）

食料自給率や世界の食料問題について紹介するとともに、これまでの我が国
の農業生産の推移を技術や政策の転換に着目しながら講義します。その上で、
現在の農業の主な課題である①環境保全型農業②食の安全問題（リスク分析
の考え方）③遺伝子組み換え技術をはじめとしたバイオテクノロジーや I T
の農業への応用④地球温暖化と農業⑤生物多様性と農業等について現状と課
題を講義します。

（方法）

パワーポイントを使った講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の農業	わが国で行われているさまざまな農業 の形態を紹介します。
第 2 回	農業生産の推移	戦後 70 年の農業生産の推移を技術の 発展や政策の推移に着目しながら講義 します。
第 3 回	食料自給率	世界の食料問題、食料自給率の推移、 海外との比較、食料自給率が低い要 因、食料自給率向上に向けた取組等 について講義します。
第 4 回	農村の現状	農業の担い手問題、農村の多面的機 能、それが損なわれている現状、鳥獣 害対策等について講義します。
第 5 回	食品の安全問題	様々な危害要因と食品の安全性との 関係、リスク分析の考え方等を講義し ます。
第 6 回	農業生産資材	農業機械、農薬、肥料等の農業生産資 材の役割と課題について講義します。
第 7 回	持続的農業生産	環境保全型農業、有機農業等持続的農 業生産方式の現状と課題について講義 します。
第 8 回	バイオテクノロジーと農 業Ⅰ	バイオテクノロジーの農業分野（作物） での活用について講義します。
第 9 回	バイオテクノロジーと農 業Ⅱ	バイオテクノロジーの農業分野（畜 産、食品工学等）での活用について講 義します。
第 10 回	生物多様性と農業	農業生産活動が生物多様性に与える負 荷と生物多様性を保全する役割、国際 的な取り組みについて講義します。
第 11 回	地球温暖化と農業	農業生産活動による温室効果ガス発生 状況、地球温暖化防止、温暖化適用技 術等について講義します。
第 12 回	技術開発・普及と知的財 産の保護・活用	農業部門における技術開発・普及及び 新品種等知的財産の保護・活用の仕組 みと課題、I T 化やロボット化等新し い農業技術について講義します。
第 13 回	震災対応問題	津波や放射能汚染の被害への対応の現 状と課題について講義します。
第 14 回	国際化の進展と農業農村 の展望	TPP 問題等農産物の輸入自由化問題 への対応及び農業・農村の現場で起き ている新しい取り組みを紹介しなが ら、今後の農業の展望について講義し ます。
第 15 回	まとめ	必要に応じて 14 回までの講義の補足 を行うとともに、全体を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌、テレビ等で報じられる農業問題を見たり聞いたりしながら、疑問点や気づいた点をメモしておいてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、講義する主な項目を列記したレジュメを配り、パワーポイントを使って講義しますので、テキストは使いません。

【参考書】

農業白書（平成25年度食料・農業・農村の動向）
農林水産省のHPで閲覧できます。

【成績評価の方法と基準】

出席点40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

「考え方が分かりやすかった」についての学生の評価が低いようなので（一昨年のアンケート）、伝える情報量を少し減らして、毎回の授業の結びに、その日の講義のエッセンスを伝えるようにする。

また、講義の冒頭の時間を利用して、前回の講義に対する主な質問（出席調査票に記入）に対する回答を行い、学生の理解を深める。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA339

スポーツビジネス論 I

千田 利史

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：3~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの意味や価値を、主にビジネスの側面から総合的に解説したい。オリンピックや、サッカー W 杯のような大きなイベントのメカニズムをはじめ、地域スポーツ振興、広告とスポーツの関係なども取り扱う。

【到達目標】

受講学生にとって、ビジネスとしてのスポーツを成立させている要因や、スポーツ団体の運営を支えるメカニズム、及び、今後のスポーツの展望について、体系的な知識の取得ができるように構成する。
スポーツがビジネスの考え方や手法を取り入れることで、運営基盤の強化など、良い側面が生まれると同時に、ゆきすぎた商業主義が弊害を生むこともある。その双方への理解が深まることを期待したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代社会とスポーツ	「見るスポーツ」と「するスポーツ」 スポーツの世界
第2回	マーケティングとスポーツ	理論 なぜスポーツが注目されるか
第3回	スポーツビジネス、スポーツマーケティングの実際	大型スポーツイベントのケーススタディ 展望や問題点
第4回	スポーツ団体の運営の仕組み	各種競技団体の実態や課題
第5回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第6回	ワールドカップサッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第7回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ理論とスポーツ
第8回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第9回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート、フェンシング、ラグビーなどの競技の個別分析
第10回	テレビなどのメディアとスポーツ	放映権とスポーツ番組 権利ビジネス
第11回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第12回	インターネット状況とスポーツビジネス	新しいメディアとスポーツ デジタルメディアとスポーツの振興の可能性
第13回	スポーツと消費者	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第14回	現代社会にとってのスポーツの意味	歴史と現在 スポーツビジネスの課題
第15回	現代のスポーツビジネスの課題と可能性（まとめ）	スポーツビジネスのさらなる成長には、何が必要か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常から、スポーツのビジネス側面に関心を持つこと。
資金の調達や、クラブ運営の方法、広告の活用など。
試合結果だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する情報や記事に目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

アマゾンの電子書籍版『メディアショック+』（千田利史著）を教科書として指定します。上下巻で、各巻250円（計500円）。ワンズブックス。2015年刊。

アマゾンのサイトで書名・著者名（メディアショック+・千田利史）で検索し、購入してください。パソコンでも、スマホでも（読書用対応端末でも）読めます。ただし、事前に Kindle アプリ（無料アプリ）をインストールして読む必要があります。なお、「スポーツビジネス2（秋学期）」にも、同書を使用します。

【参考書】

必要に応じて関連書籍や文献を紹介し、コピーなどでの配布を行います。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時にレポートの提出を求めます（字数やテーマは授業内で指示）。そのレポートの評価を 50%、および平常点を 50 %として、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

映像や、ビジュアル素材などもより積極的に活用する。
最新のスポーツ界の動向を解説し、紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は PPT で作成予定。授業支援システムにも掲出。
特に、受講生は、機器などの準備は必要ありません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA339

スポーツビジネス論Ⅱ

千田 利史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。
授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。
受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

受講者は、最新のスポーツビジネスの理論や知見を習得できる。
現在のスポーツ界が抱える課題の発見とその解決策を考案しながら、より深く、スポーツの状況を理解する。
一連のプレゼンテーション関連作業（企画書のまとめ方や、発表の仕方など）を通じ、発表スキルの習得の機会ともなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ界の抱える課題（東京オリンピックの成功、知られていないスポーツの今後の振興、メディアの活用など）に関し、それぞれの問題点を探る。課題の解決に向けての戦略や手法を学びとる。
また、編成したグループごとに（全員がどこかのグループに所属）、選択した課題へのソリューションを発見し、考えをまとめて発表することを通じ、実践的な理解を深めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツビジネスの基本 スポーツを巡る課題の発見と設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ ④その他
第 2 回	課題の解説①	スポーツビジネスの課題の発見 チーム編成の方法（解説） チームの運営と役割分担をどう行うか
第 3 回	課題の解説②	メディアリレーション （スポーツをメディアの関係）
第 4 回	課題の解説③	スポンサーシップ （スポーツとスポンサーの関係）
第 5 回	課題の解説④ 発表グループ分け	チーム編成 リーダーや役割分担の決定 テーマの決定 議論の進め方
第 6 回	プレゼンテーションの仕方	課題の認識 発表のまとめ方 発表の仕方
第 7 回	グループ発表①	実際の発表（一講義時に、2から3グループ程度：以下同様） 質疑とコメント
第 8 回	グループ発表②	質疑とコメント
第 9 回	中間総括	スポーツを巡る課題の整理 プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第 10 回	グループ発表③	質疑とコメント
第 11 回	グループ発表④	質疑とコメント
第 12 回	プレゼンテーションの総括 優秀チームの発表	課題の整理 発見点の整理と確認 コメント
第 13 回	スポーツビジネス理論に何ができるか	現状のスポーツの課題と対応理論
第 14 回	職業としてスポーツを選択することの可能性	スポーツに関わる職業 統計 スポーツに関わるライフプラン設計
第 15 回	まとめ： 日本のスポーツ界 世界のスポーツ界 グループ発表への総評とアドバイス	スポーツビジネスの発展に、具体的なアイデアをどう活用していくべきか （まとめの議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外に、個別のグループでの簡単な調整や準備が必要です。

受講登録人数にもよりますが、およそ、10人程度で一つのグループを編成し、共同でプレゼンテーション（発表）を行うこととします。グループには必ず参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】

アマゾンの電子書籍で刊行した『メディアショック+』（千田利史著）を選定します。
ワンスブックス。2015年刊行。上下巻各250円（計500円）。アマゾンのサイトで、著書名か著者名で検索し、ダウンロードしてください。スマホ、パソコン、電子書籍端末で、読むことができます。Kindleアプリが必要です（無料アプリです）。（なお、本書は春学期の「スポーツビジネス論1」の教科書でもあります）。

【参考書】

必要に応じ、参考書籍や文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

グループ発表と、最終授業時（講義時間内テスト）、および、平常点で評価します。
グループ作業での貢献や発表内容（40%）
最終授業時の小テスト（20%）
及び平常点（40%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な参加と議論、および発表を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

各自（グループごとに）がPPTで発表資料を作成し、パソコン投影をしてもらいます。
発表時は、使い慣れたパソコンなどを教室に持ち込むことを推奨します。
大学のAV機器操作にも慣れておくことが望ましいです。

HA340

アーティストと社会貢献

庄野 真代

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても20世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎ出す作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通じた社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動を検討しながら、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探る。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介し、それぞれが調べてきた豆情報を持ち寄って検討する。授業期間内に1～2回、ゲストスピーカーを迎える予定をしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第2回	アーティストとは？社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第3回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史（1）	1960年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯について検討する。ビート・シーガーなど。
第4回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史（2）	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」（1984年）を契機に「USAフォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ボブ・ゲルドフ、ボノなど。
第5回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史（3）	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取りくむアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第6回	国際社会とアーティスト～親善大使として役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第7回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について検討する。レディガガなど。
第8回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっているNPO/NGO、市民団体について検討する。
第9回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。

第 10 回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について検討する。
第 11 回	社会貢献活動の企画ワークショップ	アーティストが社会貢献する企画をたててみる。
第 12 回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまじしきキャンペーン」「なんとかしなきゃ！プロジェクト5.5億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストを検証する。
第 13 回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を検証し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第 14 回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探る。
第 15 回	共生社会づくりへの参加の扉～誰もがチェンジャーになれる？	最終回ではなくここがスタート地点。授業全体から感じたことを「自分らしいアクション」に繋げていく意義を問うことでまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

好きなアーティストの、本来の活動をととした社会貢献、あるいは本業外での社会貢献活動を探してみよう。毎回、内容に添った豆情報を一つ調べてくる。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜、配布

【参考書】

その都度、紹介

【成績評価の方法と基準】

①毎回提出する豆情報 30 %、②課題レポート 40 %、③授業内試験 30 % による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、PC、各種AV機器

【その他の重要事項】

講師が主催している復興支援コンサート「シェアリング 2016 in 新宿」(7/2)の現場への参加や、秋に予定している「シェアリング東北」の準備スタッフとして参加を希望される方は歓迎します。是非、実際の社会貢献プログラムを体験してみてください。

【関連の深いコース】

全てのコース

HA327

グローバルスタディーズ I

吉田 秀美

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが日常生活で購入している商品は、様々な原材料を加工して作られています。例えば、大豆は味噌や豆腐の材料であるだけでなく、マーガリン、ファーストフードの揚げ油、スナック菓子、石鹸、インク、バイオ燃料にまで使われています。

本授業では、こうした原材料（世界の市場で大量に取引される商品＝コモディティ）を入り口として、環境、貿易、食料、エネルギー、歴史、ODA、企業やNGOの活動などについて学びます。授業を通じて、各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

【到達目標】

- 1) 身近なモノを事例として、生産地や生産者その他のステイクホルダーに関する具体的なイメージを持ち、社会・経済の動き方を理解する。
- 2) 文献や統計資料（英文含む）を読みこなす力を身につける。
- 3) ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。
- 4) 調べて得た知識を基礎としつつ、独自の視点で課題や解決策を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が25名を超過する場合は、第1回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第 2 回	講義：コーヒーのサプライチェーンについて	生産者から消費者までの流れや課題を学ぶ
第 3 回	講義：綿製品のサプライチェーンについて	綿製品の生産者から消費者までの流れや課題を学ぶ
第 4 回	大豆に関する文献講読と議論（1）	大豆の基礎知識（農産物としての性質、栄養、用途、サプライチェーンのステイクホルダー）
第 5 回	大豆に関する文献講読と議論（2）	生産地の歴史と課題 1：日本
第 6 回	大豆に関する文献講読と議論（3）	生産地の歴史と課題 2：中国
第 7 回	大豆に関する文献講読と議論（4）	生産地の歴史と課題 3：アメリカ
第 8 回	大豆に関する文献講読と議論（5）	生産地の歴史と課題 4：南米
第 9 回	大豆に関する文献講読と議論（6）	生産地の歴史と課題 5：アフリカ
第 10 回	大豆に関する文献講読と議論（7）	生産地の歴史と課題 6：インド
第 11 回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第 12 回	パーム油に関する文献講読と議論（1）	パーム油の基礎知識（農産物としての性質、栄養、用途、サプライチェーンのステイクホルダー）
第 13 回	パーム油に関する文献講読と議論（2）	生産地の歴史と課題 1：マレーシア
第 14 回	パーム油に関する文献講読と議論（3）	生産地の歴史と課題 2：インドネシア
第 15 回	まとめ	振り返りのレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

「WWF Report2014 拡大する大豆栽培—影響と課題」

概況把握のため表記テキストを使用しますが、様々な視点の文献や統計資料を各回で紹介します。

【参考書】

本郷豊・細野昭雄（2012）「ブラジルの不毛の大地『セラード』開発の奇跡」（JICA プロジェクト・ヒストリー）ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

出席、課題への取り組み、授業への貢献度、レポート

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度から開講します。授業運営方法や取り上げる話題について、受講者からの提案等を積極的に取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

グローバル・スタディーズⅠではモノと環境の関わりに重点を置き、Ⅱではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修は可能ですが、特に推奨するわけではありません。

【推奨される受講者】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA327

グローバルスタディーズⅡ

吉田 秀美

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちにとって身近な食品である砂糖は、歴史の中で人の移動に大きな影響を与えてきました。本授業では砂糖がもたらした人の移動について、主要な生産国の歴史と現在直面している課題を考察します。授業を通じて各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

【到達目標】

- 1) 現代の社会の成り立ちには歴史的経緯があることを理解し、その知識をふまえて現代の国境を超える人の移動について考察する。
- 2) 文献や統計資料を読みこなす力を身につける。
- 3) ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が 25 名を超過する場合は、第 1 回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第 2 回	講義：カカオのサプライチェーンについて	生産者から消費者までの流れや課題を学ぶ
第 3 回	砂糖に関する文献講読と議論（1）	サトウキビの基礎知識（農産物としての性質、栄養、用途、サプライチェーンのステイクホルダー）
第 4 回	砂糖に関する文献講読と議論（2）	生産地の歴史と課題 1：カリブ諸国
第 5 回	砂糖に関する文献講読と議論（3）	生産地の歴史と課題 2：ブラジル
第 6 回	砂糖に関する文献講読と議論（4）	生産地の歴史と課題 3：アフリカ
第 7 回	砂糖に関する文献講読と議論（5）	生産地の歴史と課題 4：ハワイ
第 8 回	砂糖に関する文献講読と議論（6）	生産地の歴史と課題 5：タイ
第 9 回	砂糖に関する文献講読と議論（7）	生産地の歴史と課題 6：日本
第 10 回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第 11 回	人の移動に関する文献講読と議論（1）	ハワイ日系移民
第 12 回	人の移動に関する文献講読と議論（2）	ブラジル日系移民
第 13 回	人の移動に関する文献講読と議論（3）	日系人出稼ぎ労働者
第 14 回	人の移動に関する文献講読と議論（4）	外国人技能実習制度
第 15 回	まとめ	振り返りのレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

川北稔（1996）「砂糖の世界史」（岩波ジュニア新書）
高橋幸春（2008）「日系人の歴史を知ろう」（岩波ジュニア新書）

【参考書】

エリザベスアボット（2011）「砂糖の歴史」河出書房新社
WWF（2012）「生きている地球のためのより良い生産」

【成績評価の方法と基準】

出席、課題への取り組み、授業への貢献度、レポート

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度から開講します。授業運営方法や取り上げる話題について、受講者からの提案等を積極的に取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

グローバル・スタディーズⅠではモノと環境の関わりに重点を置き、Ⅱではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修は可能ですが、特に推奨するわけではありません。

【推奨される受講者】

グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

HA500

人間環境特論（西洋社会思想史Ⅰ）

竹本 研史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：西洋近代社会思想史

人間環境学部の学生として様々な領域で学習を進めていくにあたって、まずそれらの領域で必要となる基礎概念を把握しなければなりません。私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。そこで本講義では、社会思想史という枠組みから、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。春学期では、西洋近代を取り扱う予定です。

【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな領域で学習を進めていくうえで基本的かつ不可欠な諸概念について、思想的営為の系譜をたどることで、それら諸概念にかけられている負荷を把握し、そこで得た知見をもとにして、それらの現代社会における意義を考察し、見解を示せるようになることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、授業中ならびにアクションペーパー提出による質疑+次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がける。単に思想内容の解説だけでなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：「社会」の誕生	授業の説明、宗教改革とルネサンス
第2回	国家と統治術	ニコロ・マキャヴェリの思想——『君主論』を中心に
第3回	自然権と社会契約説（1）	トマス・ホブズ思想——『リヴァイアサン』を中心に
第4回	自然権と社会契約説（2）	ジョン・ロックの思想——『統治二論』を中心に
第5回	自然権と社会契約説（3）	ジャン＝ジャック・ルソーの思想——『人間不平等起源論』を中心に
第6回	自然権と社会契約説（4）	ジャン＝ジャック・ルソーの思想——『社会契約論』を中心に
第7回	啓蒙と市民社会（1）	イマヌエル・カントの思想——『人倫の形而上学』、『永遠平和のために』を中心に
第8回	啓蒙と市民社会（2）	G・W・F・ヘーゲルの思想——『法哲学綱要』を中心に
第9回	デモクラシーと平等	アレクシ・ド・トクヴィル『アメリカのデモクラシー』、『旧体制と大革命』を中心に
第10回	功利主義と道徳（1）	ジェレミー・ベンサム思想——『道徳および立法の諸原理序説』を中心に
第11回	功利主義と道徳（2）	J・S・ミルの思想——『自由論』、『女性の解放』を中心に
第12回	資本主義批判と社会主義（1）	初期社会主義の思想
第13回	資本主義批判と社会主義（2）	カール・マルクスの思想（1）——『経済学・哲学草稿』から『ドイツ・イデオロギー』へ
第14回	資本主義批判と社会主義（3）	カール・マルクスの思想（2）——『共産党宣言』から『資本論』へ
第15回	資本主義批判と社会主義（4）	カール・マルクスの思想（3）——『資本論』を中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各学期15回ずつの授業をおこないますが、壮大な社会思想史のなかにあつて30回でできることはたかがしれています。受講者諸氏におかれては、(1) おりにふれ、背景となるような歴史的・思想的知識に関して、高校の世界史や倫理の教科書などで復習しておいてください。(2) 各回、授業で取り上げる文献を事前に熟読しておいてください。(3) さらに、授業や上記参考書を手掛かりにして、自ら社会思想史に関する学習を発展させていってください。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013年。
宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013年。
坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014年。
仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキアヴェリからサンデルまで』、法律文化社、2013年。
同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014年。
山脇直司『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009年。
など。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する筆記試験に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新任のため該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【関連の深いコース】

人間環境学部で学ぶうえで基盤となる科目なので、どのコースにも該当すると言えるでしょう。

HA500

人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）

竹本 研史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：西洋現代社会思想史

人間環境学部の学生として様々な領域で学習を進めていくにあたって、まずそれらの領域で必要となる基礎概念を把握しなければなりません。私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。そこで本講義では、社会思想史という枠組みから、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。春学期では、西洋現代を取り扱う予定です。

【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな領域で学習を進めていくうえで基本的かつ不可欠な諸概念について、思想的営為の系譜をたどることで、それら諸概念にかけられている負荷を把握し、そこで得た知見をもとにして、それらの現代社会における意義を考察し、見解を示せるようになることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、授業中ならびにアクションペーパー提出による質疑+次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がける。単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	資本主義批判と社会主義（復習編）
第2回	近代の危機、唯物論への反証	マックス・ヴェーバーの思想——『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を中心に
第3回	精神分析と社会	ジークムント・フロイトの思想——『トーマスとタブー』、『快楽原則の彼岸』、『集団心理学と自我分析』、『モーセと一神教』を中心に
第4回	全体主義批判と人間性の問題（1）	アドルノ／ホルクハイマーの思想——『啓蒙の弁証法』を中心に
第6回	全体主義批判と人間性の問題（2）	ハンナ・アーレントの思想——『全体主義の起源』を中心に
第7回	全体主義批判と人間性の問題（3）	ハンナ・アーレントの思想——『人間の条件』を中心に
第7回	個人の自由と反植民地主義（1）	ジャン＝ポール・サルトルの思想——『存在と無』を中心に
第8回	個人の自由と反植民地主義（2）	ジャン＝ポール・サルトルの思想——『弁証法的理性批判』、『シチュエーション』を中心に
第9回	個人の自由と反植民地主義（3）	フランツ・ファノンの思想——『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に
第10回	フェミニズムの思想	シモーヌ・ド・ボーヴォワール、ジュディス・バトラーの思想を中心に
第11回	規律と権力（1）	ミシェル・フーコーの思想——『監視と処罰』を中心に
第12回	規律と権力（2）	ミシェル・フーコーの思想——『性の歴史』を中心に
第13回	規律と権力（3）	ミシェル・フーコーの思想——『社会は防衛しなければならない』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』を中心に
第14回	公共性と正義（1）	ジョン・ロールズの思想——『正義論』を中心に
第15回	公共性と正義（2）	ユルゲン・ハーバーマスの思想——『公共性の構造転換』を中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各学期 15 回ずつの授業をおこないますが、壮大な社会思想史のなかにおいて 30 回でできることはたかがしれています。受講者諸氏におかれては、(1) おりにふれ、背景となるような歴史的・思想的知識に関して、高校の世界史や倫理の教科書などで復習しておいてください。(2) 各回、授業で取り上げる文献を事前に熟読しておいてください。(3) さらに、授業や上記参考書を手掛かりにして、自ら社会思想史に関する学習を進展させていってください。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013 年。
宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013 年。
仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキャベリからサンデルまで』、法律文化社、2013 年。
同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014 年。
坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014 年。山脇直司『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009 年。など。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する筆記試験に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新任のため該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【関連の深いコース】

人間環境学部で学ぶうえで基盤となる科目なので、どのコースにも該当すると言えるでしょう。

HA500

人間環境特論（海の環境再生）

坂本 昭夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球の 80% を占める海、世界で一番海洋に囲まれている面積の大きい日本。しかし日本を取り巻く海洋にはそれぞれの地域特性の問題を抱えています。この授業では主に『東京湾』を取り上げ、東京湾での海洋環境の現状、問題を取り上げ、更に太平洋への影響など地球規模の環境問題に触れ、我々の生活態度がその環境を生み出している現実を認識し、地球、海洋にやさしい生活態度を発見してもらうことを目的とする。

【到達目標】

現在の東京湾における海洋環境は我々の生活に密接にかかわりを持っていきます。現状の海洋環境を学び、知ることでその『かかわり』を認識し感じ、豊かな生活がもたらした海洋環境の悪化をいかに改善するか、これ以上悪化させないかな等を考察してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は主に PPT を使用し、DVD 視聴等します。また現在東京湾等で活動する NPO や環境省の行政を交えてパネルディスカッションをおこないつながり進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋学環境概論	NHK スペシャル『東京湾』大都会の知られざる海。約 50 分の DVD を視聴し 現在の東京湾環境を見る。
第 2 回	東京湾における生物体系を知る	TBS 作成 『1 秒の世界』奇跡の海 東京湾いきもの大冒険！。約 50 分の DVD を視聴し 現在の東京湾生物環境を知る。
第 3 回	海洋ゴミを知る	海洋ゴミの実態。市民団体や NPO の清掃活動の実態を知り、ゴミを考える。
第 4 回	海洋ゴミを見る。	テレビ東京『ためしてガッテン！』約 1 時間の DVD 視聴し、東京湾での海洋ゴミを分析する
第 5 回	東北震災起因の漂着物	東北震災 津波による 環太平洋における漂着物と海底ゴミの様子
第 6 回	環太平洋での海洋ゴミと環太平洋ネットワークの構築	日本から流出する海洋ゴミとそれらゴミを処理する NGO 団体の活動等を紹介 Cleaning Marine Debris from Alaska's Beaches INDIE ALASKA 視聴
第 7 回	海洋ゴミの実態と活動事例・パネルディスカッション	(一社) Jean (海洋ゴミ専門家) を招き 講演・パネルディスカッションを行う。
第 8 回	海洋温暖化と 赤潮、青潮発生メカニズム	1 年を通じて発生する赤潮。その赤潮の発生原因と青潮の発生。その問題点を見る。
第 9 回	水質改善の為の活動 アマモ（海草）移植	海洋水質（環境）改善の為の活動紹介 アマモ（海草）移植
第 10 回	水質改善の為の活動 ワカメイイベント	海洋水質（環境）改善の為の活動紹介 ワカメ育成プログラム
第 11 回	海洋ゴミの実態と活動事例・パネルディスカッション	NPO 法人 World oceans day を招き、講演・パネルディスカッションを行う
第 12 回	プラスチックゴミ問題を知る	海洋に漂うプラスチックゴミと極小マイクロプラスチックを紹介。 youtube 『日本近海のマイクロプラスチック 世界平均の 27 倍』を視聴し、プラスチックを知る。
第 13 回	プラスチックを考える	プラスチック類、家庭ゴミの軽減策提案と海洋流出防止策・海外におけるプラスチックの軽減対策紹介
第 14 回	海洋ゴミ 行政マンから知る海洋環境問題	環境省 水・大気環境局 海洋環境室を招き 講演・パネルディスカッションを行う

第15回 海洋環境 総論

1回～14回を振り返り
現状の海洋環境問題を
再検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海洋環境は地球環境と同じく短期間で良くなるものではありません。しかし一人ひとりの生活態度を見直すことで、環境は少しずつですが良い方向へと変化していくものです。授業に対して事前準備等は必要ありませんが、1回ごとの授業内容を自分の生活態度と照らし合わせてください。きっとあなた方がやらなければならない環境配慮が見つかるとおもいます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

* 数回の授業最後の感想文提出（平常点） 30%
* 最後のレポート提出 70%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HA500

人間環境特論（ジェンダーから考える現代日本社会）

佐伯 英子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ ジェンダーから考える現代日本社会
ジェンダーの視点は、「男らしさ」や「女らしさ」というものが、社会的、文化的、歴史的にどのように構築されてきたのかを明らかにします。この授業では、性別とは何なのか、性差とは何なのか、というところから考え始め、ライフコースをたどる中から私たちがジェンダーの規範をどのように学ぶのか、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に、どのような影響を与えているのかを探ります。

【到達目標】

歴史的な視点、国際比較、国内のデータ等を用いてジェンダーを多面的に捉えるのと同時に、日常生活の中で当たり前と思うこと、常識、または自然であると考えられていることを疑い、ジェンダーの視点で社会をみることから、新たな知見を獲得することを目指します。さらに、より平等で持続可能な社会の構築を目指すなかで、ジェンダーにどのような重要性があるかを考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めますが、グループディスカッションや毎回の授業で集めるリアクションペーパーへの記入から、積極的な参加を期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標
第2回	ジェンダーとは何か	性別と性差
第3回	ジェンダーと社会化	私たちは「ジェンダーをする」ことをどう学ぶのか
第4回	教育のなかのジェンダー	隠れたカリキュラムとは
第5回	ジェンダー、性自認とセクシュアリティ	身体とアイデンティティ
第6回	リプロダクティブ・ライツと生殖技術	出生前診断、不妊治療、人工妊娠中絶
第7回	ジェンダーと労働	雇用体系、賃金格差
第8回	ジェンダーと家族	近代家族の成立と発展
第9回	ジェンダー、家族、労働	女性と子どもの貧困
第10回	ジェンダー、家族、労働	ワークライフ・バランス
第11回	暴力とジェンダー	性暴力、ドメスティックバイオレンス
第12回	グローバル化とジェンダー	労働とリプロダクシオンの視点から
第13回	国家とジェンダー	政治と女性
第14回	フェミニズム	その歴史と現在
第15回	まとめ	小テスト、授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後には復習をし、積極的に質問をしてください。課題は前半と後半の2回提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

適宜配布します。

【成績評価の方法と基準】

出席と授業への参加（含コメントシート）30%、課題50%、小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、該当しません。

【関連するコース】

すべてのコース

HA101

人間環境学への招待

人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

【到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース・研究会などの理解）、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各コースの学習内容について解説し、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び (1)、大学での学び方①	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学でのノートの取り方を実習を交えて解説する。
第2回	人間環境学部での学び (2)	フィールドスタディと、キャリア教育に関する講義を行う。
第3回	人間環境学部での学び (3)	コース制の説明と、文理融合の人間環境学部での学びの一例を講義する。
第4回	サステイナブル経済・経営コースの学び	コースに関連する科目の担当教員による講義。
第5回	グローバルサステイナビリティコースの学び	同上
第6回	ローカルサステイナビリティの学び	同上
第7回	大学での学び(2)	リーディングスキルを学ぶ
第8回	人間文化コースの学び	コースに関連する科目の担当教員による講義。
第9回	環境サイエンス	同上
第10回	大学での学び(3)	ライティングスキルを学ぶ
第11回	テーマによる学び①	同一テーマに関して、複数の教員から異なったアプローチによる講義を行う。
第12回	テーマによる学び②	同上
第13回	テーマによる学び③	同上
第14回	テーマによる学び④	同上
第15回	まとめ-この学部でいかに学ぶか-	講義の全体を総括し、学部理念の再確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

文献および課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること。再履修者は、自分のクラスの授業に参加してください。

HA101

人間環境学への招待

人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

【到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース・研究会などの理解）、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各コースの学習内容について解説し、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び (1)、大学での学び方①	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学でのノートの取り方を実習を交えて解説する。
第2回	人間環境学部での学び (2)	フィールドスタディと、キャリア教育に関する講義を行う。
第3回	人間環境学部での学び (3)	コース制の説明と、文理融合の人間環境学部での学びの一例を講義する。
第4回	サステイナブル経済・経営コースの学び	コースに関連する科目の担当教員による講義。
第5回	グローバルサステイナビリティコースの学び	同上
第6回	ローカルサステイナビリティの学び	同上
第7回	大学での学び(2)	リーディングスキルを学ぶ
第8回	人間文化コースの学び	コースに関連する科目の担当教員による講義。
第9回	環境サイエンス	同上
第10回	大学での学び(3)	ライティングスキルを学ぶ
第11回	テーマによる学び①	同一テーマに関して、複数の教員から異なったアプローチによる講義を行う。
第12回	テーマによる学び②	同上
第13回	テーマによる学び③	同上
第14回	テーマによる学び④	同上
第15回	まとめ-この学部でいかに学ぶか-	講義の全体を総括し、学部理念の再確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

文献および課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること。再履修者は、自分のクラスの授業に参加してください。

HA101

基礎演習**人間環境学部教員**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等を学ぶ。
第4回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（2）	同上
第6回	テキストの講読（3）	同上
第7回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第8回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第9回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第10回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論2	同上
第12回	グループ発表・討論3	同上
第13回	グループ発表・討論4	同上
第14回	グループ発表・討論5	同上
第15回	総括のグループワーク	レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、討論の積極性、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと時間帯（ゾーン）をそれぞれ第3希望まで調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

HA111

情報処理基礎**小林 信彦**

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説 / IT系の資格について / スキルレベルの確認 / コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	学内のネットワーク・インターネットの活用 / 電子メールの活用 / 情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Microsoft Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに最低限必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図、表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Micorosoft excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高いさまざまな関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工法、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	powerpointを利用したプレゼン資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド資料に対してスライド切替え、アニメーションの活用演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の内容が確実に身につくように練習を繰り返すこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポート課題により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。USB メモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1 年生はガイダンス時に配布されたプリント、2 年生以上で不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

HA111

情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6 回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習環境の解説 / IT 系の資格について / スキルレベルの確認 / コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第 2 回	ネットワークの活用とセキュリティ	学内のネットワーク・インターネットの活用 / 電子メールの活用 / 情報セキュリティについて
第 3 回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 4 回	文書作成演習-書式	Microsoft Word の基本的な文書作成と書式の活用演習
第 5 回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに最低限必要な機能の演習
第 6 回	文書作成演習-図表の活用	各種図、表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第 7 回	文書作成応用	word を利用した文書作成の応用 (様々な文書レイアウト)
第 8 回	表計算演習-基本的な概念	Micorosoft excel の概念と基礎的な計算処理の演習
第 9 回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第 10 回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高いさまざまな関数の演習とグラフ作成演習
第 12 回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工法、データベース機能について演習
第 13 回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第 14 回	プレゼン資料作成-スライドの作成	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第 15 回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド資料に対してスライド切替え、アニメーションの活用演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の内容が確実に身につくように練習を繰り返すこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポート課題により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。USB メモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1 年生はガイダンス時に配布されたプリント、2 年生以上で不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

HA111

情報処理基礎

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算（1）	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算（2）	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。
第 15 回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

HA111

情報処理基礎

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第3回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第4回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第5回	Excel の応用：表計算（1）	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第6回	Excel の応用：表計算（2）	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第7回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第8回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第9回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第10回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第11回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第12回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第13回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第14回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。
第15回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

HA111

情報処理基礎

渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：情報の理論、実務とその応用

本科目では、情報とその処理についての理論と応用法を学習し、ユーザとしての立場から IT 技術を活用して業務改善を図り、あるいは各種研究に役立つための能力を養います。国家試験（経済産業省）「IT パスポート試験」を受験することを念頭に置いています。また同省「基本情報技術者試験」を目指すための内容についても触れます。これらの内容に沿って学習していく過程で、環境問題との接点も意識することになります。例えばマネジメントの考え方など、最終的には情報処理の問題にとどまらず幅広い領域の問題に関連することが理解されます。

【到達目標】

IT に関する知識を習得して、国家試験のカリキュラムの内容を理解することを最初の目標としています。さらにそこで得られた知識を実際の問題に照らし、どのように応用できるのかを考える力を養うことがもうひとつの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報実習室は使わず通常教室でテキストを使用して学習することを中心に行います。コンピュータの仕組みやソフトウェア、業務組織の機能・運用と業務改善、品質管理手法など広範囲の内容について学習します。現代社会における科学技術のあり方などについても考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、情報処理技術者試験の説明
第 2 回	IT システムと利用 －テクノロジー（1）	PC の構造としくみ、ソフトウェア
第 3 回	IT システムと利用 －テクノロジー（2）	システム構成とネットワーク
第 4 回	IT システムと利用 －テクノロジー（3）	セキュリティ対策
第 5 回	IT システムと利用 －テクノロジー（4）	表計算と関係データベースの考え方
第 6 回	IT システムの開発と経営 －ストラテジ（戦略）－（1）	経営戦略と業務分析
第 7 回	IT システムの開発と経営 －ストラテジ（戦略）－（2）	品質管理手法、問題分析手法
第 8 回	IT システムの開発と経営 －ストラテジ（戦略）－（3）	会計・財務の分析
第 9 回	IT システムの運用管理 －マネジメント－（1）	システム開発工程とスケジュール管理
第 10 回	IT システムの運用管理 －マネジメント－（2）	システムのテストとその手法
第 11 回	IT システムの運用管理 －マネジメント－（3）	システム運用と信頼性
第 12 回	IT パスポート試験の対策と応用（1）	具体的な問題にアプローチ
第 13 回	IT パスポート試験の対策と応用（2）	具体的な問題にアプローチ
第 14 回	基本情報技術者試験の対策と応用（1）	カリキュラム解説と過去問研究
第 15 回	基本情報技術者試験の対策と応用（2）	カリキュラム解説と過去問研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

使用するテキストについて、毎回予習と復習を行ってください。テキストの中の練習問題も含めて学習してください。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

【参考書】

開講時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果と出席状況を勘案し評価します。

【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習教室は使用しません。通常教室においてテキストを使った講義を行います。

HA111

情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説 / IT系の資格について / スキルレベルの確認 / コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	学内のネットワーク・インターネットの活用 / 電子メールの活用 / 情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Microsoft Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに最低限必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図、表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	wordを利用した文書作成の応用(様々な文書レイアウト)
第8回	表計算演習-基本的な概念	Micorosoft excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高いさまざまな関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工法、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	powerpointを利用したプレゼン資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド資料に対してスライド切替え、アニメーションの活用演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の内容が確実に身につくように練習を繰り返すこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポート課題により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上に行う。USB メモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1 年生はガイダンス時に配布されたプリント、2 年生以上で不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

HA111

情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6 回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習環境の解説 / IT 系の資格について / スキルレベルの確認 / コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第 2 回	ネットワークの活用とセキュリティ	学内のネットワーク・インターネットの活用 / 電子メールの活用 / 情報セキュリティについて
第 3 回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 4 回	文書作成演習-書式	Microsoft Word の基本的な文書作成と書式の活用演習
第 5 回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに最低限必要な機能の演習
第 6 回	文書作成演習-図表の活用	各種図、表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第 7 回	文書作成応用	word を利用した文書作成の応用 (様々な文書レイアウト)
第 8 回	表計算演習-基本的な概念	Micorosoft excel の概念と基礎的な計算処理の演習
第 9 回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第 10 回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高いさまざまな関数の演習とグラフ作成演習
第 12 回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工法、データベース機能について演習
第 13 回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第 14 回	プレゼン資料作成-スライドの作成	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第 15 回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド資料に対してスライド切替え、アニメーションの活用演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の内容が確実に身につくように練習を繰り返すこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポート課題により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。USB メモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1 年生はガイダンス時に配布されたプリント、2 年生以上で不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

HA111

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。
近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにもない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理：Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作：HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題提出を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

HA111

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。

近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにもない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理：Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作：HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題提出を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

HA110

統計とデータ分析

渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： EXCEL を使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する

統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海水面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～9.5%が含まれる範囲」、「90%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用しながら統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

【到達目標】

本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に付けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけではなく、大学生として身に付けるべき教養という側面もあるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、情報教室を使用して進めていく。各種ソフト+ネットワーク利用法など IT に関わる全般的なスキルの習得に加え、EXCEL の利用法を中心に学習する。これにより統計学の基礎を学ぶ。なお実務的な力を高めるために EXCEL 関数なども積極的に利用する。本科目は理系の内容が苦手だと思っている文系の学生が受講することを前提としているため、ゆっくりと分かる学生にとっても有益な授業となるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第2回	情報教室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて。
第3回	EXCEL 実習 1	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第4回	EXCEL 実習 2	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第5回	EXCEL 実習 3	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第6回	環境データの検索と分析 1	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第7回	環境データの検索と分析 2	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第8回	統計学入門 1	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第9回	統計学入門 2	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第10回	統計学入門 3	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が 70 であるとは、55 であるとは統計的にどのような意味か？
第11回	統計学入門 4	相関分析と回帰分析（相関係数と 2 つの量の関係の強さ、最小乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいのか？

発行日：2021/6/1

第 12 回	統計学入門 5	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第 13 回	統計学入門 6	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。
第 14 回	統計学入門 7	因子分析について。原因と結果の分析法。結果からその重要な要因を見抜くには？
第 15 回	総括	環境データを統計的に理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。出席を重視し、これと最終授業に出題するレポートの内容を勘案して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業では毎回情報教室を利用します。受講にあつては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

【その他の重要事項】
この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていません。この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。
旧科目名称「統計概論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

HA132

英語 I（スキルアップ科目）

余田 亜希

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法を再確認し、大学生にふさわしい知的な表現を用いて会話ができるように訓練する。

【到達目標】
英語の語彙を増やし、定型表現を習得する。文法的に正しい表現を用いて英語でコミュニケーションがとれるようにする。原稿を読むのではなく、考えて話す能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で教科書の 1 ユニット分進める。教科書の本文と文法を確認したあと、学生同士ランダムにインタビューを行い、結果を簡単な英語で報告する練習をする。そのあと、時間があれば教科書に沿って速読と作文の練習も行うが、この授業で重点を置くのは、口頭による英語での報告の部分なので、簡単なメモ程度で英語を話す練習の方に時間を割く予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方、成績評価基準についての説明 各自英語で簡単な自己紹介をする
2	Unit 1	Were You Texting While Walking?
3	Unit 2	Do You Work Part-time?
4	Unit 3	He Has a Great Smile, and He's Rich!
5	Unit 4	Did You Enjoy Playing Basketball?
6	Unit 5	Manners: Be a Good Guest!
7	中間発表会	教科書の中から一つトピックを選び、学生同士インタビューを行う
8	Unit 6	Call Me When You Get There.
9	Unit 7	Dogs Are So Much Better.
10	Unit 8	You Could Have Pool Parties!
11	Unit 9	We Are Going on a Cruise!
12	Unit 10	Have You Ever Volunteered Before?
13	Unit 11	Think Before You Post!
14	口頭発表	授業で扱ったトピックの中から一つ選び、英語で 5 分程度の発表を行う
15	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書に指定された URL にアクセスして音声ダウンロードし、予習してから出席すること。テキストのわからない単語は辞書で調べること。その際、類義語と反意語に注目すること。授業で耳にした修辭法や定型の言い回しは徹底して練習すること。

【テキスト（教科書）】

English Beams（金星堂 2016 年）1800 円+税

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の指名に対する応答 20 %
中間発表会 20 %
口頭試問 20 %
期末試験 40 %
どのような理由であっても欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回と見なす。

30 分以上の遅刻・早退は欠席として取り扱う。

教科書を所持していない場合は欠席扱いとなることがある。

この授業の履修を予定している学生は第一回目の授業に必ず出席すること。途中からの参加はどのような理由があっても認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目につき該当なし。

【その他の重要事項】

この授業の履修を予定している学生は、必ず初回の授業に出席し、履修許可を得ること。許可なく出席しても単位取得の対象とならないので注意すること。

HA132

英語 I（スキルアップ科目）

吉江 秀和

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングを中心に英語の日常会話表現に親しむ。

【到達目標】

日常生活に必要なリスニング力を身に付け、様々な状況で適切な英語表現を用いることができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語表現に触れ、それぞれのテーマでよく使われる表現に耳を慣らす。また、耳でおぼえた表現を適切な発音で使えるよう、教室のオーディオ再生録音機材を用いながら、overlapping、repeating、shadowing などによる練習をおこなう。更に、授業の進み具合によって、授業で覚えた日常表現を実際の英会話で活用できるよう、Native World Pro. という双方向の英会話ソフトを用いて各自が気後れせずにやり取りを練習できる機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Units 1 and 2	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話や乗り物に関する会話を聴き取る練習をしながら、位置・場所・時間・頻度に関する表現を覚える。
第 3 回	教科書 Units 3 and 4	ショッピング・スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聴き取る練習をしながら、数量・距離・長さや感情に関する表現を覚える。
第 4 回	Native World Pro. 日常会話編 Asking for direction	実際の英会話で道をたずねる表現を用いる練習をする。
第 5 回	教科書 Units 5 and 6	食事・旅行・レジャーに関する会話を聴き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼・判断・評価に関する表現を覚える。
第 6 回	教科書 Units 7 and 8	ビジネス・オフィス・インターネット・コンピュータ関連の会話を聴き取る練習をしながら、経験・完了・情報の交換に関する表現を覚える。
第 7 回	Native World Pro. 日常会話編 Ordering breakfast at the restaurant	レストランでの実際の英会話の練習をする。
第 8 回	教科書 Units 9 and 10	金銭・費用関連の会話やホテルでの会話を聴き取る練習をしながら、方法・手段・原因・理由に関する表現を覚える。
第 9 回	教科書 Units 11 and 12	天候に関する会話や電話での会話を聴き取る練習をしながら、予定・日程・許可・義務に関する表現を覚える。
第 10 回	Native World Pro. 日常会話編 Sending a package at the post office	実際の英会話で、郵便局で荷物を送るための表現を用いる練習をする。
第 11 回	教科書 Units 13 and 14	学校や家庭での会話を聴き取る練習をしながら、賛成・不賛成の意向や可能性を示す表現を覚える。
第 12 回	教科書 Unit 15 と補足教材	健康に関する会話を聴き取る練習をしながら、目的を示す表現を覚える。
第 13 回	復習および補足教材	今まで練習してきたことを復習し、補足教材を用いて更なるリスニング力の向上を目指す。
第 14 回	復習および補足教材	今まで練習してきたことを復習し、補足教材を用いて更なるリスニング力の向上を目指す。
第 15 回	試験	授業で覚えた表現を聴き取る試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いる回の前に、それぞれの週の Unit の問題を教科書付属の自習用 CD を用いて予習しておくこと。また、教科書、補足教材や Native World Pro. で覚えた表現を授業後に復習すること。

【テキスト（教科書）】

Listening Practice for Daily Expressions（鶴見書店）

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席 4 回で単位取得資格を失うため、欠席回数に注意すること（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響する）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の当初からここで扱う教材を容易に解ける必要はない。ただし、リスニングやスピーキング力の向上には反復練習が必要となるため、授業以外にも自主的に練習時間を確保しリスニング、スピーキング力を高める努力をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行う。したがって、受講を希望する学生は必ず初回授業に出席すること。

HA132

英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

【到達目標】

To be able to communicate with people freely

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第4回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第5回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第6回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第7回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第8回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第9回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第11回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第12回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第13回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第14回	Acting out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第15回	In-class quiz of this course	Students are given a 60-minute written test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading the script and summarizing each unit.

Writing down their favorite line.

Studying the new words and phrases in advance.

【テキスト（教科書）】

The Devil Wears Prada (松柏社、2,200円)

【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

Test (70%), Attendance and Assignments (30%)

【学生の意見等からの気づき】

to give students more chance to have a little discussion

【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

英語Ⅲ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

【到達目標】

to be able to express one's thoughts clearly

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of two pages from Obama Speeches in June.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a test.
第2回	Unit 1 A great read	Grammar and vocabulary
第3回	Unit 1 A great read	Conversation and reading
第4回	Unit 2 Technology	Grammar and vocabulary
第5回	Unit 2 Technology	Conversation and reading
第6回	Unit 3 Society	Grammar and vocabulary
第7回	Unit 3 Society	Conversation and reading
第8回	Checkpoint 1	Review Unit 1-3
第9回	Unit 4 Amazing world	Grammar and Vocabulary
第10回	Unit 4 Amazing world	Conversation and reading
第11回	Unit 5 Progress	Grammar and Vocabulary
第12回	Unit 5 Progress	Conversation and reading
第13回	Unit 6 Business studies	Grammar and Vocabulary
第14回	Unit 6 Business studies	Conversation and reading
第15回	Checkpoint	In-class test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June.

【テキスト（教科書）】

Viewpoint 2(Cambridge University Press)
『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

【参考書】

Kenkyusha's English-Japanese Dictionary for the General Reader.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 50%, in-class test 50%.

【学生の意見等からの気づき】

To give students more chance to make a presentation.

【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

【その他の重要事項】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

【到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use
第4回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing Talking business Listening
第5回	Unit 2 Transitions	Talking business, listening & reading
第6回	Unit 3 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 3 Transitions	Language in use Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 7 Shopping around	Talking business & listening
第12回	Unit 7 Shopping around	Language in use & writing
第13回	Unit 9 The Innovators	Talking business & listening
第14回	Unit 9 The Innovators	Language in use & writing
第15回	Wrap-up and quiz	Students will make a presentation and take a quiz.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

【テキスト（教科書）】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941円

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

【学生の意見等からの気づき】

to give students more chance to study current news

【その他の重要事項】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

テーマ別英語 1 (スキルアップ科目)

井芹 真紀子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1~4年 / 1単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Cultural Theory and Representation of the Body in Films

【到達目標】

Through the course, students will be able to:

1. Demonstrate an extended knowledge and understanding of key ideas and concepts of the body from a wide range of theoretical approaches, including film studies, cultural studies, feminist and queer theory, and disability studies.
2. Apply this conceptual understanding in the film texts and critically analyse the interplay between body and cinema.
3. Participate effectively in discussion and develop presentation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

This course focuses on the representation of the body in visual culture, especially in films, exploring its relationship with cultural and political contexts. By drawing on a wide range of theoretical approaches including cultural studies, feminist film studies, queer theory and disability studies, this course examines not only the body image depicted in films but also how it affects cultural formation of our own body in everyday life. This course is seminar based, supported by preparatory lectures and screenings. For each theme, students will be provided with reading materials and worksheets that help them to prepare for the following discussion sessions which emerge from the intersection of theoretical issues and close textual reading. All students are expected to participate in, and initiate debate. At the end of the course, the class will be organised into groups of 3-4 members. Each group will be asked to choose one film/media text and present their reading of it in the light of the theoretical approaches introduced throughout the course.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Guidance on the course
第 2 回	Representing the body	Introduction: visual culture and the body
第 3 回	Gender and the body 1	Male gaze: gender and spectatorship
第 4 回	Gender and the body 2	Film screening and seminar discussion Film screening: Hard Candy (dir. Slade, 2005)
第 5 回	Monstrous bodies 1	Mise en scène: disability and enfreakment
第 6 回	Monstrous bodies 2	Film screening and seminar discussion Film screening: Fur: An Imaginary Portrait of Diane Arbus (dir. Shainberg, 2006)
第 7 回	Postcolonial bodies 1	Narrative: postcolonialism and 'other' bodies
第 8 回	Postcolonial bodies 2	Film screening and seminar discussion Film screening: Avatar (dir. Cameron, 2009)
第 9 回	Preparation sessions	Tutorial and final group presentation preparation
第 10 回	Queering the body 1	Bodies out of bounds 1: queer and visibility
第 11 回	Queering the body 2	Film screening and seminar discussion Film screening: The Adventures of Priscilla, Queen of the Desert (dir. Elliott, 1994)
第 12 回	Superhuman bodies 1	Bodies out of bounds 2: science fiction and human enhancement
第 13 回	Superhuman bodies 2	Film screening and seminar discussion

第 14 回	Final group presentation 1	Student presentation and feedback
第 15 回	Final group presentation 2	Student presentation and feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to come to all seminars fully prepared, having accomplished the required reading, viewing and analysing the texts (films) by using worksheets given beforehand.

【テキスト (教科書)】

Reading materials and worksheets will be provided by the tutor.

【参考書】

Please bring a dictionary to the class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on:

1. Attendance (Students who miss 4 classes or more will not be able to pass this course.)
2. Class participation (Active participation in the discussion sessions will be expected.)
3. Final presentation (Students will also be required to submit presentation script on the day of presentation.)

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度より担当

【その他の重要事項】

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

テーマ別英語 2 (スキルアップ科目)

佐伯 英子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Inequality in Japanese Society

How is wealth distributed in Japan? Despite the persistent notion that the majority of the population belongs to the “middle class,” there is a growing concern over the increasing inequality affecting a large number of people living in the country. In this course, we will examine both the mechanisms that create and reinforce inequality, as well as various attempts and advocacy work to minimize such inequality. After introducing sociological frameworks to understand inequality, we will examine various issues pertaining to inequality in Japan. We will then move on to discuss topics including children, social mobility, education, and gender. We will conclude the discussions by considering the role of the formal and informal politics (i.e., the government and social movement and non-profit organizations).

【到達目標】

We will learn the issues of inequality from multiple perspectives by using various sources, including statistics, policies, media, as well as information and arguments presented by various individuals and organizations. Through this course, students are expected not only to deepen their understanding of inequality but also to develop skills critical to research and discuss social issues in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of short lectures, small-group discussions, presentations, and other activities. The instructor will distribute materials for each week (e.g., magazine or newspaper articles, link to a video, etc.), and students are expected prepare for the class according to the instruction. Thorough preparation and active participation is critical in this class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Overview of the course, and student selection if necessary
第 2 回	What is inequality? Why study inequality?	Industrialization, capitalism, and modernization
第 3 回	Sociological approaches to inequality	Inequality and poverty; how to measure inequality
第 4 回	Inequality in Japan	A historical and global perspective
第 5 回	Different types of capitals	Cultural and social capitals
第 6 回	Gender and inequality	Hiring practices, wage gap, and social expectations
第 7 回	Mid-term presentations	Individual presentations
第 8 回	Children and poverty 1	Inequality in opportunity
第 9 回	Children and poverty 2	Single-parenthood and inequality
第 10 回	Education and social mobility	How the society reproduces inequality
第 11 回	The roles of the government and politics	Social security and welfare system
第 12 回	Social movement against economic injustice	Roles of Non Profit Organizations
第 13 回	Presentations 1	Individual or group presentations on class topics
第 14 回	Presentations 2	Individual or group presentations on class topics
第 15 回	Conclusion	Summary and discussions

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Thorough preparation for each class is essential for this class. Students are also expected to choose a topic of your interest, complete written assignments, and give a presentation in the middle and at the end of the semester.

【テキスト (教科書)】

Materials will be distributed in class.

【参考書】

Additional resources will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation (including the submission of comment sheets) 30%; Assignments 50%; Presentation 20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、該当しません。

【その他の重要事項】

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連するコース】

すべてのコース

HA132

テーマ別英語 3 (スキルアップ科目)

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 1単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

【到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Aging	Reading and discussion
第 3 回	Sleep	Listening, questionnaire and discussion
第 4 回	Allergies	Reading, questionnaire and discussion
第 5 回	Tobacco	Reading and discussion
第 6 回	Exercise and sport	Listening, questionnaire and discussion
第 7 回	Mid-term presentation 1	Writing
第 8 回	Mid-term presentation 2	Speech practice and performance
第 9 回	Food and nutrition	Questionnaire and discussion
第 10 回	Alcohol	Reading and discussion
第 11 回	Stress and Stress management	Listening, questionnaire and discussion
第 12 回	Common diseases and complaints	Questionnaire and discussion
第 13 回	Alternative medicine and therapies	Reading and discussion
第 14 回	Degenerative diseases and lifestyle	Listening, questionnaire and discussion
第 15 回	Course review and test preparation	Reading and listening

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト (教科書)】

None.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

【学生の意見等からの気づき】

Experience has shown that often we will need more than one lesson to finish a complete unit.

【その他の重要事項】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

テーマ別英語 4 (スキルアップ科目)

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 1単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The development and social history of modern western popular music

【到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Blues and Gospel	Listening/video, reading and discussion
第 3 回	Jazz	Listening/video, reading and discussion
第 4 回	Folk and Country music	Listening/video, reading and discussion
第 5 回	Pop and the entertainment industry	Reading and discussion
第 6 回	Early Rock	Listening/video, reading and discussion
第 7 回	The 60s	Listening, reading and discussion
第 8 回	Mid-term presentation preparation	Reading, writing, speech practice
第 9 回	Mid-term presentation	Speaking practice and speech
第 10 回	British Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 11 回	Later Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 12 回	Soul, Disco, R & B	Listening/video, reading and discussion
第 13 回	Hip hop/rap	Listening/video, reading and discussion
第 14 回	African and Asian influences	Listening/video, reading and discussion
第 15 回	Course review and exam preparation	Reading and writing

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト (教科書)】

None.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

【学生の意見等からの気づき】

We will spend more time on reading and discussion sections of the class.

【学生が準備すべき機器他】

Classroom multimedia facilities, Web

【その他の重要事項】

Besides and interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA400

研究会 (A)

朝比奈 茂

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「なぜヒトは○○○だろうか?」といった素朴な疑問をもとに、文献資料よりヒトの生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を立脚し解決しようとする理論と方法を体得することを目的とする。

【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べることができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。授業は主に SGD (スモールグループディスカッション) 形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、全員の前で文献 (日本語、英語どちらでも良い) 講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行なう。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。
第 4 回	文献講読、意見交換	今後の計画を立てる。グループワークを行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 7 回	中間発表	文献を講読し、意見交換を行う。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 9 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 10 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、意見交換を行う。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	(1) 最終発表 (報告会)	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	(1) 最終発表 (報告会)	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。
第 16 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 17 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 18 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。

第 19 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 20 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 21 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 22 回	中間研究報告	文献を講読し、意見交換を行う。
第 23 回	文献講読、意見交換	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 24 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 25 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、意見交換を行う。
第 26 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。
第 27 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 28 回	研究発表会 (1)	グループワークを行う。
第 29 回	研究発表会 (2)	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 30 回	研究発表会、レポート提出	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、報告 (25%)、レポート (25%) を総合して判断する

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に学生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業終了時に、次回の予告を行うことで、自宅での学習機会を増やすことにつながる。

HA400

研究会 (B)

竹本 研史

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究会：「人間と社会——哲学と文学から」

本研究会では、哲学・思想テキストや文学テキストなどを精読することによって、「人間」とは何か、あるいは個人と社会とがどのような関係を取り結んでいるのか、といったテーマを根本的に問い直すものです。

毎年、各学期の前半はテキストの精読訓練をおこないます。どのような分野であっても、古典を読むというのは非常に重要な意味を持ちます。春学期は西洋哲学・思想上の古典を、秋学期はフランス語圏文学の古典を精読します。今年度は、春学期に20世紀フランスの哲学者ミシェル・フーコーの『監視と処罰』(『監獄の誕生』)を、秋学期に同じく20世紀フランスの哲学者であり作家でもあるジャン=ポール・サルトルの小説『嘔吐』を取り上げます。

各学期の後半では、受講生諸氏が、自身の研究について報告する機会を設けます。下にも書きましたように、研究テーマは、必ずしも哲学・思想や文学でなくても構構です。

また、履修パターンは別として、せっかく諸外国語を必修科目として履修するわけですから、もう少し専門的に文献と一緒に読んでみましょう。本研究会ではサブゼミを設置して、フランス語文献講読の機会を設けることにいたします(月曜5限)。

【到達目標】

- (1) 西洋哲学・思想および文学テキストの正確な読解力を身につけること。
- (2) 人間環境学部で学ぶ上で必要とされる「人間」、「環境」、「社会」をはじめとする諸概念そのものが、どのような「負荷」を帯びているか、あるいはどのようなようにそうした概念が表象されているかについて把握すること。
- (3) 学生諸氏が個々の問題を見出すこと、必要な情報を収集・分析すること、それらを踏まえて論理的に考察すること、そしてその成果をさまざまな形態で表現できるようになること(発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法)。
- (4) サブゼミとしては、フランス語の文献読解を通じたフランス語の運用能力の向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- (1) 担当教員による当該哲学者・作家と作品および、背景・意義の解説
- (2) テキストの精読
- (3) 各自の研究に基づく発表
- (4) 各自、レポートの執筆。
- (5) 提出したレポートを基に、各学期最終2回で教員、学生を交えて討議をおこなう。
- (6) サブゼミとして、フランス語の原典講読をおこないます。テキストは、人文系フランス地域文化研究に関わる新書レヴェルの概説書を念頭に置いています。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方 ミシェル・フーコー、および『監視と処罰』に関する担当教員による解説
第2回	テキストの精読(1)	フーコー『監視と処罰』を精読する。
第3回	テキストの精読(2)	フーコー『監視と処罰』を精読する。
第4回	テキストの精読(3)	フーコー『監視と処罰』を精読する。
第5回	テキストの精読(4)	フーコー『監視と処罰』を精読する。
第6回	テキストの精読(5)	フーコー『監視と処罰』を精読する。
第7回	テキストの精読(6)	フーコー『監視と処罰』を精読する。
第8回	テキスト全体についての討議	フーコー『監視と処罰』をめぐって全体討議をおこなう。
第9回	研究発表(1)	各自の研究テーマに従って発表。
第10回	研究発表(2)	各自の研究テーマに従って発表。
第11回	研究発表(3)	各自の研究テーマに従って発表。
第12回	研究発表(4)	各自の研究テーマに従って発表。
第13回	研究発表(5)	各自の研究テーマに従って発表。
第14回	春学期の総括(1)	提出レポートを基にした講評・討議(前編)
第15回	春学期の総括(2)	提出レポートを基にした講評・討議(後編)
第16回	イントロダクション	ジャン=ポール・サルトル、および『嘔吐』に関する担当教員による解説
第17回	テキストの精読(1)	サルトル『嘔吐』を精読する。

第18回	テキストの精読(2)	サルトル『嘔吐』を精読する。
第19回	テキストの精読(3)	サルトル『嘔吐』を精読する。
第20回	テキストの精読(4)	サルトル『嘔吐』を精読する。
第21回	テキストの精読(5)	サルトル『嘔吐』を精読する。
第22回	テキストの精読(6)	サルトル『嘔吐』を精読する。
第23回	テキスト全体についての討議	サルトル『嘔吐』をめぐって全体討議をおこなう。
第24回	研究発表(1)	各自の研究テーマに従って発表。
第25回	研究発表(2)	各自の研究テーマに従って発表。
第26回	研究発表(3)	各自の研究テーマに従って発表。
第27回	研究発表(4)	各自の研究テーマに従って発表。
第28回	研究発表(5)	各自の研究テーマに従って発表。
第29回	秋学期の総括(1)	提出レポートを基にした講評・討議(前編)
第30回	秋学期の総括(2)	提出レポートを基にした講評・討議(後編)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業に直接関係することとしては、発表担当になっていなくても授業で扱う文献の当該箇所について熟読のうえ、疑問点を整理し、哲学用語などについては事前に調べておくことが当然の前提です。

一般的なこととしては、とにかく、哲学・思想ならびに文学の古典を渉猟すること。否、むしろ授業以上にこちらの方が、皆さんのやるべき重要な課題です。授業に出席して話を聞いていれば完結というわけではありません。これは、担当者である私自身が学部学生時代から修士のはじめにかけて疎かにしていたため、のちのち痛い目にあったという猛省に基づきます。

しかし学部学生ですと、とりわけ哲学・思想の古典というものを1人で読むとたじろいだり、呻吟したりすることも多いでしょう。本研究会は、そうした文献について、教員も学生も一緒になって、「ああでもない、こうでもない」とお互いに頭を悩ませ、意見を出し合いながら、ある一定の読みを決定していく場、その読みに基づいて評価を下していく場、あるいは自分自身の独りよがりな読み方を正していく場だと考えてください。

また、哲学書を前にして立ち尽くすような場合には、まず当該哲学者・思想家に関する入門書や研究書から当たってみるのも良いかと思われます。

【テキスト(教科書)】

夏学期：プリントを配布します。

秋学期：ジャン=ポール・サルトル『嘔吐』鈴木道彦訳、人文書院、2010年。
定価：1900円+税。

ISBN：978-4-409-13031-5

【参考書】

春学期、秋学期ともに、参考文献については、各学期の初回到教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

年度末に、発表・報告・議論への貢献+提出レポートを基にして成績評価をおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

新任のため該当せず。

【その他の重要事項】

担当者の専門がフランス語圏の社会哲学・思想史や文学なので、どうしても本研究会で扱うテーマは、それらに特化しがちです。しかし、広く哲学・思想や文学、あるいはフランスないしヨーロッパ地域文化研究に関心のある方であれば大歓迎です。

ただし、哲学・思想に関する基礎知識が要求されますので、「人間環境特論(西洋社会思想史)Ⅰ・Ⅱ」や「西欧近代批判的思想」、「環境倫理学」、「環境哲学基礎論」などの科目、ならびに市ヶ谷のリベラルアーツに含まれる哲学・思想系科目は履修しておいてください。

また、他の「研究会(A)」および「研究会(B)」との掛け持ちは構いませんが、いずれも中途半端にならないようにしてください。2017年度よりAゼミ化する予定なので、すでにAゼミを受講なさっている方は、その点もお含みおきいただいたうえで受講してください。

【関連の深いコース】

人間文化コース(環境文化創造コース)、ローカル・サステイナビリティコース(地域環境共生コース)、グローバル・サステイナビリティコース(国際環境協力コース)

HA400

研究会 (A)

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「サステイナブルなまちづくり」

都市環境および地域形成に関する事例研究型のゼミナール。

【到達目標】

定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解、研究のおもしろさを体得し、調査研究能力とともに、様々な企画能力をも涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

都市環境および地域形成について、歴史、環境、生活、経済などの視点から、国内・海外の都市や地域を対象に、事例研究を行う。

ゼミ全体の基本的な年間テーマは、年度始めにいくつか提案し、皆で議論して決める。そのテーマのうち、グループあるいは個人のテーマおよび対象地域を個別に設定し、自主的に研究を進めていく。

ゼミでは、①基本文献の輪読と議論、②共通ミニフィールドスタディ、③グループ研究、④個人研究を進める。グループ研究はサブゼミとして自主的に進め、中間成果を逐次、本ゼミで発表・議論し、最終的には印刷物として完成させる。4年生は卒業論文（別途単位）、2・3年生は、タームペーパーを作成し、年度末に発表し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	各自の活動紹介、全体ガイダンス
第2回	全体のテーマ設定	研究の基本方向設定のための議論
第3回	小テーマ・対象の設定	小テーマ・対象内容別グループ分け
第4回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第5回	文献資料収集講読・議論	全体およびグループごとの研究活動
第6回	文献資料収集講読・議論	全体およびグループごとの研究活動
第7回	資料収集・研究企画議論	全体およびグループごとの研究活動
第8回	研究構想発表会	各グループの発表・討論
第9回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第10回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第11回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第12回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第13回	中間発表会準備	全体およびグループごとの作業
第14回	第1回中間発表会	各グループの発表・討論
第15回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第16回	研究作業と議論	主にグループごとの研究活動
第17回	同上、中間レポート作成	主にグループごとの研究活動
第18回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第19回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第20回	第2回中間発表会	各グループの発表・討論
第21回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第22回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第23回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第24回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第25回	第3回中間発表会	各グループの発表・討論
第26回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第27回	研究レポート作成	主にグループごとの研究活動
第28回	研究レポート作成	主にグループごとの研究活動
第29回	最終発表会	各グループの成果発表・討論
第30回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各グループ毎に、自主的にサブゼミおよびテーマ研究の現地調査を実施する。また、文献や資料の購読・研究は、個人・グループベースで常時行っていく。なお、全体として、逐次、討論会やミニフィールドスタディを実施する。

【テキスト（教科書）】

年度テーマの設定によっては、共通テキストを設定する場合がある。このほか、逐次、輪読のための共通資料を使用する予定である。

【参考書】

個別の内容により、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席および準備、議論への参加状況）50%、成果物（グループ研究および個人研究）評価 50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生により基礎知識の不足がある。これを補うため、基本的な事項につき、講義する機会を随時もつとともに、自主学習を課する予定である。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会 (A)

岩佐 愛

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イギリスにおける庭園デザインを通じた文化交流の歴史を学ぶことで、様々な面で近代の礎となった啓蒙時代のヨーロッパ文化が持つ特色についての理解を深める。

【到達目標】

17～19世紀にかけての主にイギリスにおける風景庭園についての歴史的理解を深めます。また、クラスでの発表とその準備作業を通して、読解力・資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

(1) 指定したテキストに関する発表とディスカッションを通して、17～19世紀にかけてのイギリスと大陸諸国との間に見られる文化交流の歴史について、庭園デザインを切り口に考えます。

(2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。

(3) 発表担当者が代表して都内や近郊の有名庭園を見学し、そこで学んだことを報告し、その内容にもとづいてゼミ生全員でディスカッションをします。
* (1)～(3) いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス&イントロダクション	研究会の内容、進め方についての説明
第2回	イントロダクション	17～18世紀のヨーロッパ庭園史を概観
第3回	庭園のデザイン	指定された文献または庭園についてディスカッション
第4回	庭園のタイプ	指定された文献または庭園についてディスカッション
第5回	庭園の植栽	指定された文献または庭園についてディスカッション
第6回	庭園の利用と受容	指定された文献または庭園についてディスカッション
第7回	庭園の意味	指定された文献または庭園についてディスカッション
第8回	言葉による庭園の表象	指定された文献または庭園についてディスカッション
第9回	イメージによる庭園の表象	指定された文献または庭園についてディスカッション
第10回	庭園の外に広がる風景	指定された文献または庭園についてディスカッション
第11回	4年生による研究発表	発表者の研究対象についての発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第12回	3年生による研究発表	発表者の研究対象についての発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第13回	3年生による研究発表	発表者の研究対象についての発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第14回	2年生による研究発表	発表者の研究対象についての発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第15回	春学期のまとめ (発表予備日)	春学期に学んだことを復習・総括します
第16回	秋学期へのガイダンス	秋学期の内容と進め方についての説明
第17回	庭園のデザイン	指定された文献または庭園についてディスカッション
第18回	庭園のタイプ	指定された文献または庭園についてディスカッション
第19回	庭園の植栽	指定された文献または庭園についてディスカッション
第20回	庭園の利用と受容	指定された文献または庭園についてディスカッション

第21回	庭園の意味	指定された文献または庭園についてディスカッション
第22回	言葉による庭園の表象	指定された文献または庭園についてディスカッション
第23回	イメージによる庭園の表象	指定された文献または庭園についてディスカッション
第24回	庭園の外に広がる風景	指定された文献または庭園についてディスカッション
第25回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第26回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第27回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第28回	2年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第29回	2年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづくゼミ生全員によるディスカッション
第30回	1年間のまとめ	1年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません (参考書の中から各自の必要に応じて購入)

【参考書】

松平圭一『文化史からたどる英国式庭園：デザインされたランドスケープ』改訂版 (ふくろう出版 2015年)

ベネロビ・ホプハウス (編著)『世界の庭園歴史図鑑』高山宏 (監修)：原ゆうこ (訳) (原書房 2014年)

岩切正介『珠玉のイギリス庭園をいく：60の緑の楽園ガイド』(原書房 2013年)

横 明美『旅するイングリッシュガーデン』(八坂書房 2012年)

赤川 裕『イギリス庭園散策』岩波アクティブ新書 110 (岩波書店 2004年)

岩切正介『英国の庭園：その歴史と様式を訪ねて』(法政大学出版局 2004年)

中山理『イギリス庭園の文化史：夢の楽園と癒しの庭園』(大修館書店 2003年)

田路貴浩『イギリス風景庭園：水と緑と空の造形』建築巡礼 47 / 香山壽夫 (監修) (丸善 2000年)

安西信一『イギリス風景式庭園の美学：「開かれた庭」のパラドックス』(東京大学出版会 2000年)

中尾真理『英国式庭園：自然は直線を好まない』講談社選書メチエ 157 (講談社 1999年)

川島昭夫『植物と市民の文化』世界史リブレット 36 (山川出版社 1999年)

川崎寿彦『楽園と庭：イギリス市民社会の成立』中公新書 723 (中央公論社 1984年)

川崎寿彦『庭のイングランド：風景の記号学と英国近代史』(名古屋大学出版会 1983年)

* その他の本の詳細は授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

授業参加態度 (欠席・遅刻・居眠りはマイナス評価)、発表資料 (スライド・ハンドアウト・レジュメの完成度)、質疑応答 (議論への参加度および貢献度)、期末レポート (RESEARCH PAPER) 等の課題提出物から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当

【学生が準備すべき機器他】

発表用のノート PC (クラスに1台) と USB メモリースティック (各自1本)

【関連の深いコース】

人間文化コース (環境文化創造コース)

HA400

研究会 (A)

杉戸 信彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。災害の多い日本列島で生きるうえで、また人口減少、高齢化、都市集中といった背景のなかで長期的なまちづくりに求められる妥当な「自然観」を養うこと。調査法や発表法を身につけること。地図を理解すること。

【到達目標】

自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。災害の多い日本列島で生きるうえで、また人口減少、高齢化、都市集中といった背景のなかで長期的なまちづくりに求められる妥当な「自然観」を養うこと。調査法や発表法を身につけること。地図を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

座学に加え、野外実習や課題演習、グループワーク、個人研究を行います。個人研究ではテーマや地域を設定して取り組みレポートを作成します。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、土地条件、土地の歴史、土地利用、プレート境界、活断層、長期予測、ハザードマップ、災害の歴史、インフラ、まちづくり、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。学生の皆さんの主体的な興味関心と情熱がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、学びを積極的にすすめ、意義深いテーマや重要な地域にたどりつくよう期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、発表法やレジュメ作成法等の説明、グループ分け
第2回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第3回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第4回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第5回	課題演習	机上作業
第6回	野外実習	フィールド巡検
第7回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第8回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第9回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第10回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第11回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第12回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第13回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第14回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第15回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第16回	ガイダンス	趣旨説明、論文やレポートの書き方等の説明
第17回	個人研究の準備	テーマや地域の設定
第18回	個人研究の準備	テーマや地域の設定
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	フィールド巡検
第21回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第22回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第23回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第24回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第25回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第26回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第27回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第28回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第29回	個人研究（最終発表）	発表、質疑応答、討論
第30回	個人研究（最終発表）	発表、質疑応答、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の収集・分析や事前調査、発表準備、復習、追加調査、とりまとめ等を行う。

【テキスト（教科書）】

購入または担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明あるいは効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会 (A)

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際法・国際環境法の研究を通して、国際平和 (国際紛争の解決、環境問題の改善、よりよい社会の実現) について考える。

【到達目標】

1. 自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論する。
2. 卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

1. 国際法および国際環境法に関する文献講読、判例研究
 2. 個人の研究報告
 3. その他 (時事問題に関する討論、ディベート等)
- *受講者の関心に応じ、下記の計画通りに進行しないこともある。
*校外授業及び合宿を行う (場所、内容等は受講者の希望を考慮して決める)。
*サブゼミで、読書会、映画鑑賞会、講演会等を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	年間計画
第 2 回	報告および討論 (1)	グループ報告と討論
第 3 回	報告および討論 (2)	グループ報告と討論
第 4 回	報告および討論 (3)	グループ報告と討論
第 5 回	報告および討論 (4)	グループ報告と討論
第 6 回	報告および討論 (5)	グループ報告と討論
第 7 回	報告および討論 (6)	グループ報告と討論
第 8 回	報告および討論 (7)	グループ報告と討論
第 9 回	報告および討論 (8)	グループ報告と討論
第 10 回	報告および討論 (9)	グループ報告と討論
第 11 回	報告および討論 (10)	グループ報告と討論
第 12 回	報告および討論 (11)	グループ報告と討論
第 13 回	報告および討論 (12)	グループ報告と討論
第 14 回	報告および討論 (13)	グループ報告と討論
第 15 回	ゼミ合宿	研究会修了論文中間報告、ディベート、ディスカッション
第 16 回	打ち合わせ	秋学期の研究計画
第 17 回	研究報告 (1)	個別報告と討論
第 18 回	研究報告 (2)	個別報告と討論
第 19 回	研究報告 (3)	個別報告と討論
第 20 回	研究報告 (4)	個別報告と討論
第 21 回	研究報告 (5)	個別報告と討論
第 22 回	研究報告 (6)	個別報告と討論
第 23 回	研究報告 (7)	個別報告と討論
第 24 回	研究報告 (8)	個別報告と討論
第 25 回	研究報告 (9)	個別報告と討論
第 26 回	研究報告 (10)	個別報告と討論
第 27 回	研究報告 (11)	個別報告と討論
第 28 回	研究報告 (12)	個別報告と討論
第 29 回	校外授業	個別報告と討論
第 30 回	研究会修了論文発表会	研究会修了論文発表会

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の十分な予習

【テキスト (教科書)】

開講時に指示

【参考書】

適宜指示

【成績評価の方法と基準】

平常点、レポート

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同じように行います。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース (国際環境協力コース)

HA400

研究会 (A)

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム
「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の「現地訪問」を通じて事例研究を行う。「現地訪問」(各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する)で選ぶフィールドについては、「海」「島」に関わることが望ましいが、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

【到達目標】

「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、各自の「現地訪問」調査・体験によって実感的に理解すること。また、前年度の沖縄離島ゼミ合宿の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を「共有」できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

「授業計画」の通り、参加者の研究発表とその後の質疑応答・ディスカッションが中心となる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	個人研究発表①	発表は 1 人 30 以内程度、題材は主として昨年度の研究成果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第 3 回	個人研究発表②	同上
第 4 回	個人研究発表③	同上
第 5 回	個人研究発表④	同上
第 6 回	個人研究発表⑤	同上
第 7 回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想①	各自、現段階の構想を簡潔に発表
第 8 回	個人研究発表⑥	第 2 回と同じ
第 9 回	個人研究発表⑦	同上
第 10 回	個人研究発表⑧	同上
第 11 回	個人研究発表⑨	同上
第 12 回	個人研究発表⑩	同上
第 13 回	個人研究発表⑪	同上
第 14 回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想②	夏休み前の中間報告
第 15 回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づく
第 16 回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の研究のふりかえり等
第 17 回	個人研究発表⑫	題材は昨年度または今年度の研究成果に基づく。発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第 18 回	個人研究発表⑬	同上
第 19 回	個人研究発表⑭	同上
第 20 回	個人研究発表⑮	同上
第 21 回	個人研究発表⑯	同上
第 22 回	個人研究発表⑰	同上
第 23 回	個人研究発表⑱	同上
第 24 回	個人研究発表⑲	同上
第 25 回	個人研究発表⑳	同上
第 26 回	グループワーク①	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第 27 回	グループワーク②	同上
第 28 回	学年末論文の構想発表 (タイトル・要旨・仮目次等)	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第 29 回	論文個別指導	学年末論文の最終アドバイス
第 30 回	自主就活セミナー・ディスカッション	ゼミで学んだことを社会に出てどう活かすか 等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

・「好きこそもの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に合った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。

・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・この金曜5限研究会は、前年度からの継続参加者（3・4年生）が履修登録対象となりますが、前の4時限ゼミでも、2年生の指導にあたる「出前発表」をしてもらうなど、随時ゲスト参加を求めます。ゼミは4・5限で一体と考え、4時限も常時空けられるようにしてください。反対に、2年生がこの時間に聴講・ゲスト参加することもあり、相互にフレキシブルに交流できるようにします。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会（A）**北川 徹哉**

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは社会にとって血液であり、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。

【到達目標】

1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第16回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第17回	調査テーマの構想発表・討論（その1）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第1回）
第18回	調査テーマの構想発表・討論（その2）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第2回）
第19回	調査と分析（その1）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第20回	調査と分析（その2）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第21回	調査と分析（その3）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備

発行日：2021/6/1

第 22 回	中間発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 1 回）
第 23 回	中間発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 2 回）
第 24 回	調査と分析（その 4）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 25 回	調査と分析（その 5）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 26 回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第 27 回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆
第 28 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第 29 回	最終発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる最終発表と討論（第 1 回）、調査概要書の提出
第 30 回	最終発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる最終発表と討論（第 2 回）、調査概要書の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1～15 回：輪読箇所・精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習
第 16 回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出
第 17～18、22～23 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習
第 19～21、24～26 回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析
第 27～28 回：調査概要書の執筆・データ整理
第 29～30 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のリバイス

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（調査概要書）（30％：論述の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）、発表（40％：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）、議論（30％：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

おおむね好評でした。

【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会（A）

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の考え方や手法への理解および批判などをもとに現実の環境問題への適用を考える。環境へのその他のアプローチとの比較なども行う。

【到達目標】

地球環境問題などの環境問題に対して、どのように対処してゆけばよいかについて、主に環境経済学の観点から、議論し、各人がその応用力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究会は演習形式で行う。研究会では、問題意識をもって、環境経済学等のテキスト、記事等の輪読を中心に、ディスカッションを行う。サブゼミ、ゼミ合宿なども実施し、総合力の獲得を目指す。テーマによっては外部からの専門家などを招くなどを行い、意見交換を実施する。4 年生は研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読（1）	報告および討論
第 4 回	文献講読（2）	報告および討論
第 5 回	文献講読（3）	報告および討論
第 6 回	文献講読（4）	報告および討論
第 7 回	文献講読（5）	報告および討論
第 8 回	文献講読（6）	報告および討論
第 9 回	文献講読（7）	報告および討論
第 10 回	文献講読（8）	報告および討論
第 11 回	文献講読（9）	報告および討論
第 12 回	文献講読（10）	報告および討論
第 13 回	文献講読（11）	報告および討論
第 14 回	文献講読（12）	報告および討論
第 15 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 16 回	修了論文中間発表会	発表会への参加と発表・討議
第 17 回	文献講読（13）	報告および討論
第 18 回	文献講読（14）	報告および討論
第 19 回	文献講読（15）	報告および討論
第 20 回	文献講読（16）	報告および討論
第 21 回	文献講読（17）	報告および討論
第 22 回	文献講読（18）	報告および討論
第 23 回	文献講読（19）	報告および討論
第 24 回	文献講読（20）	報告および討論
第 25 回	文献講読（21）	報告および討論
第 26 回	文献講読（22）	報告および討論
第 27 回	文献講読（23）	報告および討論
第 28 回	校外授業	ヒアリング等
第 29 回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ
第 30 回	修了論文発表会	発表会への参加と発表・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下の各項目を必ず、実施する。

- 1) 毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。
- 5) 4 年生は、研究会修了論文執筆を基本とする。

【テキスト（教科書）】

環境経済学のテキスト（授業時に指示する）。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）および各人のテーマの取組姿勢と提出されたレポート等執筆（20％）によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度は授業担当せず。なお、修了論文執筆に関し、参考となる事項も研究会のなかで適宜紹介したい。サブゼミでの作業内容と連携を強化したい。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA400

研究会（A）

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会では、「持続可能な地域社会の創造」をテーマとして、地域環境に直接または間接的にかかわる多様な政策領域を統合的に検討する。また自治体以外にも、市民、NPO、企業などの参加・協働を展望する。研究会の目的と意義は、「持続可能な地域社会」について、地域実践を含む高度なアクティブ・ラーニングを通して深く理解しながら、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築することである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・研究会の共通テーマ、学生の個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・時事問題に関する知識を獲得し、現代社会を理解するための知見の涵養する。
- ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・地域実践に関する企画運営能力を身につける。
- ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・文章力を涵養する。
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるPBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。さらに、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第3回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第4回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第5回	文献講読（2）	同上。
第6回	文献講読（3）	同上。
第7回	文献講読（4）	同上。
第8回	文献講読（5）	同上。
第9回	文献講読（6）	同上。
第10回	文献の総括と秋学期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、秋学期の調査研究課題への視点を共有する。
第11回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第12回	個人テーマの報告（2）	同上。
第13回	個人テーマの報告（3）	同上。
第14回	個人テーマの報告（4）	同上。
第15回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第16回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第17回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第18回	共通テーマの調査研究（1）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第19回	共通テーマの調査研究（2）	同上。

第 20 回	共通テーマの調査研究 (3)	同上。
第 21 回	共通テーマの調査研究 (4)	同上。
第 22 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第 23 回	共通テーマの調査研究 (5)	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第 24 回	共通テーマの調査研究 (6)	同上。
第 25 回	共通テーマの最終成果の共有	共通テーマの最終成果について、全体で確認し共有する。
第 26 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 28 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 29 回	個人テーマの報告 (4)	同上。
第 30 回	個人テーマの報告 (5)	同上。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の時間外学習を行う。
 ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
 ・共通テーマに関する事前のグループワーク。
 ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、個人テーマへの取り組み姿勢とゼミ論文の執筆 (30%) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関する PBL (問題発見・解決型学習) を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとつて意義があると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、主としてローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース) の学生を対象としています。
 したがって、履修にあたり、上記のコースの関連科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましいと考えています。
 このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (地域環境共生コース)

HA400

研究会 (A)

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会の基本的なテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に「ソーシャル・イノベーション」といわれるテーマについて、ローカルな視点から理論やケースを検討しながら地域実践に参画する。また共通テーマ以外に、各人が個人テーマとして研究会修了論文の執筆に向けた調査研究を行う。研究会の目的と意義は、共通テーマへの取り組みを通して、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築しながら、自らの卒業後のキャリアイメージを模索すること、さらに研究会修了論文を完成させることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。
 ・共通テーマ、個人テーマに関する知識を獲得する。
 ・論文作成能力を身につける。
 ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
 ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
 ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL (問題発見・解決型学習) として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読 (2)	同上。
第 6 回	文献講読 (3)	同上。
第 7 回	地域連携プロジェクトの企画 (1)	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 8 回	文献講読 (4)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	文献講読 (5)	同上。
第 10 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画 (2)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマ (研究会修了論文) の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 14 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 15 回	地域連携プロジェクトの企画 (3)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 16 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証 (1)	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 18 回	地域連携プロジェクトの検証 (2)	同上。
第 19 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 20 回	文献講読 (2)	同上。
第 21 回	文献講読 (3)	同上。
第 22 回	文献講読 (4)	同上。

第 23 回	文献講読 (5)	同上。
第 24 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 25 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマ (研究会修了論文) の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 27 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 28 回	個人テーマの報告 (4)	同上。
第 29 回	個人テーマの報告 (5)	同上。
第 30 回	研究会の総括	1 年間の研究会の内容を総括し、成果を共有する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は以下の時間外学習を行う。

- ・文献の事前学習。
- ・地域連携プロジェクトの企画。
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト (教科書)】

- ・開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70 %)、研究会修了論文に関する個人テーマへの取り組み姿勢 (30 %) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

PBL (問題発見・解決型学習) として、地域で実践し、その成果に関する報告書作成などに取り組むことは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、責任について体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育んでいると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、主としてローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース) に登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコースの関連科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましいと考えています。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (地域環境共生コース)

HA400

研究会 (A)

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes

第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第 14 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Method	Data Collection / Entry data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 28 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 29 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.
第 30 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

David R. Croteau and William D. Hoynes (2013). Media/Society: Industries, Images, and Audiences. SAGE Publications.
John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2014). Converging Media: A New Introduction to Mass Communication (4th Edition). Oxford University Press.
Shirley, Biagi (2014). Media/Impact: An Introduction to Mass Media. Wadsworth: Thomson.

【成績評価の方法と基準】

1st Semester: Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a take-home exam and a written assignment.
2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals, a summary of literatures, a group presentation and a group research paper.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【その他の重要事項】

This class is open to students who have taken グローバル コミュニケーション or 'Stockwell's ゼミ B (Human Communication) before.

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会 (A)

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ 環境法政策に関する研究
環境法政策に関して時事問題の討議や、個別分野の研究を行う

【到達目標】

環境関連分野を志望している者だけでなく、一般の企業人社会人となる人にとっても必要な環境法政策に関する知識を身につけ、持続可能な社会の実現を目指して自ら行動できる地球市民となる基礎能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境法政策に関する手法（規制、計画、情報等）に関する講義と文献購読・討議、新聞記事等による時事問題の討議、個別分野の研究と発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	環境法の手法 1
第 3 回	教材による講義	環境法の手法 2
第 4 回	教材による講義	環境法の手法 3
第 5 回	教材による講義	環境法の手法 4
第 6 回	時事問題	学生による発表と討議
第 7 回	時事問題	学生による発表と討議
第 8 回	時事問題	学生による発表と討議
第 9 回	事例発表	学生による発表と討議
第 10 回	事例発表	学生による発表と討議
第 11 回	事例発表	学生による発表と討議
第 12 回	事例発表	学生による発表と討議
第 13 回	事例発表	学生による発表と討議
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 17 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 18 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 19 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 20 回	時事問題	学生による発表と討議
第 21 回	時事問題	学生による発表と討議
第 22 回	時事問題	学生による発表と討議
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材を予習する
事例、レポート発表のために、準備する

【テキスト（教科書）】

文献とプリント

【参考書】

その都度 紹介する

【成績評価の方法と基準】

発表、討議の状況により評価する

【学生の意見等からの気づき】

グループによる事例研究を行う

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）、サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA400

研究会 (A)

関口 和男

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハンナ・アレント『人間の条件』を通じて、現代社会とそこに住む我々人間の実相を理解する。とくに、「現代に生きるとは何か」「人間とは何か」という哲学の根本問題を参加者と共に追究する。「その際、「考えること」とは、「疑問」に思ふことであり、それを発話することであることをしっかりと頭に置いて学び合う必要がある。

【到達目標】

「自分の言葉で考えること」と、「自分の考えをきちんと表現し、他者に伝達すること」が、具体的かつ論理的にできるようにする。事象について複眼的な見方ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

上記文献の徹底的な精読と質疑応答。毎回、コメンテーターを決め、その人を中心に精読をする。ただし、参加者は、必ず一回は質問することを義務付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代社会で、「考えること、疑問に思ふこと」がどんなに難しいことかを理解する。	質疑応答
第2回	第一・第二章を概観し、アレントの政治思想の基本構造を理解する。	質疑応答
第3回	前年度に引き続き、講読。	質疑応答
第4回	文献講読	質疑応答
第5回	文献講読	質疑応答
第6回	文献講読	質疑応答
第7回	文献講読	質疑応答
第8回	文献講読	質疑応答
第9回	文献講読	質疑応答
第10回	文献講読	質疑応答
第11回	文献講読	質疑応答
第12回	文献講読	質疑応答
第13回	文献講読	質疑応答
第14回	文献講読	質疑応答
第15回	文献講読	質疑応答
	夏休み中の学習指示	
第16回	夏休みの課題の総括	質疑応答
第17回	文献講読	質疑応答
第18回	文献講読	質疑応答
第19回	文献講読	質疑応答
第20回	文献講読	質疑応答
第21回	文献講読	質疑応答
第22回	文献講読	質疑応答
第23回	文献講読	質疑応答
第24回	文献講読	質疑応答
第25回	文献講読	質疑応答
第26回	文献講読	質疑応答
第27回	文献講読	質疑応答
第28回	文献講読	質疑応答
第29回	文献講読	質疑応答
第30回	文献講読	質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やニュースを必ず毎日見ておくこと。

【テキスト（教科書）】

ハンナ・アレント『人間の条件』志水訳、筑摩書房文庫

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

どんな些細な疑問点も質問するように。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）

HA400

研究会 (A)

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2016年度は、途上国の「貧困削減」のために実施される「途上国支援」のみならず、東北の東日本大震災の被災地に行われる「復興支援」など、複数の「支援」の場や関係を議論することを通じ、社会における「支援」の役割と位置づけ、ひいては「支援」を媒介にした人間関係のあり方について、受講者が深く考え行動できるようにすることを目指します。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方(予定)について概説する。
第2回	基礎文献の輪読(1)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第3回	基礎文献の輪読(2)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第4回	基礎文献の輪読(3)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第5回	基礎文献の輪読(4)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第6回	基礎文献の輪読(5)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第7回	基礎文献の輪読(6)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第8回	グループディスカッション 課題1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第9回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第10回	グループディスカッション 課題2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第11回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第12回	グループディスカッション 課題3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第13回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第14回	グループディスカッション 課題4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第15回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第16回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第17回	英文輪読	英語文献の輪読と意見交換
第18回	英文輪読	英語文献の輪読と意見交換
第19回	グループディスカッション 課題5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第20回	同上	同上
第21回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第22回	グループディスカッション 課題6	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第23回	同上	同上
第24回	同上	グループ発表および全体ディスカッション

第25回	グループディスカッション 課題7	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第26回	同上	同上
第27回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	グループディスカッション 課題8	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第29回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第30回	まとめ	1年間を通しての議論をまとめる

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基礎文献、与えられた課題(英文含む)は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト(教科書)】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への出席および議論への貢献、期末レポートを勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

今年度も水曜日1限をサブゼミの時間と設定します。内容については受講者の自主的な提案に従います。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース(国際環境協力コース)、ローカル・サステナビリティコース(地域環境共生コース)

HA400

研究会 (A)

田中 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ローカルな環境問題の社会学

【到達目標】

参加者それぞれが個人テーマを設定し研究を行う。地域社会の研究手法および環境問題への社会的アプローチの仕方を選び、それを具体的な事例に適用して考察することを目的とする。文献購読、資料収集、レポート作成、研究発表の順序で段階を追って各自の関心に基づき一年を通じて着実に前進できるようにする。2・3年生は課題を明確にして年度研究論文の作成をめざす。4年生は研究会終了論文の作成が最終目的となる。レポート執筆、個人研究報告などのしかたについてもきちんと身につけることもめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

はじめに文献・資料を参考にいくつかのテーマでグループ討議を行い、資料の検索、社会的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて学ぶ。次いで各自の研究構想を報告し、参考文献・資料の検索と課題文献を決め、夏期レポートの作成をおこなう。レポートに基づき報告、コメント・質疑などをふまえて年度論文を作成する。春学期終了時に個別面談を行い、課題文献の選定をおこなう。課題によっては現地調査に関する指導を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	参加者確定、ガイダンス、文献配布	参加メンバーの確認。ゼミの進め方、ゼミルールの説明。文献を配布し、発表分担を決める。レジュメ作成に関する指示をする。
第2回	文献発表①	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第3回	文献発表②	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第4回	文献発表③	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第5回	文献発表④	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第6回	文献発表⑤	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第7回	GWまとめ⑥	グループワークのまとめ。個人テーマ記入用紙配布。
第8回	文献発表⑦	担当者による文献発表と討論を行う。
第9回	文献発表⑧	担当者による文献発表と討論を行う。個人テーマ記入用紙の提出締め切り。
第10回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第11回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第12回	個人研究構想発表②	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第13回	個人研究構想発表③	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第14回	個人研究構想発表④	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第15回	個人研究発表まとめ	個人テーマに関するまとめ。春学期試験期間中に個別に休暇中の課題文献を指示する。
第16回	個人研究・文献発表①	個人別の課題文献の発表と討論。
第17回	個人研究・文献発表②	個人別の課題文献の発表と討論。
第18回	個人研究・文献発表③	個人別の課題文献の発表と討論。
第19回	個人研究・文献発表④	個人別の課題文献の発表と討論。
第20回	個人研究・文献発表⑤	個人別の課題文献の発表と討論。
第21回	個人研究・テーマ発表①	個人別の研究テーマに関する発表。
第22回	個人研究・テーマ発表②	個人別の研究テーマに関する発表。
第23回	個人研究・テーマ発表③	個人別の研究テーマに関する発表。
第24回	個人研究・テーマ発表④	個人別の研究テーマに関する発表。
第25回	個人研究・テーマ発表⑤	個人別の研究テーマに関する発表。
第26回	個人研究・テーマ発表⑥	個人別の研究テーマに関する発表。
第27回	個人研究・テーマ発表⑦	個人別の研究テーマに関する発表。
第28回	個人研究・テーマ発表⑧	個人別の研究テーマに関する発表。

第29回 研究会終了論文発表① 4年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

第30回 研究会終了論文発表② 4年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

個人研究のテーマ選定、文献・資料検索を行う。社会調査 (インタビュー・調査票調査) を行う場合は個別に指導する。

【テキスト (教科書)】

宮内泰介「グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング」三省堂
藤村正之「考えるヒント」弘文堂
関・中澤ほか「環境の社会学」有斐閣

【参考書】

小島・西城戸編「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房
西城戸・船戸編「環境と社会」人文書院
宮内泰介「自分で調べる技術」岩波書店
日本環境社会学会「環境社会学研究」新曜社

【成績評価の方法と基準】

出席をもっとも重視します。発表、ディスカッションへの参加度、レポートなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議のテーマと時間を増やします。

【その他の重要事項】

参加者数によって各回の時間配分は変更されることがあります。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (地域環境共生コース)、人間文化コース (環境文化創造コース)

HA400

研究会 (A)

辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「市民社会」を生きる—歴史・環境・文化

いま、「市民社会」が関心を集めている。地域社会、コミュニティ、共同体、住民自治、さまざまな名称で呼ばれているが、いずれも人びとが自主的に集まり、議論を通じて自分たちの手で課題を解決していこうとする姿勢を指している。

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に世界各国の「市民社会」をめぐる諸問題を扱う。それぞれの「市民社会」はどのような歴史があったのか、どのような問題を抱えているのか、国家、自治体、企業、NPO などとの関係はどうなっているのか。歴史学を中心にさまざまな角度から探っていきたい。

【到達目標】

2016年度は「ジェンダー」をテーマとする。

近代以降の市民社会は、その有力な理念のひとつとして自由と平等を掲げながら、実態はそれとは異なる社会秩序を発展させてきた。とくに、私的領域における共生の形態として家族が標準化され、その中で男女役割分担が規範として通用するという基本構造は、近代の終焉ないし変容が語られる現代でもなお一部でその効力を保っている。さらに、このような近代市民家族のジェンダー秩序は私的領域に留まらず、公的世界にも強い影響力をもち、われわれの意識や生活を規定している。したがって、われわれや世界のジェンダーのあり方や、その形成と発展の歴史的経緯について探求し理解をふかめることは、「市民社会」そのものの本質の理解につながる重要な作業である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

両学期とも、前半はテーマに関する重要な文献の購読をおこない、後半は春学期はグループワーク、秋学期はディベートをおこなう。その準備や個別の研究報告のためにサブゼミを開講する (隔週で週1回を予定)。

またゼミ合宿を単独で1回 (6月予定)、同志社大学経済学部、大阪市立大学経済学部など他大学ゼミと合同で1回 (11月上旬予定) 開催する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明
第2回	研究発表	3-4年生の研究発表
第3回	研究発表	3-4年生の研究発表
第4回	研究発表	3-4年生の研究発表
第5回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第6回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第7回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第8回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第9回	グループワーク	グループワークのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第10回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第11回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第12回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第13回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第14回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第15回	まとめ (全)	全体討論およびゼミ合宿準備
第16回	オリエンテーション	ゼミ合宿の準備をかねる。
第17回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をおこなう。
第18回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をおこなう。
第19回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第20回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第21回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第22回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。

第23回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第24回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第25回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第26回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第27回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第28回	卒論最終報告	4年生対象の卒論完成報告
第29回	卒論最終報告	4年生対象の卒論完成報告
第30回	まとめ	全体討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。

また、文献購読の際は、必ず事前にテキストを用意し、読んでくること。

【テキスト (教科書)】

岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年。

加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞出版、2006年。

ほか、必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】

小島・西城戸編著『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。

植村邦彦『市民社会とは何か』平凡社新書、2010年。

小熊英二『社会を変えるには』講談社現代新書、2012年。

小熊英二ほか『平成史』(増補新版)河出書房新社、2014年。

吉田徹『感情の政治学』講談社選書メチエ、2014年。

ほか、必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加 (できる限り出席すること)、研究報告、レポート (各学期末)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (地域環境共生コース)、人間文化コース (環境文化創造コース)

HA400

研究会 (A)

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2016 年度は、環境関連の CSR を研究します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 15 回	春学期本ゼミ発表 (12)、夏合宿課題の説明	環境関連の日本法と英文契約に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表

第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 29 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

【テキスト (教科書)】

環境法のテキストと、英文契約の資料を開講時に指定します。

【参考書】

田中英夫 (編集代表) 『英米法辞典』 (東京大学出版会、1991 年)。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (エコ経済経営コース)、グローバル・サステイナビリティコース (国際環境協力コース)

HA400

研究会 (A)

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2016 年度は、環境関連の CSR を研究します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 15 回	春学期本ゼミ発表 (12)、 夏合宿課題の説明	環境関連の日本法と英文契約に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表

第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 29 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

【テキスト (教科書)】

環境法のテキストと、英文の環境関連契約を開講時に指定します。

【参考書】

田中英夫 (編集代表) 『英米法辞典』 (東京大学出版会、1991 年)。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (エコ経済経営コース)、グローバル・サステイナビリティコース (国際環境協力コース)

HA400

研究会 (A)

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

職業生活をおとして労働環境を考える。

【到達目標】

春学期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめる。こうした学習や作業をおとして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといつてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国の組合とのちがいをみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	海外諸国と比較して、日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのかについて学ぶ。

第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係しているのか等について考える。
第12回	大学生の就職1(日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第13回	大学生の就職2(大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をおとして最新の情報を確認する。
第14回	大学生の就職3(グローバル人材)	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第15回	レポート提出とコメント	第2回・3回の授業で説明したレポート作成の注意事項にしたがってレポートが作成されているか、簡単にコメントをする。
第16回	春学期学習の復習1(日本の雇用とは)	春学期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第17回	春学期学習の復習2(日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第18回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第19回	学生による研究発表2	上記に同じ
第20回	学生による研究発表3	上記に同じ
第21回	学生による研究発表4	上記に同じ
第22回	学生による研究発表5	上記に同じ
第23回	学生による研究発表6	上記に同じ
第24回	学生による研究発表7	上記に同じ
第25回	学生による研究発表8	上記に同じ
第26回	学生による研究発表9	上記に同じ
第27回	学生による研究発表10	上記に同じ
第28回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第29回	学生による研究発表11	第18回に同じ
第30回	学生による研究発表12	上記に同じ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントしたり、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する、発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。

【テキスト (教科書)】

春学期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (エコ経済経営コース)、ローカル・サステイナビリティコース (地域環境共生コース)

HA400

研究会 (A)

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を講読しながら、実証的な社会学研究を自ら行うためのノウハウを理解する。

【到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会的なまなざし、アプローチの特徴を学ぶ。また、社会調査の基本的な方法論と実践を踏まえた上で、研究会参加者自らの関心から「自分で調べ」、最終的に研究会修了論文を執筆することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究 (国内外) を決定し、全員で講読する。また、自分でテーマを設定し、研究会修了論文を執筆する。なお、研究会修了論文のテーマは、必ずしも環境や環境問題に特化しなくてもかまわない。研究会参加者の問題関心を重要視する。本やインターネットを「カットアンドペースト」してまとめたといった類の「レポート」ではなく、あくまでも「自分で調べる」という営みによって生み出された「論文」を目指す。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第2回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第3回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第4回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第5回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第6回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第7回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第8回	研究会修了論文中間報告 (1)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第9回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第10回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第11回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第12回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第13回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第14回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第15回	研究会修了論文中間報告 (2)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。

第16回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第17回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第18回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第19回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第20回	研究会修了論文中間報告 (3)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第21回	研究会修了論文中間報告 (4)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第22回	文献購読 (17)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第23回	文献購読 (18)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第24回	文献購読 (19)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第25回	文献購読 (20)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第26回	研究会修了論文中間報告 (5)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第27回	研究会修了論文中間報告 (6)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第28回	研究会修了論文中間報告 (7)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第29回	研究会修了論文中間報告 (8)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第30回	研究会修了論文中間報告 (9)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業 (文献購読、調査、論文執筆等)

【テキスト (教科書)】

富田涼都, 2014, 『自然再生の環境倫理』昭和三堂
木村至聖, 2014, 『産業遺産の記憶と表象』京都大学学術出版会
清水展・木村周平 (編著), 2015, 『新しい人間、新しい社会 復興の物語を再創造する』京都大学学術出版会
丸山真央, 2015, 『「平成の大合併」の政治社会学』御茶の水書房
田中研之輔, 2015, 『井屋の経営』法律文化社

【参考書】

随時、指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点。ただし、社会人学生で 2015 年度から研究会に参加する者は春学期、秋学期にレポートの提出を求める。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (地域環境共生コース)

HA400

研究会 (A)

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会の〈環境〉の中で特に「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわりを巡る課題に対して、実証的な研究の手法を学びながら、社会調査を行い、実践的な課題解決をする力を養う。

【到達目標】

地域社会の「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわり方を再考し、その関係性の再構築のための実践に着目した調査研究を実施する。首都圏近郊および中山間地域・被災地などをフィールド対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、3つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と閉講しながら、首都圏や東京都の中山間地域における農林業ならびに集落についての現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第2回	文献講読(1)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第3回	文献講読(2)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第4回	文献講読(3)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第5回	文献講読(4)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第6回	文献講読(5)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第7回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第8回	調査グループの設定、テーマの選定(1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第9回	調査グループの設定、テーマの選定(2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第10回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第11回	調査準備・予備調査(1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第12回	調査準備・予備調査(2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第13回	調査準備・予備調査(3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第14回	調査準備・予備調査(4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第15回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第16回	各グループにおける調査(1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第17回	各グループにおける調査(2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第18回	各グループにおける調査(3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第19回	各グループにおける調査(4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第20回	各グループにおける調査(5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第21回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第22回	各グループにおける調査(6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第23回	各グループにおける調査(7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第24回	各グループにおける調査(8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第25回	各グループにおける調査(9)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第26回	各グループにおける調査(10)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第27回	グループの発表・報告書作成(1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第28回	グループの発表・報告書作成(2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第29回	グループの発表・報告書作成(3)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第30回	グループの発表・報告書作成(4)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読やフィールドワークを課す。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、指定する

【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの出席ならびに参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会 (A)

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：環境問題への歴史的アプローチ

環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生じたさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の読解、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

【到達目標】

日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を解決するための教養を身につける。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、4年時に研究会修了論文を提出することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポート・研究会修了論文の執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学ぶ
第2回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第3回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第4回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第5回	大学周辺フィールドスタディ①	大学周辺を探索して歴史の痕跡を尋ね、人の暮らしを考える。
第6回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第7回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第8回	古文書読解①	指定した古文書を読解・分析し、討論を行う。
第9回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第10回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第11回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第12回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第13回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第14回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第15回	特定テーマ中間発表⑦	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第16回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。

第17回	大学周辺フィールドスタディ②	大学周辺を探索して歴史の痕跡を尋ね、人の暮らしを考える。
第18回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第19回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第20回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第21回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第22回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第23回	古文書読解②	指定された古文書を読解・分析し、討論を行う。
第24回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第25回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第26回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第27回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第28回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第29回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第30回	特定テーマ研究発表⑦	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配付した歴史資料・古文書を読解する。
グループ・個人の研究にかかわる文献を収集・分析する。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席や積極的な参加姿勢 (70%)、発表・レポート (30%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース (地域環境共生コース)、人間文化コース (環境文化創造コース)

HA400

研究会 (A)

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・制限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は、複数のチームを編成し日経新聞と野村証券が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス ・ストックリーグ ・卒業論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第2回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第3回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第4回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第5回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第6回	ストックリーグ 第1回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第7回	ESG 投資文献購読①	担当者による報告と全体討議
第8回	ESG 投資文献購読②	担当者による報告と全体討議
第9回	ESG 投資文献購読③	担当者による報告と全体討議
第10回	ストックリーグ 第2回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第11回	ESG 投資文献購読④	担当者による報告と全体討議
第12回	財務分析文献購読①	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第13回	財務分析文献購読②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第14回	財務分析文献購読③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第15回	ストックリーグ 第3回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第16回	ストックリーグ グループ中間報告①	これまでの分析結果の報告
第17回	卒業論文中間報告①	卒論テーマ・ 論文構成の発表
第18回	ストックリーグ活動①	チーム活動の報告
第19回	ストックリーグ活動②	チーム活動の報告
第20回	ストックリーグ活動③	チーム活動の報告
第21回	ストックリーグ中間報告 ②	ユニバースの発表
第22回	ストックリーグ活動④	企業ヒアリング
第23回	ストックリーグ活動⑤	企業ヒアリング
第24回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第25回	ストックリーグ中間報告 ③	ポートフォリオの完成
第26回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第27回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第28回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成
第29回	ストックリーグ・レポート発表会	レポートの最終発表
第30回	卒業論文発表会	卒業論文の最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト（教科書）】

研究会の開講前に掲示します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度
〔個別評価〕4年生：卒業論文
2・3年生：ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会 (A)

日原 傳

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、グローバル・サステイナビリティコース（国際環境協力コース）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語文献講読〔中国語で書かれた文献を読み解く訓練をします〕

【到達目標】

・中国の新聞、雑誌の一般的な記事なら、辞書を引きながら独力で読むことの出来るレベルへの到達を目指す。
・中国に関するテーマで論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・中国語の基礎を習得した学生を対象に、中国語の文献を読みこなす力を高める訓練をする。
・最初の時間に中国語の文献を読むために必要な工具書、中国語書籍を扱う書店等について紹介する。以後は毎回テキストを輪読してゆく。研究会終了論文執筆予定者が各自の研究テーマについて発表し、意見交換をする時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中国語の文献を読むために	・工具書、中国語書籍を扱う書店の紹介 ・テキストに関する相談
第2回	文献講読	テキスト輪読
第3回	文献講読	テキスト輪読
第4回	文献講読	テキスト輪読
第5回	文献講読	テキスト輪読
第6回	文献講読	テキスト輪読
第7回	文献講読	テキスト輪読
第8回	文献講読	テキスト輪読
第9回	文献講読	テキスト輪読
第10回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第11回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第12回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第13回	文献講読	テキスト輪読
第14回	文献講読	テキスト輪読
第15回	文献講読	テキスト輪読
第16回	文献講読	テキスト輪読
第17回	文献講読	テキスト輪読
第18回	文献講読	テキスト輪読
第19回	文献講読	テキスト輪読
第20回	文献講読	テキスト輪読
第21回	文献講読	テキスト輪読
第22回	文献講読	テキスト輪読
第23回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第24回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第25回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第26回	文献講読	テキスト輪読
第27回	文献講読	テキスト輪読
第28回	文献講読	テキスト輪読
第29回	文献講読	テキスト輪読
第30回	文献講読	テキスト輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・辞書を引き、次回読む文章を下読みしておく。同時にすらすら音読できるまで繰り返し発音練習を行なう。
・各自研究テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。
・論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『中日辞典』（小学館）、『中国語辞典』（白水社）レベルの中国語辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ様々な形の文章に触れられるように工夫する。
研究会修了論文に関しては、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

HA400

研究会 (A)

安宅 りさ子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、ギリシャ劇、近代劇、現代劇、ミュージカルなどの舞台芸術に親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行なった後、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読しつつ、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	1年間の授業の進め方と春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。
第2回	ギリシャ劇：講義・討論	ギリシャ劇について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第3回	近代劇：講義・討論	近代劇について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第4回	現代演劇：講義・討論	現代劇について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第5回	ミュージカル：講義・討論	ミュージカルについて講義を行います。映像資料について意見交換します。
第6回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第7回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（1）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第8回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（2）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第9回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（3）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第10回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（4）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第11回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（5）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第12回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（6）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第13回	フィールドワーク 文献講読・討論（1）	『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』1. フィールドワークとは何か 2. フィールドワークの論理
第14回	フィールドワーク 文献講読・討論（2）	『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』3. フィールドワークの実際 4. ハードウェアとソフトウェア
第15回	フィールドワーク 実践講義	フィールドワークのケーススタディを紹介しします。
第16回	文献講読・討論（『入門文化政策』1）	1. 文化政策の観点からの京都観光論 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント（富山の事例）
第17回	文献講読・討論（『入門文化政策』2）	1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり（横浜の事例） 2. 中山間地域の文化政策 3. 文化政策とその担い手
第18回	文献講読・討論（『入門文化政策』3）	1. 格差社会における文化政策 2. ライフスタイルのための文化政策 3. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント

第19回	文献講読・討論（『入門文化政策』4）	1. 活動の現場からみた公と民の協働論 2. 市民文化の創造環境を目指して 3. 公共施設の運営と指定管理者制度
第20回	文献講読・討論（『入門文化政策』5）	1. 文化創造拠点としての宗教空間 2. 「政策科学」のこれからと文化政策への期待
第21回	地域文化レポート作成指導（1）	調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第22回	地域文化レポート作成指導（2）	参加者各自が設定したレポートテーマとアイデアの詳細を交換します。
第23回	地域文化レポート発表・討論（1）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第24回	地域文化レポート発表・討論（2）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第25回	地域文化レポート発表・討論（3）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第26回	地域文化レポート発表・討論（4）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第27回	地域文化レポート発表・討論（5）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第28回	地域文化レポート発表・討論（6）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第29回	地域文化レポート発表・討論（7）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第30回	総括（ラウンドテーブル）	「地域」と「文化」の関わりについて共に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読の予習（発表者はレジュメの準備）
舞台芸術鑑賞とフィールド調査（レポート作成）

【テキスト（教科書）】

井口貢（2008）『入門文化政策 地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』新曜社

【参考書】

青山昌文他（2012）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会
大笹吉雄（1999）『劇場が演じた劇』教育出版株式会社

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%
出席・参加態度、口頭発表（テキスト輪読分と、各期末レポートの概略について）

【期末レポート】50%

春学期は、舞台芸術鑑賞レポート
秋学期は、地域文化レポート

【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

B T 0 3 0 9 教室使用

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会 (A)

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術論文を検索する Google Scholar というサイトのトップには「巨人の肩の上に立つ」という言葉が出てきます。築きあげられた先人の知識の上に私たちが立っているという意味です。先人の知識とは本であり論文です。本を読むことは知的生活をする上での基本です。このゼミでは本を読むことで巨人の肩の上に立つことを目指します。

【到達目標】

年間に10冊以上の本を読んで要旨か書評をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

書籍の内容と分量に応じて2週から3週に1冊、本を指定します。その要旨もしくは書評を期日までに授業支援システムに提出してください。現在、指定図書候補となっている書籍は『メディア・バイアス』『捕食者なき世界』『ユートピアの崩壊』『ゼロリスク社会』の罫』『こうして世界は終わる』『いちから聞きたい放射線のほんとう』『ルボ 資源大国アフリカ』『水危機 ほんとうの話』などです。

なお、書籍は各自が購入するか図書館から借りるかなどして、自力で調達してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第2回	1冊目1	読書
第3回	1冊目2	要旨か書評を提出
第4回	1冊目3	議論
第5回	2冊目1	読書
第6回	2冊目2	要旨か書評を提出
第7回	2冊目3	議論
第8回	3冊目1	読書
第9回	3冊目2	要旨か書評を提出
第10回	3冊目3	議論
第11回	4冊目1	読書
第12回	4冊目2	要旨か書評を提出
第13回	4冊目3	議論
第14回	5冊目1	読書
第15回	5冊目2	要旨か書評を提出
第16回	夏休み課題図書（6冊目）	議論
第17回	7冊目1	読書
第18回	7冊目2	要旨か書評を提出
第19回	7冊目3	議論
第20回	8冊目1	読書
第21回	8冊目2	要旨か書評を提出
第22回	8冊目3	議論
第23回	9冊目1	読書
第24回	9冊目2	要旨か書評を提出
第25回	9冊目3	議論
第26回	10冊目1	読書
第27回	10冊目2	要旨か書評を提出
第28回	10冊目3	議論

第29回 卒業論文の発表

4年生の卒業論文の発表

第30回 まとめ

1年間を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4年生は卒業研究を進めてください。

【テキスト（教科書）】

適宜、指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席（50%）と要旨・書評の提出状況（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく幅広い分野をカバーするように課題本を選定します。

HA400

研究会 (A)

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、文献調査や現地調査・学習（フィールドワーク・フィールドリテラシティ）などを通じて、「地域の持続的成長を実現していくためのビジネスモデル」の構築（デザイン）や運営・管理の方法を検討し、提案していくことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、地域（都道府県や市町村）内の企業、地方自治体、公的機関、大学などが連携して実施するビジネスに関する諸問題とその解決策を、研究テーマごとに編成されたチームで自由に、また、論理的に考え、説明していく能力を習得していくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

①第1次産業、第2次産業、第3次産業が連携しながら行っている持続的成長のためのビジネス（産業クラスター、農商工連携、6次産業化など）の取組内容（先進事例）を、著書（テキスト）、論文、報告書などを用いて明らかにしていく。

②①で明らかにされた取組内容に基づいて、アンケート調査やヒアリング調査を実施し、そのビジネスの実態をより深く理解していく。

③各自のさらなるレベルアップのために、ゲストスピーカーによる講演、アンテナショップや関係機関への調査、合宿、調査先や大学間での勉強会や報告会などのイベントを開催していく。

④①～③の成果は、研究・調査計画書やそれをもとに作成される研究ノートや研究会修了論文としてまとめていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。また、チームを作り、その中で行う研究・調査のテーマを検討する。
第2回	研究・調査やその成果報告の方法 (A)	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第3回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第4回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (A)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第5回	製品・商品の生産・販売店の調査 (A)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第6回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第7回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第8回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。

第9回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第10回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第11回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第12回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第13回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第14回	研究・調査やその成果報告の方法 (B)	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第15回	研究・調査計画書の作成方法	これまでに行ってきた研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。
第16回	研究・調査計画書の報告（中間報告）(A)	これまでに取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第17回	研究・調査計画書の報告（中間報告）(B)	これまでに取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第18回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (B)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第19回	製品・商品の生産・販売店の調査 (B)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第20回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第21回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第22回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第23回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第24回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第25回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第26回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第27回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第28回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー（行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等）の講義とその内容に関する討論を行う。

- 第29回 総括－最終報告
(A)－ 今年度取り組んだ研究・調査や作成した計画書（レポートあるいは(小)論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
- 第30回 総括－最終報告
(B)－ 今年度取り組んだ研究・調査や作成した計画書（レポートあるいは(小)論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会で使用するテキスト以外に、その内容に関連する著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを用いて、研究テーマ選び、研究・調査の目的・視点やそれに関する先行研究の検討などを計画的に実施してください。

【テキスト（教科書）】

二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計・産業クラスターの可能性』中央経済社。
※毎回の報告はパワーポイントを利用しますので、各チームはレジユメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の5点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容・積極性）（20％）
・ゼミやチームへの配慮（10％）
・報告用配布レジユメの内容（10％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20％）
・提出物（研究・調査計画書、レポート、(小)論文等）の内容（40％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、チームあるいは個人による研究や調査だけではなく、研究会メンバー、調査先の方々、学外の学生と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができるとともに、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力を身につけてください。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA400

研究会（A）

松本 倫明

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地球温暖化とその周辺」
地球環境/地球温暖化対策/省エネ/エネルギー問題/エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。
「文献輪講」（前期）…地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC第3～5次評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論（STS）の書籍を輪講した実績があります。
「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。
「グループワーク」（逐次）…特定のテーマについてグループで研究します。環境展における企業研究や文献調査、市ヶ谷キャンパス放射線量徹底調査などを行った実績があります。
「報告書」（年度末）…1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は研究会修了論文（卒論）を提出します。
必要に応じてサブゼミを火曜6限に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第2回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第3回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第4回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第5回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第6回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第7回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第8回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第9回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第10回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第11回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第12回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第13回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第14回	グループワーク発表 グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第15回	まとめ	春学期のまとめをします。
第16回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第17回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第18回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 28 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 29 回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第 30 回	まとめ	1 年間のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢、発表と議論の内容、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

ピアレビューは好評なので今年度も引き続きピアレビューを行います。グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションではパワーポイントを用います。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会（A）

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくためにストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	同上（12）	同上（12）
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	同上（24）	同上（24）
第 29 回	同上（25）	同上（25）
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよむこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

【その他の重要事項】

2年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げ調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成する。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会（A）

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくためにストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第3回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第4回	同上（2）	同上（2）
第5回	同上（3）	同上（3）
第6回	同上（4）	同上（4）
第7回	同上（5）	同上（5）
第8回	同上（6）	同上（6）
第9回	同上（7）	同上（7）
第10回	同上（8）	同上（8）
第11回	同上（9）	同上（9）
第12回	同上（10）	同上（10）
第13回	同上（11）	同上（11）
第14回	同上（12）	同上（12）
第15回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第16回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第17回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション
第18回	同上（14）	同上（14）
第19回	同上（15）	同上（15）
第20回	同上（16）	同上（16）
第21回	同上（17）	同上（17）
第22回	同上（18）	同上（18）
第23回	同上（19）	同上（19）
第24回	同上（20）	同上（20）
第25回	同上（21）	同上（21）
第26回	同上（22）	同上（22）
第27回	同上（23）	同上（23）
第28回	同上（24）	同上（24）
第29回	同上（25）	同上（25）
第30回	1年のまとめ	1年のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、春学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

【その他の重要事項】

2年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成する。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会（A）

渡邊 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える「人」と「環境問題」の関連について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を研究していきます。科学技術の進歩とは何か？を意識しながらその将来像や政策の方向について考えていきます。科学技術政策の立案・決定プロセスにおいて市民参加を伴うオープンな検討方式の重要性について考察します。参加者同士で調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性と政策の進め方などについて考察を深めます。具体的な調査内容は授業時に相談しながら選定します。

【到達目標】

今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどを結びつけながら総合的に考える力を養うことを目標としています。自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）ができるようになることも目標のひとつです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1年間の授業内容はおおむね次の通りです。春学期には主として数名からなるグループを作り調査や討論を進めその研究内容を報告します。さらにゼミ生全員でディスカッションを行うことにより、お互いの問題意識やそれに関わる知識を全員で共有します。また学外の施設見学や環境展示会などに参加し、そこでの調査内容を報告し検討します。これにより企業や団体・組織などの環境問題の捉え方や取組の最前線を調査します。秋学期には、各個人が研究テーマを定め、それについて調査・研究を進め、報告と討論を行います。科学技術とその政策に関連する具体事例について調査し多角的に考察を行います。4年生は「研究会修了論文」を提出することを前提としていますが、その中間発表と最終報告も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画についての打ち合わせを行います
第2回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第3回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第4回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第5回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討します
第6回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討します
第7回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討します
第8回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第9回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第10回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第11回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第12回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第13回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第14回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第15回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第16回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第17回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第18回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します

第 19 回	卒論の中間報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行います
第 20 回	卒論の中間報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行います
第 21 回	卒論の中間報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行います
第 22 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 23 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 24 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 25 回	個人研究の報告と検討（2,3 年生）	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 26 回	総合討論	それまでの検討内容を参考にして共通テーマを設定し全員で総合討論を行います
第 27 回	総合討論	それまでの検討内容を参考にして共通テーマを設定し全員で総合討論を行います
第 28 回	卒論の最終報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行います
第 29 回	卒論の最終報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行います
第 30 回	卒論の最終報告（4 年生）	研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況、報告内容、討論参加の積極性、レポート内容などをもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会（A）

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、環境の視点と地域社会や経済活動との関わりを中心に、加えて国際的な視点、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミによるプロジェクト学習を通じてフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います（※プロジェクト学習のテーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山・生き物に関わる文化など）
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 3 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 4 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 5 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 6 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 7 回	グループ研究	中間まとめ
第 8 回	中間発表	研究成果の発表
第 9 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 10 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 11 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 12 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 13 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 14 回	グループ研究	グループ成果まとめ
第 15 回	春学期成果発表	グループ研究の成果発表
第 16 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 17 回	個人研究	研究計画作成と発表
第 18 回	個人研究	情報収集と発表
第 19 回	個人研究	情報収集と発表
第 20 回	個人研究	情報整理と発表
第 21 回	個人研究	調査分析と発表
第 22 回	個人研究	調査分析と発表
第 23 回	中間発表	研究成果の発表
第 24 回	個人研究	調査分析と発表
第 25 回	個人研究	評価・考察と発表
第 26 回	個人研究	評価・考察と発表
第 27 回	個人研究	成果まとめ
第 28 回	個人研究	成果まとめ
第 29 回	年間成果発表	個人研究の成果発表
第 30 回	年間成果発表	個人研究の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを着実にを行います。また週末に行う野外学習とサブゼミでの活動を積極的に行います。

【テキスト（教科書）】

特定のものを使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

前年度までに「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」を履修していない学生は、今年度当該科目を必ず履修してください。また、より自然への理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）とその応用である「自然環境論Ⅳ」（秋期）を併せて履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会（B）

杉戸 信彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界は時として災害をもたらします。その姿は、われわれの理解と考え方で大きく変わってきます。本研究会では、自然環境（主に地形環境や地震発生環境）と土地条件、土地の歴史などについて、自然災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。災害の多い日本列島で生きるうえで、また人口減少、高齢化、都市集中といった背景のなかで長期的なまちづくりに求められる妥当な「自然観」を養うこと。調査法や発表法の基礎を身につけること。地図の基礎を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

座学に加え、野外実習や課題演習、グループワーク、グループ研究を行います。グループ研究ではテーマや地域を設定して取り組みレポートを作成します。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、土地条件、土地の歴史、土地利用、プレート境界、活断層、長期予測、ハザードマップ、災害の歴史、インフラ、まちづくり、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。もちろん学生の皆さんの興味を考慮します。全体を通じ基礎的な内容を扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、発表法やレジュメ作成法等の説明、グループ分け
第2回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第3回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第4回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第5回	課題演習	机上調査
第6回	野外実習	フィールド巡検
第7回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第8回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第9回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第10回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第11回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第12回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第13回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第14回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第15回	まとめ	小レポート作成・提出
第16回	ガイダンス	趣旨説明、論文やレポートの書き方等の説明
第17回	グループワークの準備	グループ分け・テーマや地域の設定
第18回	グループワークの準備	グループ分け・テーマや地域の設定
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	フィールド巡検
第21回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第22回	グループワーク	討論、とりまとめ、発表
第23回	討論会	進捗状況報告、質疑応答、討論
第24回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第25回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第26回	討論会	進捗状況報告、質疑応答、討論
第27回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第28回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第29回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第30回	まとめ	レポート発表、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の収集・分析や事前調査、発表準備、復習、追加調査、とりまとめ等を行う。

【テキスト（教科書）】

購入または担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

知識や基礎力、思考力に加え、応用力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明あるいは効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会（B）

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法・国際環境法に関する英語の文献や裁判の判決を講読し、関連する問題についての討論を行う。

国際社会の諸問題について、英語で発表を行う。

【到達目標】

専門領域における英語文献を抵抗なく購読できるようになること。
国際問題について、英語で討論できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・参加者の関心のあるテーマについて、英語の文献を全員で講読する。
- ・国際社会の諸問題について、英語で発表し、討論を行う。
- *受講者の人数や関心により、必ずしも計画通りに進行しないことがある。
- *必要に応じてサブゼミを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第2回	文献購読（1）	文献講読と討論
第3回	文献購読（2）	文献講読と討論
第4回	文献購読（3）	文献講読と討論
第5回	文献購読（4）	文献講読と討論
第6回	文献購読（5）	文献講読と討論
第7回	文献購読（6）	文献講読と討論
第8回	映画鑑賞会（1）	映画鑑賞と討論
第9回	時事問題（1）	時事問題の討論
第10回	時事問題（2）	時事問題の討論
第11回	時事問題（3）	時事問題の討論
第12回	時事問題（4）	時事問題の討論
第13回	時事問題（5）	時事問題の討論
第14回	映画鑑賞会（2）	映画鑑賞と討論
第15回	まとめ	まとめ
第16回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第17回	文献購読（7）	文献講読と討論
第18回	文献購読（8）	文献講読と討論
第19回	文献購読（9）	文献講読と討論
第20回	文献購読（10）	文献講読と討論
第21回	文献購読（11）	文献講読と討論
第22回	文献購読（12）	文献講読と討論
第23回	映画鑑賞会（3）	映画鑑賞と討論
第24回	時事問題（6）	時事問題の討論
第25回	時事問題（7）	時事問題の討論
第26回	時事問題（8）	時事問題の討論
第27回	時事問題（9）	時事問題の討論
第28回	時事問題（10）	時事問題の討論
第29回	映画鑑賞会（4）	映画鑑賞と討論
第30回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習

【テキスト（教科書）】

受講者と相談の上、その都度指示する

【参考書】

受講者と相談の上、その都度指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）

HA400

研究会 (A)

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム
「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

【到達目標】

「環境表象論Ⅱ」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけれ、個々の研究成果を共有できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「授業計画」に示すように、教室では参加者の個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換やグループワークを主とする。春学期の研究発表は、主として沖縄離島ゼミ合宿の前年度参加者（＝前年度2年生）が担当し、新規参加者にとっては合宿の事前学習の意義をもつことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	沖縄離島についてのガイダンス	合宿で訪問する島について概観的な予備学習
第3回	個人研究発表①	昨年度の研究発表を1人30分以内程度で発表し、その後に質疑応答および教員によるレクチャー等
第4回	文献購読①	合宿のテーマに関する文献資料を読み合う。
第5回	個人研究発表②	第3回に同じ
第6回	文献購読②	第4回に同じ
第7回	個人研究発表③	第3回に同じ
第8回	文献購読③	第4回に同じ
第9回	個人研究発表④	第3回に同じ
第10回	文献購読④	第4回に同じ
第11回	個人研究発表⑤	第3回に同じ
第12回	文献購読⑤	第4回に同じ
第13回	グループワーク①	合宿で調べたいテーマに沿ってグループ分けをし、共同作業を行う。
第14回	グループワーク②	第13回の続き
第15回	春学期の総括	沖縄離島合宿事前学習のまとめとして、成果を共有し合う。
通年		
回	テーマ	内容
第16回	秋学期オリエンテーション	夏合宿のふりかえり等
第17回	個人研究発表⑥	昨年度または今年度春学期の研究発表を1人30分以内程度で発表し、その後グループワークも含む質疑応答など
第18回	個人研究発表⑦	同上
第19回	個人研究発表⑧	同上
第20回	個人研究発表⑨	同上
第21回	個人研究発表⑩	同上
第22回	個人研究発表⑪	同上
第23回	個人研究発表⑫	同上
第24回	グループワーク③	今までの研究発表を通じて、個人を超えて共通するテーマ、キーワードを確認し、ディスカッションを行う
第25回	グループワーク④	同上
第26回	グループワーク⑤	同上
第27回	グループワーク⑥	同上
第28回	2年生の共同研究発表	夏休みのゼミ合宿の成果

第29回 学年末論文の概要発表 論文に使用する参考文献リストも合わせ（タイトル・要旨・仮目次等）提出。

第30回 論文個別指導 学年末論文の最終アドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業のなかで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声も、定評としてあります。

・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・「環境表象論Ⅱ」を未履修の人は、今年度中に受講してください。

・この金曜4限研究会は2・3年の新規参加者が履修登録対象になりますが、つぎの5限研究会（継続参加の3・4年生が履修登録）も必要に応じて聴講や「ゲスト参加」ができるよう、ゼミは4・5時限一体と考えて、5時限も常時空けてください。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会 (B)

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

気象は私たちにとって身近なものであり、私たちが地表で社会生活を営んでいる限りは必然的につき合っていく存在である。また、多くの企業ではその収益が気象の影響を受けるなど、気象と経済・経営とも密接な関係がある。この研究会では、気象の基礎、ならびに気象と人間、社会、経済の関係について勉強する。

【到達目標】

1. 人の生活・社会・企業と気象とのかかわりを説明できる。
2. 様々な気象の特徴やしぐみについて説明できる。
3. 気象における環境問題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は1冊目を、秋学期は2冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト(1)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、 輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第16回	テキスト(2)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、 輪読担当部分の取り決め
第17回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第18回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第19回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第20回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第21回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第22回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第23回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第24回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第25回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第26回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第27回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第28回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第29回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第30回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第1~30回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

【テキスト (教科書)】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表(50%：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1~3への達成度)、議論(50%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1~3への達成度)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

自分がわからない部分は、ほかの人もわからないものです。わからないことを皆で学ぶのがゼミなのです。気象に興味はあっても今まで踏み込むチャンスがなかった学生さん、気象予報士に興味がある学生さん、一緒に勉強してゆきましょう。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会 (B)

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

* Human Communication *

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques

第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 15 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 16 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 17 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 18 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第 19 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 20 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 21 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 22 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 23 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 24 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 25 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 26 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 29 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 30 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

【テキスト (教科書)】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2013). *Understanding Human Communication* (9th Edition). New York: Oxford.
Joseph A. DeVito (2014). *Human Communication: The Basic Course* (13th Edition). Pearson.
Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2013). *Human Communication*. Boston: McGraw Hill.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online forum postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会 (B)

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ 行政、国会の仕組み
行政法を違う角度から学び、その補完を行うことにより、行政法の克服へ資する。

【到達目標】

現代国家に生きるものとして行政に関わる基本的な知識とその応用を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

行政府 (内閣等) と立法府 (国会) の仕組みを概観することにより、法律がどのように作られ、どのように執行されるかを学び、「行政法の基礎」とは違った角度からその補完を行う。

したがって、行政法を学びたい者が対象となるが、「行政法の基礎」を受講した者でさらに行政法を学びたい者を優先する。公務員志望者の参加を歓迎する。授業は教材 (テキスト、プリント) による講義と学生による事例発表、行政法の個別テーマに関するレポート発表により進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	オリエンテーション
第2回	教材による講義	行政①内閣
第3回	教材による講義	行政②内閣総理大臣
第4回	教材による講義	行政③議院内閣制
第5回	教材による講義	行政④行政組織
第6回	教材による講義	行政⑤地方公共団体
第7回	事例発表	学生による発表と討論
第8回	事例発表	学生による発表と討論
第9回	事例発表	学生による発表と討論
第10回	事例発表	学生による発表と討論
第11回	事例発表	学生による発表と討論
第12回	事例発表	学生による発表と討論
第13回	事例発表	学生による発表と討論
第14回	まとめ	授業の総括
第15回	まとめ	授業の総括
第16回	教材による講義	国会①選挙
第17回	教材による講義	国会②任務
第18回	教材による講義	国会③政策立案
第19回	教材による講義	国会④サポーター
第20回	教材による講義	国会⑤政党
第21回	教材による講義	国会⑥法律の成立
第22回	レポート発表	学生による発表と討論
第23回	レポート発表	学生による発表と討論
第24回	レポート発表	学生による発表と討論
第25回	レポート発表	学生による発表と討論
第26回	レポート発表	学生による発表と討論
第27回	レポート発表	学生による発表と討論
第28回	レポート発表	学生による発表と討論
第29回	まとめ	授業の総括
第30回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教材を予習する
事例、レポート発表のために、準備する

【テキスト (教科書)】

法学ナビゲーション (有斐閣アルマ) を用いる

【参考書】

その都度 紹介する

【成績評価の方法と基準】

発表、討議の状況により評価する

【学生の意見等からの気づき】

グループによる事例研究を行う。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (地域環境共生コース)、グローバル・サステイナビリティコース (国際環境協力コース)、サステイナブル経済・経営コース (エコ経済経営コース)

HA400

研究会 (B)

関口 和男

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本年度は、環境問題に関する英文講読とその内容の正確な理解を目指す。英会話だけでなく、特に、英文の読み取り能力を高めることを目的とする。

【到達目標】

英文書を理解するには、それに関する広範囲な知識が必要であり、そのためにも、内容の解説を充実させて、環境問題へのしっかりした視点を獲得することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回の担当者を決めて、じっくり音読し、翻訳して、内容のプレゼンをしもらい、質疑応答していく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	今日の環境問題の特質①	特に、ボーダーレスな国際環境問題についての質疑応答
第2回	今日の環境問題の特質②	主だった環境概念の変遷について質疑応答
第3回	英文文献講読 (春学期分)	質疑応答
	"Sustainability"	
第4回	英文文献講読	質疑応答
第5回	上記文献講読	質疑応答
第6回	英文文献講読	質疑応答
第7回	英文文献講読	質疑応答
第8回	英文文献講読	質疑応答
第9回	英文文献講読	質疑応答
第10回	英文文献講読	質疑応答
第11回	英文文献講読	質疑応答
第12回	英文文献講読	質疑応答
第13回	英文文献講読	質疑応答
第14回	英文文献講読	質疑応答
第15回	春学期講読部分と現代という時代状況についての討議	質疑応答
	夏休み中の学習の指示	
第16回	英文文献講読 (秋学期分)	質疑応答
	"Population"	
第17回	英文文献講読	質疑応答
第18回	英文文献講読	質疑応答
第19回	英文文献講読	質疑応答
第20回	英文文献講読	質疑応答
第21回	英文文献講読	質疑応答
第22回	英文文献講読	質疑応答
第23回	英文文献講読	質疑応答
第24回	英文文献講読	質疑応答
第25回	英文文献講読	質疑応答
第26回	英文文献講読	質疑応答
第27回	英文文献講読	質疑応答
第28回	英文文献講読	質疑応答
第29回	秋学期分の総括	質疑応答
第30回	一年間の学習の総括	質疑応答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

環境関係の本などをあらかじめ読んでおくこと。

【テキスト (教科書)】

春学期・秋学期の初めにそれぞれ配布する。

使用する文書内容は、"Sustainability", "Population" であるが、余裕のある場合には、あと数編加える予定である。

【参考書】

当学部における環境問題に関わる他の講義やゼミでの使用教科書。

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

活発な討議を期待する。

【関連の深いコース】
人間文化コース（環境文化創造コース）

HA400

研究会（B）

田中 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究

【到達目標】

このゼミは2006年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、企画・実践することを目的としています。これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。

このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをとおして「CES（千代田エコシステム）」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第2回	ゼミの経過（報告書）講義	2015年度までの活動について前年度メンバーから報告・説明を行う。
第3回	千代田区の特性①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第4回	千代田区の特性②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第5回	区役所担当者による講義	区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第6回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第7回	プログラムミーティング①	2016年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第8回	プログラムミーティング②	2016年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第9回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。 実施グループメンバーへの割り振り。
第10回	プログラムミーティング④	各プログラムグループごとの討議。
第11回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第12回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第13回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第14回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第15回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第16回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第17回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第18回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第19回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第20回	千代田研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第21回	千代田研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第22回	千代田研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。

第 23 回	年度活動報告書作成会議 ①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第 24 回	プログラムミーティング ⑧	各プログラムグループごとの討議。
第 25 回	プログラムミーティング ⑨	各プログラムグループごとの討議。
第 26 回	プログラムミーティング ⑩	各プログラムグループごとの討議。
第 27 回	プログラムミーティング ⑪	各プログラムグループごとの討議。
第 28 回	年度活動報告書作成会議 ②	報告書原稿の進捗確認。
第 29 回	年度活動報告書作成作業	報告書編集作業。
第 30 回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学や「まちあるき」などを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

【テキスト（教科書）】

千代田区統計・千代田区の歴史
広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

千代田区に関連する個人・グループ研究の発表方式を見直し、回数を増やします。

【その他の重要事項】

このゼミは5・6限目の2時間連続で行います。1時間だけの登録はできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会（B）

田中 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究

【到達目標】

このゼミは2006年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、実践することを目的としています。これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをおして「CES（千代田エコシステム）」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第2回	ゼミの経過（報告書）講義	2015年度までの活動について前年度メンバーから報告・説明を行う。
第3回	千代田区の特徴①	千代田区の特徴を資料により理解する。
第4回	千代田区の特徴②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第5回	区役所担当者による講義	区的环境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第6回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第7回	プログラムミーティング①	2016年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第8回	プログラムミーティング②	2016年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第9回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。実施グループメンバーへの割り振り。
第10回	プログラムミーティング④	各プログラムグループごとの討議。
第11回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第12回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第13回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第14回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第15回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第16回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第17回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第18回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第19回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第20回	千代田研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第21回	千代田研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。

第 22 回	千代田研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 23 回	年度活動報告書作成会議 ①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第 24 回	プログラムミーティング ①	各プログラムグループごとの討議。
第 25 回	プログラムミーティング ②	各プログラムグループごとの討議。
第 26 回	プログラムミーティング ③	各プログラムグループごとの討議。
第 27 回	プログラムミーティング ④	各プログラムグループごとの討議。
第 28 回	年度活動報告書作成会議 ②	報告書原稿の進捗確認。
第 29 回	年度活動報告書作成作業	報告書編集作業。
第 30 回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学や「まちあるき」などを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

【テキスト（教科書）】

千代田区統計・千代田区の歴史
広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣
篠木幹子「環境問題へのアプローチ」多賀出版

【成績評価の方法と基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

千代田区に関する個人・グループ研究の発表方式を見直し、回数を増やします。

【その他の重要事項】

このゼミは5・6限目の2時連続で行います。1時限だけの登録は出来ません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会 (A)

谷本 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大森荘蔵の科学哲学の研究

【到達目標】

「心」の問題を中心に据えて、世界、自然、環境について批判的に考える力を得ることを目指す

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	イントロダクション 1	「夢まぼろし」 「記憶について」 「真実の百面相」 「心の中」
第 3 回	イントロダクション 2	「ロボットの申し分」 「夢見る脳、夢みられる脳」
第 4 回	イントロダクション 3	イントロダクションの総括のための議論と解説
第 5 回	イントロダクション 4	「哲学的知見の性格」 「他我の問題と言語」 「言語と集合」 初期大森哲学の前半の総括のための議論と解説
第 6 回	初期大森哲学 1	「決定論の論理と、自由」
第 7 回	初期大森哲学 2	「知覚の因果説検討」
第 8 回	初期大森哲学 3	「知覚風景と科学的世界像」
第 9 回	初期大森哲学 4	初期大森哲学の後半の総括のための議論と解説
第 10 回	初期大森哲学 5	それぞれの描く大森哲学 1
第 11 回	初期大森哲学 6	夏休みの課題解説
第 12 回	初期大森哲学 7	夏休みの課題の発表と議論
第 13 回	初期大森哲学 8	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 1 「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 2 「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 3 「科学の罫」
第 14 回	春学期総括 1	「虚想の公認を求めて」
第 15 回	春学期総括 2	中期大森哲学の総括のための議論と解説
第 16 回	秋学期の展望	「過去の制作」
第 17 回	中期大森哲学 1	「ホーリズムと他我問題」
第 18 回	中期大森哲学 2	「脳と意識の無関係」
第 19 回	中期大森哲学 3	「時は流れず－時間と運動の無縁」
第 20 回	中期大森哲学 4	「後の祭り」を祈る－過去は物語」
第 21 回	中期大森哲学 5	「自分と出会う－意識こそ人と世界を隔てる元凶」
第 22 回	中期大森哲学 6	後期大森哲学の総括のための議論と解説
第 23 回	後期大森哲学 1	それぞれの描く大森哲学 2
第 24 回	後期大森哲学 2	科学的なものの見方考え方の実像についてのまとめ
第 25 回	後期大森哲学 3	
第 26 回	後期大森哲学 4	
第 27 回	後期大森哲学 5	
第 28 回	後期大森哲学 6	
第 29 回	秋学期総括 1	
第 30 回	秋学期総括 2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で随時指示する

【テキスト（教科書）】

『大森荘蔵セレクション』（平凡社ライブラリー、2011年）

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

担当部分の発表の内容と議論への参加の態度を加味して、総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでの指摘を授業に反映していく。

HA400

研究会 (B)

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をとおして労働環境を考える。

【到達目標】

春学期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめる。こうした学習や作業をとおして、私たちが卒業後就職してからかかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといつてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国の組合とのちがい等についてみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのかについても学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのかについて学ぶ。

第 11 回	仕事と労働時間 2 (長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係しているのか等について考える。
第 12 回	大学生の就職 1 (日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 13 回	大学生の就職 2 (大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等とおして最新の情報を確認する。
第 14 回	大学生の就職 3 (グローバル人材)	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第 15 回	レポート提出とコメント	第 2 回・3 回の授業で説明したレポート作成の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、コメントをする。
第 16 回	春学期学習の復習 1 (日本の雇用とは)	春学期に行った日本的雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第 17 回	春学期学習の復習 2 (日本の雇用の新たな流れ)	日本的雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第 18 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 19 回	学生による研究発表 2	上記と同じ
第 20 回	学生による研究発表 3	上記と同じ
第 21 回	学生による研究発表 4	上記と同じ
第 22 回	学生による研究発表 5	上記と同じ
第 23 回	学生による研究発表 6	上記と同じ
第 24 回	学生による研究発表 7	上記と同じ
第 25 回	学生による研究発表 8	上記と同じ
第 26 回	学生による研究発表 9	上記と同じ
第 27 回	学生による研究発表 1 0	上記と同じ
第 28 回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第 29 回	学生による研究発表 1 1	第 1 8 回と同じ
第 30 回	学生による研究発表 1 2	上記と同じ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントしたり、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する、発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。

【テキスト (教科書)】

春学期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。

秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 [改訂版]』有斐閣ブックス、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

文章の書き方等、レポート作成のより詳細な指導が必要。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (エコ経済経営コース)、ローカル・サステイナビリティコース (地域環境共生コース)

HA400

研究会 (B)

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：環境問題への歴史学的アプローチ

環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生じたさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の解説、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

【到達目標】

日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための能力を養う。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、研究レポートを提出することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポートの執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションー環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学ぶ。
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	大学周辺フィールドスタディ①	大学周辺を探索して歴史の痕跡を尋ね、当時の人々の暮らしを考える。
第 6 回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第 7 回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第 8 回	古文書読解①	指定した古文書を解説・分析し、討論を行う。
第 9 回	古文書読解②	指定した古文書を解説・分析し、討論を行う。
第 10 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 16 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。

- 第 17 回 大学周辺フィールドスタディ② 大学周辺を探索して歴史の痕跡を尋ね、当時の人々の暮らしを考える。
- 第 18 回 史料読解④ 歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
- 第 19 回 史料読解⑤ 歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
- 第 20 回 史料読解⑥ 歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
- 第 21 回 調査研究のグループ発表③ 指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
- 第 22 回 調査研究のグループ発表④ 指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
- 第 23 回 古文書解読③ 指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
- 第 24 回 古文書解読④ 指定した古文書を解読・分析し、討論を行なう。
- 第 25 回 特定テーマ研究発表① 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 26 回 特定テーマ研究発表② 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 27 回 特定テーマ研究発表③ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 28 回 特定テーマ研究発表④ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 29 回 特定テーマ研究発表⑤ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 30 回 特定テーマ研究発表⑥ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した歴史史料・古文書を解読する。研究テーマの文献収集・分析を行う。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席や積極的な参加姿勢（70%）、発表・研究レポート（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）、人間文化コース（環境文化創造コース）

HA400

研究会（B）

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の基礎知識を習得し、日経新聞・野村証券主催のストックリーグに参加して企業評価とバーチャルトレードを経験します。その成果を基にレポートを作成してコンテストにチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・スケジュール ・ストックリーグ	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 14 回	財務分析文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ検討	ファンドテーマ決定企業の調査手法・調査スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ中間報告 ①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒業論文テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チームの活動報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チームの活動報告
第 20 回	ストックリーグ活動③	チームの活動報告
第 21 回	ストックリーグ中間報告 ②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告 ③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成
第 29 回	ストックリーグ・レポート 発表会	レポート最終発表
第 30 回	Aゼミと合同ゼミ	卒業論文発表会への参加

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト（教科書）】

研究会の開講前に掲示します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度

〔個別評価〕ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会（B）

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、環境の視点と国際的な視点を中心に、加えて地域社会や経済活動との関わり、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、より高度な学習に向けて素養と技術を身につけることを目指します。

【到達目標】

以下の4点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミによるプロジェクト学習を通じてフィールドに学び企画力・実践力・分析力を養います（※プロジェクト学習テーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山・生き物に関わる文化）
- ④自らの関心テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、期末レポート作成につなげます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第3回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第4回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第5回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第6回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第7回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第8回	中間発表	研究成果の発表
第9回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第10回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第11回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第12回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第13回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第14回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第15回	春学期成果発表	課題研究成果の発表
第16回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第17回	グループ研究	グループ討議と発表
第18回	グループ研究	グループ討議と発表
第19回	グループ研究	グループ討議と発表
第20回	グループ研究	グループ討議と発表
第21回	グループ研究	グループ討議と発表
第22回	グループ研究	グループ討議と発表
第23回	中間発表	研究成果の発表
第24回	グループ研究	グループ討議と発表
第25回	グループ研究	グループ討議と発表
第26回	グループ研究	グループ討議と発表
第27回	グループ研究	グループ討議と発表
第28回	グループ研究	成果まとめ
第29回	年間成果発表	研究の成果発表
第30回	年間成果発表	研究の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自または共通の課題に関して、文献資料の収集や資料作成、事前学習、必要なフィールドワーク、発表準備など、成果に向けた調査研究を着実にを行います。また、休日等を行う野外学習や、自主企画をベースに行うテーマ別の研究・提案・発表などのサブゼミ活動を積極的に行います。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

前年度までに「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」を履修していない学生は、今年度当該科目を必ず履修してください。また、より自然への理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）とその応用である「自然環境論Ⅳ」（秋期）を併せて履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）

HA400

研究会（B）

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第2回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第3回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第4回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第5回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第6回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第7回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第8回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第9回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第10回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第11回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第12回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第13回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第14回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）
第15回	英文契約の読解（5）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。

【テキスト（教科書）】

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ社、1997年）、配布プリント。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。小テストの結果、班の発表等で評価します。なお、3回以上欠席したり、小テストの勉強や発表準備をしておこななかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）、グローバル・サステナビリティコース（国際環境協力コース）

HA400

研究会（B）

日原 傳

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

俳句実作講座〔俳句を作る力・読む力の育成〕

【到達目標】

- ・俳句の実作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・日本の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

俳句の実作をする授業である。毎回、句会形式で授業を進める。参加者は毎回俳句を3句ほど用意して投句する。清記、選句、披講のあと、投句された作品を対象に討議する。随時「題詠」も行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	俳句を成り立たせているもの	俳句の規則の説明、句会を体験する（題詠）
第2回	句会	当季雑詠、歳時記の紹介
第3回	句会	当季雑詠、「切字」の説明
第4回	句会	当季雑詠、「取り合わせ」の説明
第5回	句会	当季雑詠、題詠
第6回	句会	当季雑詠、題詠
第7回	句会	当季雑詠、題詠
第8回	句会	当季雑詠、題詠
第9回	句会	当季雑詠、題詠
第10回	句会	当季雑詠、題詠
第11回	句会	当季雑詠、題詠
第12回	句会	当季雑詠、題詠
第13回	句会	当季雑詠、題詠
第14回	句会	当季雑詠、題詠
第15回	句会	当季雑詠、題詠

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回俳句を3句ほど作って持参する。
- ・歳時記の世界に親しむ。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

- 小林恭二『俳句という遊び』『俳句という楽しみ』（以上、岩波新書）
- 山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
- 平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
- 藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
- 片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
- 日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・投句作品）と最終レポートによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

討議の材料となる例句を出来るだけ紹介し、議論が深まるようにしたい。

【関連の深いコース】

人間文化コース（環境文化創造コース）、ローカル・サステナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会（B）

谷本 有美子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本テーマは「自治体で働くということ」です。卒業後に自治体で公共政策の担い手となることを目指す学生のために、公務員予備校などで主に学ぶ一次の筆記試験対策とは異なる観点からキャリアデザインを支援する研究会です。またこの研究会における経験を通じて、論述やグループ討議、最終面接などの二次試験以降の対策になり、さらに学生が自治体職員になった場合に必要となる政策形成能力の基礎を身につけることも目的としています。

【到達目標】

第1に自治体職員のキャリアイメージを形成すること、第2に自治体職員になるための目的意識を涵養すること、第3に市民性を備え、広い視野を持って地域課題に対応できる能力について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現在、自治体で求められている人物像に関する講義、地域課題に関する広い視野やコミュニケーション能力を身につけるための時事問題に関するテーマ討論、ゲストスピーカー（現職の自治体職員等）の講義と対話、地域の課題に取り組んだ自治体の政策事例の検討（担当職員のキャリア形成も含む）、特定地域の課題と政策動向に関する調査・新たな政策アイデアの検討と報告、必要に応じ現地調査などを組み合わせていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の進め方についての説明と、受講者の意見交換を通じて自治体職員に対する各人のイメージを共有する
第2回	自治体職員のミッションとは？	自治体職員が働く現場の事例から、仕事のミッションについて考える
第3回	自治体の政策課題の発見（1）	最近の報道から自治体に関連しそうな課題を受講生が持ち寄り、グループでその対策アイデアを検討し、発表する
第4回	自治体の政策課題の発見（2）	第3回の続き
第5回	ケース分析「自治体職員の仕事（1）」	テキストの事例を題材に自治体職員の仕事に必要な能力についてグループで討議し、発表する
第6回	ケース分析「自治体職員の仕事（2）」	第5回の続き
第7回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く（1）	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取り
第8回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く（2）	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取り
第9回	自治体職員としてのキャリア形成を考える	ゲストスピーカーからの聞き取り内容と文献のケースを比較しながら、キャリア形成に焦点を当ててグループで討議する
第10回	自治体の現場課題を考える～政策形成思考のトレーニング（1）	自治体現場の最前線の政策課題を見出し、グループディスカッションを通じて解決策を探る
第11回	自治体の現場課題を考える～政策形成思考のトレーニング（2）	第10回の続き
第12回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（1）	受講生各自が仮の志望自治体を選び、関心のある政策を調べて、自身がどのように携わり、キャリアを形成したいかについてのプレゼンテーションを行う
第13回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（2）	第12回の続き
第14回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（3）	第12・13回の続き

第 15 回 総括討論

学習した内容を振り返りつつ、自治体職員役割・あるべき像などについて総括的に討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テーマ討論や講義内容に関する事前学習
- ・ゲストスピーカーからの聞き取りのための事前学習
- ・関心を持った自治体の政策や地域資源等についての情報収集

【テキスト（教科書）】

各回のテーマに応じて、必要な印刷物を配付します。

【参考書】

稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣）の他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

課題の履行と提出、参加姿勢による総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

自治体の仕事の実際に触れられる機会を可能な限り提供します。グループ討議で他の受講生と共に学びながら報告内容をまとめる経験を積み、発表の機会を通じてプレゼンテーション技術が向上できるようなサポートをします。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会（B）

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「サステイナブルなまちづくり」を基本テーマとした、都市環境および地域形成に関する集中型ゼミナール。

【到達目標】

都市環境および地域形成に関して定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解し、研究のおもしろさを体得し、また、様々な企画能力をも培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国内外の都市や地域を対象に、環境、生活、経済、産業、歴史などの視点から、文献購読と事例研究を行う。文献については年度初めにいくつか提示すると同時に、必要に応じ適宜提示する。事例研究の具体的なテーマ等に関しては、議論しつつ決めていく。ゼミでは、①文献の輪読と議論、②グループによる事例研究、③個人研究を進める。グループ研究と個人研究は自主的に進め、その成果を逐次、ゼミで発表・議論し、最終的にはレポートとしてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	各自の紹介、研究会の進め方等を説明
第 2 回	年間研究全体テーマ設定	全体の共通テーマの提案と議論
第 3 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 4 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 5 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 6 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 7 回	各グループ小テーマ議論	グループを形成し、それぞれ議論
第 8 回	各グループ小テーマ議論	主にグループごとの研究活動
第 9 回	各グループ研究構想発表	各グループの小テーマと研究の企画
第 10 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 11 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 12 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 13 回	第 1 回中間発表会	各グループの研究成果の発表・討論
第 14 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 15 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 16 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 17 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 18 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 19 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 20 回	第 2 回中間発表会	各グループの発表・討論
第 21 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 22 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 23 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 24 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 25 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 26 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 27 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 28 回	最終研究発表会準備	主にグループごとの研究活動
第 29 回	最終研究発表会	各グループの成果発表・討論
第 30 回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献はもとより各種参考文献も自主的に講読し習得していく。また、グループ毎に適宜計画し、事例研究の現地調査を積極的に実施する。

【テキスト（教科書）】

輪読のための共通テキスト（3冊程度：年度初めに提示）を使用する。また、テーマの設定によっては、別途に共通の資料を使用する場合がある。

【参考書】

個別の内容により、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席および準備、議論への参加状況）50%、成果物（グループ研究および個人研究の評価）50%

【学生の意見等からの気づき】

学生により基礎知識の不足がある。これを補うため、基本的な事項につき、講義する機会を随時もつとともに、自主学習を課する予定である。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（地域環境共生コース）

HA400

研究会 (B)

渡邊 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ:科学技術について考える(書籍・文献等の講読を中心に)
 科学技術社会を考えるための素養を身に付けることを目標に、様々な書籍、文献、新聞などの講読を行います。またそれにもとづいて各自の関心のあるテーマについての報告と討論を行うことにより、コミュニケーション力を修得します。科学技術の意義と役割、歴史、様々な問題点と将来像などについて考察し政策との関連について考えます。環境問題をより深く眺め、諸学問分野の垣根を超えた学際的な発想ができるようになることを目指します。

【到達目標】

幅広く具体的な内容に触れながら科学技術という断面から人と社会についてより深く考えることができるようになることが目標です。この研究会は理科系の学生向けに開設されたものではありません。科学とは何か? 科学技術とは何か? を文系の立場から考察し、科学技術政策を模索、決定し遂行するための方法などについて考えることを目指します。新聞あるいは雑誌、各種統計資料を含む様々な情報を読み解くことができるようになることも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

幾つかの書籍を講読しその内容について報告します。また新聞、雑誌、その他各種資料を参考にして、各自の関心のあるテーマについて報告し討論します。少人数教室での質疑応答、意見交換、ディスカッションなどを経験することにより、自分が自らの意見をもち、説得力のある主張を展開していくための力を身に付けたいと考えています。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と進め方の確認を行う
第2回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する
第3回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する
第4回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する
第5回	輪講	書籍等の講読を行う
第6回	輪講	書籍等の講読を行う
第7回	輪講	書籍等の講読を行う
第8回	輪講	書籍等の講読を行う
第9回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告とディスカッションを行う
第10回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告とディスカッションを行う
第11回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告とディスカッションを行う
第12回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告とディスカッションを行う
第13回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告とディスカッションを行う
第14回	総括	春学期授業内容の振り返りと課題の探索をおこなう
第15回	総括	春学期授業内容の振り返りと課題の探索をおこなう
第16回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第17回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第18回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第19回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第20回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第21回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第22回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う

第23回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第24回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第25回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第26回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第27回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第28回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第29回	総括	共通テーマを設定し総合討論を行う
第30回	総括	共通テーマを設定し総合討論を行う

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

書籍、各種資料の内容把握と文献収集、事前調査、報告のための資料作成などをを行います。

【テキスト(教科書)】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と授業参加への積極性、レポート提出状況などをもとに総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

文系の立場であるということを常に意識して、わかりやすい説明となるよう留意します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会 (B)

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本研究会では、文献調査や現地調査・学習(フィールドワーク・フィジビリティスタディ)などを通じて、「地域の持続的成長を実現していくためのビジネスモデル」の構築(デザイン)や運営・管理の方法を検討し、提案していくことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、地域(都道府県や市町村)内の企業、地方自治体、公的機関、大学などが連携して実施するビジネスに関する諸問題とその解決策を、研究テーマごとに編成されたチームで自由に、また、論理的に考え、説明していく能力を習得していくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

【春学期】

□第1次産業、第2次産業、第3次産業が連携しながら行っている持続的成長のためのビジネス(産業クラスター、農商工携、6次産業化など)に関する著書(テキスト)、論文、報告書などを読み、その内容を整理してもらいます。

【秋学期】

□春学期で行った学習に基づいて、各自調査していきたい国内・外の取組事例(ケース)を探して、その分析を行うとともに、アンケート調査やヒアリング調査を作成・実施して、その事例の特徴についてもより深く理解してもらいます。

□春学期および秋学期の研究・調査の成果は、研究ノート・レポートにまとめてもらいます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第2回	研究・調査テーマとその検討方法(A)	研究・調査のテーマを提示し、これをテキストや他の著書を用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第3回	研究・調査テーマとその検討方法(B)	研究・調査のテーマに対して論文や報告書などを用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第4回	研究・調査に関する映像資料の視聴(A)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を全員で議論する。
第5回	製品・商品の生産・販売店の調査(A)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第6回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論①	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第7回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論②	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第8回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論③	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。

第9回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論④	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第10回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑤	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第11回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑥	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第12回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑦	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第13回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑧	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第14回	研究・調査テーマの検討内容の整理(A)	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第15回	小 括	春学期までの研究・調査の取組内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第16回	研究・調査テーマに関する報告会(A)	これまでに取り組んだ研究・調査テーマに関する取組内容を各自報告し、それを全員で議論する。
第17回	研究・調査テーマに関する報告会(B)	これまでに取り組んだ研究・調査テーマに関する取組内容を各自報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第18回	研究・調査に関する映像資料の視聴(B)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を全員で議論する。
第19回	製品・商品の生産・販売店の調査(B)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第20回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑨	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第21回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑩	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第22回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑪	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第23回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑫	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第24回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑬	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第25回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑭	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第26回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑮	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第27回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑯	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第28回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー(行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等)の講義とその内容に関する討論を行う。
第29回	研究・調査テーマの検討内容の整理(B)	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成される研究ノート・レポートに活かしていく方法を説明する。
第30回	総 括	今年度取り組んだ研究・調査の取組内容を整理し、その内容を全員に共有していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会で使用するテキスト以外に、その内容に関連する著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを用いて、研究テーマ選び、研究・調査の目的・視点やそれに関する先行研究の検討などを計画的に実施してください。

【テキスト（教科書）】

二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会社・産業クラスターの可能性』中央経済社。

※必要に応じてパワーポイントを用いて報告してもらいますので、レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

メンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介したり、配布します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の5点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容・積極性）（20 %）
- ・ ゼミやチームへの配慮（10 %）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10 %）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（20 %）
- ・ 提出物（研究ノート・レポート）の内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究や調査だけではなく、研究会メンバー、調査先の方々、学外の学生と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができるとともに、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力を身につけてください。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA400

研究会（A）**國則 守生**

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学などの考え方の理解・習得を易しいレベルから行う（自分の言葉で理解・判断する能力と他人と協力して解決する能力の獲得を図る）。

【到達目標】

重要な経済学の基礎的な考え方を集中して学び、環境政策を考えるために必要な素養を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究会は演習形式で行う。研究会では、ミクロ経済学などのテキストを全員で輪読し、それに関してディスカッションを行う。経済学に関するベーシックで重要な考え方、捉え方をしっかりと身につけるため、お互いの意見交換を重視する。また、毎週サブゼミを実施し、ゼミの先輩とグループで調査・研究・発表を行う。ゼミ合宿ではサブゼミなどで行った調査・研究を進展させ、全体で議論する。

幅広い素養を身につけるため、副読本として環境に関する文献も積極的に読み、感想を発表する。4年生の研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第2回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第3回	文献講読(1)	報告および討論
第4回	文献講読(2)	報告および討論
第5回	文献講読(3)	報告および討論
第6回	文献講読(4)	報告および討論
第7回	文献講読(5)	報告および討論
第8回	文献講読(6)	報告および討論
第9回	文献講読(7)	報告および討論
第10回	文献講読(8)	報告および討論
第11回	文献講読(9)	報告および討論
第12回	文献講読(10)	報告および討論
第13回	文献講読(11)	報告および討論
第14回	文献講読(12)	報告および討論
第15回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第16回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第17回	文献講読(13)	報告および討論
第18回	文献講読(14)	報告および討論
第19回	文献講読(15)	報告および討論
第20回	文献講読(16)	報告および討論
第21回	文献講読(17)	報告および討論
第22回	文献講読(18)	報告および討論
第23回	文献講読(19)	報告および討論
第24回	文献講読(20)	報告および討論
第25回	文献講読(21)	報告および討論
第26回	文献講読(22)	報告および討論
第27回	文献講読(23)	報告および討論
第28回	校外授業	ヒアリング等
第29回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ
第30回	修了論文発表会	発表会への参加と発表・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。
- 5) 4年生は、研究会修了論文執筆を基本とする。

【テキスト（教科書）】

環境経済学のテキスト（授業時に指示する）。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80 %）および各人のテーマの取り組み姿勢と提出されたレポート等執筆（20 %）によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度は未開講。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA400

研究会（B）

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2016年度の本研究会は、通常は通年であるところを秋学期のみ、2コマ連続で行います。必ず、研究会（B）の授業コード C3064 と C3065 の両方を履修してください。

研究会のテーマは「海」です。海に関わりのある文化人類学的文献を読みながら議論を重ね、様々な角度から人間と環境の関係について学びます。題材は、漁業、海洋汚染、海洋保全、里海、エコツーリズム、水族館、魚食文化、海洋エネルギー開発、海洋災害など多岐に渡り、日本国内だけでなく、世界各国の事例について学びます。また、ミニフィールドワークを通して（目的地の例、都内の水族館、博物館、築地市場、回転寿司店、スーパーの鮮魚コーナーなど）、文化人類学的調査について学びます。加えて、本研究会では、希望により、英語の学術文献やニュース記事も選択することができます。チャレンジしたい方は積極的に申し出てください！

【到達目標】

- 1) 海に関わるエスノグラフィーを通し、環境と人間に関する文化人類学的アプローチについての基本的な理解を得る
- 2) 学術的議論を応用し、環境と人間の関わりについて具体例を交えながら自分の考えを述べることができる
- 3) ミニフィールドワークを通して文化人類学的調査の基本的な知識とスキルを得る
- 4) 文献研究、研究発表、論文作成のスキルを得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

海と人間に関連する文化人類学や関連分野の文献を精読し、事例研究を行う。研究会では、①生徒が担当文献の内容を報告し、議論する、②グループごとに選択したテーマに沿った文献調査を行い、パネルディスカッションとして発表する、③ミニフィールドワークを行い、成果を発表し、論文にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明
第2回	海と人間	文化人類学者による海の研究についての紹介、今後扱う題材についての説明。輪読の担当文献および担当パネルディスカッションのテーマを選択。
第3回	前半：基礎文献の輪読（1） 後半：パネルディスカッション（1）	前半：基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する 後半：パネルテーマについて担当グループが発表、意見交換
第4回	前半：基礎文献の輪読（2） 後半：パネルディスカッション（2）	前半：基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する 後半：パネルテーマについて担当グループが発表、意見交換
第5回	前半：基礎文献の輪読（3） 後半：パネルディスカッション（3）	前半：基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する 後半：パネルテーマについて担当グループが発表、意見交換
第6回	前半：基礎文献の輪読（4） 後半：パネルディスカッション（4）	前半：基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する 後半：パネルテーマについて担当グループが発表、意見交換
第7回	前半：基礎文献の輪読（5） 後半：パネルディスカッション（5）	前半：基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する 後半：パネルテーマについて担当グループが発表、意見交換
第8回	前半：基礎文献の輪読（6） 後半：パネルディスカッション（6）	前半：基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する 後半：パネルテーマについて担当グループが発表、意見交換
第9回	前半：基礎文献の輪読（7） 後半：パネルディスカッション（7）	前半：基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する 後半：パネルテーマについて担当グループが発表、意見交換

第 10 回	前半：基礎文献の輪読（8） 後半：パネルディスカッション（8）	前半：基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する 後半：パネルテーマについて担当グループが発表、意見交換
第 11 回	ミニフィールドワークの準備（1）	文化人類学的フィールドワークの方法について学び、ミニフィールドワークの準備をする
第 12 回	ミニフィールドワークの準備（2）	文化人類学的フィールドワークの方法について学び、ミニフィールドワークの準備をする
第 13 回	ミニフィールドワーク	ミニフィールドワークを実行する
第 14 回	ミニフィールドワークの成果発表（1）	ミニフィールドワークの成果を発表する
第 15 回	ミニフィールドワークの成果発表（2）	ミニフィールドワークの成果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。担当文献については、発表準備をしましょう。パネルディスカッションの担当テーマについての資料調査や文献研究は早い段階から始めましょう。

【テキスト（教科書）】

授業第 1 回目に指定します

【参考書】

同上

【成績評価の方法と基準】

研究会への出席、準備、議論への貢献（40%）、パネルディスカッション（20%）、ミニフィールドワーク、成果発表と論文（40%）

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当

HA400

研究会（B）

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2016年度の本研究会は、通常は通年であるところを秋学期のみ、2コマ連続で行います。必ず、研究会（B）の授業コード C3064 と C3065 の両方を履修してください。

研究会のテーマは「海」です。海に関わりのある文化人類学的文献を読みながら議論を重ね、様々な角度から人間と環境の関係について学びます。題材は、漁業、海洋汚染、海洋保全、里海、エコツーリズム、水族館、魚食文化、海洋エネルギー開発、海洋災害など多岐に渡り、日本国内だけでなく、世界各地の事例について学びます。また、ミニフィールドワークを通して（目的地の例、都内の水族館、博物館、築地市場、回転寿司店、スーパーの鮮魚コーナーなど）、文化人類学的調査について学びます。加えて、本研究会では、希望により、英語の学術文献やニュース記事も選択することができます。チャレンジしたい方は積極的に申し出てください！

【到達目標】

研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照	研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照
第 2 回	同上	同上
第 3 回	同上	同上
第 4 回	同上	同上
第 5 回	同上	同上
第 6 回	同上	同上
第 7 回	同上	同上
第 8 回	同上	同上
第 9 回	同上	同上
第 10 回	同上	同上
第 11 回	同上	同上
第 12 回	同上	同上
第 13 回	同上	同上
第 14 回	同上	同上
第 15 回	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照

【テキスト（教科書）】

研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照

【参考書】

研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照

【成績評価の方法と基準】

研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照

【学生の意見等からの気づき】

研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照

【学生が準備すべき機器他】

研究会（B）授業コード C3065 のシラバスを参照

HA400

研究会（B）

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人学生を対象とした半期毎のゼミナール。通年継続可。社会人学生同士のコミュニケーションを活発にし、自主的なテーマ研究活動を通して積極的な学生生活を推進する糧とする。

【到達目標】

各人の経験や問題意識に応じ、共通および個別の研究テーマを設定し、それについて深く探求する。テーマ設定、研究推進、成果発表など一連の研究プロセスを体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に都市や地域を対象に、環境、生活、文化、経済、産業、歴史などの視点からトピックスをとりあげて、共通テーマ研究（個人もしくはグループ）、および、個人テーマ研究を行う。研究テーマや具体的な進め方に関しては、各人の経験や事情を勘案し議論しながら決めていく。ゼミでは、テーマ研究のほかに、①各種資料（専門書、雑誌など）の輪読と議論、②ゼミ時間内の現場観察（ミニフィールドスタディ）などを行う。ゼミの進め方については、大枠を提示するが、具体的にはゼミ生の自主性を尊重し、ゼミ生が主体的に運営していくのを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	各自の紹介、研究会の進め方等を説明
第2回	共通研究テーマ設定	全体の共通テーマの提案と議論
第3回	資料の輪読と議論	研究テーマに関わる資料を読む
第4回	資料の輪読と議論	研究テーマに関わる資料を読む
第5回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマ深化
第6回	共通テーマ研究	共通テーマの研究を推進
第7回	共通テーマ研究	共通テーマの研究を推進
第8回	共通テーマ研究発表	個人もしくはグループ毎に発表
第9回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマ発見
第10回	資料の輪読と議論	各種資料を読んで研究テーマ設定
第11回	資料の輪読と議論	各種資料を読んで研究テーマ深化
第12回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマを考察
第13回	個人テーマ研究	個人テーマの研究を推進
第14回	個人テーマ研究	個人テーマの研究を推進、発表準備
第15回	個人研究成果最終発表	各人が研究成果を発表。ふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献はもとより各種参考文献も自主的に講読し習得していく。また、研究テーマに関しては個人あるいはグループ毎に適宜計画し、情報収集、分析、また必要によっては現地調査なども自主的に進める。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。輪読のための共通資料は別に配布する。

【参考書】

個別テーマの内容により、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席および準備、議論への参加状況）50％、成果物（共通テーマおよび個人テーマ研究の評価）50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度から開始する研究会のため特になし。

【関連の深いコース】

コースに関わらず全てを対象とする。

HA400

研究会（B）

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人学生を対象とした半期毎のゼミナール。通年継続可。社会人学生同士のコミュニケーションを活発にし、自主的なテーマ研究活動を通して積極的な学生生活を推進する糧とする。

【到達目標】

各人の経験や問題意識に応じ、共通および個別の研究テーマを設定し、それについて深く探求する。テーマ設定、研究推進、成果発表など一連の研究プロセスを体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に都市や地域を対象に、環境、生活、文化、経済、産業、歴史などの視点からトピックスをとりあげて、共通テーマ研究（個人もしくはグループ）、および、個人テーマ研究を行う。研究テーマや具体的な進め方に関しては、各人の経験や事情を勘案し議論しながら決めていく。ゼミでは、テーマ研究のほかに、①各種資料（専門書、雑誌など）の輪読と議論、②ゼミ時間内の現場観察（ミニフィールドスタディ）などを行う。ゼミの進め方については、大枠を提示するが、具体的にはゼミ生の自主性を尊重し、ゼミ生が主体的に運営していくのを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	各自の紹介、研究会の進め方等を説明
第2回	共通研究テーマ設定	全体の共通テーマの提案と議論
第3回	資料の輪読と議論	研究テーマに関わる資料を読む
第4回	資料の輪読と議論	研究テーマに関わる資料を読む
第5回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマ深化
第6回	共通テーマ研究	共通テーマの研究を推進
第7回	共通テーマ研究	共通テーマの研究を推進
第8回	共通テーマ研究発表	個人もしくはグループ毎に発表
第9回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマ発見
第10回	資料の輪読と議論	各種資料を読んで研究テーマ設定
第11回	資料の輪読と議論	各種資料を読んで研究テーマ深化
第12回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマを考察
第13回	個人テーマ研究	個人テーマの研究を推進
第14回	個人テーマ研究	個人テーマの研究を推進、発表準備
第15回	個人研究成果最終発表	各人が研究成果を発表。ふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献はもとより各種参考文献も自主的に講読し習得していく。また、研究テーマに関しては個人あるいはグループ毎に適宜計画し、情報収集、分析、また必要によっては現地調査なども自主的に進める。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。輪読のための共通資料は別に配布する。

【参考書】

個別テーマの内容により、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席および準備、議論への参加状況）50％、成果物（共通テーマおよび個人テーマ研究の評価）50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度から開始する研究会のため特になし。

【関連の深いコース】

コースに関わらず全てを対象とする。

HA400

研究会 (B)

佐伯 英子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体と医療の社会学 (Sociology of the Body and Medicine)

【到達目標】

本研究会では、(ア)一般的に「自然」なものであると考えられている「身体」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得ること、(イ)医療の歴史と現在の理解を通して、生命倫理の諸問題についての理解を深めること、(ウ)英語の文献や資料の講読、課題を通して英語力を向上させること目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

演習では、主に講義、文献の精読に基づく意見交換、その他のアクティビティ等を行います。毎週の授業の内容を理解することと並行して、各自が設定したテーマに沿って調査、研究を進め、その内容を適宜授業内で発表し、学期の最後にはレポートとして提出することが求められています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	医療社会学、身体社会学とは何か	どのようなテーマを扱い、そこから何が見えてくるのか
第3回	身体とジェンダー 1	性別、インターセックス、トランスジェンダー
第4回	身体とジェンダー 2	ボディイメージと摂食障害
第5回	身体とジェンダー 3	美容医療
第6回	「病」と身体 1	「病」とは何か
第7回	「病」と身体 2	「病」の社会的、文化的側面
第8回	「障がい」とは何か 1	「正しい」身体とは何か、逸脱は何を意味するか
第9回	「障がい」とは何か 2	優生思想、日本におけるハンセン病の歴史
第10回	リプロダクション 1	いのちの始まりと生命倫理 (人工妊娠中絶、出生前診断)
第11回	リプロダクション 2	生殖補助医療 (体外受精、精子・卵子提供、代理出産)
第12回	脳死と臓器移植 1	「死」の定義、現状の国際比較
第13回	脳死と臓器移植 2	国境を超える医療、メディカルツーリズム
第14回	プレゼンテーション	研究会参加者による個人研究の発表
第15回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に熟読し、課題は期限までに仕上げて演習に挑むことを期待します。文献には英語のものも含まれます。

【テキスト (教科書)】

授業中に提示します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席、討論等への参加、リアクションペーパー) 30%、課題 30%、発表 10%、最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、該当しません。

【その他の重要事項】

この研究会は水曜日の2限と3限の連続で行います。両方に出席できることが履修の条件となります。

【関連の深いコース】

すべてのコース

HA400

研究会 (B)

佐伯 英子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体と医療の社会学 (Sociology of the Body and Medicine)

【到達目標】

本研究会では、(ア)一般的に「自然」なものであると考えられている「身体」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得ること、(イ)医療の歴史と現在の理解を通して、生命倫理の諸問題についての理解を深めること、(ウ)英語の文献や資料の講読、課題を通して英語力を向上させること目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

演習では、主に講義、文献の精読に基づく意見交換、その他のアクティビティ等を行います。毎週の授業の内容を理解することと並行して、各自が設定したテーマに沿って調査、研究を進め、その内容を適宜授業内で発表し、学期の最後にはレポートとして提出することが求められています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	身体社会学とは何か	どのようなテーマを扱い、そこから何が見えてくるのか
第3回	身体とジェンダー 1	性別、インターセックス、トランスジェンダー
第4回	身体とジェンダー 2	ボディイメージと摂食障害
第5回	身体とジェンダー 3	美容医療
第6回	「病」と身体 1	「病」とは何か
第7回	「病」と身体 2	「病」の社会的、文化的側面
第8回	「障がい」とは何か 1	「正しい」身体とは何か、逸脱は何を意味するか
第9回	「障がい」とは何か 2	優生思想、日本におけるハンセン病の歴史
第10回	リプロダクション 1	いのちの始まりと生命倫理 (人工妊娠中絶、出生前診断)
第11回	リプロダクション 2	生殖補助医療 (体外受精、精子・卵子提供、代理出産)
第12回	脳死と臓器移植 1	「死」の定義、現状の国際比較
第13回	脳死と臓器移植 2	国境を超える医療、メディカルツーリズム
第14回	プレゼンテーション	研究会参加者による個人研究の発表
第15回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に熟読し、課題は期限までに仕上げて演習に挑むことを期待します。文献には英語のものも含まれます。

【テキスト (教科書)】

授業中に提示します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席、討論等への参加、リアクションペーパー) 30%、課題 30%、発表 10%、最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、該当しません。

【その他の重要事項】

この研究会は水曜日の2限と3限の連続で行います。両方に出席できることが履修の条件となります。

【関連の深いコース】

すべてのコース

HA400

研究会修了論文

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aタイプ研究会を原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各A研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	資料の収集⑤	同上
第10回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理②	同上
第12回	情報の整理③	同上
第13回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆②	同上
第15回	執筆③	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

Bタイプ研究会受講者は登録できない。
各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【関連の深いコース】

すべてのコース

コース修了論文

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	資料の収集⑤	同上
第10回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理②	同上
第12回	情報の整理③	同上
第13回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆②	同上
第15回	執筆③	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

Aタイプ研究会受講者は登録できない。
コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。
各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

【関連の深いコース】

すべてのコース

HA500

人間環境セミナー**人間環境学部教員**

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本セミナーでは、企業、自治体、NPO/NGO などによる環境保全やサステナビリティの取組みに注目し、その現状や課題について学習していくことを目的とします。

【到達目標】

専門分野の講師の話を通して、企業、自治体、NPO/NGO などの環境保全やサステナビリティの取組みに関する最新動向を理解していくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、学外から専門分野の講師をお招きして、それぞれの活動内容に関する講演を聴講します。各講師の知見や現場での経験に触れることによって、受講者の視野が広がることを期待しています。

担当：金藤正直、國則守生、長谷川直哉

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・セミナー	セミナーのねらいと進め方、各回の講演タイトルの紹介、外部講師による講義
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	セミナー	外部講師による講義
第15回	試験	これまでの講義内容について、筆記試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で配布されたプリントを復習してください。また、環境保全やサステナビリティの取組みが示されている著書、環境（CSR）報告書、新聞記事・雑誌などを読むように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じてプリント（資料）を配布します。

【参考書】

外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、平常点 50 %、期末試験 50 %です。
10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。また、4回以上の欠席はD評価となりますので注意してください。
期末試験は、各講師が示したポイントを中心に出题します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

【その他の重要事項】

講演後に、講師への質問時間が設けられますので、積極的に意見・質問を行ってください。

本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ホームページで発表します。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（エコ経済経営コース）

HA500

人間環境セミナー

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「深海底から宇宙、そしてサイバーへ」というタイトルで実施する。深海底から始まり、大陸棚、水中、公海、漁業・捕鯨、航行、鳥、陸、空、大気、宇宙、そしてサイバーと、様々な空間における環境と政策についての見識を深める。

【到達目標】

深海底から始まり、大陸棚、水中、公海、漁業・捕鯨、航行、鳥、陸、空、大気、宇宙、サイバーにおける具体的な事例をもとに、自然環境と政策の関わりに関する多様な見方を習得することを目標とする。また、生態学、工学、法学、政策学など、さまざまな学問領域が架橋し、政策がなされていることを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、それぞれの専門分野の講師を学外からお招きして、具体的なテーマに関する講演を聴講します。各講師の知見に触れることで、受講生の視界が広がるとともに、物事を多面的に考えられるようになることを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、セミナー	セミナーのねらいと進め方、各回の講師と講演タイトルの紹介、外部講師による講演
第2回	セミナー	外部講師による講演
第3回	セミナー	外部講師による講演
第4回	セミナー	外部講師による講演
第5回	セミナー	外部講師による講演
第6回	セミナー	外部講師による講演
第7回	セミナー	外部講師による講演
第8回	セミナー	外部講師による講演
第9回	セミナー	外部講師による講演
第10回	セミナー	外部講師による講演
第11回	セミナー	外部講師による講演
第12回	セミナー	外部講師による講演
第13回	セミナー	外部講師による講演
第14回	セミナー	外部講師による講演
第15回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料を復習する。また、準備学習や復習等において、関連する文献や時事的な問題、映像等に触れる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講師が必要に応じて紹介予定

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %・期末試験 50 %

平常点は、各回の出席カードに書かれた当日の講義に関する感想・コメントを評価します。記述が不十分な場合、評価はゼロとします。また、10分以上遅れての入室は認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味をもち、自主的に学習できるテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間を設けます。通常では得られない貴重な機会です。また講師の方々も丁寧にご回答くださいます。積極的に質問してください。セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、掲示板及び学部 HP にて発表します。なお、来年度以降のセミナーの開催予定については「履修の手引き」に掲載しています。

【関連の深いコース】

全コース

HA500

インターンシップ

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

就業体験を通じたキャリア形成

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学外での就業体験であるため通常の授業と異なり、実習先での学習と就業体験が主たる内容となります。そのため、大学では準備のための指導および実習後の指導を行います。実習機関によって内容が異なりますので担当教員による個別指導が中心となります。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	インターンシップ関連資料の配布	履修を希望する場合、関連資料を学部事務で受け取る。なお、質問には適宜対応します。
第2回	「インターンシップ申込書」の提出	担当教員による面接で実習期間や実習内容について審査し、科目登録の可否を通知します。
第3回	「インターンシップ実習計画書」の提出	履修が許可された場合、実習受け入れ機関や実習プログラムに関する所定の項目を記入し提出する。これと同時に「インターンシップ保険」の手続きを行ないます。保険料は不要です。「キャリアセンター」で手続きをします。これは科目履修の必須条件です。上記の第1回～第3回の手続きを終えた後、実習を行います。
第4回～第13回	実習	受け入れ機関からの「実習終了確認」を受け、報告書を作成・提出する。作成に当たっては担当教員の指導を受けなければなりません。
第14回	実習終了後「インターンシップ実習報告書」の作成・提出	実習終了後のセメスターに開催される「インターンシップ実習報告会」で口頭発表を行います。
第15回	インターンシップ実習報告会（実習終了後のセメスターに開催）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習機関の検索と選択は各自が自主的に行わなければなりません。実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い、実習の効果を高めることが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

この科目は通常の成績評価は行わず、「単位認定」をおこないます。したがって、GPAの対象科目とはなりません。単位認定には、報告書の提出と学部主催の報告会での口頭報告が必要となります。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

履修・単位登録に関する注意事項

- 履修学年：2014年度より「2年次～4年次」に変更しました。
- 登録時期：実習終了後のセメスター登録時に行います。（1年次秋セメスターから実習でき、登録は2年次春セメスターに行います）
- 履修手続き、書類の配布、提出はすべて学務窓口です。
- 履修上限は4単位です、ただし1セメスターの登録は2単位までです。

HA500

人間環境セミナー

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、数ある生活協同組合の中でも、さまざまな領域において先駆的な活動を行っている生活クラブ生協の実践を紹介し、「サステイナブルな暮らし」とは何か、その中での非営利・協同セクターのあり方について学ぶことを目的としている。

【到達目標】

生活クラブ生協による「食」「福祉」「エネルギー」「労働」「政治」に関するさまざまな実践、東日本大震災における活動を具体的に理解し、サステイナブルな暮らしや社会を、講義参加者の日常との接点を考えながら、構想することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、首都圏の生活クラブ生協（東京、神奈川、埼玉、千葉）の関係者を、テーマ別にお招きして、具体的なトピックスに関する講演を聴講します。各講師の知見に触れることで、受講者の視野が広がることを期待しています。

担当：西城戸誠、小島聡

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと生活クラブの概要と主な活動の紹介	協同組合とは何か。その歴史と価値を学ぶとともに生活クラブ生協50年の歴史の中でおおぜいの組合員が共同購入に参加することで解決してきたことを学びます。
第2回	消費材と共同購入（1）	生産者と組合員の出会いから生まれた消費材の開発と、消費材を組合員が利用（注文）し届くまでの共同購入の仕組みの解説します。
第3回	消費材と共同購入（2）	「添加物と生活クラブの取り組み」をテーマにバイオソポール実験から市販品と消費材の違いを通して生活クラブ運動を理解します。
第4回	NON-GMO 運動の取り組み	遺伝子組み換え作物とは何か。食糧・飲料・飼料など輸入大国日本での遺伝子組み換え作物の現状と表示の問題点、そして協同組合におけるNON-GMO運動の実践例を紹介します。
第5回	都市農業と三富協同村の取り組み	320年以上続く循環型農業の保全活動にかかわる中で、農業継続危機回避の手段として構想から協同村開設に至るまで、さらには今後の展望を解説します。
第6回	福祉活動の取り組み	生活クラブ千葉が実践している福祉の自給圏づくりに向けた仕組みと社会福祉法人が地域で展開する「誰もがありのままにその人らしく」暮らすための多様な事業展開と福祉活動の実践について解説します。
第7回	生活再生相談事業の取り組み	貧困・格差が社会の大きな問題となり、生活保護にいたる前のもうひとつのセーフティネットとして期待されている生活相談・家計再生支援事業についてその実績と地域貢献の成果について解説します。
第8回	コミュニティ・防災・減災の取組と居場所づくり	生活クラブの地域における防災の取り組みとしての「コミュニティ」づくりの実践から「個人化」時代への運動の課題を実践から学びあいます。
第9回	省エネ活動の取り組み	生活に欠かせない電気。一人一人が毎日の暮らしの中でちょっとした工夫でできる省エネ生活がエネルギーをつくる、省エネ実践例の取組を紹介しこれからのエネルギーを考えます。

第10回	生活クラブ風車建設を通じた地域間連携と電気の共同購入・エネルギー政策	生活クラブのエネルギー政策を学びます。首都圏の生活クラブでの風車建設、風車を通じた地域間連携を進めてきている現状の取組や太陽光パネルの設置など再生可能な自然エネルギーの取組実践から電気の小売り自由化への取り組みを紹介します。
第11回	ワーカーズコレクティブで働くということ	雇用労働と違った、労働―出資―運営という、ワーカーズの新しい働き方の現在の課題について学びます。
第12回	生活クラブで働くということ	生活クラブ生協職員からの報告及び問題提起を通じて協同組合で働く意義について学びます。
第13回	東日本大震災復興支援の取り組みと原発事故による放射能問題への対応	東日本大震災時への放射能問題への生活クラブ生協の取り組みと、その後の持続的な取り組みを学びます。
第14回	生活クラブと政治	1977年以降の、生活クラブの政治運動の基本的な考え方を踏まえ、自治体政策、公共政策の視点でも学びあいます。
第15回	試験	これまでの講義内容について、筆記試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で配布されたプリントを復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、平常点50%、期末試験50%です。出席は毎回とります。10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。また、4回以上の欠席はD評価となりますので注意してください。期末試験は、各講師が示したポイントについて出題されます。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々は丁寧に回答くださいますので、理解を深められるはずですが、なお、外部講師の都合でテーマの内容が変更、および順序が変わることがあります。

【関連の深いコース】

すべてのコース

HA500

フィールドスタディ

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな現場（自然環境や社会環境）を訪問し、環境に関連するとりくみについて触れ、あるいは実習する。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムである。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、改めて啓発を受けて自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第4回		
第5回～	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第11回		
第12回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
～第14回		
第15回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。

参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。